



Aspire X

取扱説明書

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお取り扱いください。
また、お読みになった後も必要なときにすぐに見られるよう大切に保管してください。

◆ ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載・無断複写することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました但、万一、ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本製品の故障や誤動作、停電あるいは天災などにより本製品が使用できなくなった場合、それに付随的に生じる損害（通話や録音等上に生じる機会損失など）に対しては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

◆ NTTの電話機などをレンタルで利用している方へ

本システムを導入されたことにより、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTT東日本またはNTT西日本にご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって「機器使用料」が不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）にお問い合わせください。

◆ 商標・著作権について

本製品の一部に、下記の会社の製品を使用しています。
FlashFX® is a registered trademark of Datalight, Inc.
FlashFX® Copyright 1998-2006 Datalight, Inc.
U.S. Patent Office 5,860,082/6,260,156
FlashFX® Pro™ is a trademark of Datalight, Inc.
Reliance™ is a trademark of Datalight, Inc.
Datalight® is a registered trademark of Datalight, Inc.
Copyright 1989-2006 Datalight, Inc., All Rights Reserved.

はじめに

このたびは、「Aspire X」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「Aspire X」は、オフィスで使用する電話機とパソコンなどの通信とを一体化し、インターネットやブロードバンド、モバイル通信などに即応できるシステムです。

操作面での向上だけでなく、環境に配慮した無駄の少ない拡張性を追求し、設置面でのコンパクト化を実現しました。

この取扱説明書では、次の電話機や機能について説明しています。

- 多機能電話機（専用デジタル多機能電話機およびIP多機能電話機）
- 一般電話機
- ダイレクト通話料金管理
- ユーザープログラミング

また、オプション機器を利用した操作も記載していますので、必要に応じてご覧ください。

その他、オプション機器に説明書が添付されている場合には、その説明書も併せてご覧ください。

「Aspire X」は、用途と規模に応じて次のようなシステム商品構成になっています。詳しくは『システムについて』（⇒P.5-2）を参照してください。

システム商品構成	制御ユニット	規模	内線+外線の数	おもな機能と制限事項
基本CPU-A1	IP3D-CCPU-A1	小	最大46	<ul style="list-style-type: none"> • 外線最大12ポート、内線最大34ポート（PHSを含む場合） • 通常の電話機能および料金管理機能、ボイスメールが利用可能 • IP電話機能（IP内線・IPトランク）、ネットワーク機能を利用する場合はライセンスが必要 • AXリンク機能は利用不可 （注）内線+外線の数のうち、PHSを含まないときの多機能電話機、一般電話機、SIP電話機などの合計は最大26台です。
基本CPU-B1	IP3D-CCPU-B1	中	最大66	<ul style="list-style-type: none"> • 通常の電話機能および料金管理機能、ボイスメールが利用可能 • IP電話機能（IP内線・IPトランク）、AXリンク機能、ネットワーク機能を利用する場合はライセンスが必要
基本CPU-B1 + Free Port ライセンス	IP3D-CCPU-B1 + Free Port	大	最大344	<ul style="list-style-type: none"> • 基本CPU-B1の内線および外線の数システムの最大値まで拡張 • IP電話機能（IP内線・IPトランク）、AXリンク機能、ネットワーク機能を利用する場合はライセンスが必要 • IP電話機、デジタルコードレス電話機を収容する場合は、合計で最大512台まで収容可能 （注）内線+外線の数は、システムの構成によって異なります。

商品構成	主装置	最大数	おもな機能
基本モジュール	IP3D-3KSU-B1	4	<ul style="list-style-type: none"> • ユニバーサルスロット：3スロット <ul style="list-style-type: none"> – インタフェースユニットを3枚収容可能 – 基本架として利用する場合は、スロット1にCCPU-A1/B1を実装 • 電源ユニット（PSU-A1）を内蔵 • 拡張モジュール（3KSU-E1）を接続可能
拡張モジュール	IP3WW-3KSU-E1	4	<ul style="list-style-type: none"> • ユニバーサルスロット：3スロット <ul style="list-style-type: none"> – インタフェースユニットを3枚収容可能 • 基本モジュールに連結可能
19インチモジュール	IP3D-6KSU-A1	4	<ul style="list-style-type: none"> • ユニバーサルスロット：6スロット <ul style="list-style-type: none"> – インタフェースユニットを6枚収容可能 – 基本架として利用する場合は、スロット1にCCPU-A1/B1を実装 • 電源モジュールを内蔵 • 内蔵バッテリーを収容可能 • 冷却ファン付き（約4年ごとに交換が必要）



各種機能を利用するには

機器の追加や工事設定が必要な場合があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
- 本製品を改造しないでください。マニュアルに記載されていない改造・回路変更などを行った場合、当社は一切の責任を負いません。
 - 本製品の設置および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となり、また事故のもととなりますので絶対におやめください。
 - 本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等を行っておりません。また、本製品は外国為替及び外国貿易法の規定により規制貨物及び役務に該当します。従って、本製品は、その時点での外国為替及び外国貿易法に基づいた必要な手続きをとらずに、日本国外へ持ち出すことはできません。
 - この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A
 - この装置は、技術基準適合認証品です。IP3D-3KSU-A1使用時の技術基準等適合認定番号：ACD07-0562001、L07-0088
IP3D-6KSU-A1使用時の技術基準等適合認定番号：ACD10-0149001、L10-0040

ソフトウェア使用許諾契約書

お客様へのお願い

ご使用前に必ずお読みください。また、お読みになった後も大切にご保管ください。

弊社は、本製品に内蔵されているソフトウェア（関連するマニュアル等の資料を含めて、以下「許諾プログラム」といいます。）のお客様によるご使用について、下記の「ソフトウェアのご使用条件」を設けさせていただいております。本使用条件を充分にお読みください。本製品または添付品をご使用になった場合には、本使用条件にご同意いただいたものとさせていただきます。

ソフトウェアのご使用条件

日本電気株式会社（以下「弊社」といいます。）は、本使用条件とともにご提供する許諾プログラムを日本国内において使用する権利を下記条項に基づきお客様に許諾し、お客様も下記条項にご同意いただくものとします。なお、お客様が期待される効果を得るための許諾プログラムの選択、使用および使用効果につきましても、お客様の責任とさせていただきます。

許諾プログラムのいくつかは 30 日間ご試用いただけますが、ご試用期間を過ぎてお使いになるためには、ライセンス証をお求めいただき（有償）、ライセンス証に記載されたソフトウェアキーコードを使用し、弊社 Web サイトを経由して入手したライセンスファイルまたは認証コードを本製品に適用していただく必要があります。ご試用にあたってもお客様は下記事項にご同意いただくものとします。

また、各許諾プログラムには、GNU の一般公衆ライセンスの条件が適用されるものが含まれ、これについては本使用条件が適用されません。弊社は、この一般公衆ライセンスの条件が適用される許諾プログラムを、当該ライセンスの条件とともに、本製品の出荷を弊社が終了してから少なくとも 3 年が経過するまで、

Web サイト：<http://www.necinfrontia.co.jp/cygnus/>
を通して公開いたします。

1. 期間

- (1) 本使用条件は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。
- (2) お客様は、1 カ月以上事前に、弊社宛て（弊社の宛先は本書の末尾に記載されたものとします。）書面により通知することによりいつでも本使用条件により許諾される許諾プログラムの使用権を終了させることができます。
- (3) 弊社は、お客様が本使用条項に違反されたときはいつでも許諾プログラムの使用権を終了させることができます。
- (4) 許諾プログラムの使用権は、上記 (2) または (3) により終了するまで有効に存続します。
- (5) 許諾プログラムの使用権が終了した場合には、本使用条件にもとづくお客様のその他の権利も同時に終了するものとします。お客様は、許諾プログラムの使用権の終了後直ちに本製品の使用を終了するものとします。

2. 使用権

お客様は、日本国内において許諾プログラムを本製品においてのみ使用することができます。

3. 許諾プログラムの複製、改変および結合

- (1) お客様は、本使用条件で明示されている場合を除き、許諾プログラムの使用、複製、改変、結合その他の処分を行ってはなりません。
- (2) 本使用条件の他の規定にかかわらず、お客様はいかなる場合であってもマニュアル等の関連資料を複製することはできません。
- (3) 本使用条件は、許諾プログラムに関する無体財産権をお客様に移転するものではありません。

4. 許諾プログラムの移転等

お客様は、賃貸借、リースその他いかなる方法によっても許諾プログラムの使用を第三者に許諾してはなりません。ただし、第三者が本使用条件に従うこと、および許諾プログラムが内蔵された本製品を全て引き渡すことを条件にお客様は許諾プログラムの使用権を第三者に移転することが出来ます。

5. 逆コンパイル等

お客様は、許諾プログラムを逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできません。

6. 保証の制限

弊社は、許諾プログラムに関していかなる保証も行いません。許諾プログラムに関し発生する問題はお客様の責任および費用負担をもって処理されるものとします。ただし、弊社が許諾プログラムの誤り（バグ）を修正し、本製品の全てのお客様に対し当該修正プログラムまたは情報をアフターサービスとして提供する決定を弊社がその裁量によりなした場合には、弊社は、かかる誤りを修正したプログラムもしくは修正のためのプログラム（以下、これらのプログラムを「修正プログラム」といいます。）またはかかる修正に関する情報を弊社 Web サイトを経由するなどしてお客様に提供するものとします。お客様に提供された修正プログラムは許諾プログラムとみなします。

7. 責任の制限

弊社は、いかなる場合も、お客様の損失利益、特別な事情から生じた損害（損害発生につき弊社が予見し、または予見し得た場合を含みます。）および第三者からお客様に対してなされた損害賠償請求にもとづく損害について一切責任を負いません。また、弊社が損害賠償責任を負う場合には、弊社の損害賠償責任は、その法律上の構成の如何を問わず、お客様が実際にお支払になった許諾プログラムの代金相当額をもってその上限とします。

8. その他

- (1) お客様は、いかなる方法によっても許諾プログラムを日本国から輸出してはなりません。
- (2) 本契約にかかわる紛争は、東京地方裁判所を管轄裁判所として解決するものとします。
- (3) 本使用条件は、本ソフトウェア製品の使用許諾についての証明ですので、お客様はこれをお大切に保管ください。
- (4) The Software is a “commercial item” as that term is defined in 48 C.F.R. 2.101, consisting of “commercial computer software” and “commercial computer software documentation” as such terms are used in 48 C.F.R. 12.212. Consistent with 48 C.F.R. 12.212 and 48 C.F.R. 227.7202-1 through 227.7202-4, NEC-i provides the Software to U.S. Government End Users only pursuant to the terms and conditions therein.

◆ ご連絡先

NEC インフロンティア株式会社

〒101-8532 東京都千代田区 神田司町 2-3

国内営業事業本部 ネットワーク営業事業部 ネットワーク営業推進部

TEL：03-5282-5823

GPLに基づき許諾されるフリーソフトウェア・モジュール

本製品のソフトウェアは、GNU General Public License Version 2に基づいて許諾される次のフリーソフトウェア・モジュールを含んでいます。

< GPLに基づき許諾されるモジュール >

u-boot-1.1.4

これらのモジュールはフリーソフトウェアです。お客様は、Free Software Foundationが定めたGNU General Public License Version 2または当該ライセンス条件の改訂版が定める条件に従って、これらのモジュールを再頒布または変更することができます。これらのモジュールの頒布にあたっては、当社はいかなる保証も行いません。以下にGNU General Public License Version 2の全文を記載します。詳細はこちらをお読みください。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies
of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no

warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the

Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

one line to give the program's name and an idea of what it does.

Copyright (C) yyyy name of author

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details
type 'show w'. This is free software, and you are welcome
to redistribute it under certain conditions; type 'show c'
for details.
```

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

```
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright
interest in the program 'Gnomovision'
(which makes passes at compilers) written
by James Hacker.
```


signature of Ty Coon, 1 April 1989


Ty Coon, President of Vice


This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

安全に正しくお使いいただくために — 必ずお読みください —

この取扱説明書では、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本システムを安全に正しくお使いいただくために守っていただきたいことを、いろいろな絵表示を使って記載しています。その絵表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解した上で本文をお読みください。




 **危険**：人が死亡するまたは重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。










 **警告**：人が死亡するまたは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意**：人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

















お願い：本システムの本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

絵表示の例














-  △記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。
-  ○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容(左図の場合は水濡れ注意)が描かれています。
-  ●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

 危険	
● 鉛蓄電池は火気の近くや、密閉区間には設置しないでください。 － 爆発や火災により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。	
● 鉛蓄電池を使用する場合は、次のことを必ず守ってください。 ・ 電池のプラス端子とマイナス端子間を針金などの金属類で接続しない。 ・ 火の中に投入したり、加工したりしない。 ・ 金属工具を使用する場合は、ビニールテープなどで絶縁したものを使用する。 － 鉛蓄電池の損傷により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。	
● 鉛蓄電池を改造または分解しないでください。 鉛蓄電池の点検・調整・清掃・修理は販売店にご依頼ください。 － 鉛蓄電池の液もれ、発熱、破壊等により、火災・感電・やけど・けがの原因となることがあります。	
● 鉛蓄電池内部の液が目に入ったときには、失明の恐れがありますので、こすらずにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。	
● 鉛蓄電池は定期的に交換してください。 鉛蓄電池の交換については、販売店にご依頼ください。 － 交換時期を過ぎて使用した場合、電層の破損により漏電の原因となることがあります。	
● 鉛蓄電池を単体では充電しないでください。 － 鉛蓄電池の液もれ、発熱、破壊等により、感電・やけど・けがの原因となることがあります。	
● 機器で指定されていない鉛蓄電池は使用しないでください。また、新しい鉛蓄電池と古い鉛蓄電池を混ぜて使用しないでください。 － 鉛蓄電池の破裂、液もれにより、火災・やけど・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。	
● 鉛蓄電池は極性表示(プラスとマイナスの向き)を確認してから機器に挿入してください。 － 間違えますと、鉛蓄電池の破裂、液もれにより、火災・やけど・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。	









⚠ 警告

<p>設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置の通風孔をふさがないでください。次のような設置のしかたはしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主装置を仰向けや横倒し、逆さまにする。 ・ 主装置を取納棚や本箱、配線ボックスなどの風通しの悪い狭い場所に押し込む。 ・ 主装置をじゅうたんや布団の上に置く。 ・ 主装置にテーブルクロスなどをかける。 ・ 主装置の周りに物をおいて、通風孔をふさぐ。 - 主装置の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。 	
<p>お取り扱いについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様による主装置の設置工事、配線作業、修理、移動、鉛蓄電池の接続や交換などは危険ですから絶対におやめください。主装置の設置工事、配線作業、修理、移動、鉛蓄電池の接続や交換などを行うときは、販売店にご依頼ください。 ● 万一、主装置内部のヒューズ切れなどにより使用不可となった場合は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。お客様によるヒューズの交換は絶対に行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電の原因となることがあります。 ● 主装置のカバーを開けないでください。内部の点検、調整、清掃、修理は販売店にご依頼ください。 <ul style="list-style-type: none"> - 感電の原因となることがあります。 ● 雷がなったら主装置や電源プラグ、ACアダプター、電話機コードに触れないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 感電の原因となることがあります。 ● 主装置や電話機、電源コード類を熱器具に近づけないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - キャビネットや電源コード類の被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ● 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> - コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電や断線の原因となることがあります。 ● 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してから電源コンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源プラグを電源コンセントから抜いて点検、清掃をしてください。なお、点検に関しては販売店にご相談ください。 <ul style="list-style-type: none"> - ほこりにより、火災・感電の原因となることがあります。 ● モジュラーローゼットやモジュラージャックは床に配置せず、浮かした場所など濡れない場所に固定してください。 <ul style="list-style-type: none"> - 水に濡れたりした場合、火災の原因となることがあります。 	       
<p>使用環境、使用条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置や電話機の内部に水が入ったりしないよう、また濡らさないようご注意ください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電・故障の原因となります。 ● 電源は、交流100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電の原因となることがあります。 ● 付属または指定のACアダプタ、充電器以外を使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電・故障の原因となります。 ● 電源の延長コードは使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 過熱、発火の危険があります。 ● お客様が用意された機器を主装置および電話機に接続して使用される場合は、あらかじめ販売店に確認してください。確認していない場合は、絶対に接続しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電・故障の原因となります。 ● 主装置および電話機を分解・改造しないでください。分解・改造された主装置および電話機は、修理に応じられない場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電の原因となります。 ● 本装置には、必ず添付している電源コードを使用してください。また、本装置に添付している電源コードを他の装置に使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> - 火災・感電・故障の原因となります。 	      









⚠ 警告

設置上の注意	<ul style="list-style-type: none">● タコ足配線はしないでください。 － タコ足配線にすると、テーブルタップなどが過熱・劣化し、火災の原因となります。● 電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。 － 電源プラグの歯に金属などが触れると、火災・感電の原因となります。● 主装置の開口部から内部に金属類や可燃性などの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。万一、異物が入った場合は、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 － 火災・感電・故障の原因となります。● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 － 感電の原因となります。● 電源ケーブルや配線を傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。電源ケーブルおよび配線が傷んだら、販売店に修理をご依頼ください。 － 電源ケーブルや配線が破損し、火災・感電の原因となります。● 次のような場所には置かないでください。<ul style="list-style-type: none">・ 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所・ 直射日光が当たる場所、暖房設備やボイラーなどの近くや屋外・ 湿気の多い場所や水・油・薬品などがかかる恐れがある場所・ ごみやほこりの多い場所、鉄粉、有毒ガスなどが発生する場所・ 製氷倉庫など、特に温度が下がる場所・ テレビ・ラジオ・無線機など、磁気・電波を発生する場所・ 違法電波を受ける場所－ 火災・感電・故障の原因となることがあります。	     
使用上の注意	<ul style="list-style-type: none">● 主装置の上や近くに、花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など、水や液体の入った容器を置かないでください。 － こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。	
製品の運搬、開梱について	<ul style="list-style-type: none">● 製品の運搬、開梱を行う場合は、販売店にご相談ください。 － お客様による運搬、開梱は危険であるばかりでなく、振動、衝撃、落下等により故障する場合がありますのでおやめください。	
異常時の対処	<ul style="list-style-type: none">● 主装置の電源コードおよび電話機までの配線などが傷んだ状態（芯線の露出、断線など）のまま使用しないでください。すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。 － 電源コードおよび配線などが傷んだ状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。● 万一、主装置や電話機に水などの液体が入った場合は、すぐに主装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。 － そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。● 主装置の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、まず主装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 － そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。● 万一、次のような異常状態を発見したら、すぐに主装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認し、販売店に点検・修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。<ul style="list-style-type: none">・ 主装置から異常音がする・ 主装置本体のキャビネットが熱くなっている・ 煙が出ている・ へんな臭いがする－ そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。● 万一、本機を倒したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。 － そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。	    
















⚠ 警告

コードレス電話機の取り扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ● ふる場やシャワー室など、水がかかる場所では使用しないでください。また、本機に水が入ったり、濡れたりしないように注意してください。 － 火災・感電の原因となります。 ● 濡れた手で、本機を操作したり、接続したりしないでください。 － 感電の原因となります。 ● 開口部から本機の内部に金属物を差し込まないでください。 － 火災・感電・故障の原因となります。 ● 本機のそばに花びんや植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。 － こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。 ● 本機を分解しないでください。 － 火災・感電の原因となります。 ● ACアダプタは、必ず指定のものを使用してください。 － 指定以外のACアダプタを使用すると、火災・感電・故障の原因となります。 ● コードレス電話機は、航空機内や病院内などの使用を禁止された区域では、電源を切るか持ち込まないでください。 － 電子機器や医療機器に影響を与え事故の原因となることがあります。 	      
廃棄時の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用済みの電池は、火中に投げ入れないでください。 － 爆発して火災・やけどの原因となることがあります。 	











⚠ 注意

設置について	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置や電話機を床面設置する場合や壁掛け設置する場合は、専用の取り付け用品によりしっかりと固定設置してください。 － 固定が不十分な場合、落下、転倒の原因となることがあります。 	
お取り扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置や電話機の上に重い物を載せないでください。 － バランスがくずれて落下やけがの原因となることがあります。 ● 主装置や電話機に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。 － 倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。 ● 主装置は高度な技術によって構成された精密機器です。より安心して使用していただくためには、定期点検をお受けすることをお勧めします。詳しくは、販売店にお問い合わせください。 ● 電話機の底面には、ゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。 ● 電話機パネルの取り外しには先のとがったものを利用してください。 － 指や爪で行うとけがをするおそれがあります。 ● 必要以上に音量を上げないでください。 － ハウリングなど通話品質の低下を招くばかりでなく、音量を大きくしたまま使用すると、聴力障害の原因となることがあります。 	     
設置上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 次のような場所には置かないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所 ・ 振動・衝撃の多い場所 － 落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。 	


⚠ 注意

使用上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● バックアップバッテリーは定期的（1年～2.5年以内）に交換してください。また、寿命の過ぎたバッテリーは使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> － ケースが割れたり液漏れにより、漏電、発煙、発火の原因となることがあります。 － 周囲温度が高くなる場合は交換の周期が短くなります。 ● バッテリーの交換は、販売店に依頼してください。お客様による交換は絶対にお止めください。 ● 長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず主装置の電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。 	  
廃棄時の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 不要バッテリーは産業廃棄物として処理してください。環境保護のために廃棄方法を法律で規制しています。産業廃棄物処理業者に依頼されるか、販売店にご相談ください。 	
コードレス電話機の取り扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルコードレス電話機およびカーコードレス電話機は、デジタル信号で無線を行っているため傍受されにくくなっていますが、通常の手段を越えた方法で第三者が故意に内容を傍受する可能性があります。この点について十分に配慮して使用してください。機密が必要な通話は、有線の多機能電話機を使用することをお勧めします。 ● 移動しながら使用するときは、位置や向きによって雑音が入ることがあります。 ● 同一室内で、無線 LAN、電子レンジなどを使用している場合、通話に雑音が入る場合があります。 ● コードレス電話機のアンテナをあやまって目にささないようにしてください。 ● 次のようなところには置かないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 直射日光があたるところ ・ 温度の高いところ ・ 調理台のそばなど、油飛びや湯気が当たるところ ・ ほこりの多いところ － 火災・感電の原因となります。 ● 次のようなところには置かないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ぐらついた台の上や傾いたところ ・ 不安定なところ ・ 振動や衝撃の多いところ － 倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。 ● デジタルコードレス電話機およびカーコードレス電話機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。 ● デジタルコードレスおよびカーコードレス電話機の設置にあたっては、設置業者による事前環境調査を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> － お客様による設置および移設工事、または設置業者であっても環境測定を行わない設置の場合、この機器が正しく動作しないばかりではなく、ほかの電気機器に影響を与える場合があります。 ● 万一、デジタルコードレス電話機およびカーコードレス電話機から、移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかにこの機器の電波の発射を停止した上で（親機に接続されている電話機コードを抜き、子機の電池パックをはずします）、お買い上げの販売店に混線回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。 ● 本機に異物や水などが入ったときは、すぐに電源を切り、電話機コードを抜いて販売店にご連絡ください。 	         
ダイレクト通話料金管理ご利用時の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● プリンタを設置する場合、ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。 <ul style="list-style-type: none"> － 落下して、けがや故障の原因となることがあります。 	

お 願 い

設置について	<ul style="list-style-type: none"> ● 主装置や電話機を電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、インバータエアコン、電磁調理器など）。 <ul style="list-style-type: none"> － 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。 － テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。（放送局や無線局などが近く、雑音が大ききときは、電話機などの設置場所を移動してみてください。） ● 電話機は平らな面に置いてお使いください。 <ul style="list-style-type: none"> － 落下や故障の原因となることがあります。 ● 硫化水素が発生する場所（温泉地）や、塩分の多いところ（沿岸）などでは、主装置や電話機などの寿命が短くなることがあります。 	  
お取り扱いについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 電話機の汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。特に汚れのひどいときは、台所用中性洗剤を薄めてご使用のあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。 ● アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品や、科学雑巾のご使用は絶対に避けてください。 <ul style="list-style-type: none"> － 本機の外装を変質・変色させる原因となります。 ● 停電時にご利用可能な機能の詳細は、販売店にご相談ください。 ● 電話機コードを引っ張らないでください。 <ul style="list-style-type: none"> － 故障の原因となることがあります。 ● 電話機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。 <ul style="list-style-type: none"> － 故障の原因となることがあります。 	    
ご使用について	<ul style="list-style-type: none"> ● 本製品は、航空宇宙用、公共の幹線通信用、原子力制御用、運送用（列車、自動車、船舶等）、生命の維持に関わる医療用等、極めて高度な信頼性・安全性・耐久性が求められる用途への使用を想定していません。これらの用途には使用しないでください。 ● 本製品を、防災防犯用、各種通報用、生命の維持に関わらない医療用など、機能・精度において高い信頼性・安全性が求められる機器への運動装置として使用する場合、運用を含むシステム機器全般として、故障・誤動作等を想定した冗長、信頼性設計を施してください。 	 

そ の 他

保管について	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品を保管する場合は、梱包状態のまま保存してください。保存場所は、各機器の仕様と同等の環境（主装置：周囲温度0～40℃、湿度10～90％）を維持できる場所に保存してください。詳しくは、販売店にご相談ください。 	
漢字表示付き カールコード レス電話機	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢字表示器付き カールコードレス電話機は、2.4～2.4835GHzの全帯域を使用する無線設備です。移動体識別装置の帯域が回避可能で、変調方式は、「FH-SS方式」、与干渉距離は80mです。この機器（親機、子機ともに）には、それを示す右記のマークが貼付されています。 ● この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 2.4 FH 8  </div>

そ の 他

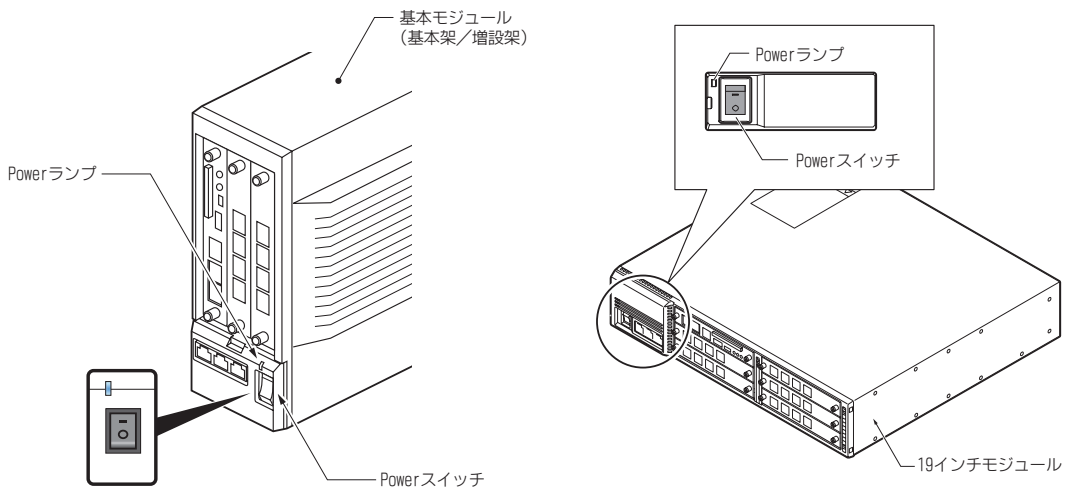
<p>廃棄時の注意</p>	<p>● 本商品は、お客様固有の情報を保存または保持可能な商品です。本商品内に保存または保持された情報の流出による不足の損害などを回避するために、本商品を廃棄、譲渡、返却される際には、本商品内に保存または保持された情報を消去する必要があります。下記にしたがって消去または販売店にご相談ください。</p> <p>ただし、システムデータに保持されているお客様固有情報は下記の処置では消去されませんので、消去されたい場合は販売店にご相談ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発信履歴 : P. 1-64を参照し、発信履歴をすべて消去してください。 ・ 着信履歴 : P. 1-64を参照し、着信履歴をすべて消去してください。 ・ 個別短縮ダイヤル登録 : P. 1-32を参照し、個別電話帳登録をすべて消去してください。 ・ 共通短縮登録 : P. 1-32を参照し、共通電話帳登録をすべて消去してください。 ・ ワンタッチボタン登録 : P. 5-19を参照し、ワンタッチボタン登録をすべて解除してください。 ・ 着信転送登録 : P. 1-45を参照し、転送設定をすべて解除してください。
<p>アナログ停電電話機の収容について</p>	<p>● アナログ停電電話機収容時は、直流抵抗が400Ωになります。電話機を含めた直流抵抗が1700Ω以上となる場所では、ご使用になれません。</p>

《 電源の切りかた 》

(1) PowerスイッチのOFF側 (○) を押す

Powerランプが消灯して電源が切れます。

※ 増設架を使用している場合は、基本架→増設架の順にPowerスイッチを押して、電源を切ってください。



《 電源の入れかた 》

(1) 電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認する

(2) PowerスイッチのON側 (|) を押す

Powerランプが点灯してシステムが起動します。しばらくすると、電話機の表示器に時計表示が出ます。

※ 増設架を使用している場合は、増設架→基本架の順にPowerスイッチを押して、電源を入れてください。

目次

はじめに	i
ソフトウェア使用許諾契約書	iii
お客様へのお願い	iii
ソフトウェアのご使用条件	iii
GPL に基づき許諾されるフリーソフトウェア・モジュール	iv
安全に正しくお使いいただくために — 必ずお読みください —	vii
目次	xiv
この取扱説明書の見かた	xxii

多機能電話機を使う

ボタンと表示器の見かた	1-2
各ボタンの使いかた	1-2
パネルと示名条片の取り外しかた・取り付けかた	1-3
短縮ダイヤル早見表（別売品）の取り付けかた	1-3
表示器の見かた	1-4
アイコン表示の意味	1-5
ソフトキーのメニューについて	1-6
電話機を使用していないとき	1-6
電話機を使用しているとき	1-8
メニューボタンのメニューについて	1-10
メニューを操作する	1-10
メニューの設定項目一覧	1-10
メニューを操作する（IP 多機能電話機 Ver. 5. 0. 0. 0 以降の場合）	1-15
アイコンメニューについて	1-20
アイコンメニューを操作する	1-20
アイコンメニューの構成内容	1-20
十字キーのメニューについて	1-22
十字キーの左（再／短）メニューを操作する	1-22
十字キーの右（電話帳）メニューを操作する	1-23
電話機の調整のしかた	1-24
音や表示器を調整する	<ボリュームコントロール> 1-24
着信音の音色を設定する	<着信音色切替> 1-25
ダイヤルボタンを押したときの音を設定する	<キータッチトーン/ダイヤル読み上げ> 1-25
内線からの着信方法を設定する	<内線呼出の音声/信号の呼出指定> 1-25
電話機に使用者の名前を登録する	<内線名称入力> 1-25
表示器内の文字を縦倍角表示にする	<LCD 縦倍角表示設定> 1-26
表示器を白黒反転表示にする	<LCD 白黒反転表示設定> 1-26
電話機の角度を調整する	1-26
外線に電話をかける	1-27
発信ボタンを使ってかける	<空外線自動選択> 1-27
外線ボタンを使ってかける	<ワンタッチオンフックダイヤル（ダイレクトライン方式の場合）> 1-27

電話番号を確認してからかける	＜プリセットダイヤル＞	1-27
索線ボタンを使ってかける	＜索線形外線発信＞	1-28
特番を使ってかける	＜外線グループ捕捉／指定外線捕捉＞	1-28
一度かけた相手にかけ直す	＜再ダイヤル＞	1-28
相手が出るまで自動でかけ直す	＜リピートダイヤル＞	1-29
短縮番号を使ってかける	＜短縮ダイヤル発信＞	1-30
内線に電話をかける		1-33
内線呼び出す	＜内線相互接続＞	1-33
内線を検索する		1-33
相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す	＜内線予約／内線コールバック＞	1-33
相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す	＜リセットコール／ステップコール＞	1-34
電話機の周囲にいる人に呼びかける	＜信号／音声呼出切替＞	1-34
ほかの部署にかける	＜内線代表呼出／内線代理着信＞	1-34
受話器を上げるだけで特定の内線にかける	＜内線ホットライン＞	1-35
電話を受ける		1-36
応答ボタンを使って受ける	＜外線応答＞	1-36
外線ボタンを使って受ける	＜任意外線応答＞	1-36
受話器を上げるだけで受ける	＜着信自動応答＞	1-36
受話器を上げるだけで受けるかどうかを自分で切り替える	＜応答プリセット＞	1-36
内線からの電話を受ける	＜内線応答＞	1-37
代理で電話を受ける		1-38
ほかの人への電話を代わりに受ける	＜指定内線代理応答＞	1-38
同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける	＜内線指定呼代理応答／グループ代理応答＞	1-38
ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける	＜グループ指定代理応答／他グループ代理応答＞	1-39
電話を保留する・取り次ぐ		1-40
外線との通話を保留する	＜共通保留＞	1-40
自分だけが応答できるように保留する	＜個別保留＞	1-40
外線との通話をほかの人に取り次ぐ	＜口頭転送／保留転送／自動保留転送／内線グループ保留／パーク保留＞	1-41
内線／外線ボタンを使って取り次ぐ	＜自動保留＞	1-42
着信音だけで取り次ぐ	＜呼出状態転送＞	1-43
取り次ぎ先の通話終了後、自分に戻るようにする	＜折り返し転送＞	1-43
ほかの人の通話が終了後、自分につながるようにする	＜被保留転送＞	1-43
内線通話を保留する	＜内線保留＞	1-44
内線通話を取り次ぐ	＜内線の自動保留転送＞	1-44
電話に出られないとき		1-45
自分宛ての電話をすべて転送する	＜不在着信転送／着信転送＞	1-45
通話中にかかってきた電話をすべて転送する	＜話中転送＞	1-46
電話に出られないときに転送する	＜不応答転送＞	1-47
通話中や電話に出られないときに転送する	＜話中／不応答転送＞	1-47
移動先から転送の設定をする	＜フォローミー＞	1-48
かかってくる電話を一時的に拒否する	＜着信拒否＞	1-48
不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す	＜バイパスコール＞	1-49
通話中の相手を緊急で呼び出す	＜話中呼出＞	1-49
便利な使いかた		1-51
ワンタッチボタンを使ってかける	＜ワンタッチダイヤル＞	1-51
受話器を置いたまま通話する	＜ハンズフリー通話＞	1-52
ふさがっている外線が空きしだい、使えるようにする	＜外線予約／外線コールバック＞	1-53
一斉呼出をする	＜内線グループ呼出／内線グループ呼出転送＞	1-54

電話で会議する <会議通話/内線呼出招集/2外線会議通話/口頭会議招集>	1-55
ほかの人の通話に割り込む <通話割り込み>	1-56
ほかの人と通話中の内線相手に声をかける <ボイスオーバー>	1-56
通話中に電話番号を記憶する <セーブドナンバーリダイヤル/メモダイヤル>	1-57
こちらの声だけを一時的に消す <送話カット>	1-58
キャッチホンサービスなどを利用する <外線フッキング>	1-58
電話情報サービスなどを利用する <通話中 PB 信号送出>	1-58
登録済みの番号に別の番号を続けてかける <追加ダイヤル>	1-58
電話機のランプで伝言があることを知らせる <伝言 (メッセージウェイティング) >	1-59
かけてきた相手に不在の理由を知らせる <テキストメッセージ>	1-60
指定時刻にアラーム音を鳴らす <アラーム>	1-60
電話機でブザー呼出を行う <ブザー>	1-61
電話機から音楽などを流す <BGM>	1-61
会議室の様子を電話機から聞く <ルームモニタ>	1-62
通話相手の声を周りの人にも聞かせる <グループリスニング>	1-62
着信履歴を利用する	1-63
発着信履歴を削除する	1-64
同じ外線が続けて電話をかける <切断再捕捉>	1-65
取り次ぎ用の電話機を指定する <幹部着信転送>	1-65
ヘッドセットを使って通話する <ヘッドセット接続>	1-66
IP 多機能電話機のボタン操作などを制限する <セキュリティボタン>	1-67
共通短縮ダイヤルに登録した付加情報を表示する <共通短縮付加情報表示>	1-68
センター電話帳を使う	1-69
センター電話帳について	1-69
センター電話帳利用時の各ボタンの使いかた	1-69
センター電話帳のアイコン表示の意味	1-70
センター電話帳を起動する	1-70
電話帳に登録する	1-71
電話帳に登録されている相手を検索する	1-72
電話帳の登録内容を変更する	1-74
電話帳に登録されている内容を削除する	1-75
センター電話帳を設定する	1-75
文字を入力する	1-77
デジレス電話機とは	1-80
デジレス表示器の見かた	1-82
ファンクションボタン登録内容表示について	1-82
状態アイコン表示の意味	1-84

一般電話機を使う

一般電話機を使うときの注意	2-2
一般電話機をご使用の前に	2-2
特番について	2-2
保留のしかた	2-2
外線に電話をかける	2-3
受話器を上げてかける <外線自動選択/空外線自動選択>	2-3
特番を使ってかける <外線グループ捕捉/指定外線捕捉>	2-3
最後にかけた相手にかけ直す <再ダイヤル>	2-4

短縮番号を使ってかける	＜短縮ダイヤル発信＞	2-4
内線に電話をかける		2-5
内線を呼び出す	＜内線相互接続＞	2-5
相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す	＜内線予約／内線コールバック＞	2-5
相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す	＜リセットコール／ステップコール＞	2-6
電話機の周囲にいる人に呼びかける	＜信号／音声呼出切替＞	2-6
ほかの部署にかける	＜内線代表呼出／内線代理着信＞	2-6
受話器を上げるだけで特定の内線にかける	＜内線ホットライン＞	2-7
電話を受ける		2-8
受話器を上げるだけで受ける	＜着信自動応答＞	2-8
特番を使って受ける	＜分散応答＞	2-8
内線からの電話を受ける	＜内線応答＞	2-8
代理で電話を受ける		2-9
ほかの人への電話を代わりに受ける	＜指定内線代理応答＞	2-9
同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける	＜内線指定呼代理応答／グループ代理応答＞	2-9
ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける	＜グループ指定代理応答／他グループ代理応答＞	2-10
電話を保留する・取り次ぐ		2-11
外線との通話を保留する	＜保留／保留維持＞	2-11
外線との通話をほかの人に取り次ぐ	＜自動保留転送／内線グループ保留／パーク保留＞	2-11
着信音だけで取り次ぐ	＜呼出状態転送＞	2-12
内線通話を保留する	＜内線保留＞	2-12
内線通話を取り次ぐ	＜内線の自動保留転送＞	2-13
電話に出られないとき		2-14
自分宛ての電話をすべて転送する	＜不在着信転送／着信転送＞	2-14
通話中にかかってきた電話をすべて転送する	＜話中転送＞	2-15
電話に出られないときに転送する	＜不応答転送＞	2-16
通話中や電話に出られないときに転送する	＜話中／不応答転送＞	2-16
移動先から転送の設定をする	＜フォローミー＞	2-17
不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す	＜バイパスコール＞	2-17
通話中の相手を緊急で呼び出す	＜話中呼出／コールウェイティング＞	2-17
便利な使いかた		2-18
ふさがっている外線が空きしだい、使えるようにする	＜外線予約／外線コールバック＞	2-18
一斉呼出をする	＜内線グループ呼出／内線グループ呼出転送＞	2-18
電話で会議する	＜会議通話／内線呼出招集／2外線会議通話＞	2-19
ほかの人の通話に割り込む	＜通話割り込み＞	2-20
ほかの人と通話中の内線相手に声をかける	＜ボイスオーバー＞	2-20
通話中にいまかけた電話番号を記憶する	＜セーブナンバーリダイヤル＞	2-21
キャッチホンサービスなどを利用する	＜外線フッキング＞	2-21
登録済みの番号に別の番号を続けてかける	＜追加ダイヤル＞	2-21
電話機のランプで伝言があることを知らせる		
.. ＜伝言（メッセージウェイティング）／伝言設定／伝言への応答／指定電話機の伝言解除＞		2-22
指定時刻にアラーム音を鳴らす	＜アラーム＞	2-22

システムの運用例

ISDN 回線	3-2	
ISDN 回線の利用例	< INS ネット 64 / INS ネット 1500 >	3-2
ISDN 回線を使って電話をかける ... < 通常の発信 / サブアドレス指定発信 / 通常の発信 / サブアドレス指定発信 >		3-2
発信規制や料金管理を利用する	< 発信規制 / 料金管理 >	3-2
ISDN 付加サービスを利用する	< 発信者番号通知 >	3-3
利用できるサービスについて	< ISDN 付加サービス >	3-3
INS フレックスホン 通信中転送を利用する		3-3
INS ナンバーリクエストを利用する		3-3
INS ボイスワープを利用する		3-4
INS ボイスワープセレクトを利用する		3-5
NTT のサービス	3-7	
ナンバー・ディスプレイ ... < 発信者番号通知 / 着信履歴 / 識別着信 / 識別着信拒否 / 非通知着信拒否 >		3-7
マイライン	< 電話会社選択サービス / 電話会社固定サービス >	3-10
NTT ダイヤルイン	3-11	
NTT ダイヤルインの着信方式	< 個別着信方式 / 仮想内線着信方式 >	3-11
NTT ダイヤルインの着信転送 ... < 内線グループ毎の自動転送 / 内線グループ毎の不応答転送 / 内線グループ毎の自動 / 不応答転送先登録 >		3-11
NTT ダイヤルインの着信拒否	< 内線グループ着信拒否 >	3-13
専用線	3-14	
通常のかけかた	< 外線ボタンを使ってかける >	3-14
相手の内線番号を押してかける		3-14
電話を外線に転送する	3-15	
手動で転送する	< 外線手動転送 / 会議通話転送 >	3-15
自動で転送する ... < 外線自動転送設定 / 外線自動転送解除 / 外線毎の自動転送先登録 >		3-16
ほかの内線や仮想の内線番号を使う	3-17	
仮想内線の利用例	< 実内線番号 / 仮想内線番号 / 仮想内線着信への応答 >	3-17
仮想内線ボタンを使う		3-17
オートアテンダント (VRS)	3-19	
オートアテンダント (DID / DISA) の利用例		3-19
社外から本システムに電話をかける ... < オートアテンダント (DID) / オートアテンダント (DISA) >		3-19
オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去 ... < VRS メッセージ編集 >		3-21
外出先から内線への各種設定を行う	< リモート設定 >	3-23
DID / DISA	3-24	
ダイレクトインワードダイヤルの利用例	< DID >	3-24
ダイレクトインワードシステムアクセスの利用例	< DISA >	3-24
着信お待たせメッセージ	3-25	
着信お待たせメッセージの利用例		3-25
着信お待たせメッセージを設定する		3-25
構内放送	3-26	
構内放送の利用例	< 放送 / 応答 >	3-26
外部スピーカを使って呼び出す	< 一斉放送 / グループ放送 >	3-26
構内放送に応答する	< 一斉放送 / グループ放送への応答 >	3-26

外部スピーカで呼び出して電話を取り次ぐ	<ページング転送>	3-27
外部スピーカで呼び出して会議通話をする	<一斉放送会議通話>	3-27
ドアホン		3-28
ドアホンの利用例	<ドアホン>	3-28
ドアホンに応答する		3-28
ドアホンの周囲の音を聞く	<ドアホンモニタ>	3-28
ドアのカギを開ける	<ドアホンロック開錠>	3-28
ドアホンへの着信を外線に転送する		3-29
DSS コンソール		3-30
DSS コンソールについて		3-30
DSS コンソールのランプ表示モード		3-30
利用できる機能と利用中の表示		3-31
DSS コンソールの使いかた		3-35
ディスプレイボード		3-36
ディスプレイボードについて		3-36
ディスプレイボードのランプ表示		3-36
ディスプレイボードの使いかた	<在席表示>	3-36
ホテル機能		3-38
チェックイン・チェックアウトについて		3-38
モーニングコールについて		3-38
伝言（メッセージウェイティング）について	<伝言／伝言への応答>	3-39
DSS コンソールによる客室状態表示について		3-39
客室情報出力について		3-39
セキュリティ		3-40
社内に警戒中メッセージを放送する	<セキュリティ放送>	3-40
セキュリティセンサに連動して通報する	<セキュリティセンサ連動>	3-40
自動で在席確認をする	<リモート確認>	3-41

● ダイレクト通話料金管理

ダイレクト通話料金管理について		4-2
おもな機能		4-2
機器の構成		4-3
ご利用になる前に		4-3
ダイレクト通話料金管理を利用する		4-4
印刷のテストをする		4-4
番号ごとの通話料金集計・明細を印刷する		
... <内線毎集計印刷／内線毎明細印刷／外線毎集計印刷／外線毎明細印刷／ID 毎集計印刷／ID 毎明細印刷>		4-4
グループごとの通話料金集計・明細を印刷する		
... <内線グループ毎集計印刷／内線グループ毎明細印刷／外線グループ集計印刷		
... /外線グループ明細印刷／ID グループ集計印刷／ID グループ明細印刷>		4-11
システム全体の通話料金集計・明細を印刷する <システム一括集計印刷／システム一括明細印刷>		4-19
システム全体の通話料金データを消去する		4-22
通話終了と同時に明細を印刷する	<通話明細即時印刷>	4-24
特番で内線の通話料金集計を簡単に印刷する <個別内線精算／全内線一括精算>		4-25

困ったときは	4-26
困ったときのチェックポイント	4-26
システムアラームメッセージについて	4-26

システム管理者の方へ

システムについて	5-2
利用できる周辺機器	<システム構成> 5-2
外線の発着信の方法について	
.. <発着信方式/ダイレクトライン方式/索線形発着信方式/個別着信 (DIL) 方式	
..... /ダイヤルイン方式/追加ダイヤルイン方式/仮想内線方式>	5-3
内線グループについて	<仮想内線方式/内線代表方式/内線代理着信方式> 5-4
発信規制について	5-5
個人登録発信規制について	5-6
料金管理について	<料金表示/通話警告/予算管理> 5-7
番号計画について	<サービス特番一覧> 5-9
電話機のラインナップ	5-13
多機能電話機の品名および機能一覧	5-15
多機能電話機のオプション品一覧	5-17
電話機と利用できる機能について	5-17
各種設定について	5-18
時計を設定する	5-18
日付を設定する	5-18
ファンクションボタンへの機能登録について	5-18
運用モードについて	5-21
保留音について	5-22
外部機器の制御について	<汎用リレー> 5-22
多機能電話機を交換する	<端末リロケーション> 5-23
夜間などの消費電力をおさえる	<パワーセーブ> 5-23
停電したときは	5-24
システムの動作	<停電時/停電復旧時動作/バックアップ時間> 5-24
停電中の電話の使いかた	<停電時発着信> 5-24
停電が復旧したとき	5-24
消耗品について (電池等)	5-25
システムの内蔵バッテリーについて	<小形シール鉛蓄電池> 5-25
システム内 CPU のメモリバックアップ電池について	<ボタン型リチウム電池> 5-25
冷却ファンボックスについて	.. <19 インチモジュール用冷却ファンボックス> 5-25
困ったときは	5-26
保証とアフターサービスについて	5-27
おもな仕様	5-28

ユーザープログラミング

ユーザープログラミングについて	6-2
ユーザープログラミングの概要	6-2
ご使用上の注意	6-2
パソコンの動作環境	6-2
機器の構成	6-2
LAN とインターネットブラウザの設定	6-2
ユーザープログラミングの操作	6-5
操作上の注意点	6-5
おもなアイコン	6-5
ログイン/ログアウト	6-6
設定範囲の選択	6-7
設定メニュー一覧	6-8
UA レベルの設定メニュー	6-8
UB レベルの設定メニュー	6-12
索引	索引-1

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書では、次のマークを使って操作のしかたや注意事項、アドバイスなどを説明しています。



操作についてのアドバイスや、ほかに知っておくと便利な情報を記載しています。

工事 マーク

操作をするために、工事段階の設定やオプション機器などが必要な内容について記載しています。また、あらかじめシステム管理者の方の設定が必要な内容について記載しています。この場合は、本書の『システム管理者の方へ』(⇒P.5-1)を参照して、設定を行ってください。

機能ボタン

電話機のボタンをイラストで記載しています。手順の中に、イラストで記載されているボタンは、そのボタンを押すことを表しています。

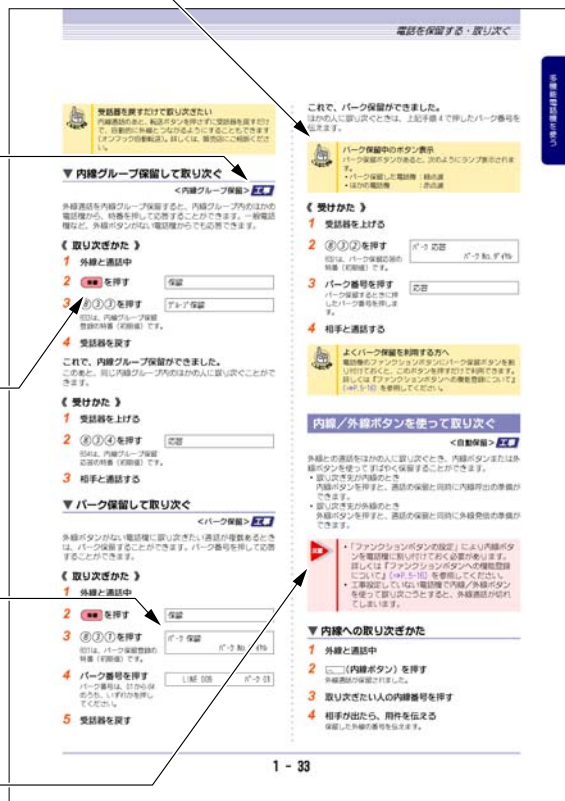
表示器 (表示例)

本文では、操作中の電話機に表示される内容のうち、特に確認が必要な場合だけ、表示を記載しています。通常の表示については『表示器の見かた』(⇒P.1-4)を参照してください。



マーク

操作をするときに、注意していただきたい事項を記載しています。





多機能電話機を使う

ボタンと表示器の見かた	1-2
ソフトキーのメニューについて ...	1-6
メニューボタンのメニューについて ...	1-10
アイコンメニューについて	1-20
十字キーのメニューについて	1-22
電話機の調整のしかた	1-24
外線に電話をかける	1-27
内線に電話をかける	1-33
電話を受ける	1-36
代理で電話を受ける	1-38
電話を保留する・取り次ぐ	1-40
電話に出られないとき	1-45
便利な使いかた	1-51
センター電話帳を使う	1-69
文字を入力する	1-77
デジレス電話機とは	1-80

ボタンと表示器の見かた

各ボタンの使いかた

ここでは、24ボタンIP多機能電話機を例に説明しています。(⇒P.1-4 ~ P.1-73参照)

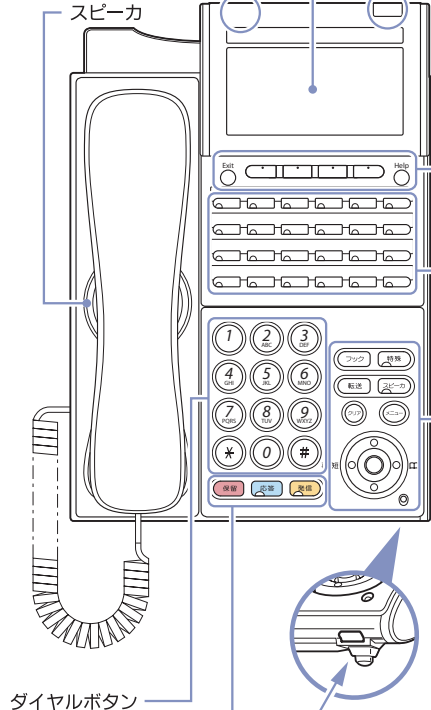
セキュリティボタン
(IP多機能電話機のみ)
電話機をロック状態にしてボタン操作などを制限します。

表示器

詳しくは『表示器の見かた』(⇒P.1-4)を参照してください。

大型ランプ

外線や内線からの着信時に点滅します。また、ボイスメールを利用している場合、メッセージが録音されていると点滅します。



ダイヤルボタン

マイク

受話器を置いたまままで話すと、このマイクに向かって話します。

Exit
○ … Exitボタン

メニューなどの操作を終了して、待ち受け画面を表示させるときなどに使います。

○ ○ ○ ○ … ソフトキー

発着信履歴を確認したり、短縮番号に登録されている相手先を検索したり、各機能の設定時に表示器に表示された項目を選択するときなどに使います。

Help
○ … Helpボタン

ファンクションボタンに登録されている機能を確認するときなどに使います。

□ … ファンクションボタン (ランプ付き)

外線にかけるときに使います。また、相手の電話番号や内線番号を登録してワンタッチで電話をかけたり、いろいろな機能を登録してワンタッチで操作することもできます。

フック … フックボタン

受話器を戻さないで外線通話を切るときや、キャッチホンサービスを利用するときに使います。

特殊 … 特殊ボタン (ランプ付き)

いろいろな機能を設定するときなどに使います。

転送 … 転送ボタン

通話をほかの人に取り次ぐときに使います。

スピーカ … スピーカボタン (ランプ付き)

受話器を置いたまま、電話をかけるときに使います。

クリア … クリアボタン

メニューの操作中、1つ前の状態に戻すときに使います。

メニュー … メニューボタン

電話機のローカルメニューを表示するときに使います。

再/短 ○ ○ ○ ○ … 十字キー

<上下キー (ボリューム)>

受話音量や着信ベル音量および、表示器の濃さを調整するときに使います。

<右キー (電話帳検索)>

センター電話帳、共通短縮、グループ検索、内線検索の検索画面を表示するときに使います。

確定ボタン

ショートカットメニューを表示したり、メニューの選択項目を確定するときに使います。

<左キー (再/短)>

最後にかけた相手にかけ直したり発信履歴や着信履歴を検索したりするとき、短縮ダイヤルを使ってかけるときなどに使います。

マイク … マイクランプ

マイクが使える状態のときに点灯します。

保留 … 保留ボタン

通話を保留にするときに使います。

応答 … 応答ボタン (ランプ付き)

外線からの電話を受けるときに使います。応答ランプは、外線から電話がかかってくる点滅します。

発信 … 発信ボタン (ランプ付き)

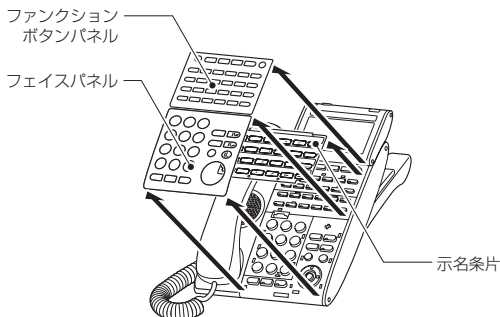
外線に電話をかけるときに使います。

パネルと示名条片の取り外しかた・取り付けかた

電話機のパネルを外すと、示名条片がかぶせてあります。この示名条片には、各ボタンに割り付けてある機能名やワンタッチで登録してある相手先の名称を書き込んで、ご利用ください。

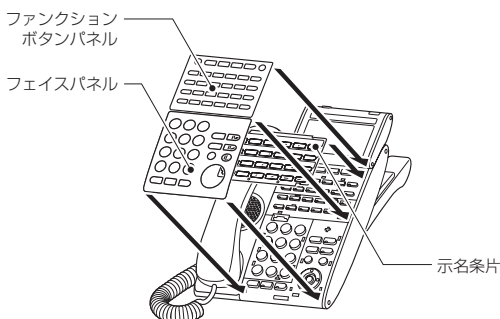
▼ パネルと示名条片の取り外しかた

- 1 パネル右側のすき間に、先のとがった棒などを軽く差し込む
- 2 軽く上に持ち上げて取り外す
- 3 示名条片を取り外す



▼ 示名条片とパネルの取り付けかた

- 1 電話機のボタンに合わせて示名条片をかぶせる
- 2 電話機のボタンに合わせてパネルをかぶせてから“パチッ”と音がするまで四隅を押さえる



注意

パネルは確実に取り付けてください。パネルでボタンが押されたままになると、電話をかけられないなど、誤動作することがあります。

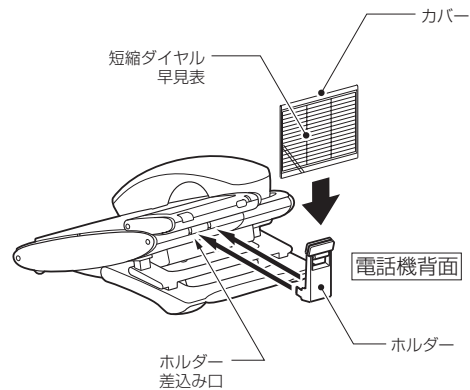


パネルにキズが付いているように見える
パネルの穴の周囲などに、光の具合によってはキズに見えるスジが入っていることがあります。これは、プラスチックの成形過程で生じるもので、構造上および機能上は問題ありません。安心してお使いください。

短縮ダイヤル早見表（別売品）の取り付けかた

短縮ダイヤル早見表をカバーにはさみ込み、ホルダーに取り付けてください。

- 1 電話機背面のホルダー差込み口にホルダーを差し込む
- 2 短縮ダイヤル早見表をホルダーに取り付ける



表示器の見かた

多機能電話機の表示器には、電話機の状態によって、次のように表示されます。

▼ 電話機を使用していないとき

電話機を使用していないときは、次の情報が表示されます。なお、日付の表示方法は、工事段階で変更できます。

《 デジタル多機能電話機の場合 》

- 1段目：アイコン
- 2段目：日付、曜日、時刻
- 3段目：内線番号、名前
- 4段目：ソフトキーのメニュー



《 IP多機能電話機の場合 》

- 1段目：アイコン
- 2段目：未使用
- 3段目：日付、曜日、時刻
- 4段目：内線番号、名前
- 5段目：ソフトキーのメニュー



アイコンについて

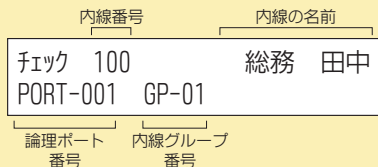
アイコンメニュー用のアイコンや電話機の状態を示すアイコンが表示されます。詳しくは『アイコン表示の意味』(⇒P.1-5)を参照してください。

名前の表示について

この表示は、電話機の内線番号の代わりに使用者の名前を表示することができます。詳しくは『電話機に使用者の名前を登録する』(⇒P.1-25)を参照してください。

電話機のポート番号などを知りたい

電話機の種類設定をするとき、内線ポート番号などのポート番号が必要になることがあります。このときは、Helpボタンを押してから発信ボタンを押してください。



元に戻すときは、Exitボタンを押します。

▼ 外線に発信中のとき

外線に発信中は、使用中の外線名称と相手の内線番号または電話番号が表示されます。

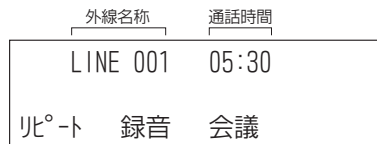


“LINE”の表示について

この表示は、使用中の外線の電話番号(加入者番号)や、その外線を使用する部署名など、別の名称に工事段階で変更できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 外線と通話中のとき

外線と通話中は、通話時間が表示されます。



通話時間は、通話開始および保留応答時に、00:00から始まります。

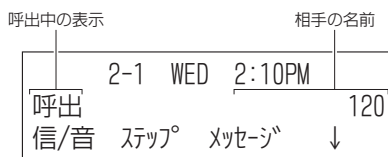
電話をかけた場合と、かかってきた場合とで、表示は異なります。

この例は、かかってきた場合を示しています。

中段には、通話料金や相手の電話番号などが表示される場合があります。

▼ 内線を呼出中のとき

内線を呼出中は、呼出中の表示と相手の内線番号または名前が表示されます。

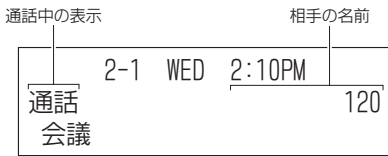


名前の表示について

電話をかけてきた相手先の電話機の設定によっては、相手の内線番号の代わりに、相手の名前が表示されます。詳しくは『電話機に使用者の名前を登録する』(⇒P.1-25)を参照してください。

▼ 内線と通話中のとき

内線と通話中は、通話中の表示と相手の名前が表示されます。

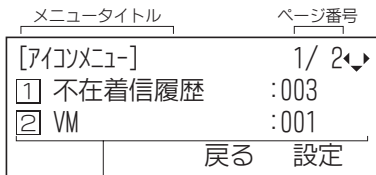


名前の表示について

電話をかけてきた相手先の電話機の設定によっては、相手の内線番号の代わりに、相手の名前が表示されます。詳しくは『電話機に使用者の名前を登録する』(⇒P. 1-25)を参照してください。

▼ メニューを表示しているとき

メニュー表示中は、設定中のメニュータイトルと選択項目およびページ番号が表示されます。



ページ番号が表示されているときは、選択項目に続きがあります。十字キーの上下またはソフトキーの上下を押して、表示項目を切り替えます。

アイコン表示の意味

表示器の1行目に表示されるアイコンの意味は、次のとおりです。

DT：デジタル多機能電話機、IP：IP多機能電話機

アイコン	意味	DT	IP
	確認されていない不応答の不在着信履歴があるときに表示されます。詳しくは『アイコンメニューについて』(⇒P. 1-20)を参照してください。	○	○
VM	メールボックスに、聞き取っていないボイスメールが保存されているときに表示されます。詳しくは『アイコンメニューについて』(⇒P. 1-20)を参照してください。	○	○
	カールコードレス電話機※またはオプションのBCH-LD UNIT※/BHA-LD UNIT※を利用している場合に、Bluetooth®機器が接続されていると表示されます。詳しくは『アイコンメニューについて』(⇒P. 1-20)を参照してください。	○	-
RTP	音声が入音化されているときに表示されます。	-	○
	使用できる十字キーの方向が表示されます。	○	○



センター電話帳のアイコンについて

詳しくは『センター電話帳のアイコン表示の意味』(⇒P. 1-70)を参照してください。

ソフトキーのメニューについて

多機能電話機の表示器には、ソフトキーのメニューが表示されています。各メニューの下のソフトキーを押すと、特番を使わずに、履歴や検索機能を利用することができます。各機能の詳細については、本文を参照してください。ソフトキーのメニューや表示内容は、次のとおりです。

- ◆ 電話機を使用していないとき
 - 履歴メニュー (⇒P.1-6)
 - 検索メニュー (⇒P.1-6)
 - 内線メニュー (⇒P.1-6)
 - 設定メニュー (⇒P.1-7)
- ◆ 電話機を使用しているとき (⇒P.1-8)

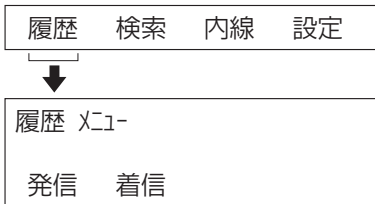
電話機を使用していないとき

電話機を使用していないときは、次のメニューが表示されています。



▼ 履歴メニュー

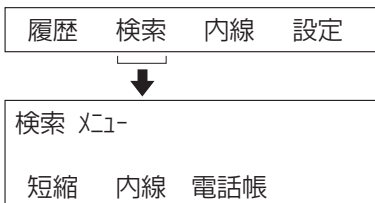
発信履歴や着信履歴を表示させたいときに押します。



- 発信（発信履歴）
直前の発信から10件までの履歴が表示されます。一度かけた相手にかけ直す（再ダイヤル）ときに、使います。
- 着信（着信履歴）
NTTのナンバー・ディスプレイを利用している場合、過去にかかってきた相手の履歴が50件まで表示されます。

▼ 検索メニュー

あらかじめ登録されている短縮ダイヤル番号や内線番号、電話番号を探したいときに押します。

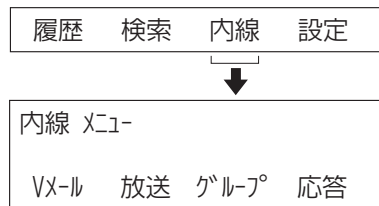


- 短縮
短縮メニューから、次のメニューを表示します。
 - 共通（共通短縮）
システム内の、どの電話機からでも使える共通の短縮番号を検索します。

- グループ（グループ短縮）
電話機が登録されているグループ内の短縮番号を検索します。
- 内線
システム内の内線番号を検索します。
- 電話帳
システム内の、どの電話機からでも使えるセンター電話帳を検索します。

▼ 内線メニュー

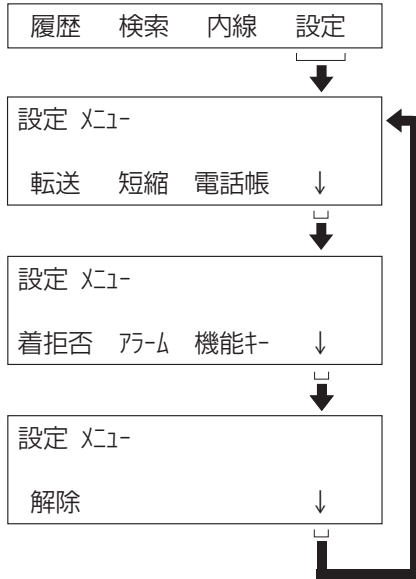
ボイスメールにアクセスするときや、一斉呼出などを利用するときに押します。



- Vメール
ボイスメールにアクセスします。ボイスメールにアクセスしたあとの操作については、『ボイスメール 取扱説明書』を参照してください。
- 放送
構内放送を利用して一斉放送やグループ放送をします。
- グループ
内線グループの呼出（ページング）をします。
- 応答
応答メニューから、次のメニューを表示します。
 - 代理（代理応答） : 自分と同じ内線グループ内の着信に代理応答します。
 - 放送（放送への応答）: 構内放送での呼び出しに応答します。
 - グループ : 内線グループ呼出に応答します。

▼ 設定メニュー

自分宛てにかかってきた電話に対し、転送や拒否などを設定することができます。

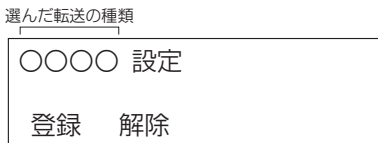


• 転送

転送メニューから、次のメニューを表示します。各機能の詳細については『電話に出られないとき』(⇒P.1-45)を参照してください。

- 着信 (着信転送) : 着信転送を設定または解除します。
- 不在 (不在転送) : 不在着信転送を設定または解除します。
- 話中 (話中転送) : 話中転送を設定または解除します。
- ↓ : 次のメニューを表示します。
- 不応答 (不応答転送) : 不応答転送を設定または解除します。
- フォローミー : フォローミーを設定または解除します。
- ↑ : 前のメニューに戻ります。

転送の種類を選ぶと、次のメニューが表示されます。“登録”または“解除”を選んで、それぞれの設定をしてください。



• 短縮

短縮ダイヤルを登録します。詳しくは『短縮番号を登録する』(⇒P.1-31)を参照してください。

- 短縮 (共通・個別短縮) : システム内の、どの電話機からでも使える共通の短縮番号と、電話機ごとの短縮番号を登録します。
- グループ (グループ短縮) : 電話機が登録されているグループ内の短縮番号を検索します。

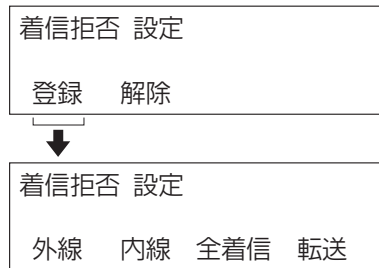
• 電話帳

センター電話帳のメニュー画面を表示します。詳しくは『センター電話帳を使う』(⇒P.1-69)を参照してください。

• 着信否 (着信拒否)

着信拒否を設定または解除します。

“着信否”を選ぶと、次のメニューが表示されます。“登録”または“解除”を選んで、それぞれの設定をしてください。“登録”を選んだときは、さらに着信の種類を選ぶメニューが表示されます。



• アラーム

アラームメニューから、次のメニューを表示します。

- アラーム1 : 1回だけ鳴らすアラームを設定または解除します。
- アラーム2 : 毎日定刻に鳴らすアラームを設定または解除します。

• 機能キー

ファンクションボタンに、いろいろな機能を割り付けます。詳しくは『一般機能レベルの機能ボタンを設定する』(⇒P.5-18)を参照してください。

• 解除

解除メニューから、次のメニューを表示します。

- 伝言 : 送信または受信した伝言を解除します。“解除”を選ぶと、さらに解除する対象を選ぶメニューが表示されます。
- 予約 : 内線予約または外線予約を解除します。“予約”を選ぶと、さらに解除する対象を選ぶメニューが表示されます。
- リピート : 相手が出ないときや通話中のとき、自動でかけ直すリピートダイヤルを解除します。

• ↓

次のメニューを表示します。最後のメニューのときは、最初のメニューに戻ります。

電話機を使用しているとき

内線呼出中や内線通話中、外線通話中、会議通話中などには、次のようなメニューが表示されます。

▼ 内線で呼出中のメニュー表示

内線で呼出中のときは、次のメニューが表示されます。



- 信/音
相手呼び出すときに、信号音で呼び出すか、音声で呼び出すかを切り替えます。
- ステップ
呼び出している相手と同じ内線グループ内のほかの内線に、呼び出しを切り替えます（ステップコール）。
- メッセージ
伝言を設定します。詳しくは『便利な使いかた』の『電話機のランプで伝言があることを知らせる』（⇒P. 1-59）を参照してください。
- ↓
次のメニューを表示します。
- Vメール
呼び出している相手のメールボックスにつながり、メッセージを録音します。
- 予約
内線予約を設定します。詳しくは『内線に電話をかける』の『相手の通話が終わりたい自動で呼び出す』（⇒P. 1-33）を参照してください。
- ↑
前のメニューに戻ります。

▼ 内線呼出で相手が通話中のメニュー表示

内線で呼び出した相手が通話中だったときは、次のメニューが表示されます。



- 話中呼
話し中の内線に対し、呼出をします。
- ステップ
呼び出している相手と同じ内線グループ内のほかの内線に、呼び出しを切り替えます（ステップコール）。

- メッセージ
伝言を設定します。詳しくは『便利な使いかた』の『電話機のランプで伝言があることを知らせる』（⇒P. 1-59）を参照してください。
- ↓
次のメニューを表示します。
- Vメール
呼び出している相手のメールボックスにつながり、メッセージを録音します。
- 予約
内線予約を設定します。詳しくは『内線に電話をかける』の『相手の通話が終わりたい自動で呼び出す』（⇒P. 1-33）を参照してください。
- 割込
通話に割り込みます。
- ↑
前のメニューに戻ります。

▼ 内線と通話中のメニュー表示

内線と通話中のときは、次のメニューが表示されます。



- 会議
会議通話をします。詳しくは『便利な使いかた』の『電話で会議する』（⇒P. 1-55）を参照してください。

▼ 外線がふさがっているときのメニュー表示

かけようとした外線がふさがっているときは、次のメニューが表示されます。



- 予約
外線が空き次第使用できるように、外線を予約します。

▼ 外線に発信中または通話中のメニュー表示

外線に発信中や通話中のときは、次のメニューが表示されません。



- リピート
相手が出ないときや通話中のとき、自動でくり返し、かけ直します（リピートダイヤル）。
- 録音
ボイスメールで通話録音をします。
- 会議
会議通話をします。詳しくは『便利な使いかた』の『電話で会議する』（⇒P. 1-55）を参照してください。

▼ 会議通話を操作中のメニュー表示

通話中に会議通話の操作をすると、次のメニューが表示されます。



- 再応答
会議通話の操作により保留になった通話を再開します。
- 検索
会議通話に参加させたい相手を、検索メニューで選ぶときに表示させます。

▼ 会議通話の相手を呼出中のメニュー表示

会議通話に参加させたい相手を呼び出しているときは、次のメニューが表示されます。



- 中止
呼出を中止します。

▼ 会議通話の相手と通話中のメニュー表示

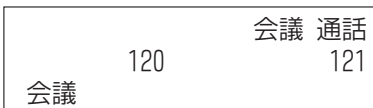
会議通話に参加させたい相手と通話がつながったときは、次のメニューが表示されます。



- 登録
“登録”を押したあと、“開始”を押すと、通話中の相手を会議に参加させて会議通話を始められます。

▼ 会議通話中のメニュー表示

会議通話をしているときは、次のメニューが表示されます。



- 会議
さらに会議通話に参加させたい相手を呼び出します。

メニューボタンのメニューについて

電話機のメニューボタンを押すと、表示器にメニュー画面が表示されます。各メニューを選択して、電話機の各種設定が行えます。

メニューを操作する

1 ボタンを押す

電話機のメニュー画面が表示されます。

デジタル多機能電話機



IP多機能電話機 (Ver. 5.0.0.0未満)



2 メニュー項目を選択する

次のいずれかの方法で、選択します。

- 項目に対応する番号を押す
- 十字キーの上で反転表示を移動し、確定ボタンまたは十字キーの右を押す
- “↑” “↓” のソフトキーで反転表示を移動し、“確定” のソフトキーを押す

※1つ前の画面に戻るときは、クリアボタンまたは“戻る”のソフトキーを押します。
操作を中断して待ち受け画面に戻るときは、Exitボタンを押します。

3 各種操作をする

▼メニュー設定時のボタン操作

ボタン	内容	
十字キー	上	<ul style="list-style-type: none"> • 反転表示を上へ移動 • 音量・濃度を上げる
	下	<ul style="list-style-type: none"> • 反転表示を下へ移動 • 音量・濃度を下げる
	左	<ul style="list-style-type: none"> • 1つ前の画面に戻る
	右	<ul style="list-style-type: none"> • 反転表示の項目を確定して、次の画面を表示
確定ボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 反転表示の項目を確定して、次の画面を表示 • 設定内容を保存して1つ前の画面に戻る 	
ダイヤルボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 押した番号の項目を確定して、次の画面を表示 • 押した番号の設定内容を保存して、1つ前の画面に戻る • 数字を入力 	
クリアボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 1つ前の画面に戻る • 数字を1文字削除 	
Exitボタン	<ul style="list-style-type: none"> • メニューを終了して待ち受け画面に戻る 	

メニューの設定項目一覧

デジタル多機能電話機とIP多機能電話機では、メニューの設定項目が異なります。それぞれの電話機で設定できる内容は、次のとおりです。

▼デジタル多機能電話機メニューの設定項目

メニュー項目	設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
1. 着信音量	0～【7】～12	着信時のスピーカ音量を調整します。
2. 話中着信音	【1. 無効】 2. 有効	話中時の着信音を鳴らすかどうかを設定します。
3. バックライト	1. 無効 【2. 有効】	電話機の操作時や着信時に、表示器およびダイヤルボタンのバックライトを点灯させるかどうかを設定します。
4. ヘッドセット鳴動	【1. 無効】 2. 有効	着信時にヘッドセットから着信音を鳴らすかどうかを設定します。
5. オプション機器	1. Bluetooth	カーコードレス電話機※またはオプションのBCH-LD UNIT※/BHA-LD UNIT※を利用している場合に、Bluetooth®機器の接続設定などを行います。詳しくは、各製品に添付のマニュアルを参照してください。

▼ IP多機能電話機メニュー (Ver. 5. 0. 0未満) の設定項目

メニュー画面で、次のいずれかを選択してください。

- 1. 端末設定 : 電話機の調整や動作の設定が行えます。
- 2. ツール : XML ブラウザを起動することができます。『《 2. ツールの表示内容 》』(⇒P.1-14) を参照してください。
- 0. メンテナンス : 工事者専用のメニューです。設定を変更しないでください。

《 1. 端末設定の表示内容》

メニュー画面で、次のいずれかを選択してください。

- 1. ユーザ設定 : 下記『1. ユーザ設定の表示内容』を参照してください。
- 2. ダウンロード : 下記『2. ダウンロードの表示内容』を参照してください。
- 3. バックアップ/リストア : 下記『3. バックアップ/リストアの表示内容』を参照してください。

1. ユーザ設定の表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. 着信設定	1. 着信音量	—	※この機能は利用できません。	
	2. 話中着信音	1. 無効 【2. 有効】	話中時にかかってきた電話の着信音を鳴らすかどうかを設定します。	
	3. ヘッドセット鳴動	【1. 無効】 2. 有効	着信時にヘッドセットからも着信音を鳴らすかどうかを設定します。	
	4. 着信音	1. 外線	【0. 自動】 1. 着信音1 2. 着信音2 3. 着信音3 4. 着信音4 5. 着信音5 6. 着信音6 7. 着信音7 8. 着信音8 9. 着信音9 10. 着信音10 11. 着信音11 12. 着信音12 13. 着信音13 14. 着信音14 15. ダウンロード1 16. ダウンロード2 17. ダウンロード3	※この機能は利用できません。
		2. 内線	【0. 自動】 1. 着信音1 2. 着信音2 3. 着信音3 4. 着信音4 5. 着信音5 6. 着信音6 7. 着信音7 8. 着信音8 9. 着信音9 10. 着信音10 11. 着信音11 12. 着信音12 13. 着信音13 14. 着信音14 15. ダウンロード1 16. ダウンロード2 17. ダウンロード3	※この機能は利用できません。
		3. IM	—	※この機能は利用できません。

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. 着信設定 (続き)	5. イルミネーション	1. 外線	【0. 自動】 1. 無効 2. 赤 3. 緑 4. 青 5. 黄 6. 紫 7. 水色 8. 白 9. ローテーション	※この機能は利用できません。
		2. 内線	【0. 自動】 1. 無効 2. 赤 3. 緑 4. 青 5. 黄 6. 紫 7. 水色 8. 白 9. ローテーション	大型ランプの表示色を設定します。 ※0. 自動に設定した場合、工事段階の設定により、内線、外線、仮想内線ごとの表示色を選択できます。 自動以外に設定した場合は、動作状態による色分け機能は使用できません。
	6. ヘッドセット着信音量	—	※この機能は利用できません。	
2. 通話設定	1. RTP警告音		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効	RTP警告音を鳴らすかどうかを設定します。
	2. PB音再生		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効	トーン信号を送出するかどうかを設定します。
	3. キータッチトーン		【0. 自動】 1. 無効 2. トーン 3. 音声	ダイヤルボタンを押したときに鳴らす音を設定します。
	4. 保留音		【1. 初期設定】 2. ダウンロード	電話機内蔵の保留音またはダウンロードした保留音のいずれかを選択して設定します。
	5. プレフィックス	1. プレフィックス1	—	※この機能は利用できません。
2. プレフィックス2		—		
3. プレフィックス3		—		
3. 画面設定	1. 12/24時間制		—	※言語設定が自動の時は設定できません。時計表示の時間制を設定します。
	2. 音量表示		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効	音量調節、コントラスト調節の際、表示器にボリューム表示を行うかどうかを設定します。
	3. スクリーンセーバー	1. スクリーンセーバーモード	【1. 無効】 2. 有効	スクリーンセーバーを使用するかどうかを設定します。
		2. 待ち時間	【120】	スクリーンセーバーの起動までの時間(1~999分)を設定します。
	4. バックライト		1. 無効 【2. 有効】	電話機の操作時や着信時に、表示器およびダイヤルボタンのバックライトを点灯させるかどうかを設定します。
5. フォントサイズ		【1. 標準 (16dot)】 2. 小 (12dot)	メニュー表示時のフォントサイズを設定します。	

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
3. 画面設定 (続き)	6. 言語	【0. 自動】 1. 日本語 2. NEC英語 3. NECポルトガル語 4. NECスペイン語 5. NECフランス語 6. ドイツ語 7. イタリア語 8. オランダ語 9. ノルウェー語 10. デンマーク語 11. スウェーデン語 12. ギリシア語 13. 英語 14. ポルトガル語 15. スペイン語 16. フランス語 17. ロシア語 18. トルコ語 19. ルーマニア語 20. ポーランド語 21. カタロニア語	表示器に表示される文字の言語を設定します。 (注) 必ず「0: 自動」を設定してください。「0: 自動」以外に設定した場合、操作状況によって異なった言語表示になります。
4. パスワード変更	—	—	セキュリティを解除、設定するときに入力するパスワードを変更します。
5. セキュリティ設定	—	—	※この機能は利用できません。
6. 外部機器設定	—	—	※この機能は利用できません。
0. 個人設定リセット	—	—	ユーザ設定をリセットします。

2. ダウンロードの表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. ダウンロードファイル	1. 保留音	MOH. wav	FTP/TFTPサーバに保存されている保留音および着信音ファイル名を入力して、電話機にダウンロードします。 <利用できるファイル> ・ 8kHz WAVファイル : 最大32秒 ・ 16kHz WAVファイル : 最大16秒	
	2. 着信音	1. ダウンロード1	Melody1. wav	※この機能は利用できません。
		2. ダウンロード2	Melody2. wav	
		3. ダウンロード3	Melody3. wav	
3. 電話帳	Directory. csv	※この機能は利用できません。		
2. ダウンロードアドレス	—	0. 0. 0. 0	ダウンロード用の保留音および着信音ファイルを保存しておく、FTP/TFTPサーバのIPアドレスを入力します。	
3. プロトコル	—	【1. FTP】 2. TFTP	ダウンロードを行うプロトコルの種類を設定します。	
4. FTP設定	1. ユーザID	—	FTPサーバにアクセスするユーザIDおよびパスワードを設定します。	
	2. パスワード	—		
	3. フォルダ	—	FTPサーバのフォルダを設定します。	

3. バックアップ/リストアの表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
1. テータバックアップ	—	PersonalData. tgz	FTP/TFTPサーバに電話機の設定データをバックアップします。
2. テータリストア	—	PersonalData. tgz	電話機の設定内容を、バックアップした時点の状態に戻す場合に、FTP/TFTPサーバからデータをリストア（復元）します。
3. サーバアドレス	—	0. 0. 0. 0	電話機の設定データをバックアップする際に利用する、FTP/TFTPサーバのIPアドレスを入力します。
4. プロトコル	—	【1. FTP】 2. TFTP	バックアップ/リストアを行うプロトコルの種類を設定します。
5. FTP設定	1. ユーザID	—	FTPサーバにアクセスするユーザIDおよびパスワードを設定します。
	2. パスワード	—	
	3. フォルダ	—	FTPサーバのフォルダを設定します。

《 2. ツールの表示内容 》

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
1. サービス	—	—	※この機能は利用できません。
2. IM	—	—	※この機能は利用できません。

《 3. メンテナンスの表示内容 》

工事者専用のメニューです。設定を変更しないでください。

メニューを操作する (IP多機能電話機 Ver.5.0.0.0以降の場合)

IP多機能電話機 Ver.5.0.0.0以降のメニュー操作は、次の通りです。

1 ボタンを押す

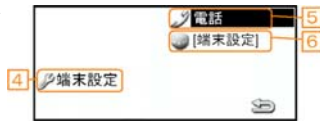
電話機のメニュー画面が表示されます。




2 メニュー項目を選択する

次のいずれかの方法で、選択します。

- 十字キーの上下左右で反転表示を移動し、確定ボタン（十字キーの真中）を押す。
- 項目に対応する番号を押す。



※1手順前の画面に戻るときは、を押します。操作を中断して待ち受け画面に戻るときは、Exitボタンを押すか、または反転表示を「電話」に移動し、確定ボタン（十字キーの真中）を押します。



注意

- XMLサーバが接続されている場合の操作は、ご使用のXMLサーバのお買い上げ販売店にお問い合わせください。
- IP多機能電話機のメニューボタンを押した時に、上記と異なる画面が表示された場合は、Ver.5.0.0.0未満です。『メニューを操作する』(⇒P.1-10)を参照してください。

▼メニュー設定時のボタン操作

メニュー画面と「端末設定」画面では、ボタン操作の内容が異なります。それぞれの画面でのボタン操作内容は次の通りです。

メニュー画面

ボタン	内容	
十字キー	上	• 反転表示を上下左右に移動
	下	
	左	
	右	
確定ボタン	• 反転表示の項目を確定して、次の画面を表示	
ダイヤルボタン	• 押した番号の項目を確定して、次の画面を表示	
Exitボタン 	• メニューを終了して待ち受け画面に戻る	
	• 1手順前の操作画面に戻る	

“端末設定”画面

ボタン	内容	
十字キー	上	• 反転表示を上に移動
	下	• 反転表示を下に移動
	左	• 1つ前の画面に戻る
	右	• 反転表示の項目を確定して、次の画面を表示
確定ボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 反転表示の項目を確定して、次の画面を表示 • 設定内容を保存して1つ前の画面に戻る 	
ダイヤルボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 押した番号の項目を確定して、次の画面を表示 • 押した番号の設定内容を保存して、1つ前の画面に戻る • 数字を入力 	
クリアボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 一つ前の画面に戻る • 数字を一文字削除 ※“端末設定”画面から“メニュー”に戻る場合は、メニューボタンを押します。	
Exitボタン	• メニューを終了して待ち受け画面に戻る	
メニューボタン	• メニューを表示します。操作途中の内容は“[端末設定]”部に保持されています。	

▼ IP多機能電話機メニュー (Ver. 5. 0. 0以降) の設定項目

メニュー画面で、次のいずれかを選択してください。

- 4. 端末設定 : 電話機の調整や動作の設定が行えます。
- 5. 電話 : 電話の画面に戻ります。
- 6. (XML アプリエリア1) : [端末設定] またはショートカットメニューが表示されます。
操作途中の端末設定またはショートカットメニューに戻ります。
(操作途中のメニューが無い場合、表示されません。)

1～3および7以降については、選択できません。XMLサーバが接続されていると表示される場合があります。

《 4. 端末設定の表示内容》

メニュー画面で、次のいずれかを選択してください。

- 1. ユーザ設定 : 下記『1. ユーザ設定の表示内容』を参照してください。
- 2. ダウンロード : 下記『2. ダウンロードの表示内容』を参照してください。
- 3. バックアップ/リストア : 下記『3. バックアップ/リストアの表示内容』を参照してください。

1. ユーザ設定の表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. 着信設定	1. 着信音量	—	※この機能は利用できません。	
	2. 話中着信音	1. 無効 【2. 有効】	話中時にかかってきた電話の着信音を鳴らすかどうかを設定します。	
	3. ヘッドセット鳴動	【1. 無効】 2. 有効	着信時にヘッドセットからも着信音を鳴らすかどうかを設定します。	
	4. 着信音	1. 外線	【0. 自動】 1. 着信音1 2. 着信音2 3. 着信音3 4. 着信音4 5. 着信音5 6. 着信音6 7. 着信音7 8. 着信音8 9. 着信音9 10. 着信音10 11. 着信音11 12. 着信音12 13. 着信音13 14. 着信音14 15. ダウンロード1 16. ダウンロード2 17. ダウンロード3	※この機能は利用できません。
		2. 内線	【0. 自動】 1. 着信音1 2. 着信音2 3. 着信音3 4. 着信音4 5. 着信音5 6. 着信音6 7. 着信音7 8. 着信音8 9. 着信音9 10. 着信音10 11. 着信音11 12. 着信音12 13. 着信音13 14. 着信音14 15. ダウンロード1 16. ダウンロード2 17. ダウンロード3	※この機能は利用できません。 (注) 必ず「0: 自動」を設定してください。 「0: 自動」以外に設定した場合、内線/外線の鳴り分け等ができなくなります。
	3. IM	—	※この機能は利用できません。	

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. 着信設定 (続き)	5. イルミネーション	1. 外線	【0. 自動】 1. 無効 2. 赤 3. 緑 4. 青 5. 黄 6. 紫 7. 水色 8. 白 9. ローテーション ※この機能は利用できません。	
		2. 内線	【0. 自動】 1. 無効 2. 赤 3. 緑 4. 青 5. 黄 6. 紫 7. 水色 8. 白 9. ローテーション 大型ランプの表示色を設定します。 ※0. 自動に設定した場合、工事段階の設定により、内線、外線、仮想内線ごとの表示色を選択できます。 自動以外に設定した場合は、動作状態による色分け機能は使用できません。	
		3. IM	- ※この機能は利用できません。	
	6. ヘッドセット着信音量	-	※この機能は利用できません。	
2. 通話設定	1. RTP警告音		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効 RTP警告音を鳴らすかどうかを設定します。	
	2. PB音再生		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効 トーン信号を送出するかどうかを設定します。	
	3. キータッチトーン		【0. 自動】 1. 無効 2. トーン 3. 音声 ダイヤルボタンを押したときに鳴らす音を設定します。	
	4. 保留音		【1. 初期設定】 2. ダウンロード 電話機内蔵の保留音またはダウンロードした保留音のいずれかを選択して設定します。	
	5. プレフィックス	1. プレフィックス1	-	※この機能は利用できません。
		2. プレフィックス2	-	
3. プレフィックス3		-		
3. 画面設定	1. 12/24時間制		【0. 自動】 1. 12時間制 2. 24時間制 時計表示の時間制を設定します。	
	2. 音量表示		【0. 自動】 1. 無効 2. 有効 音量調節、コントラスト調節の際、表示器にボリューム表示を行うかどうかを設定します。	
	3. スクリーンセーバー	1. スクリーンセーバーモード	【1. 無効】 2. 有効 スクリーンセーバーを使用するかどうかを設定します。	
		2. 待ち時間	【120】 スクリーンセーバーの起動までの時間(1~999分)を設定します。	
	4. バックライト		1. 無効 【2. 有効】 電話機の操作時や着信時に、表示器およびダイヤルボタンのバックライトを点灯させるかどうかを設定します。	
5. フォントサイズ		【1. 標準 (16dot)】 2. 小 (12dot) メニュー表示時のフォントサイズを設定します。		

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
3. 画面設定 (続き)	6. 言語	【0. 自動】 1. 日本語 2. NEC英語 3. NECポルトガル語 4. NECスペイン語 5. NECフランス語 6. ドイツ語 7. イタリア語 8. オランダ語 9. ノルウェー語 10. デンマーク語 11. スウェーデン語 12. ギリシア語 13. 英語 14. ポルトガル語 15. スペイン語 16. フランス語 17. ロシア語 18. トルコ語 19. ルーマニア語 20. ポーランド語 21. カタロニア語	表示器に表示される文字の言語を設定します。 (注) 必ず「0: 自動」を設定してください。「0: 自動」以外に設定した場合、操作状況によって異なった言語表示になります。
4. パスワード変更	—	—	セキュリティを解除、設定するときに入力するパスワードを変更します。
5. セキュリティ設定	—	—	※この機能は利用できません。
6. 外部機器設定	—	—	※この機能は利用できません。
7. 操作性	1. ヘルプキーモード	【1. サブメニュー】 2. ポップアップウィンドウ	「2. ポップアップウィンドウ」を選択した場合は、端末設定またはショートカットメニュー操作中にヘルプボタン押下でポップアップウィンドウを開き、電話操作ができます。ポップアップウィンドウは、通話終了または、オフフック→オンフックで自動的に閉じ、操作中のメニュー画面に戻ります。
0. 個人設定リセット	—	—	ユーザ設定をリセットします。

2. ダウンロードの表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容	
1. ダウンロードファイル	1. 保留音	MOH. wav	FTP/TFTPサーバに保存されている保留音および着信音ファイル名を入力して、電話機にダウンロードします。 <利用できるファイル> ・ 8kHz WAVファイル : 最大32秒 ・ 16kHz WAVファイル : 最大16秒	
	2. 着信音	1. ダウンロード1	Melody1. wav	※この機能は利用できません。
		2. ダウンロード2	Melody2. wav	
		3. ダウンロード3	Melody3. wav	
3. 電話帳	Directory. csv	※この機能は利用できません。		

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
2. ダウンロードアドレス	—	0.0.0.0	ダウンロード用の保留音および着信音ファイルを保存しておく、FTP/TFTPサーバのIPアドレスを入力します。
3. プロトコル	—	【1. FTP】 2. TFTP	ダウンロードを行うプロトコルの種類を設定します。
4. FTP設定	1. ユーザID	—	FTPサーバにアクセスするユーザIDおよびパスワードを設定します。
	2. パスワード	—	
	3. フォルダ	—	FTPサーバのフォルダを設定します。

3. バックアップ/リストアの表示内容

メニュー項目		設定値 (【 】: 初期値)	設定内容
1. データバックアップ	—	PersonalData.tgz	FTP/TFTPサーバに電話機の設定データをバックアップします。
2. データリストア	—	PersonalData.tgz	電話機の設定内容を、バックアップした時点の状態に戻す場合に、FTP/TFTPサーバからデータをリストア（復元）します。
3. サーバアドレス	—	0.0.0.0	電話機の設定データをバックアップする際に利用する、FTP/TFTPサーバのIPアドレスを入力します。
4. プロトコル	—	【1. FTP】 2. TFTP	バックアップ/リストアを行うプロトコルの種類を設定します。
5. FTP設定	1. ユーザID	—	FTPサーバにアクセスするユーザIDおよびパスワードを設定します。
	2. パスワード	—	
	3. フォルダ	—	FTPサーバのフォルダを設定します。

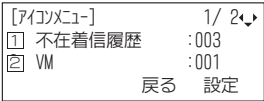
アイコンメニューについて

電話機の確定ボタンを押すと、アイコンメニューが表示されます。(IP多機能電話機の場合は、ショートカットメニュー)各メニューに対応する番号を選択して不在着信履歴を表示したり、ボイスメールにアクセスしたりすることができます。表示器に不在着信履歴、ボイスメール、Bluetooth®の各アイコンが表示されているときに利用すると便利です。

アイコンメニューを操作する

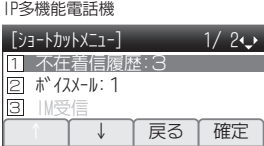
- 1 (確定) ボタンを押す**

デジタル多機能電話機



アイコンメニュー画面が表示されます。

IP多機能電話機


- 2 メニュー項目を選択する**

次のいずれかの方法で、選択します。

 - 項目に対応する番号を押す
 - 十字キーの上下で反転表示を移動し、確定ボタンを押す
 - “↑”“↓”のソフトキーで反転表示を移動し、“確定”のソフトキーを押す

※1つ前の画面に戻るときは、クリアボタンまたは“戻る”のソフトキーを押します。
操作を中断して待ち受け画面に戻るときは、Exitボタンを押します。
- 3 各種操作をする**

アイコンメニューの構成内容

アイコンメニューのメニュー構成は、次のとおりです。

DT：デジタル多機能電話機、IP：IP多機能電話機

メニュー項目		内 容
DT	IP	
1. 不在着信履歴	1. 不在着信履歴	不在着信履歴を表示します。不応答の不在着信履歴を確認していないときは、右側に「(不在)x」(xは件数)と表示されます。詳しくは『着信履歴を表示する』(⇒P. 1-63)を参照してください。
2. ボイスメール	2. ボイスメール	ボイスメールのメールボックスにアクセスします。聞き取っていないメッセージが保存されているときは、右側のメールボックスに保存されている全メッセージの件数が表示されます。詳しくは、別冊の『ボイスメール 取扱説明書』を参照してください。
—	3. IM受信	この機能は利用できません。
—	4. プレゼンス	
3. Bluetooth	—	コールコードレス電話機またはオプションのBCH-LD UNIT/BHA-LD UNITを利用している場合に、Bluetooth®機器との接続状態を表示します。詳しくは、各製品に添付のマニュアルを参照してください。

デジタル多機能電話機

項目	DTL-8LD-1D
ファンクションボタン	32個 (8個 (2色LED) × 4面) 情報をデジレス表示器上に表示
固定機能ボタン	10 (フック、特殊、転送、スピーカ、クリア、メニュー、確定、保留、応答、発信)
十字キー	1 (上下キー：ボリューム、左キー：再/短、右キー：電話帳検索)
ソフトキー	4
HELP、EXIT	2
セキュリティーボタン	なし
大型ランプ	あり
LCD表示器	全角：14桁×4行 半角：28桁×4行
バックライト機能	あり (デジレス表示器含む)
ハンドセット用クレードル	通常クレードル
筐体色	白
ハンズフリー機能	あり (半二重)
オプション同時装着数	サイドユニット：1 (8LKまたは16LK) ボトムユニット：1
ヘッドセット接続	可

十字キーのメニューについて

電話機の十字キーの左（再/短）を押すと、表示器に発信履歴を表示することができます。

また、十字キーの右（電話帳）を押すと、表示器に読み（個別電話帳1/2）、共通短縮、グループ短縮、内線の検索画面を表示することができます。

十字キーの左（再/短）メニューを操作する

1 （再/短）ボタンを押す

発信履歴が表示されます。

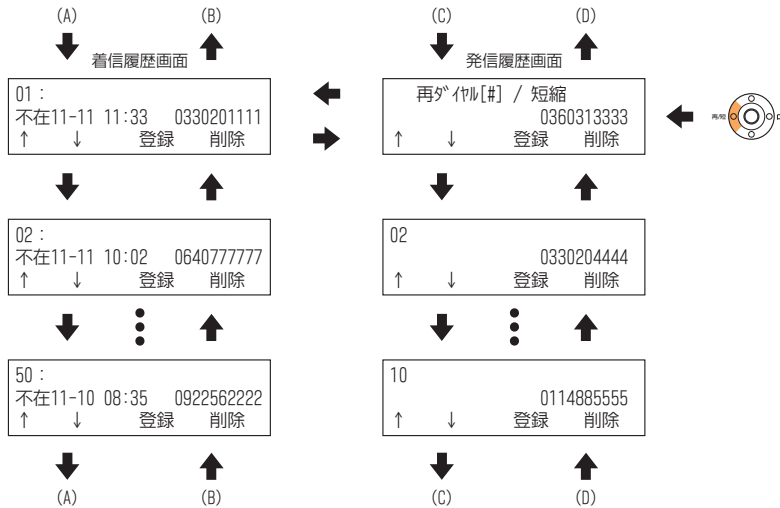
発信履歴画面

再ダイヤル[#] / 短縮			
0360313333			
↑	↓	登録	削除

2 かけたい相手を選択する

- 十字キーの左右を押して、発信履歴と着信履歴を切り替えます。
- 十字キーの上下または“↑”“↓”のソフトキーを押して、発信履歴の順を切り替えます。
- 発信履歴は最大10件、着信履歴は最大50件記憶できます。

※ ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。




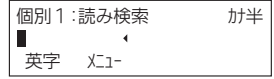
3 かけ直したい電話番号が表示されたら受話器を上げる

操作のしかたは、各ページを参照してください。

- <再ダイヤル>⇒P.1-28へ
- 着信履歴を利用する⇒P.1-63へ

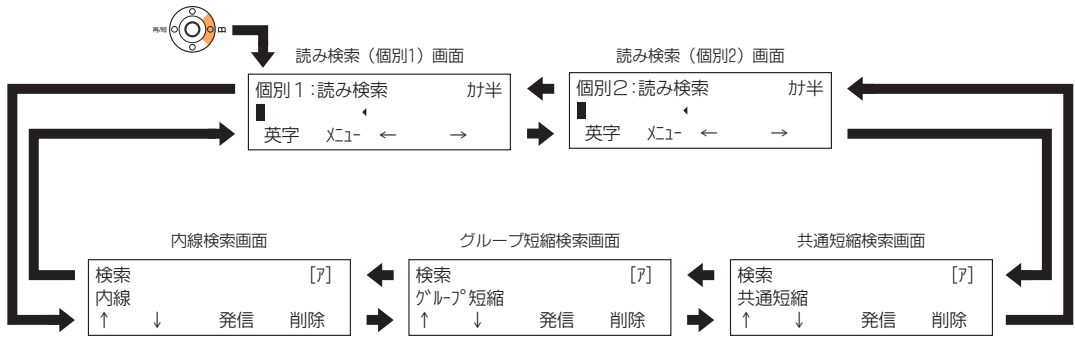
十字キーの右（電話帳）メニューを操作する

1  (電話帳) を押す
電話帳検索画面が表示されます。



2 検索したい条件を表示する

- 十字キーの左右を押して、読み（個別1/2）、共通短縮、グループ短縮、内線の検索条件を切り替えます。
 - 十字キーの上下または“↑”“↓”のソフトキーを押して、検索候補を移動します。
- ※ ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。
 ※ 検索画面は設定によっては、表示されないことがあります。
 ※ 読み検索（個別2）、グループ短縮検索の使用には、工事の段階での設定が必要です。詳しくは、販売店にお問い合わせください。



3 電話をかける相手を検索する

操作のしかたは、各ページを参照してください。

- 読みカナ検索⇒P. 1-72へ
- 共通短縮検索⇒P. 1-30へ
- グループ短縮検索⇒P. 1-30へ
- 内線検索⇒P. 1-33へ

電話機の調整のしかた

多機能電話機では、次のような調整や設定ができます。

- ◆ 音や表示器を調整する
＜ボリュームコントロール＞（⇒P. 1-24）
- ◆ 着信音の音色を設定する
＜着信音色切替＞（⇒P. 1-25）
- ◆ ダイヤルボタンを押したときの音を設定する
＜キータッチトーン/ダイヤル読み上げ＞（⇒P. 1-25）
- ◆ 内線からの着信方法を設定する
＜内線呼出の音声/信号の呼出指定＞（⇒P. 1-25）
- ◆ 電話機に使用者の名前を登録する
＜内線名称入力＞（⇒P. 1-25）
- ◆ 表示器内の文字を縦倍角表示にする
（⇒P. 1-26）
- ◆ 表示器を白黒反転表示にする
（⇒P. 1-26）
- ◆ 電話機の角度を調整する
（⇒P. 1-26）

メニューボタンを使用する調整や設定については、『メニューボタンのメニューについて』（⇒P. 1-10）を参照してください。

音や表示器を調整する

＜ボリュームコントロール＞

次の調整を行うには、十字キーの上下（ボリューム）を使います。

- ・ 受話音量：受話器から聞こえる声
- ・ スピーカ音量：スピーカから聞こえる声
- ・ 着信音量：電話機のベルの音
- ・ 話中着信音量：通話中に着信したときのベルの音
- ・ 濃淡：表示器のコントラスト

▼ 受話音量を変える

受話器で通話中に、十字キーの上下（ボリューム）を押してください。内線通話中の受話音量と、外線通話中の受話音量のそれぞれを変更することができます。



▼ スピーカ音量を変える

スピーカから音が出ているときに、十字キーの上下（ボリューム）を押してください。内線通話中のスピーカ音量と、外線通話中のスピーカ音量のそれぞれを変更することができます。



▼ 着信音量を変える

着信音が鳴っている間に、十字キーの上下（ボリューム）を押してください。



また、着信音が鳴っていない場合は、次の手順で調整します。

《 特番を使うとき 》

電話機を使っていないときに、次の操作を行います。

- 1 を押す
- 2 ⑨③⑦を押す
937は、着信音量設定の特番（初期値）です。
- 3 スピーカから着信音が鳴る
- 4 （ボリューム）を押して調整する
- 5 を押す

▼ 話中時の着信音量を変える

電話機を使っていないときに、次の操作を行います。

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨③⑦を押す
937は、話中着信音量設定の特番（初期値）です。
- 3 スピーカから話中着信音が鳴る
- 4 （ボリューム）を押して調整する
- 5 受話器を戻す

▼ 表示器のコントラストを変える

表示器の明るさ（コントラスト）を調整したいときは、待ち受け画面で十字キーの上下（ボリューム）を押してください。





着信音の音色を設定する

<着信音色切替>

内線や外線から着信したときに鳴る着信音の音色を、8種類の中から選ぶことができます。着信音を設定する前に、どのような音かを確認してから、設定してください。

▼ 設定のしかた



- 1  を押す
 - 2 ⑨②①を押す
920は、着信音色切替の特番（初期値）です。
着信音 設定
1:内線 2:外線
 - 3 内線または外線の番号を押す
着信音 設定 内線
着信音1-8:?
1:内線
2:外線
例:1(内線)を押した場合
 - 4 着信音色の番号(1~8)を押す
着信音 設定 内線
着信音 1 セット
例:1を押した場合
 - 5 押した番号の着信音が鳴る
別の番号を押すと、その番号の着信音が鳴り、確認することができます。
 - 6 着信音が決まったら、 を押す
- これで、着信音の音色が設定できました。

ダイヤルボタンを押したときの音を設定する

<キータッチトーン/ダイヤル読み上げ>

多機能電話機のダイヤルボタンを押すたびに“ピッ”という音を出すことができます。ボタンを押したことを音で確認できます。

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
 - 2 ⑨①⑨を押す
919は、キータッチトーンの特番（初期値）です。
 - 3  を押す
- これで、キータッチトーンが設定できました。

▼ 解除のしかた



設定のしかたと同じ操作をもう一度行くと、解除することができます。

内線からの着信方法を設定する

<内線呼出の音声/信号の呼出指定>

内線から電話がかかってきたときに、着信音を鳴らすか、声での呼び出しにするかを設定します。着信側の電話機であらかじめ設定しておくだけで利用できます。

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
 - 2 内線の着信方法の番号を押す
・信号着信を設定するとき: 916 (初期値)
・音声着信を設定するとき: 915 (初期値)
 - 3  を押す
- これで、内線の着信方法が設定できました。

電話機に使用者の名前を登録する

<内線名称入力>

名前を登録しておく、内線に電話をかけたとき、自分の名前を相手の電話機に表示します。また、電話機を使用していないときや、内線を呼出中、内線を使用中に使用者の名前を表示します。




- ・お買い上げの状態: 内線番号を表示しています。

着信 <<< 100

- ・名前を登録した状態

着信 <<< 総務 田中

▼ 登録のしかた

- 1  を押す
 - 2 ⑨②②を押す
922は、内線名称入力の特番（初期値）です。
 - 3 名前を登録したい内線番号を押す
 - 4 名前を入力する
入力のしかたは『文字を入力する』(⇒P.1-77)を参照してください。
 - 5  を押す
 - 6  を押す
- これで、使用者の名前が登録できました。

表示器内の文字を縦倍角表示にする

< LCD縦倍角表示設定 > **工事**

表示器のカレンダー・時計表示行および内線番号（内線名称）表示行の文字を、縦倍角で表示させることができます。

注意

- LCD縦倍角表示設定機能を利用するには、工事段階で特番を設定する必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 縦倍角表示にすると、アイコンメニューのアイコンが表示されなくなります。

▼ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 LCD縦倍角表示設定の特番を押す

縦倍角表示設定(0-2)

3 表示方法を指定する番号を押す

- 通常表示 : 0
- カレンダー・時計表示行を縦倍角表示 : 1
- 内線番号（内線名称）表示行を縦倍角表示 : 2

4 受話器を戻す

これで、縦倍角表示が設定できました。

表示器を白黒反転表示にする

< LCD白黒反転表示設定 > **工事**

表示器の背景と文字を、白黒反転して表示させることができます。

注意

- LCD白黒反転表示設定機能を利用するには、工事段階で特番を設定する必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 設定のしかた

1 受話器を上げる



2 LCD白黒反転表示設定の特番を押す



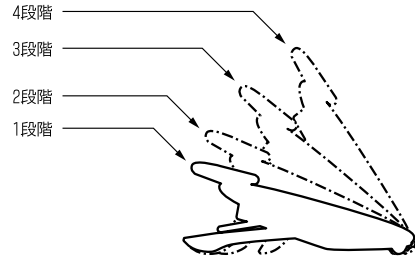
3 受話器を戻す

これで、白黒反転表示が設定できました。

上記の操作をくり返すと、白黒反転表示と通常表示が交互に切り替わります。

電話機の角度を調整する

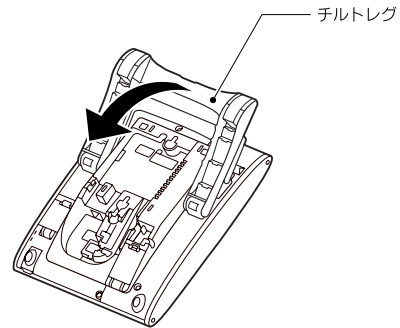
電話機裏面にあるチルトレグ（あし）を使って、電話機の角度を4段階で変えることができます。使いやすい角度に調整してください。



▼ チルトレグを上げる

1 電話機を裏返す

2 チルトレグを“カチッ”と音がするまで手前に倒す

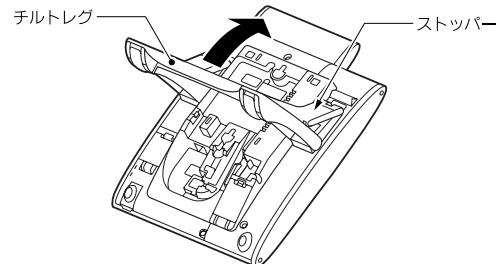


3 電話機を表に戻す

▼ チルトレグを下げる

1 電話機を裏返す

2 ストッパーを上を持ち上げながら、チルトレグを“カチッ”と音がするまで奥側に倒す



3 電話機を表に戻す

外線に電話をかける

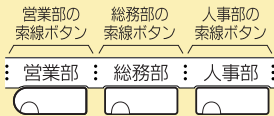
外線への電話のかけかたには、次の方法があります。

- ◆ 発信ボタンを使ってかける
＜空外線自動選択＞（⇒P.1-27）
- ◆ 外線ボタンを使ってかける
＜ワンタッチオンフックダイヤル（ダイレクトライン方式の場合）＞（⇒P.1-27）
- ◆ 電話番号を確認してからかける
＜プリセットダイヤル＞（⇒P.1-27）
- ◆ 索線ボタンを使ってかける
＜索線形外線発信＞（⇒P.1-28）
- ◆ 特番を使ってかける
 - ・ 外線グループ内の空き外線を使ってかける
＜外線グループ捕捉＞（⇒P.1-28）
 - ・ 指定した外線を使ってかける
＜指定外線捕捉＞（⇒P.1-28）
- ◆ 一度かけた相手にかけ直す
＜再ダイヤル＞（⇒P.1-28）
- ◆ 相手が出るまで自動でかけ直す
＜リピートダイヤル＞（⇒P.1-29）
- ◆ 短縮番号を使ってかける
＜短縮ダイヤル発信＞（⇒P.1-30）



索線ボタンとは

部署ごとなどで割り当てられたいくつかの外線を、グループとして1つのボタンに割り付けます。このボタンを索線ボタンといいます。



外線グループとは


いくつかの外線を、部署ことなどのグループに分けたものです。電話をかけるときに外線グループを指定すると、そのグループ内の空外線を自動的に選んで発信できます。

発信ボタンを使ってかける

＜空外線自動選択＞

発信ボタンを押すと、そのとき空いている外線を使って電話をかけることができます。

▼ かけかた

- 1  を押す
外線ボタンが緑点灯します。
- 2 電話番号を押す
LINE 001 01234567
- 3 受話器を上げる
- 4 相手が出たら、通話する



受話器を上げるタイミング

上記手順のどこで受話器を上げて、かけることができます。


受話器を上げるだけで空いている外線を選びたい
受話器を上げるだけで、空いている外線を選ぶようにすることもできます（外線自動選択）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線ボタンを使ってかける

＜ワンタッチオンフックダイヤル（ダイレクトライン方式の場合）＞

ランプが消えている外線ボタンを押すと、その外線を使って電話をかけることができます。

▼ かけかた

- 1  (外線ボタン) を押す
押した外線ボタンが緑点灯します。
- 2 電話番号を押す
LINE 001 01234567
- 3 受話器を上げる
- 4 相手が出たら、通話する



受話器を上げるタイミング


上記手順のどこで受話器を上げて、かけることができます。

電話番号を確認してからかける

＜プリセットダイヤル＞

ダイヤルした相手の電話番号に、間違いがないかを確認してから発信することができます。

▼ かけかた

- 1 電話番号を押す
プリセットダイヤル
ダイヤル 01234567
- 2  (外線ボタン) を押す
外線ボタンが緑点灯します。
- 3 受話器を上げる
LINE 001 01234567
- 4 相手が出たら、通話する




受話器を上げるだけで空いている外線を選びたい
受話器を上げるだけで、空いている外線を選ぶようにすることもできます（外線自動選択）。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

索線ボタンを使ってかける

<索線形外線発信> **工事**

索線ボタンを押すと、あらかじめ指定してある外線グループの中から、空いている外線を使って電話をかけることができます。

▼ かけかた

- 1  (索線ボタン) を押す
LINE 001
索線ボタンまたは外線ボタンが緑点灯します。
- 2 電話番号を押す
LINE 001 01234567
- 3 受話器を上げる
- 4 相手が出たら、通話する



受話器を上げるタイミング

上記手順のどこで受話器を上げて、かけることができます。

特番を使ってかける

電話機に、外線ボタンや索線ボタンを割り付けていない場合は、特番を使って外線に電話をかけることができます。

指定できる外線は、次のとおりです。

- 外線グループ内の空いている外線
<外線グループ捕捉>
- 指定した外線
<指定外線捕捉>

▼ 外線グループ内の空き外線を使ってかける

<外線グループ捕捉> **工事**

- 1 受話器を上げる
- 2 **⑧①④**を押す
グループ No.
814は、外線グループ捕捉の特番（初期値）です。
- 3 外線グループ番号を押す
LINE 001
外線グループ内の空き外線を選びます。
外線グループ番号は、販売店にご確認ください。
- 4 電話番号を押す
LINE 001 01234567
- 5 相手が出たら、通話する

▼ 指定した外線を使ってかける

<指定外線捕捉> **工事**

- 1 受話器を上げる
- 2 **⑧①⑤**を押す
外線 No.
815は、指定外線捕捉の特番（初期値）です。
- 3 外線番号を押す
LINE 001
- 4 電話番号を押す
LINE 001 01234567
- 5 相手が出たら、通話する



外線番号とは

システムに収容されている回線に、工事段階で割り振られた番号のことです。

外線番号が1桁のときは、頭に“00”を付けてください。
例：外線番号1の場合は“001”と押します。


一度かけた相手にかけ直す

<再ダイヤル>

電話をかけた相手にもう一度かけたいとき、簡単に電話をかけ直すことができます。

かけた電話番号の履歴を、最大10件まで記憶できます。10件を超えた場合は、古い番号から順に上書きされます。また、記憶できる電話番号は、最大24桁までです。

▼ 直前にかけた相手にかけ直す

- 1  (再/短) を押す
- 2 受話器を上げる
LINE 001 再ダイヤル 01234567
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 発信履歴から探してかけ直す

記憶されている10件の発信履歴から探してかけ直します。

《 十字キーを使うとき 》

1 (再/短) を押す

最後にかけた相手の電話番号が表示されます。

- 発信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左 (再/短) メニューを操作する』(⇒P.1-22) を参照してください。

再ダイヤル[#] / 短縮	0360313333
↑ ↓ 登録 削除	

2 (ポリューム) または “↑” “↓” のソフトキーを押すと、発信履歴に記憶されている番号が切り替わる

十字キーの下 (ポリューム) または “↓” のソフトキーを押すことに、発信履歴に記憶されている新しい番号から順に表示されます。

ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

3 かけ直したい電話番号が表示されたら受話器を上げる

4 相手が出たら通話する

《 ソフトキーを使うとき 》

1 “履歴” のソフトキーを押す

履歴	メニュー
発信	着信

2 “発信” のソフトキーを押す

最後にかけた相手の電話番号が表示されます。

再ダイヤル[#] / 短縮	01234567
---------------	----------

3 (ポリューム) または “↑” “↓” のソフトキーを押すと、発信履歴に記憶されている番号が切り替わる

十字キーの下 (ポリューム) または “↓” のソフトキーを押すことに、発信履歴に記憶されている新しい番号から順に表示されます。

ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

4 かけ直したい電話番号が表示されたら受話器を上げる

5 相手が出たら通話する

相手が出るまで自動でかけ直す

<リピータダイヤル>

外線に電話をかけて、相手が出ないときや通話中のとき、自動でくり返してかけ直すことができます。

▼ 設定のしかた

1 外線に発信中

2 相手が不在、または通話中

3 を押す

4 (再/短) を押す

LINE 001
リピートダイヤル

5 受話器を戻す

これで、リピートダイヤルが設定できました。

一定時間が経過すると、自動的に発信されます。相手が出ないまま一定時間が経過すると、自動で発信を切断します。

リピートダイヤルは、次のいずれかの方法で解除されるまで、発信をくり返します。

- 相手が応答したとき
- リピートダイヤルを解除したとき
- リピートダイヤルで設定されている再呼出の回数に達したとき

リピートダイヤルの回数

リピートダイヤルは、次のタイミングで自動的にかけ直します。

- 呼出間隔：60秒
- 呼出回数：3回
- 呼出時間：30秒

この回数は、工事段階で設定します。

▼ 解除のしかた

《 発信中のとき 》

相手を呼出中にリピートダイヤルを解除するときは、次の操作です。

1 リピートダイヤルで発信中

リピートダイヤル 01234567

2 受話器を上げて戻す

これで、リピートダイヤルが解除できました。

《 発信が中断しているとき 》

発信が中断している際にリピートダイヤルを解除するときは、次の操作です。

1 電話機が未使用の状態

2 を押す

3 (再/短) を押す

これで、リピートダイヤルが解除できました。

短縮番号を使ってかける

<短縮ダイヤル発信> 工事

電話をよくかける相手先の電話番号を、短縮番号に登録しておく、短い番号でかけられるようになります。短縮番号は、会社で共通して使用したい客先などの電話番号や、専用線などを使ってかける電話番号を登録するときに使います。

短縮番号の登録には、次の3通りの方法があります。

- **共通短縮ダイヤル**
システム内のどの電話機からでも使える共通短縮番号です。登録可能な件数は000～899の900件です。また、工事段階の設定で、グループ短縮ダイヤルと合わせて、最大2000件まで登録できます。
- **グループ短縮ダイヤル**
電話機が登録されているグループ内の短縮番号です。グループは、最大64グループまで分けられます。共通短縮ダイヤルと合わせて、最大2000件まで登録できます。グループ短縮ダイヤルを使用するには、工事段階の設定が必要です。
- **個別短縮ダイヤル**
電話機ごとに使える短縮番号です。電話機ごとに、900～919の最大20件まで登録できます。

短縮番号を使ってかけるには、次の2通りの方法があります。

- **再/短（十字キーの左）**でかける
短縮番号がわかっている場合のかけかたです。十字キーの左（再/短）を押してから、短縮番号を押してかけます。
- **検索機能を使ってかける**
短縮番号がわからない場合のかけかたです。十字キーの右（電話帳）またはソフトキーを押したあと、相手の名前を頭文字などで検索してからかけます。

注意 十字キーの左（再/短）を押したときに、共通短縮番号とグループ短縮番号のどちらを利用するかは、あらかじめ工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

短縮番号をそれほど多く使用しない場合は短縮ダイヤルの範囲を次のように設定して、桁数を減らすことができます。
 ・共通短縮ダイヤル：00～79
 ・個別短縮ダイヤル：80～99
 この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼十字キーの左（再/短）を使ってかける

- 1 **再/短（再/短）**を押す
- 2 **短縮番号**を押す
登録されている電話番号と名称が表示されます。
- 3 **受話器を上げる**
相手先番号へ発信されます。
- 4 **相手が出たら、通話する**

短縮番号で発信できない
ご使用の電話機では、短縮番号に設定されている相手の利用を規制されていることが考えられます。システム管理者に確認してください。

グループ短縮番号をボタン1つで指定したい
ファンクションボタンにグループ短縮ボタンを設定しておく、十字キーの左（再/短）のように使えます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒ P.5-18）を参照してください。

短縮番号を押した時点で発信されるようにしたい
左記手順2の操作で、自動的に空いている外線を選ぶようにすることができます。下記のとおり操作をします。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

発信する外線を指定する場合は
次の手順で操作してください。
受話器を上げる → 下記のいずれかの操作をする → 十字キーの左（再/短） → 短縮番号

- ・外線ボタンを押す
- ・外線ボタンを押す
- ・[814]（外線グループ捕捉の特番）を押す
- ・[815]（指定外線捕捉の特番） → 外線番号を押す

▼検索機能を使ってかける

《十字キーを使うとき》

1 **電話帳**を押す
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右（電話帳）メニューを操作する』（⇒ P.1-23）を参照してください。

個別1：読み検索 加半
 英字 2:1 ← →

2 **検索**を押す、**検索したい短縮を表示**する
例：“共通短縮”を選択した場合
ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

検索 共通短縮 [?] [7]
 ↑ ↓ 発信 削除

3 **検索したい文字を入力する**
ダイヤルボタンの右上にかかっている文字に応じて、検索したい文字のボタンを押します。カタカナと英数字とを切り替えるときは、フックボタンを押すと、表示が [ア] ⇔ [A] に切り替わります。文字の入力を間違えたときは、“削除”のソフトキーを押すと、1文字分を削除することができます。

カタカナ入力時の文字とダイヤルボタンの対応					
ア行	①	ナ行	⑤	ラ行	⑨
カ行	②	ハ行	⑥	ワ行	⑩
サ行	③	マ行	⑦		
タ行	④	ヤ行	⑧		

英数字入力時の文字とダイヤルボタンの対応					
-	①	JKL	⑤	WXYZ	⑨
ABC	②	MNO	⑥	-	⑩
DEF	③	PQRS	⑦		
GHI	④	TUV	⑧		

例：④を押した場合

検索	[7]
↑	↓ 発信 削除

4 “↓”のソフトキーを押す

001	田中
↑	0123456789 ↓ 発信

5 “発信”のソフトキーを押す

6 受話器を上げる

7 相手が出たら、通話する

《ソフトキーを使うとき》

1 “検索”のソフトキーを押す

検索	メニュー
短縮	内線 電話帳

2 “短縮”のソフトキーを押す

短縮	検索
共通	グループ
共通	グループ
短縮	短縮

3 検索したいソフトキーを押す

例：“共通”のソフトキーを押した場合

検索	[7]
共通短縮	

4 検索したい文字を入力する

『検索機能を使ってかける』の『《十字キーを使うとき》』(⇒P.1-30)を参照してください。

5 “↓”のソフトキーを押す

6 “発信”のソフトキーを押す

7 受話器を上げる

8 相手が出たら、通話する

▼短縮番号を登録する

《登録のしかた》



短縮番号として使える番号や登録できる件数などについて
工事段階で変更できます。詳しくは、販売店にご確認ください。

短縮ダイヤルには、番号のほか、ポーズやフッキング信号(下表参照)などを含め、最大24桁までの電話番号を登録することができます。また、相手の名前を、最大全角12文字(半角の場合24文字)で登録することができます。

登録内容	登録時に押すボタン	表示
0～9、*、#	0～9、*、#	0～9、*、#
ポーズ	転送	P
フッキング信号	フック	R
応答待ちコード	応答	@

注意

- 個別短縮への登録は、各電話機で行うことができますが、共通短縮への登録は、システム管理者に限られています。
- 応答待ちコードを含めて登録した場合、応答待ちコード以降に登録した番号が、相手の応答後に送出されます。
- PBX回線が収容されている場合には、電話番号の前に外線発信番号「0」を付けて登録する必要があります。詳しくは、販売店にご確認ください。
- 短縮ダイヤルを登録直後にシステムの電源を切る場合は、登録した短縮ダイヤルがシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは『《電源の切りかた》』(⇒P.xiii)を参照してください。

1 を押す

2 *④を押す

短縮 登録

*04は、共通・個別短縮登録の特番(初期値)です。グループ短縮を登録するときは、*05(初期値)を押します。

3 短縮番号を押す

例：010と押す

4 電話番号を押す

短縮 0010	0312345678
---------	------------

5 を押す

名前を入力しない場合は、手順7に進みます。

短縮 0010	漢全
カナ ← →	↓

6 相手の名前を入力する

相手の名前は、全角12文字(半角の場合24文字)まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、『文字を入力する』(⇒P.1-77)を参照してください。


短縮 0010	英半
鈴木一郎 PH	↓
数字 ← →	

- 7** **保留** を押す
- | | |
|---------------|----|
| 短縮 0010 | か半 |
| ☑️ キイロの PHS ◀ | |
| 英字 ← → | |
- 手順6で入力した名前の読みカナ（半角12文字まで）が表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。

- 8** **保留** を押す
- | |
|-------|
| 短縮 登録 |
|-------|

- 9** **スピーカ** を押す

これで、短縮番号の登録ができました。

 複数の短縮番号を登録したい
手順8のあと、手順3からくり返します。

別の電話番号に変更したい
同じ短縮番号に新しい電話番号を登録すると、古い電話番号は消去され、新しい電話番号におき替わります。

▼ 確認のしかた

- 1** **Help** を押す
- | |
|------|
| フエック |
|------|
- 2** **再短** を押す
- | | |
|------|----|
| フエック | 短縮 |
|------|----|
- 3** 短縮番号を押す
- | | |
|-------------------|----|
| フエック | 本社 |
| 短縮 010 0123456789 | |
- 4** **Exit** を押す

▼ 消去のしかた

- 1** **スピーカ** を押す
- 2** **＊04** を押す
*04は、共通・個別短縮ダイヤル設定の特番（初期値）です。
- 3** 短縮番号を押す
- 4** **Exit** を押す
- 5** **スピーカ** を押す

これで、短縮番号の登録内容を消去できました。

内線に電話をかける

内線への電話のかけかたには、次の方法があります。

- ◆ 内線呼び出す
＜内線相互接続＞（⇒P. 1-33）
- ◆ 内線を検索する（⇒P. 1-33）
- ◆ 相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す
＜内線予約／内線コールバック＞（⇒P. 1-33）
- ◆ 相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す
・別の内線番号を呼び出す
＜リセットコール＞（⇒P. 1-34）
- ・同じ内線グループ内の内線を呼び出す
＜ステップコール＞（⇒P. 1-34）
- ◆ 電話機の周囲にいる人に呼びかける
＜信号／音声呼出切替＞（⇒P. 1-34）
- ◆ ほかの部署にかける
・部署の代表番号にかける
＜内線代表呼出＞（⇒P. 1-34）
- ・相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す
＜内線代理着信＞（⇒P. 1-35）
- ◆ 受話器を上げるだけで特定の内線にかける
＜内線ホットライン＞（⇒P. 1-35）



内線グループとは

いくつかの電話機を、部署ごとなどのグループに分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線を呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線呼び出す

＜内線相互接続＞

内線に電話をかけることができます。

▼ かけかた



- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す

呼出	120
----	-----
- 3 相手が出たら、通話する

内線を検索する

登録された内線名称から内線に電話をかけることができます。

▼ 検索のしかた

- 1  (電話帳)
を押す
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右（電話帳）メニューを操作する』（⇒P. 1-23）を参照してください。
 - 2  (再／短)
を押す
ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。
- | | |
|-------------|----------|
| 個別 1 : 読み検索 | か半 |
| 英字 | XCUR ← → |
- | | |
|-----|-------|
| 検索 | [P] |
| 内線 | |
| ↑ ↓ | 発信 削除 |

3 検索したい文字を入力する

『検索機能を使ってかける』の『《十字キーを使うとき》』（⇒P. 1-30）を参照してください。
内線名称が登録されていないときは、十字キーの上下（ポリウム）または“↑”“↓”のソフトキーを押すと番号が切り替わります。

これで、内線名称の検索ができました。
電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す

＜内線予約／内線コールバック＞ **工事**

内線にかけた相手が通話中のとき、相手の通話が終わりしだい呼び出す、または知らせが入るようにすることができます。設定のしかたには、次の2通りの方法があります。

- ・内線予約
相手の電話が終わるまで、受話器を持ったまま待ち、電話が終わりしだい呼び出すようにする
- ・内線コールバック
いったん電話を切り、相手の電話が終わったら知らせが入るようにする

▼ 設定のしかた

- 1 内線呼出中
- 2 話中音が聞こえる

話中	120
----	-----
- 3 **⑧⑦④**を押す

内線予約	120
------	-----

804は、外線・内線予約の特番（初期値）です。
“ピッ”という確認音が聞えます。

これで、内線予約が設定できました。
そのままの状態ですと、相手の電話が終わりしだい、相手呼び出します。
電話をいったん切つて待つとき（内線コールバック）は、次の手順4に進みます。

- 4 受話器を戻す


内線予約	120
------	-----

これで、内線コールバックが設定できました。
相手の通話が終わると、呼返音が鳴ります。受話器を上げると相手呼び出します。


▼ 解除のしかた

受話器を上げたまま待っている（内線予約中）場合は、いったん受話器を戻します。

- 1 内線コールバックを設定中

内線予約	120
------	-----
- 2  を押す
- 3 **⑧⑦⑤**を押す

予約解除	
------	--

805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。
- 4  を押す

これで、内線コールバックが解除できました。



よく内線予約／内線コールバックを利用する方へ
電話機のファンクションボタンに予約ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す

内線にかけても相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに、ほかの人を呼び出し直すことができます。



リセットコールとステップコールは、内線呼出中のときだけ利用できます。相手が出たあとでかけ直すときは、電話をいったん切ってください。

▼ 別の内線番号を呼び出す

<リセットコール> **工事**

内線にかけて相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに別の内線番号を押して、かけ直すことができます。

- 1 内線を呼出中

呼出	120
----	-----
- 2 相手が出ない、または話中音が聞こえる
- 3 別の内線番号を押す

呼出	130
----	-----
- 4 相手が出たら、通話する

▼ 同じ内線グループ内の内線を呼び出す

<ステップコール> **工事**

内線にかけて相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに相手と同じ内線グループ内の内線にかけ直すことができます。

- 1 内線を呼出中

呼出	120
----	-----
- 2 ⑧⑦を押す

呼出	121
----	-----

807は、ステップコールの特番(初期値)です。
最初に呼び出していた相手と同じ内線グループの人を呼び出します。
- 3 相手が出たら、通話する



よくステップコールを利用する方へ
電話機のファンクションボタンにステップコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

電話機の周囲にいる人に呼びかける

<信号／音声呼出切替>

内線にかけて相手が出ないとき、電話機のスピーカから音声を出して、周囲の人に呼びかけることができます。音声に切り替えたあと、元の信号音での呼出に戻すこともできます。

▼ かけかた

- 1 内線を呼出中

呼出	120
----	-----
- 2 ①を押す
- 3 音声呼出に切り替わる
1を押すたびに、音声呼出と信号音呼出が切り替わります。



特番を使って切り替えることもできます
内線を呼出中に、信号／音声呼出切替の特番806(初期値)を押しても、切り替えることができます。
特番を使うには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ほかの部署にかける

社内の電話機を、部署単位などでグループ分けができます。その部署に対し、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 部署の代表番号にかける
<内線代表呼出>
- 相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す
<内線代理着信>

▼ 部署の代表番号にかける

<内線代表呼出> **工事**

内線番号とは別に、部署全体の内線番号(代表番号)を決めておくことができます。その代表番号を押して、部署内の空いている電話機を呼び出すことができます。

- 1 受話器を上げる
- 2 内線代表番号を押す
- 3 相手が出たら、通話する



内線代表呼出で着信する電話機
内線代表呼出で着信する際の着信順には、パイロット方式と簡易UCD方式の2種類があります。
• パイロット方式:
常に着信順が1番目に設定されている電話機に着信する
• 簡易UCD方式:
前回着信した電話機の次の順番に設定されている電話機に着信する
工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

▼ 相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す

<内線代理着信> **工事**

電話をかけたい相手が通話中の場合は、同じ部署内の空いている電話機を呼び出すことができます。

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す

転送 >>	151
-------	-----
- 3 電話をかけた相手が通話中のとき、自動的にほかの内線を呼び出す
- 4 相手が出たら、通話

通話	151
----	-----

電話を受けた相手の内線番号が表示されます。



内線代理着信で着信する電話機

内線代理着信で着信する際の着信方式には、次の2種類があります。

- 話中時の転送先が円を描いている場合
電話機A→電話機B→電話機C→電話機Aというように、順次転送されます。
もし、すべての電話機が話中の場合には、電話をかけた相手には話中音を流します。



- 話中時の転送先が1台の電話機に集中している場合
どの電話機にかけても、通話中の場合には決まった電話機に転送されます。



工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

受話器を上げるだけで特定の内線にかける

<内線ホットライン> **工事**

受話器を上げるだけで、特定の内線に電話をかけることができます。会社などの、無人の受付で利用すると便利です。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
あらかじめ決められた相手呼び出します。
- 2 相手が出たら、通話する



内線ホットラインの電話機で、外線にかけたい受話器を上げる前に、外線ボタンを押してから番号を押すと、かけられます。

内線ホットラインの電話機で、ほかの内線にかけた

い受話器を上げてから約5秒(初期値)の間に内線番号を押してください。
内線番号を押すことができる時間は、工事段階の設定で変更することができます。

電話を受ける

電話の受けかたには、次の方法があります。


- ◆ 応答ボタンを使って受ける
＜外線応答＞（⇒P.1-36）
- ◆ 外線ボタンを使って受ける
＜任意外線応答＞（⇒P.1-36）
- ◆ 受話器を上げるだけで受ける
＜着信自動応答＞（⇒P.1-36）
- ◆ 受話器を上げるだけで受けるかどうかを自分で切り替える
＜応答プリセット＞（⇒P.1-36）
- ◆ 内線からの電話を受ける
＜内線応答＞（⇒P.1-37）

応答ボタンを使って受ける

＜外線応答＞

外線から着信中に応答ボタンを押して応答します。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中
応答ボタンが赤点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3  を押す
- 4 相手と通話する




着信自動応答を設定している場合は、受話器を上げるだけで応答することができます。

外線ボタンを使って受ける

＜任意外線応答＞ **工事**

外線から着信中に、点滅している外線ボタンを押して応答します。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中
外線ボタンが赤点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3 点滅している
 (外線ボタン) を押す
- 4 相手と通話する



受話器を上げるタイミング
外線ボタンを押してから受話器を上げて応答できます。また、着信自動応答を設定している場合には、受話器を上げるだけで応答することができます。

受話器を上げるだけで受ける

＜着信自動応答＞ **工事**

外線から着信中に、受話器を上げるだけで電話に応答できません。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中
外線ボタンが赤点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する

受話器を上げるだけで受けるかどうかを自分で切り替える



＜応答プリセット＞ **工事**

外線から着信中に、受話器を上げるだけで応答できるように、簡単に設定できます。この設定は、電話機の利用者が、状況に合わせて自由に設定と解除を切り替えることができます。





設定の変更は、電話機が待ち受け状態のときに操作してください。

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
- 2  を押す
- 3 応答ランプが赤点灯する

これで、応答プリセットが設定できました。以降は、受話器を上げるだけで電話に出ることができます。

▼ 解除のしかた

- 1  を押す
- 2  を押す
- 3 応答ランプが消灯する

これで、応答プリセットが解除できました。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中
外線ボタンが赤点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する

内線からの電話を受ける

<内線応答>

内線からの呼出には、受話器を上げるだけで応答できます。

▼ 受けかた

- 1 内線から着信中**
内線ボタンが赤点滅します（内線ボタンがファンクションボタンに設定されている場合）。

着信 <<<	120
--------	-----
- 2 受話器を上げる**

通話	120
----	-----
- 3 相手と通話する**

代理で電話を受ける

ほかの人への着信を手元の電話機で受けるには、次の方法があります。

- ◆ ほかの人への電話を代わりに受ける
 <指定内線代理応答> (⇒P. 1-38)
- ◆ 同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける
 - ・ 外線一般着信以外の電話を代わりに受ける
 <内線指定呼代理応答> (⇒P. 1-38)
 - ・ 外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける
 <グループ代理応答> (⇒P. 1-39)
- ◆ ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける
 - ・ グループ番号を指定して受ける
 <グループ指定代理応答> (⇒P. 1-39)
 - ・ ほかのグループへの着信を受ける
 <他グループ代理応答> (⇒P. 1-39)

機能ごとに代理応答できる着信とできない着信は、下表のとおりです。

○：代理応答可 ×：代理応答不可

代理応答の機能名	代理応答の対象	着信の種類			
		外線一般着信	外線個別着信	内線着信	ドアホン着信
指定内線代理応答	指定した内線	○	○	○	○
内線指定呼代理応答	自分が所属する代理応答グループ	×	○	○	○
グループ代理応答	グループ内の内線	○	○	○	○
グループ指定代理応答	指定した代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
他グループ代理応答	他の代理応答グループの内線	○	○	○	○



代理応答グループとは
 代理応答を行う電話機をグループ化したものです。内線グループとは異なります。グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

ほかの人への電話を代わりに受ける

<指定内線代理応答> **工事**

ほかの人への着信に、手元の電話機から内線番号を指定して代わりに応答することができます。

▼ 受けかた

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑨を押す
 829は、指定内線代理応答の特番（初期値）です。
- 4 着信先の内線番号を押す 130
- 5 相手と通話する 120

同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける

自分が所属する代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。

応答のしかたには、次の2通りの方法があります。

- ・ 外線一般着信以外の電話を代わりに受ける
 <内線指定呼代理応答>
- ・ 外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける
 <グループ代理応答>

▼ 外線一般着信以外の電話を代わりに受ける

<内線指定呼代理応答> **工事**

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑤を押す 130
 825は、内線指定呼代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する 120

▼ 外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける

<グループ代理応答> **工事**

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑦を押す

代理応答	130
------	-----

827は、グループ代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

通話	120
----	-----



よくグループ代理応答を利用する方へ
電話機のファンクションボタンにグループ代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

▼ ほかのグループへの着信を受ける

<他グループ代理応答> **工事**

- 1 ほかの代理応答グループの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑧を押す

代理応答	130
------	-----

828は、他グループ代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

通話	120
----	-----



よく代理応答を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに他グループ代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける

ほかの代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。代理応答グループが複数あるときは、その代理応答グループ番号を指定して応答できます。応答のしかたには、次の2通りの方法があります。

- ・グループ番号を指定して受ける <グループ指定代理応答>
- ・ほかのグループへの着信を受ける <他グループ代理応答>

▼ グループ番号を指定して受ける

<グループ指定代理応答> **工事**

- 1 ほかの代理応答グループの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑥を押す

グループ No.	
----------	--

826は、グループ指定代理応答の特番（初期値）です。
- 4 着信先の代理応答グループ番号を押す

代理応答	130
------	-----
- 5 相手と通話する

通話	120
----	-----



よく代理応答を利用する方へ
電話機のファンクションボタンにグループ指定代理応答ボタンを割り付けておくと、受話器を上げ、内線のダイヤルトーンが聞こえてからこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

電話を保留する・取り次ぐ

外線や内線の電話の保留や取り次ぎかたには、次の方法があります。

- ◆ 外線との通話を保留する
＜共通保留＞（⇒P. 1-40）
- ◆ 自分だけが応答できるように保留する
＜個別保留＞（⇒P. 1-40）
- ◆ 外線との通話をほかの人に取り次ぐ
 - ・ 口頭で取り次ぐ
＜口頭転送＞（⇒P. 1-41）
 - ・ 内線に電話をかけて取り次ぐ
＜保留転送＞（⇒P. 1-41）
 - ・ 保留した通話を自動で取り次ぐ
＜自動保留転送＞（⇒P. 1-41）
 - ・ 内線グループ保留して取り次ぐ
＜内線グループ保留＞（⇒P. 1-42）
 - ・ パーク保留して取り次ぐ
＜パーク保留＞（⇒P. 1-42）
- ◆ 内線／外線ボタンを使って取り次ぐ
＜自動保留＞（⇒P. 1-42）
- ◆ 着信音だけで取り次ぐ
＜呼出状態転送＞（⇒P. 1-43）
- ◆ 取り次ぎ先の通話終了後、自分に戻るようになる
＜折り返し転送＞（⇒P. 1-43）
- ◆ ほかの人の通話が終了後、自分につながるようになる
＜被保留転送＞（⇒P. 1-43）
- ◆ 内線通話を保留する
＜内線保留＞（⇒P. 1-44）
- ◆ 内線通話を取り次ぐ
＜内線の自動保留転送＞（⇒P. 1-44）

注意 保留状態のまま約90秒が経過すると、保留警報音が鳴り、表示器に“保留リコール”が表示されます。このときは受話器を上げると、通話を再開できます。

外線との通話を保留する

＜共通保留＞

通話中に相手を待たせるとき、保留音を流して通話を保留にすることができます。

また、保留中の外線ボタンは、次のように点滅します。

- ・ 自分が保留中：緑点滅
- ・ ほかの人が保留中：赤点滅

保留にした通話を再開するときは、保留表示中の外線ボタンを押します。

▼ 保留のしかた

1 外線と通話中

2 を押す

保留した外線ボタンが緑点滅します。

3 受話器を戻す

これで、通話が保留できました。

このあと、ほかの人へ転送するときは『外線との通話をほかの人に取り次ぐ』（⇒P. 1-41）を参照してください。

▼ 再開のしかた

1 外線を保留中

2 受話器を上げる

3 緑点滅している

（外線ボタン）

を押す

ほかの人が保留にしていた場合は、その人から聞いた番号の、赤点滅している外線ボタンを押します。

4 相手と通話する

応答

自分だけが応答できるように保留する

＜個別保留＞

外線通話を保留にすると、自分だけが通話を再開できるように保留することができます。保留した通話を再開するときは、保留中の外線ボタンを押します。



「ファンクションボタンの設定」により個別保留ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P. 5-18）を参照してください。



いつも個別保留にしたい

工事段階の設定で保留ボタンを個別保留ボタンに変更することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 保留のしかた

《 ファンクションボタンを使うとき 》

1 外線と通話中

2 （個別保留ボタン）を押す

保留した外線ボタンが緑点滅します。

3 受話器を戻す

これで、通話が個別保留できました。

《 特殊ボタンを使うとき 》

1 外線と通話中

2 を押す

3 を押す

保留

4 受話器を戻す

これで、通話が個別保留できました。

▼ 再開のしかた

- 1 外線を個別保留中
- 2 受話器を上げる
- 3 緑点滅している
□ (外線ボタン)
を押す
- 4 相手と通話する

応答

外線との通話をほかの人に取り次ぐ

外線との通話をほかの人に取り次ぐことができます。
電話の取り次ぎかたには、次の5通りの方法があります。


- 口頭で通話を取り次ぐ
＜口頭転送＞
- 内線に電話をかけて通話を取り次ぐ
＜保留転送＞
- 保留した通話を自動で取り次ぐ
＜自動保留転送＞
- 通話を内線グループ保留して取り次ぐ
＜内線グループ保留＞
- 通話をパーク保留して取り次ぐ
＜パーク保留＞

▼ 口頭で取り次ぐ

＜口頭転送＞

外線との通話を近くにいる人に取り次ぐことができます。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2  を押す
- 3 受話器を戻す
- 4 近くの人に声をかける
保留した外線番号を伝えます。

保留

これで、口頭転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 赤点滅している
□ (外線ボタン)
を押す
取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。
- 3 相手と通話する


応答

▼ 内線に電話をかけて取り次ぐ

＜保留転送＞

外線との通話を内線通話で用件を伝えてから、取り次ぐことができます。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2  を押す
- 3 取り次ぎたい人の内線番号を押す
- 4 相手が出たら、用件を伝える
保留した外線の番号を伝えます。
- 5 受話器を戻す

保留

これで、保留転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 内線と通話中
電話を取り次いでくれた人から、保留中の外線番号を聞きます。
- 2 赤点滅している
□ (外線ボタン)
を押す
取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。
- 3 相手と通話する



応答

▼ 保留した通話を自動で取り次ぐ

＜自動保留転送＞

外線との通話を内線通話で用件を伝えたあと、転送ボタンを押して取り次ぐことができます。取り次ぎ先の相手は、待っているだけで自動的に外線とつながります。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2  を押す
- 3 取り次ぎたい相手の
内線番号を押す
- 4 内線通話で電話を取り
次ぐことを伝える
- 5  を押す

保留

呼出


120

通話

120

これで、自動保留転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 内線通話のあと、そのまま待つ
- 2 相手が  を押すと、自動的に外線とつながる
- 3 外線の相手と通話する

**受話器を戻すだけで取り次ぎたい**

内線通話のあと、転送ボタンを押さずに受話器を戻すだけで、自動的に外線とつながるようにすることができます（オンフック自動転送）。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 内線グループ保留して取り次ぐ<内線グループ保留> **工事**

外線通話を内線グループ保留すると、内線グループ内のほかの電話機から、特番を押して応答することができます。一般電話機など、外線ボタンがない電話機からでも応答できます。

《 取り次ぎかた 》**1 外線と通話中****2** を押す

保留

3 **⑧③③** を押す

グループ保留

833は、内線グループ保留登録の特番（初期値）です。

4 受話器を戻す

これで、内線グループ保留ができました。

このあと、同じ内線グループ内のほかの人に取り次ぐことができます。

《 受けかた 》**1 受話器を上げる****2** **⑧③④** を押す

応答

834は、内線グループ保留応答の特番（初期値）です。

3 相手と通話する**▼ パーク保留して取り次ぐ**<パーク保留> **工事**

外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が複数あるときは、パーク保留することができます。パーク番号を押して応答することができます。

《 取り次ぎかた 》**1 外線と通話中****2** を押す

保留

3 **⑧③①** を押すパーク保留
パーク No.ダイヤル

831は、パーク保留登録の特番（初期値）です。

4 **パーク番号を押す**

パーク番号は、01から64のうち、いずれかを押しください。

LINE 008 パーク 01

5 受話器を戻す

これで、パーク保留ができました。

ほかの人に取り次ぐときは、上記手順4で押したパーク番号を伝えます。

**パーク保留中のボタン表示**

パーク保留ボタンがあると、次のようにランプ表示されます。

- ・パーク保留した電話機：緑点滅
- ・ほかの電話機：赤点滅

《 受けかた 》**1 受話器を上げる****2** **⑧③②** を押す

832は、パーク保留応答の特番（初期値）です。

パーク 応答
パーク No.ダイヤル**3** **パーク番号を押す**

パーク保留するときに押したパーク番号を押します。

応答

4 相手と通話する**よくパーク保留を利用する方へ**

電話機のファンクションボタンにパーク保留ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

内線／外線ボタンを使って取り次ぐ<自動保留> **工事**

外線との通話をほかの人に取り次ぐとき、内線ボタンまたは外線ボタンを使ってすばやく保留することができます。

- ・取り次ぎ先が内線のとき
内線ボタンを押すと、通話の保留と同時に内線呼出の準備ができます。
- ・取り次ぎ先が外線のとき
外線ボタンを押すと、通話の保留と同時に外線発信の準備ができます。



- ・「ファンクションボタンの設定」により内線ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。
- ・工事設定していない電話機で内線／外線ボタンを使って取り次ごうとすると、外線通話が切れてしまいます。

▼ 内線への取り次ぎかた**1 外線と通話中****2** (内線ボタン) を押す

外線通話が保留されました。

3 **取り次ぎたい人の内線番号を押す****4** **相手が出たら、用件を伝える**

保留した外線の番号を伝えます。

- 5 受話器を戻す
- 6 取り次いだ相手が、赤点減している□□(外線ボタン)を押す
取り次いでくれた人から聞いた外線番号のボタンを押します。
- 7 相手と通話する

▼ 外線への取り次ぎかた

- 1 外線と通話中
- 2 □□(外線ボタン)を押す
外線通話が保留されました。
- 3 取り次ぎたい相手の電話番号を押す
- 4 相手が出たら、用件を伝える
電話を取り次いでほしいことを伝えます。
- 5 を押す
外線の相手と取り次いだ相手の通話がつながります。

着信音だけで取り次ぐ

< 呼出状態転送 >

外線からの電話を保留にしたあと、内線を呼び出し、相手が出る前に電話を切って取り次ぎます。こうすると、取り次ぎ先で改めて着信音が鳴ります。相手が不在の場合には、一定時間が経過すると、転送元の電話機で警報音が鳴ります。

▼ 取り次ぎかた

- 1 外線と通話中
- 2 を押す
- 3 取り次ぎ先の内線番号を押す 120
- 4 相手が出る前に を押す
- 5 受話器を戻す

これで、転送ができました。

▼ 受けかた

- 1 着信音が鳴る 100
- 2 受話器を上げる
- 3 外線の相手と通話する

取り次ぎ先の通話終了後、自分に戻るようにする

< 折り返し転送 >

ほかの人に取り次いだ外線通話が終わったら自分に戻してほしいとき、その通話が終わると同時に自分の電話に戻ることができます。こうすると、電話を取り次いだあと、そのまま待っているだけで、もう一度話することができます。

注意

「ファンクションボタンの設定」により折り返し転送ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼ 取り次ぎかた

- 1 外線と通話中
- 2 を押す
- 3 取り次ぎ先の内線番号を押す 120
- 4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える 120
- 5 □□(折り返し転送ボタン)を押す 120
保留していた外線と取り次ぎ先がつながります。
- 6 取り次ぎ先の相手と外線の相手が通話する
このとき受話器を持ったままの状態待ちます。
- 7 取り次ぎ先の相手が受話器を置くと、外線との通話が戻る
- 8 外線の相手と通話する

ほかの人の通話が終了後、自分につながるようにする

< 被保留転送 > **工事**

ほかの人が外線通話している相手と通話したい場合、その通話が終わると同時に自分の電話につながるようにすることができます。

▼ 設定のしかた

- 1 Bさんが外線と通話中
- 2 受話器を上げる
- 3 Bさんが通話している□□(外線ボタン)を押す 100
- 4 受話器を持ったまま待つ

- 5 Bさんが電話を切ると、Bさんが通話していた相手と自分の電話がつながる
- 6 外線の相手と通話する

内線通話を保留する

<内線保留>

外線通話を保留するのと同じように、通話していた相手に保留音を流し、待ってもらうことができます。

▼保留のしかた

- 1 内線と通話中 120
- 2 を押す 120
特殊ボタンが緑点滅します。
- 3 受話器を戻す

これで、内線通話が保留できました。

▼再開のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 を押す
- 3 相手と通話する

内線通話を取り次ぐ

<内線の自動保留転送>

内線通話をほかの人に取り次ぐことができます。

▼取り次ぎかた

- 1 内線と通話中
- 2 を押す 120
- 3 取り次ぎ先の内線番号を押す 130
- 4 相手が出たら、用件を伝える
- 5 を押す

これで、内線通話の取り次ぎができました。

▼受けかた

- 1 内線と通話中
- 2 そのまま待つ
相手が転送ボタンを押すと、保留になっていた内線と通話がつながります。



転送ボタンを押さずに取り次ぎたい

電話を取り次ぐ人が、受話器を戻すだけで内線がつながるように、工事段階で設定できます（オンフック自動転送）。詳しくは、販売店にご相談ください。


電話に出られないとき


会議や外出などで席を外すときや、通話中で別の電話に出ることができないときの転送設定には、次の方法があります。

- ◆ 自分宛ての電話をすべて転送する
 - ・ 転送元と転送先で着信音を鳴らす
 <不在着信転送> (⇒P.1-45)
 - ・ 転送先だけ着信音を鳴らす
 <着信転送> (⇒P.1-46)
- ◆ 通話中にかかってきた電話をすべて転送する
 <話中転送> (⇒P.1-46)
- ◆ 電話に出られないときに転送する
 <不応答転送> (⇒P.1-47)
- ◆ 通話中や電話に出られないときに転送する
 <話中/不応答転送> (⇒P.1-47)
- ◆ 移動先から転送の設定をする
 <フォローミー> (⇒P.1-48)
- ◆ かかってくる電話を一時的に拒否する
 <着信拒否> (⇒P.1-48)

また、不在設定や着信拒否、通話中の相手を、緊急で呼び出す必要がある場合には、次の方法があります。

- ◆ 不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す
 <バイパスコール> (⇒P.1-49)
- ◆ 通話中の相手を緊急で呼び出す
 <話中呼出> (⇒P.1-49)

 転送先の電話機でも転送が設定されていると転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。



自分の電話機 (転送元) 転送先

自分宛ての電話をすべて転送する

工事

会議などで電話に出られないときに、かかってきた電話を、ほかの電話機に転送することができます。転送には、次の2通りの方法があります。

- ・ 転送元と転送先で着信音を鳴らす
 <不在着信転送>
- ・ 転送先だけ着信音を鳴らす
 <着信転送>

▼ 転送元と転送先で着信音を鳴らす

<不在着信転送>

転送の設定中に着信すると、転送元と転送先の両方で着信音が鳴り、どちらでも応答することができます。

《 設定のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑨①⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

不在転送 設定
1:登録 0:解除

3 ①を押す

不在転送 設定
内線ダイヤル

4 転送先の内線番号を押す

不在転送 設定	120
不在転送	

5 受話器を戻す

不在転送	120
------	-----

これで、不在着信転送が設定できました。

《 解除のしかた 》

1 不在着信転送を設定中

不在転送	120
------	-----

2 受話器を上げる

3 ⑨①⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。


不在転送 設定
1:登録 0:解除

4 ①を押す

不在転送 設定	解除
---------	----

5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が解除できました。

 よく不在着信転送を利用する方へ
 電話機のファンクションボタンに不在着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼ 転送だけ着信音を鳴らす

<着信転送>

転送を設定中に着信すると、転送先の電話機だけ着信音が鳴り、応答できます。

《 設定のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑨⑦①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

着信転送 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

着信転送 設定 内線ダイヤル

4 転送先の番号を押す

着信転送 設定 着信転送	120
-----------------	-----

5 受話器を戻す

着信転送	120
------	-----

これで、着信転送が設定できました。

《 解除のしかた 》

1 着信転送を設定中

着信転送	120
------	-----

2 受話器を上げる

3 ⑨⑦①を押す

901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。

着信転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⑦を押す

着信転送 設定	解除
---------	----

5 受話器を戻す

これで、着信転送が解除できました。



よく着信転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、着信転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [901] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中にかかってきた電話をすべて転送する

<話中転送> 工事

通話中にかかってきた電話を、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

1 を押す

2 ⑨⑦②を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

話中転送 設定 1:登録 0:解除

3 ①を押す

話中転送 設定 内線ダイヤル

4 転送先の番号を押す

“ビップ”という確認音が聞えます。

話中転送 設定 話中転送	120
-----------------	-----

5 を押す

話中転送	120
------	-----

これで、話中転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

1 話中転送を設定中

話中転送	120
------	-----

2 を押す

3 ⑨⑦②を押す

902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。

話中転送 設定 1:登録 0:解除

4 ⑦を押す

話中転送 設定	解除
---------	----

5 を押す

これで、話中転送が解除できました。



よく話中転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [902] → [1] → [810] → [短縮番号] → スピーカボタン
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

電話に出られないときに転送する

< 不応答転送 > **工事**

着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

- 1 を押す
- 2 **⑨⑦③** を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
不応答転送 設定
1:登録 0:解除
- 3 **①** を押す
不応答転送 設定
内線 が 作ル
- 4 転送先の番号を押す
不応答転送 設定
不応答転送 120
- 5 を押す
不応答転送 120

これで、不応答転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 不応答転送を設定中
不応答転送 120
- 2 を押す
- 3 **⑨⑦③** を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
不応答転送 設定
1:登録 0:解除
- 4 **⑦** を押す
不応答転送 設定
解除
- 5 を押す

これで、不応答転送が解除できました。



よく不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、不応答転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [903] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ スピーカボタン
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中や電話に出られないときに転送する

< 話中/不応答転送 > **工事**

通話中にかかってきた電話や、着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

- 1 を押す
- 2 **⑨⑦④** を押す
904は、話中/不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
話中/不応答 設定
1:登録 0:解除
- 3 **①** を押す
話中/不応答 設定
内線 が 作ル
- 4 転送先の番号を押す
話中/不応答 設定
転送-話中/不応 120
- 5 を押す
転送-話中/不応 120

これで、話中/不応答転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 話中/不応答転送を設定中
転送-話中/不応 120
- 2 を押す
- 3 **⑨⑦④** を押す
904は、話中/不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
話中/不応答 設定
1:登録 0:解除
- 4 **⑦** を押す
話中/不応答 設定
解除
- 5 を押す

これで、話中/不応答転送が解除できました。



よく話中/不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに話中/不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

外出先に転送したい



転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中/不応答転送を次のように設定します。
スピーカボタン → [904] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ スピーカボタン
※ [810] は共通・個別短縮ダイヤル発信特番です。

移動先から転送の設定をする

<フォローミー> **工事**

転送の設定は、通常は転送元の電話機で行います。この転送の設定を、転送先の電話機から行うことができます。例えば、会議室などに移動している際、自分のデスクへの電話を会議室の電話機に転送したいときなどに使用します。フォローミーは、同時に複数の設定をすることができます。フォローミー設定中に転送元が呼出された場合、転送元と転送先の両方で鳴動音が鳴ります。



▼ 設定のしかた

- 1  を押す
- 2 ⑨⑦⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
フォローミー 設定
1:登録 0:解除
- 3 ①を押す
フォローミー 設定
内線 ダイヤル
- 4 転送元の内線番号を押す
フォローミー 設定
フォローミー << 120
- 5  を押す


これで、フォローミーが設定できました。


▼ 解除のしかた

《 オールクリアするとき 》

- 1 フォローミーを設定中
 - 2  を押す
 - 3 ⑨⑦⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
フォローミー 設定
1:登録 0:解除
 - 4 ⑦を押す
フォローミー 設定
内線 ダイヤル 解除
0:オールクリア
 - 5 ⑦を押す
フォローミー 設定
解除
 - 6  を押す
- これで、フォローミーが解除できました。

《 個別解除するとき 》

- 1 フォローミーを設定中
- 2  を押す

- 3 ⑨⑦⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
フォローミー 設定
1:登録 0:解除
- 4 ⑦を押す
フォローミー 設定
内線 ダイヤル 解除
0:オールクリア
- 5 解除したい内線番号を押す
フォローミー 設定
解除
- 6  を押す

これで、転送元の解除ができました。



よくフォローミーを利用する方へ
電話機のファンクションボタンにフォローミーボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。



かかってくる電話を一時的に拒否する

<着信拒否> **工事**





一時的に着信を拒否することができます。拒否できる着信の種類には、次の4通りがあります。

- ・外線からの着信
- ・内線からの着信
- ・外線と内線からの着信
- ・ほかの電話機からの転送

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
 - 2 ⑨⑦⑧を押す
908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。
着信拒否 設定
 - 3 設定したい着信拒否の番号を押す
1: 外線からの着信を拒否
2: 内線からの着信を拒否
3: 外線と内線からの着信を拒否
4: 着信転送などの転送先としての設定を拒否
着信拒否 設定
着信拒否 外線
1を押した場合
 - 4  を押す
着信拒否 外線
- これで、着信拒否が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 着信拒否を設定中
- 2 を押す
- 3 を押す
908は、着信拒否の設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 を押す 解除
- 5 を押す

これで、着信拒否が解除できました。



よく着信拒否を利用する方へ


電話機のファンクションボタンに着信拒否ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す

<バイパスコール> **工事**

緊急で電話をかけたい相手が、不在着信転送やテキストメッセージの不在設定中や着信拒否を設定してつながらないとき、特別に呼び出すことができます。

▼ 呼び出ししかた

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す 120
相手が不在転送や着信拒否を設定していると、その内容が表示されます。
- 3 を押す
801は、バイパスコールの特番（初期値）です。
- 4 通常の呼び出しに変わる 120
- 5 相手が出たら、通話する



よくバイパスコールを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにバイパスコールボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

通話中の相手を緊急で呼び出す


<話中呼出> **工事**

緊急で電話をかけたい相手が通話中のとき、特別に呼び出すことができます。



相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合は、話中呼出できません。

▼ 呼び出ししかた

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す 120
相手が話中のときは、話中音が表示されます。
- 3 を押す 120
803は、話中呼出の特番（初期値）です。
- 4 相手が出たら、通話する



よく話中呼出を利用する方へ



電話機のファンクションボタンに話中呼出ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

通話中にかかってきた電話も、常に受けられるようにしたい

通話中でも別の人からの呼出に回答できるよう、着信音を鳴らすことができます。詳しくは、販売店にご相談ください。


▼ 受けかた

《 内線通話中のとき 》

- 1 内線通話中に、電話機のスピーカから着信音が鳴る 121
- 2 を押す
いままでの通話が保留になり、話中呼出でかかってきた相手と電話につながります。
- 3 話中呼出でかかってきた相手と通話する
- 4 話中呼出でかかってきた相手と通話終了後、元の通話に戻るときは、を押す

《 外線通話中のとき 》

- 1 外線通話中に、電話機のスピーカから着信音が鳴る

着信 <<<	121
--------	-----
- 2 **保留** を押す
いままでの通話が保留になります。
- 3 受話器を戻す
- 4 受話器を上げて、話中呼出でかかってきた相手と通話する
- 5 元の通話に戻るときは、保留中の  (外線ボタン) を押す



話中呼出の着信音が聞こえない

話中呼出時の着信音は、通常の着信音量に連動しかつ通常の着信音より小さく鳴ります。通常の着信音を大きめに設定してください。

話中呼出の着信音量を通常の着信音と同じにしたい

通常の着信音と同じ大きさにするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

便利な使いかた

多機能電話機では、次の電話機能も利用することができます。

- ◆ ワンタッチボタンを使ってかける
＜ワンタッチダイヤル＞ (⇒P. 1-51)
- ◆ 受話器を置いたまま通話する
＜ハンズフリー通話＞ (⇒P. 1-52)
- ◆ ふさがっている外線が空きしだい、使えるようにする
＜外線予約/外線コールバック＞ (⇒P. 1-53)
- ◆ 一斉呼出をする
(⇒P. 1-54)
- ◆ 電話で会議する
＜会議通話＞ (⇒P. 1-55)
- ◆ ほかの人の通話に割り込む
＜通話割り込み＞ (⇒P. 1-56)
- ◆ ほかの人と通話中の内線相手に声をかける
＜ボイスオーバー＞ (⇒P. 1-56)
- ◆ 通話中に電話番号を記憶する
(⇒P. 1-57)
- ◆ こちらの声だけを一時的に消す
＜送話カット＞ (⇒P. 1-58)
- ◆ キャッチホンサービスなどを利用する
＜外線フッキング＞ (⇒P. 1-58)
- ◆ 電話情報サービスなどを利用する
＜通話中PB信号送出＞ (⇒P. 1-58)
- ◆ 登録済みの番号に別の番号を続けてかける
＜追加ダイヤル＞ (⇒P. 1-58)
- ◆ 電話機のランプで伝言があることを知らせる
＜伝言(メッセージウェイティング)＞ (⇒P. 1-59)
- ◆ かけてきた相手に不在の理由を知らせる
＜テキストメッセージ＞ (⇒P. 1-60)
- ◆ 指定時刻にアラーム音を鳴らす
＜アラーム＞ (⇒P. 1-60)
- ◆ 電話機でブザー呼出を行う
＜ブザー＞ (⇒P. 1-61)
- ◆ 電話機から音楽などを流す
＜BGM＞ (⇒P. 1-61)
- ◆ 会議室の様子を電話機から聞く
＜ルームモニタ＞ (⇒P. 1-62)
- ◆ 通話相手の声を周りの人にも聞かせる
＜グループリスニング＞ (⇒P. 1-62)
- ◆ 着信履歴を利用する
(⇒P. 1-63)
- ◆ 発着信履歴を削除する
(⇒P. 1-64)
- ◆ 同じ外線ですべて電話をかける
＜切断再捕捉＞ (⇒P. 1-65)
- ◆ 取り次ぎ用の電話機を指定する
＜幹部着信転送＞ (⇒P. 1-65)
- ◆ ヘッドセットを使って通話する
＜ヘッドセット接続＞ (⇒P. 1-66)
- ◆ IP多機能電話機のボタン操作などを制限する
＜セキュリティボタン＞ (⇒P. 1-67)

ワンタッチボタンを使ってかける

＜ワンタッチダイヤル＞

電話をよくかける相手先の電話番号をワンタッチボタンに登録して、ボタン1つでかけられるようにすることができます。ワンタッチボタンは、次のような場合に利用できます。

- よくかける電話番号に登録する
- よくかける内線番号に登録する
- 特番に登録する

ワンタッチボタンには、番号のほかに、ポーズやフッキング信号(下表参照)などを含め、最大24桁までの電話番号や内線番号などを登録することができます。

ISDN回線を使用している場合は、電話番号直後に応答待ちコードを入力します。また、登録したい番号の一番最後にダイヤルの最後の桁を示す#を付加します。(最後の#は相手に通知されません。)

登録内容	登録時に押すボタン	登録時の表示
0～9、*、#	0～9、*、#	0～9、*、#
ポーズ	転送	P
フッキング信号	フック	R
応答待ちコード	応答	@

注意 「ファンクションボタンの設定」によりワンタッチボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P. 5-18)を参照してください。

注意 登録中に操作を中断したいときは受話器を上げて戻すか、またはスピーカボタンを押してください。

▼ 登録のしかた

《 電話番号を登録する 》

- 1 を押す
- 2 ⑨①⑦を押す
917は、機能ボタン設定(一般機能レベル)の特番(初期値)です。
- 3 (ファンクションボタン) を押す
- 4 ①①を押す
01は、DSS/ワンタッチボタンの機能番号です。
- 5 ①を押す
0は外線発信番号です。
- 6 電話番号を押す
- 7 を押す

8  を押す

これで、ファンクションボタンに電話番号が登録できました。

《 内線番号を登録する 》

1  を押す

2 ⑨①⑦を押す


917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。

3 (ファンクションボタン) を押す

4 ①①を押す


01は、DSS/ワンタッチボタンの機能番号です。

5 内線番号を押す

6  を押す

7  を押す

これで、ワンタッチボタンに内線番号が登録できました。

 **内線番号を登録すると**
ワンタッチボタンに登録されている内線電話機の状態が、ボタンのランプでわかります。

- ・通話中 : 赤点灯
- ・未使用状態: 消灯
- ・着信拒否中
(内線着信拒否、外線と内線の着信拒否): 赤点滅


特番を登録したい
ワンタッチボタンに登録する際、内線番号の代わりに登録したい特番を押します。

▼ 確認のしかた

ワンタッチボタンに登録されている内容を確認することができます。

1  を押す

2 (ワンタッチボタン) を押す

3  を押す

▼ 解除のしかた

1  を押す

2 ⑨①⑦または

⑨③⑧を押す

917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。938は、機能ボタン設定（アピアランス機能レベル）の特番（初期値）です。

3 解除したい (ファンクションボタン) を押す

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

4 ①①①を押す

000は、ファンクションボタンの解除番号です。

5  を押す

これで、ファンクションボタンを解除できました。

▼ かけかた

ワンタッチボタンを使ったかけかたは、外線にかけるときも内線にかけるときも同じ方法です。

1 (ワンタッチボタン) を押す


2 受話器を上げる

3 相手が出たら、通話する

受話器を置いたまま通話する


<ハンズフリー通話>

受話器を置いたまま、多機能電話機のマイクとスピーカを使って通話します。ハンズフリー通話を利用するには、あらかじめマイクの設定が必要です。

 **注意** ハンズフリー通話は、シングルゾーンデジタルコードレス電話機では利用できません。

▼ マイクを設定する

《 設定のしかた 》

1  を押す


2 ①を押す

3 マイクランプが赤点灯する

これで、マイクが設定できました。

以降は、受話器を置いたままでも、こちらの声が相手に聞こえます。


《 解除のしかた 》

1  を押す

2 ①を押す

3 マイクランプが消灯する

これで、マイクが解除できました。

 **受話器を上げるタイミング**
受話器を上げてからワンタッチボタンを押しても、かけることができます。



ワンタッチボタンや短縮番号を組み合わせたい
次のようかけると、登録されている番号が連続して送出されます(チエーンダイヤル)。

- 複数のワンタッチボタンを続けて押す
- 短縮番号とワンタッチボタンを続けて押す

例えば、短縮番号001に客先の代表番号を登録し、ワンタッチボタンに相手部署の内線番号を登録した場合は、次のようかけます。
十字キーの左(再/短) → 001 → ワンタッチボタン



▼ かけかた


受話器を置いたまま電話をかけて、相手と通話します。

- 1 マイクランプが赤点灯していることを確認する
消灯していたら、ハンズフリー通話ができません。マイクの設定をしてください。
- 2  を押す
- 3 電話番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する
- 5 電話を切るときは  を押す


▼ 受けかた

受話器を置いたまま電話を受けて、相手と通話します。

- 1 外線から着信中
- 2  を押す
- 3 相手と通話する
- 4 電話を切るときは  を押す


 **マイク設定中に内線から音声で呼び出されると**
着信と同時に内線通話がつながり、かけてきた相手の声が聞こえ、通話することができます(内線トークバック)。

受話器を置いたまま内線通話をする
発信/応答ボタンの代わりにスピーカボタンを押すことで、受話器を置いたまま内線通話ができます。


 **ハンズフリー通話中は、次のことに注意してください。**

- マイクから1m以内でお話ください。
- 交互にお話してください。相手先と同時に話す、音切れが発生する場合があります。
- 音声が反響しやすいところや、周囲の騒音が大きいのところでは、受話器で通話してください。
- 音量を最大にしても相手の声が小さいときは、受話器で通話してください。
- 天気予報や時報など、相手の声を聞くだけのときは、マイクを解除してください。

▼ 通話中の切り替えかた

- 1 外線または内線と通話中
- 2  を押す
- 3 ①を押す
マイクが設定されていたときは解除され、解除されていたときは設定されます。

以降、上記の操作をするたびに、設定が切り替わります。

 **よくハンズフリー通話を利用する方へ**
電話機のファンクションボタンにマイクボタンを割り付けておく、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(→ P.5-18)を参照してください。




ふさがっている外線が空きしたい、使えるようにする

<外線予約/外線コールバック> **工事**

使いたい外線がふさがっていて、電話がかけれないとき、外線が空いたらすぐ使えるように予約することができます。予約のしかたには、次の2通りの方法があります。

- 外線予約
外線が空くまで、受話器を持ったまま待ち、外線が空きしたい電話がかけられるようにする
- 外線コールバック
いったん電話を切り、外線が空いたら知らせが入るようにする


▼ 設定のしかた

- 1  を押す
話中音が聞こえます。

- 2 ⑧①④を押す
804は、外線・内線予約設定の特番(初期値)です。


これで、外線予約が設定できました。

受話器を持ったまま待っていると、外線が空きしたい、電話をかけることができます。

受話器をいったん戻して待つとき(外線コールバック)は、次の手順3に進みます。



- 3 受話器を戻す


これで、外線コールバックが設定できました。

外線が空くと呼返音が鳴ります。受話器を上げると電話をかけることができます。

▼ 解除のしかた

外線予約を解除するときは、いったん受話器を戻します。

- 1 外線コールバックを設定中
- 2  を押す
- 3 ⑧①⑤を押す
805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。
- 4  を押す

これで、外線コールバックが解除できました。



よく外線予約/外線コールバックを利用する方へ
電話機のファンクションボタンに予約ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P. 5-18)を参照してください。

一斉呼出をする

席を外している人を呼び出したいときなどに、多機能電話機のスピーカを使って一斉に呼び出すことができます。(内線グループ呼出)

外線通話を保留したあと、一斉呼出をして呼び出した相手に電話を取り次ぐこともできます。(内線グループ呼出転送)



内線グループとは
いくつかの電話機を、部署ことなどのグループに分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 内線グループで呼び出す

<内線グループ呼出>

《 呼び出しかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①⑨を押す
- 3 グループ番号を押す
- 4 一斉呼出をする
指定した内線グループ内の電話機のスピーカから音声がかかります。
- 5 相手が出たら、通話する



《 受けかた 》

- 1 内線グループを呼出中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②③を押す
823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

▼ 内線グループ呼出を使って電話を取り次ぐ


<内線グループ呼出転送>

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2  を押す
- 3 ⑧①⑨を押す
819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。
- 4 グループ番号を押す
- 5 一斉呼出をする
- 6 相手が出たら、用件を伝える
- 7  を押す

これで、グループ呼出転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 内線グループを呼出中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②③を押す
823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と内線で通話する
- 5 そのまま待つ
- 6 相手が  を押すと、自動で外線とつながる
- 7 外線の相手と通話する



よく内線グループ呼出を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに内線グループ呼出ボタンおよび内線グループ呼出応答ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P. 5-18)を参照してください。

電話で会議する

<会議通話>

1つの通話に複数の人が参加して、同時に通話することができます。会議通話は、内線1人を含めた自由な組み合わせができ、システム全体で最大32人まで利用できます。



会議通話から抜けるときは
会議通話中に受話器を戻すまたは保留ボタン押下にて、会議通話から抜けることができます。

会議を保留したい
会議通話は保留できません。会議通話中に保留ボタンを押下した場合は、会議通話から抜けます。



注意
アナログ回線や一般電話機、ハンズフリーで会議に参加した場合、エコーが発生するなど通話品質が悪くなる場合があります。この場合は、ISDN回線や多機能電話機に変更したり、受話器での通話に変更したり、会議の参加人数を減らしたりするなどの対応が必要となります。詳しくは販売店にご相談ください。

▼内線の人を会議に参加させる

<内線呼出招集>

- 1 外線または内線と通話中

LINE 001	110
レコーダ 録音 会議	
- 2 “会議”のソフトキーを押す

内線ダイヤル	会議 通話
再応答 検索	
- 3 会議に参加させたい人の内線番号を押す

呼出	120
----	-----
- 4 相手が出たら、会議通話始めることを伝える

通話	120
登録	
- 5 “登録”のソフトキーを押す

内線ダイヤル	会議 通話
開始 検索	
- 6 “開始”のソフトキーを押す

LINE 001	会議 通話
120	

内線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。



ほかの人も参加させたい
上記手順5のあと手順3からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

会議通話を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに会議ボタンを割り付けておくと、ソフトキーの代わりにこのボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼外線の人を会議に参加させる

<2外線会議通話>

- 1 外線と通話中

LINE 001	110
レコーダ 録音 会議	
- 2 “会議”のソフトキーを押す

内線ダイヤル	会議 通話
--------	-------
- 3 消灯している外線ボタンを押す
- 4 会議に参加させたい人の電話番号を押す

LINE 002	0387654321
----------	------------
- 5 相手が出たら、会議通話始めることを伝える

LINE 002	0387654321
登録	
- 6 “登録”のソフトキーを押す

内線ダイヤル	会議 通話
開始 検索	
- 7 “開始”のソフトキーを押す

LINE 001	会議 通話
LINE 002	

外線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。



ほかの人も参加させたい
手順6のあと手順3からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

▼近くの人を会議に参加させる

<口頭会議招集>



注意
「ファンクションボタンの設定」により口頭会議招集ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

- 1 外線と通話中
- 2 (口頭会議招集ボタン) を押す

LINE 002	00:10
----------	-------

ほかの人が通話に参加できるようになりました。
- 3 会議に参加させたい人に声をかける
通話中の外線番号を伝えます。
- 4 会議に参加する人が受話器を上げる
- 5 会議に参加する人が上記手順3で聞いた外線ボタンを押す

LINE 001	会議 通話
120	

これで、会議通話になりました。

ほかの人の通話に割り込む

<通話割り込み> **工事**

ほかの人の内線または外線通話に割り込んで、通話に参加することができます。

▼ 内線通話への割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。



- 1 AさんとBさんが内線通話中
- 2 Cさんが受話器を上げる
- 3 Aさんの内線番号を押す

話中	120
----	-----

 話中音が聞こえます。
- 4 ⑧⑦⑧を押す

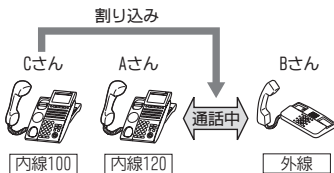
通話割り込み	120	130
--------	-----	-----

 808は、通話割り込みの特番（初期値）です。割り込み音が聞えます。

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。

▼ 外線通話への割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。



- 1 AさんとBさんが外線通話中
- 2 Cさんが受話器を上げる
- 3 Aさんが通話している□□(外線ボタン)を押す

LINE 001	通話割り込み
120	

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。



よく通話割り込みを利用する方へ

電話機のファンクションボタンに通話割り込みボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で通話割り込みのモードが「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

通話に割り込むとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

通話割り込みができない

次の場合には、通話割り込みができません。

- ・発信中または着信中
- ・保留中
- ・32人での会議通話
- ・モニターモードの場合

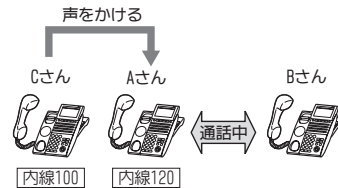
ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

ほかの人と通話中の内線相手に声をかける

<ボイスオーバー> **工事**

ほかの人と通話中の内線相手に、音声で割り込んで声をかけることができます。

▼ 声のかけかた



- 1 AさんとBさんが内線通話中
- 2 Cさんが受話器を上げる
- 3 Aさんの内線番号を押す

話中	120
----	-----

 話中音が聞こえます。
- 4 ⑧⑦③を押す

呼出	120
----	-----

 803は、話中呼出（待機中通知）の特番（初期値）です。
- 5 ⑧④①を押す

ボイスオーバー >>	120
------------	-----

 841は、ボイスオーバーの特番（初期値）です。割り込み音が聞えます。

これで、Cさんから、Aさんだけに声をかけることができました。



よくボイスオーバーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにボイスオーバーボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で通話割り込みのモードが「モニターモード」になっています。3者通話するためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

声をかけるとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通話音は鳴りません。

ボイスオーバーができない

次の場合には、ボイスオーバーができません。

- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話
- モニターモードの場合

ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

通話中に電話番号を記憶する

通話中に覚えておきたい電話番号を1件(最大24桁)だけ記憶することができます。

記憶のしかたには、次の2通りの方法があります。

- いまかけた電話番号を記憶する
<セーブドナンバーリダイヤル>
- 通話中に聞いた電話番号などを記憶する
<メモダイヤル>



- 記憶できる電話番号は、セーブドナンバーリダイヤルもメモダイヤルも、それぞれ1件ずつです。新しい番号を記憶すると、前の番号は消去されます。
- 「ファンクションボタンの設定」によりセーブドナンバーリダイヤルボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。
- 「ファンクションボタンの設定」によりメモダイヤルボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼ いまかけた電話番号を記憶する

<セーブドナンバーリダイヤル>

《登録のしかた》

- 1 外線に発信中または通話中
- 2 (登録) を押す

これで、いまかけた電話番号が記憶できました。

《かけかた》

- 1 を押す

プリセット	セーブドナンバー
	01234567
- 2 受話器を上げる
受話器を上げずに、約6秒経過すると待ち受け画面に戻ります。
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 確認のしかた

- 1 を押す
登録されている番号が表示されます。

プリセット	セーブドナンバー
	01234567
- 2 を押すと、待ち受け画面に戻る
Exitボタンを押さなくても、約6秒後に待ち受け画面に戻ります。

▼ 消去のしかた

- 1 を押す
- 2 を押す

セーブドナンバー 消去

818は、セーブドナンバーリダイヤル消去の特番(初期値)です。
- 3 を押す

これで、セーブドナンバーリダイヤルの登録内容が消去できました。

▼ 通話中に聞いた電話番号などを記録する

<メモダイヤル>

《登録のしかた》

- 1 通話中
- 2 を押す

メモダイヤル	00:15
--------	-------
- 3 登録したい番号を押す

メモダイヤル	00:15
	01234567
- 4 を押す

LINE 001	01:10
----------	-------




これで、メモダイヤルに登録できました。

《かけかた》





- 1 を押す

メモダイヤル
01234567
- 2 を押す
発信ボタンを押さずに、約6秒経過すると待ち受け画面に戻ります。
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 確認のしかた

- 1  (メモダイヤルボタン) を押す
登録されている番号が表示されます。
 (メモダイヤル) 01234567
- 2  を押すと、待ち受け画面に戻る
Exitボタンを押さなくても、約6秒後に待ち受け画面に戻ります。

《 消去のしかた 》

- 1  を押す
- 2  (メモダイヤルボタン) を押す
 (メモダイヤル)
- 3  を押す

これで、メモダイヤルの登録内容が消去できました。


こちらの声だけを一時的に消す

<送話カット>


外線または内線と通話中に、相手の声を聞きながら、こちらの声だけを一時的に消すことができます。

- 注意**
- 「ファンクションボタンの設定」により送話カットボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼ 設定のしかた

- 1 外線または内線と通話中
 - 2  (送話カットボタン) を押す
確認音が聞こえ、送話カットボタンが赤点灯します。
- これで、こちらの声は相手に聞こえなくなりました。

▼ 解除のしかた

- 1 送話カット中
 - 2  (送話カットボタン) を押す
確認音が聞こえ、送話カットボタンが消灯します。
- これで、こちらの声が相手に聞こえるようになりました。



キャッチホンサービスなどを利用する

<外線フッキング> **工事**

外線と通話中に、キャッチホンでかかってきた電話に応答することができます。

- 注意**
- 工事設定されていない電話機でフックボタンを押すと、外線通話が切れてしまいますので、注意してください。
 - ISDN回線、IPフォン回線を使用時は切断再捕捉になります。

▼ キャッチホンの受けかた

- 1 外線と通話中
- 2 キャッチホンの着信音が聞こえる
- 3  を押す
キャッチホンでかかってきた相手と電話がつながります。いままで通話していた相手には保留音が続きます。
- 4 キャッチホンでかかってきた相手と通話する
- 5 元の通話に戻るときは  を押す


以降は、フックボタンを押すたびに通話の相手を切り替えることができます。

電話情報サービスなどを利用する

<通話中PB信号送出>

外線または内線(相手が一般電話機などの場合)と通話中、電話情報サービスの番号入力などのためにPB信号(トーン)を送出することができます。

▼ 使いかた

- 1 外線と通話中
- 2  を押す
- 3 送出したい番号を押す




いつでもPB信号を送れるようにしたい
相手が応答後、自動でPB信号が送れるようにするには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。


登録済みの番号に別の番号を続けてかける

<追加ダイヤル>

短縮ダイヤルやワンタッチボタンなどで電話をかけるとき、続けて相手部署の内線番号などを押して、かけることができます。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2  (再/短) を押す
- 3 短縮番号を押す
- 4 追加したい番号を押す
- 5 相手が出たら、通話する


 追加ダイヤルが利用できる発信の種類
追加ダイヤルは、次の発信のときに利用できます。

- 短縮ダイヤルの発信
- ワンタッチボタンの発信
- 再ダイヤルの発信
- セーブドナンバーリダイヤルの発信
- メモダイヤルの発信


電話機のランプで伝言があることを知らせる

<伝言 (メッセージウェイティング)>


用件を伝えたい相手が通話中や不在などのとき、戻りしたい連絡をもらえるように、ランプの表示で知らせることができます。

 **注意** 伝言 (メッセージウェイティング) は、相手が多機能電話機またはメッセージウェイティングランプ付きの電話機の場合だけ利用できます。マルチラインデジタルコードレス電話機およびシングルゾーンデジタルコードレス電話機の場合には、着信/メッセージ/充電ランプに表示されます。





▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
相手が通話中、または誰も出ない状態です。
呼出 120
- 3  を押す
909は、伝言の特番 (初期値) です。
大型ランプが緑点灯します。
メッセージ >> 120
- 4 相手の電話機的大型ランプまたはメッセージウェイティングランプが点滅する
相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信/メッセージ/充電ランプがゆっくり赤点滅します。
- 5 受話器を戻す


これで、相手に伝言があることを知らせることができました。


 別の人にも伝言を設定したい
複数の相手に伝言を設定できます。ただし、設定側の電話機の表示器には最初に設定した相手だけが表示されます。

▼ 伝言を設定した相手の確認のしかた




- 1 大型ランプが緑点滅中
伝言が設定されている状態です。
- 2  を押す
メッセージ
- 3  を押す
909は、伝言の特番 (初期値) です。
伝言を設定した相手の内線番号が表示されます。
メッセージ 100
伝言を設定した相手の内線番号
- 4  (ボリューム) を押す
ほかにも伝言を設定しているときは、その相手が表示されます。ほかにも設定していなければ「メッセージ 無し」と表示されます。
- 5  を押すと、待ち受け画面に戻る

▼ 伝言を設定した相手の呼び出しかた


- 1 大型ランプが緑点滅中
伝言が設定されている状態です。
- 2 受話器を上げる
- 3  を押す
909は、伝言の特番 (初期値) です。
伝言を設定した相手を呼び出します。
呼出 100
- 4 相手が出たら、通話する

 よく伝言を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに伝言ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18) を参照してください。

▼ 解除のしかた

- 1 伝言を設定中
相手の大型ランプが緑点滅しています。
メッセージ >> 120
- 2  を押す
メッセージ キャンセル
- 3  を押す
911は、伝言解除の特番 (初期値) です。
- 4 伝言を解除したい内線番号を押す
メッセージ キャンセル 120
- 5  を押す

これで、伝言が解除できました。

 すべての伝言設定を一度に解除したい
上記手順3で910 (伝言全解除の特番の初期値) を押してからスピーカーボタンを押します。

かけてきた相手に不在の理由を知らせる

<テキストメッセージ>

不在時に内線から電話があったとき、相手の電話機に不在の理由や戻り時刻を表示させて、電話に出られないことを知らせることができます。

メッセージ一覧表	
01	□□：□□ [^] マテ [^] カイキ [^]
02	カイキ [^] シツ [^] ##### [^] ニ [^] イマス
03	カ [^] イシュツ [^] □□：□□ [^] ニ [^] キシヤ [^] ヨテイ
04	カ [^] イシュツ [^] ##### [^] ニレンラク
05	□□：□□ [^] マテ [^] テ [^] ンワニ [^] テ [^] ラレマセン
06	□□：□□ [^] マテ [^] キウウケイ
07	△△/△△ [^] マテ [^] シュツチョウチュウ
08	シュツチョウチュウ [^] #####
09	キタク [^] シマシタ
10	Eメール [^] ニ [^] レンラクシテクタ [^] サイ
11	工事段階でメッセージを登録しておくことができます。
20	詳しくは、販売店に相談してください。

- □□：□□には時刻を入力できます。
- △△/△△には日付を入力できます。
- #には電話番号などを入力できます。

▼ 設定のしかた

1 を押す

2 ⑨①④を押す

テキスト メッセージ
ダイヤル メッセージ No.

914は、テキストメッセージの特番（初期値）です。

3 メッセージ番号を押す

「メッセージ一覧表」を参照して、2桁（01～20）で押しください。

ほかのテキストメッセージに変更したい場合は、ボリュームボタン（▲または▼）を使って変更することができます。

4 戻り時刻などを入力する

- 時刻の入力：24時間制で入力する
(表示は12時間制になります)
- カーソルを右に移動：Helpボタンを押す
- カーソルを左に移動：Exitボタンを押す

5 を押す

これで、テキストメッセージが設定できました。

内線をかけてきた相手には、次のように表示されます。

1:30PMマテ[^]カイキ[^]



時刻を間違えたまま設定した

“26:40”など、時刻を間違えたまま設定すると、時刻部分が空白で表示されます。

▼ 解除のしかた

1 を押す

2 ⑨①④を押す

914は、テキストメッセージの特番（初期値）です。

テキスト メッセージ
ダイヤル メッセージ No.

3 を押す

これで、テキストメッセージが解除できました。

指定時刻にアラーム音を鳴らす

<アラーム>

指定した時刻に、電話機からアラーム音を鳴らすことができます。会議の開始時刻などをセットしておくとう便利です。アラームには次の2種類があります。

- アラーム1：1回だけ鳴る（鳴った時点で自動解除）
- アラーム2：毎日定刻に鳴る（解除するまで有効）

▼ 設定のしかた

1 を押す

2 ⑨①②を押す

アラーム 設定
1:アラム1 2:アラム2

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

3 アラームの番号を押す

アラーム 1 設定
時刻 ダイヤル

- 1：アラーム1（1回だけ鳴る）
- 2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

4 アラームを鳴らす時刻を入力する

アラーム 1 設定
3:05 pm


24時間制で入力します。表示は12時間制になります。例：午後3時05分の場合は1505と入力する

5 を押す

100 アラム 1

これで、アラームが設定できました。

▼ 確認のしかた

- 1  を押す


チェック

- 2 **⑨①②** を押す

チェック	912
------	-----


912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。
- 3 アラームの番号を押す

アラーム 1	3:05 pm
	9121


1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）
- 4  を押すと、待ち受け画面に戻る

▼ 止めかた

- 1 アラーム鳴動中

100	アラーム 1
-----	--------
 - 2  を押す
- これで、アラーム音が停止しました。

▼ 解除のしかた


- 1  を押す
 - 2 **⑨①②** を押す

アラーム 設定
1:アラーム1 2:アラーム2

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。
 - 3 アラームの番号を押す

アラーム 1 設定
時刻 ガイド

1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）
 - 4 **⑨⑨⑨⑨** を押す

アラーム 1 設定
解除
 - 5  を押す
- これで、アラームが解除できました。


電話機でブザー呼出を行う

<ブザー>

別室にいる人を呼びたいとき、電話機でブザー呼出を行うことができます。


注意 「ファンクションボタンの設定」によりブザーボタンを呼び側／呼ばれる側の両方の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

▼ 呼び出しかた


- 1 （ブザーボタン）を押す
ブザーボタンが赤点灯します。

これで、呼び出しができました。

▼ 受けかた

- 1 電話機から“トゥルルルル”という音が鳴る
ブザーボタンが赤点滅します。
- 2 （ブザーボタン）を押す
ブザーボタンが消灯します。

これで、ブザーが解除できました。


 **ブザー音とブザーの解除について**
ブザー音およびブザーボタンの点灯または点滅は、呼び出す側または呼び出される側で、ブザーボタンを押すと解除されます。

電話機から音楽などを流す


<BGM> **工事**

電話機のスピーカから、有線放送や外部音源からの音楽などをBGMとして流すことができます。設定は各電話機で行います。

▼ BGMの流しかた

- 1  を押す
- 2 BGMの特番（初期値：

B.G.M. 柶

）未設定、例：
⑨①⑧）を押す
特番は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 3  を押す

これで、BGMが流れ始めました。



電話を使おうとする

次のようなときは、BGMが止まります。そのあと電話機が未使用の状態に戻ると、BGMが再開します。

- 電話がかかってきたとき（着信音鳴動中）
- 受話器を上げたとき
- 一斉呼出中
- 発信/応答操作などで電話機のファンクションボタンを押したとき

▼ BGMの止めかた

1 を押す

2 BGMの特番（初期値： ）

未設定、例：

⑨ ① ⑧ を押す

特番は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

3 を押す

これで、BGMが止まりました。

会議室の様子を電話機から聞く

<ルームモニタ> **工事**

会議室などで話している様子を、電話機を通して聞くことができます。会議に参加しなくても、会議の内容は聞いておきたい場合などに利用できます。



「ファンクションボタンの設定」によりルームモニタボタンをモニタする側/される側の両方の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P. 5-18）を参照してください。

▼ 設定のしかた

《 モニタされる側 》

1 (ルームモニタボタン) を押す

2 自分の電話機の内線番号を押す

ルームモニタボタンが速い赤点滅になります。

これで、モニタされる側の設定ができました。

《 モニタする側 》

1 (ルームモニタボタン) を押す

2 モニタしたい相手の内線番号を押す 109

ルームモニタボタンが、ゆっくりした赤点滅になります。

これで、モニタする側の設定ができました。

▼ 解除のしかた

モニタする側とモニタされる側で共通の操作です。

1 モニタを設定中

2 (ルームモニタボタン) を押す

これで、モニタが解除されました。

通話相手の声を周りの人にも聞かせる

<グループリスニング>

受話器で通話中に、通話相手の声を多機能電話機のスピーカからも聞くことができます。周囲の人にも通話内容を同時に聞いてもらいたい場合などに利用できます。

▼ 設定のしかた

1 受話器で通話中

2 を押す

これで、通話相手の声

が、受話器とスピーカから聞こえるようになりました。

▼ 通話の終わるかた

1 グループリスニング使用中

2 を押す

3 受話器を戻す



通話を続けたまま、グループリスニングだけを終了したい

受話器を上げたまま、スピーカボタンを押します。

ハンズフリー通話に移行したい

グループリスニング中に、受話器を戻します。

- マイクランプが点灯している場合は、ハンズフリー通話（双方向の通話）になります。

- マイクランプが消灯している場合は、ハンズフリーモニタ（相手の声を聞くのみ）になります。

ハンズフリー通話をする場合、マイクを設定する必要があります。

詳しくは『受話器を置いたまま通話する』（⇒P. 1-52）を参照してください。



グループリスニング通話中は、次のことに注意してください。

- 音声が反響しやすいところや、周囲の騒音が大きいところでは通話品質が悪くなる場合があります。
- グループリスニング使用時は、受話器での通話が聞き取りにくくなる場合があります。
- 受話器とマイクを同時に使って通話することはできません（受話器を上げている間、マイクは動作しません）。

着信履歴を利用する

▼ 着信履歴を表示する

《 十字キーを使うとき 》

1 (再/短) を押す

再ダイヤル[#] / 短縮	0360313333
↑ ↓ 登録 削除	

最後にかけた相手の電話番号が表示されます。

- 着信履歴
- 『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)を参照してください。

2 を押す

01:	不在11-11 11:33	0330201111
↑ ↓ 登録 削除		

最後に着信した相手の電話番号が表示されます。十字キーの左右を押すごとに、発信履歴と着信履歴が表示されます。

3 (ポリリューム) または “↑” “↓” のソフトキーを押すと、着信履歴に記憶されている番号が切り替わる

十字キーの下(ポリリューム)または“↓”のソフトキーを押すごとに、着信履歴に記憶されている新しい番号から順に表示されます。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

《 ソフトキーを使うとき 》

1 “履歴”のソフトキーを押す

履歴	メニュー
発信	着信

2 “着信”のソフトキーを押す

01:	2-1 10:10	0312345678
↑ ↓ 登録 削除		

最後に着信した相手の電話番号が表示されます。

3 (ポリリューム) または “↑” “↓” のソフトキーを押すと、着信履歴に記憶されている番号が切り替わる

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

《 アイコンメニューを使うとき 》

1 (確定) ボタンを押す

[アイコンメニュー]	1/2
① 不在着信履歴	:003
② VM	:001
戻る	設定

アイコンメニュー画面が表示されます。

2 “1. 不在着信履歴”を選択する

01:	2-1 10:10	0312345678
↑ ↓ 登録 削除		

選択のしかたは『アイコンメニューを操作する』(⇒P.1-20)を参照してください。最後に着信した相手の電話番号が表示されます。

3 (ポリリューム) または “↑” “↓” のソフトキーを押すと、着信履歴に記憶されている番号が切り替わる

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。ここで操作を終了するときはクリアボタンを押してください。

▼ 短縮番号に登録する

着信履歴に登録されている電話番号を、短縮番号に登録することができます。

1 登録したい番号を表示させる

01:	2-1 10:10	0312345678
↑ ↓ 登録 削除		

『着信履歴を表示する』の『ソフトキーを使うとき』(⇒P.1-63)を参照してください。

2 “登録”のソフトキーを押す

01:	2-1 10:10	0312345678
短縮 個別1 個別2		

3 “短縮”のソフトキーを押す

短縮 登録	
短縮 No.	

スピーカボタンが赤点灯します。

4 短縮番号を押す

0900	0312345678
------	------------

5 を押す

短縮 0900	漢全
カナ ← →	↑

名前を入力しない場合は、手順7に進みます。

6 相手の名前を入力する

短縮 0900	漢全
鈴木一郎	カナ ← →

名前の入力のしかたは『文字を入力する』(⇒P.1-77)を参照してください。

7 を押す

短縮 0900	か半
カナ ← →	↑

手順6で入力した名前の読みカナ(半角12文字まで)が表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。

8 を押す

短縮 登録	
-------	--

9 を押す

これで、短縮番号に登録ができました。

注意

- 短縮番号を指定して登録する場合、すでにその番号が使われていたときには、上書きされます。
- 短縮ダイヤルを登録した直後にシステムの電源を切る場合、登録した短縮ダイヤルがシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは『電源の切りかた』(⇒P.xiii)を参照してください。



空いている短縮番号に登録したい

短縮番号を指定しないで、空いている短縮番号を自動的に選んで登録することができます。この場合、手順4で短縮番号の代わりに保留ボタンを押し、手順5に進みます。共通短縮ダイヤルへの登録操作ができる電話機（システム管理者の電話機）では、手順4で短縮番号の代わりに保留ボタンを押すと、次のように表示されます。

短縮 登録
登録先を選択して下さい
共通 個別

“共通”（共通短縮）に登録するか、“個別”（個別短縮）に登録するかをソフトキーで選ぶと、空いている短縮番号を自動的に選択します。空いている短縮番号がないときには、“登録できません”と表示されます。このとき、続けて短縮番号を押すと、その短縮番号に上書きして登録されます。

グループ短縮が使える場合は

手順3の操作のあと、“短縮”と“グループ”のソフトキーが表示されます。“短縮”のソフトキーを押したときは、手順3の表示に進みます。“グループ”のソフトキーを押したときは、手順3の表示の1行目が“グループ短縮 登録”となります。

“グループ”のソフトキーを押しても登録できないグループ短縮の登録ができる電話機は、システム管理者の電話機に限られています。

発着信履歴を削除する

▼ 発着信履歴を1件だけ削除する

記憶されている発着信履歴の番号を1件だけ削除します。

1 削除したい番号を表示させる

- 発信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左（再/短）メニューを操作する』（⇒P.1-22）または『発信履歴から探してかけ直す』（⇒P.1-29）を参照してください。

- 着信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左（再/短）メニューを操作する』（⇒P.1-22）または『着信履歴を表示する』（⇒P.1-63）を参照してください。

再ダイヤル[#] / 短縮
01234567
↑ ↓ 登録 削除

2 “削除”のソフトキーを押す

02
↑ ↓ 登録 削除
01234568

3 “1件”のソフトキーを押す

02
1件 全件
01234568

4 約30秒後に待ち受け画面に戻る

これで、発信履歴または着信履歴の番号が1件だけ削除できました。

▼ 発信履歴をすべて削除する

記憶されている発信履歴または着信履歴の番号をすべて削除します。

《 十字キーまたはソフトキーを使うとき 》

1 発信履歴を表示させる

- 発信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左（再/短）メニューを操作する』（⇒P.1-22）または『発信履歴から探してかけ直す』（⇒P.1-29）を参照してください。

- 着信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左（再/短）メニューを操作する』（⇒P.1-22）または『着信履歴を表示する』（⇒P.1-63）を参照してください。

再ダイヤル[#] / 短縮
01234567
↑ ↓ 登録 削除

2 “削除”のソフトキーを押す

再ダイヤル[#] / 短縮
01234567
1件 全件

3 “全件”のソフトキーを押す

発信履歴全件削除しますか?
Yes No

4 “Yes”のソフトキーを押す



発信履歴はありません

5 を押す

これで、発信履歴または着信履歴の番号がすべて削除できました。

《 特番を使うとき 》

発信履歴のみ削除することができます。

- 1  を押す
- 2 ⑧①⑦を押す
817は再ダイヤル消去の特番（初期値）です。
- 3  を押す



これで、発信履歴の番号がすべて削除できました。

同じ外線ですべて電話をかける

< 切断再捕捉 >

外線の相手と通話が終了したあと、受話器を戻すことなく、そのまま同じ外線ですべての相手に電話をかけることができます。この方法を使うと、通常のような外線へのかけ直し操作が不要となり、わずらわしさがなくなります。

▼ かけかた

- 1 外線通話中
- 2 通話終了
- 3 受話器を上げたまま、 を押す
- 4  を押す
いままで使っていた外線を捕捉したまま、通話だけが切れます。
- 5 続けてかける相手の電話番号を押す
- 6 相手が出たら、通話する



キャッチホンサービスなどを使用していないフックボタンを押すだけで切断再捕捉するように変更することができます。フックボタンを押すだけで切断再捕捉するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

取り次ぎ用の電話機を指定する

< 幹部着信転送 >

幹部宛ての電話などを、常に秘書が応答してから取り次ぐように、ボタンひとつで設定することができます。設定は、秘書側の電話機で行います。

注意

「ファンクションボタンの設定」により幹部着信代理応答ボタンを秘書の電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

▼ 設定のしかた

- 1 （幹部着信代理応答ボタン）を押す 200
幹部着信代理応答ボタンが赤点灯します。

これで、幹部着信転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 幹部着信転送を設定中
幹部着信代理応答ボタンが赤点灯します。
- 2 （幹部着信代理応答ボタン）を押す 200
幹部着信代理応答ボタンが消灯します。

これで、幹部着信転送が解除できました。

▼ 受けかた

- 1 幹部への着信が転送されてくる 200
幹部着信代理応答ボタンが赤点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する




ヘッドセットを使って通話する

<ヘッドセット接続> **工事**

受話器の代わりに別売のヘッドセットを使って通話できます。ヘッドセットの使用中は、ヘッドセットボタンを押すことで、受話器を上げたり戻したりの操作に相当します。

▼ 電話のかけかた

受話器を置いたまま、ヘッドセットを使って電話をかけます。

- 1  (ヘッドセットボタン) を押す
ヘッドセットボタンが赤点灯します。
- 2  (外線ボタン) を押す
ヘッドセットから、外線のダイヤルトーンが聞こえます。
- 3 電話番号を押す
- 4 相手が出たら、ヘッドセットで通話する
- 5 電話を切るときは、もう一度  (ヘッドセットボタン) を押す
ヘッドセットボタンが消灯します。



オンフック外線自動捕捉が設定されていると上記の手順1でヘッドセットボタンを押した時点で、ヘッドセットから外線のダイヤルトーンが聞こえ、電話がかけられます。




ヘッドセットでの通話から受話器に切り替えるには受話器を上げ、ヘッドセットボタンを押すと、受話器に切り替わります。

Bluetooth®ヘッドセットの場合

推奨のBluetooth®ヘッドセットを使用している場合は、通話開始時にヘッドセットボタンの代わりにBluetooth®ヘッドセットの通話(コントロール)ボタンを短く2回押します。電話を切るときは、通話(コントロール)ボタンを1回押します。

▼ 電話の受けかた

受話器を置いたまま、ヘッドセットを使って電話を受けます。

- 1 外線から着信中
- 2  (ヘッドセットボタン) を押す
ヘッドセットボタンが赤点灯します。
- 3 点滅中の  (外線ボタン) を押す
工事段階で設定されている電話機では、応答ボタンを押して受けることもできます。
- 4 相手と通話する
- 5 電話を切るときは、もう一度  (ヘッドセットボタン) を押す
ヘッドセットボタンが消灯します。



外線自動応答が設定されているとヘッドセットボタンを押すだけで電話を受けられます。

受話器での通話からヘッドセットに切り替えるには通話中にヘッドセットボタンを押すと、ヘッドセットに切り替わります。

Bluetooth®ヘッドセットの場合

推奨のBluetooth®ヘッドセットを使用している場合は、ヘッドセットボタンの代わりにBluetooth®ヘッドセットの通話(コントロール)ボタンを押します。

▼ 着信音量を調整する

工事

ヘッドセットから聞こえる次の着信音量を調整することができます。




- 通常の着信音
- 話中時の着信音



- 電話機のヘッドセットコネクタに接続されている有線ヘッドセットでのみ、この機能を利用することができます。
- 工事段階でスピーカとヘッドセットの両方から着信音を鳴らす設定になっている場合は、話中時の着信音量を変更できません(通話音量の変更となります)。


《 着信音量の変えかた 》

電話機を使っていないときに、次の操作を行います。

- 1  を押す
- 2 ⑨⑥②を押す
962は、ヘッドセット着信の音量設定の特番(初期値)です。
- 3 スピーカから着信音が鳴る
- 4  (ボリューム) を押して調整する
- 5  を押す

《 話中時の着信音量の変えかた 》

電話機を使っていないときに、次の操作を行います。

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑥②を押す
962は、ヘッドセット着信の音量設定の特番(初期値)です。
- 3 スピーカから着信音が鳴る
- 4  (ボリューム) を押して調整する
- 5 受話器を戻す

IP多機能電話機のボタン操作などを制限する

<セキュリティボタン> **工事**

IP多機能電話機をロック状態にしてボタン操作などを制限します。



- デジタル多機能電話機にセキュリティボタンはありません。
- 通話中はセキュリティボタンを使用できません。

▼ パスワードを変更する

パスワードには、あらかじめ“0000”が登録されています。セキュリティ機能を利用する前に、パスワードを変更しておきます。

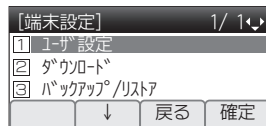
1 ボタンを押す

電話機のメニュー画面が表示されます。



2 “1 端末設定” を選択する

表示のしかたは『メニューボタンのメニューについて』(⇒P.1-10)を参照してください。



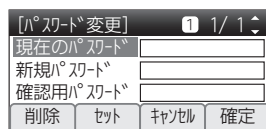
3 “1 1-ザ”設定” を選択する

表示のしかたは『メニューボタンのメニューについて』(⇒P.1-10)を参照してください。



4 “1 パスワード”変更” を選択する

表示のしかたは『メニューボタンのメニューについて』(⇒P.1-10)を参照してください。



5 古いパスワードを入力する

パスワードは4桁固定です。

6 “新規のパスワード”および“確認用パスワード”に新しいパスワードを入力する。

7 (確定) または “確定” のソフトキーを押す

端末設定画面に戻ります。しばらくすると待ち受け画面に戻ります。

これで、パスワードが変更できました。



パスワードを忘れてしまった
登録されているパスワードを調べることはできませんので、出荷時の状態(“0000”)に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

▼ セキュリティボタンを使用する

《 設定のしかた 》

1 セキュリティボタンを押す

2 “確定” のソフトキーを押す

セキュリティボタンのLEDが赤点灯します。また、スクリーンセーバーが起動して電話機がロック状態になります。キャンセルする場合は“キャンセル”のソフトキーを押します。

これで、電話機にセキュリティが設定できました。



セキュリティ設定中の電話機の動作について
セキュリティを設定している電話機は、次のような状態になります。

- ボタン操作や受話器を上げた場合、パスワード入力画面になります。パスワード入力以外の操作は拒否されます。(DSSコンソールや8/16LKボタンなども同様の動作になります。)

《 解除のしかた 》

1 電話機のボタンを押す

パスワードを入力する画面が表示されます。

2 パスワードを入力する

3 “確定” のソフトキーを押す

パスワードが正しいと、セキュリティボタンのLEDが消灯して待ち受け画面が表示されます。



パスワードを忘れてしまった
登録されているパスワードを調べることはできませんので、出荷時の状態に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

これで、電話機のセキュリティが解除できました。

共通短縮ダイヤルに登録した付加情報を表示する

<共通短縮付加情報表示>

共通短縮ダイヤルに登録した付加情報（住所や取引状態など）を、着信中および通話中に多機能電話機の表示器に表示することができます。

表示文字数は、1行あたり全角14文字または半角28文字で3行表示できます。

1 外線から着信中または外線と通話中


発信者番号または発信者名が表示されている場合にのみ表示されます。

LINE 001
日電 太郎 0312345678

2 (付加情報表示) を押す

日本電気株式会社
住所：東京都港区芝 00-00-00
登録日：2010年 8月 1日



共通短縮付加情報表示を終了したい付加情報表示中にもう一度  (付加情報表示) を押すと元の表示に戻ります。

外線から着信時、自動で付加情報表示を表示したい自動で共通短縮付加情報表示を表示させるには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご確認ください。

共通短縮付加情報表示の登録内容を変更したい共通短縮付加情報表示は、ユーザープログラミングまたは工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご確認ください。

注意

- 共通短縮付加情報表示を表示中は、ソフトキーを使用できません。
- 外線着信中に付加情報を表示中、その着信に回答すると付加情報表示を終了します。通話中に引き続き付加情報を表示したい場合は、着信に回答後、再度表示操作を行ってください。

センター電話帳を使う

センター電話帳について

工事

センター電話帳は、多機能電話機から利用できるシステムに内蔵されている電話帳です。

センター電話帳には、次の2種類があります。

- 共通短縮ダイヤル
システム全体で共用するための電話帳です。
システム全体で1個あり、最大2000件まで登録できます。
- 個別電話帳
電話機ごとに使用するための電話帳です。
システム全体で100グループあり、各電話帳に最大300件まで登録できます。個別電話帳は、1台の多機能電話機で、最大2つまで使用することができます。
工事段階の設定にて100グループ×最大300件を、50グループ×最大600件に変更できます。
個別電話帳を2つ使用するには、工事の段階の設定が必要です。

センター電話帳利用時のボタンの使いかたや操作のしかたは、次の項目を参照してください。

- ◆ センター電話帳利用時の各ボタンの使いかた (⇒P. 1-69)
- ◆ センター電話帳を起動する (⇒P. 1-70)
 - 電話帳のメニュー画面を表示する (⇒P. 1-70)
 - 電話帳の検索画面を表示する (⇒P. 1-70)
- ◆ 電話帳に登録する (⇒P. 1-71)
 - 新規で登録する (⇒P. 1-71)
 - 発信履歴から登録する (⇒P. 1-72)
 - 着信履歴から登録する (⇒P. 1-72)
- ◆ 電話帳の登録内容を変更する (⇒P. 1-74)
 - 電話帳を検索して変更する (⇒P. 1-74)
 - 発信履歴から変更する (⇒P. 1-74)
 - 着信履歴からの変更のしかた (⇒P. 1-74)
- ◆ 電話帳に登録されている内容を削除する (⇒P. 1-75)
 - 1件だけ削除する (⇒P. 1-75)
 - すべて削除する (⇒P. 1-75)
- ◆ 電話帳に登録されている相手を検索する (⇒P. 1-72)
 - 読みカナ検索のしかた (⇒P. 1-72)
 - グループ検索のしかた (⇒P. 1-73)
 - 電話番号検索のしかた (⇒P. 1-73)
 - メモリ番号検索のしかた (⇒P. 1-73)
- ◆ センター電話帳を設定する (⇒P. 1-75)
 - グループ名を変更する (⇒P. 1-75)
 - 電話帳をロック/ロック解除する (⇒P. 1-76)
 - 暗証番号を変更する (⇒P. 1-76)

センター電話帳利用時の各ボタンの使いかた

ここでは、センター電話帳の操作に使用するボタンのみを説明しています。

ボタン	待ち受け時またはセンター電話帳操作時	文字入力時
ソフトキー	メニューを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • 全角かな文字を変換します。 • カーソルを移動します。
Exit	センター電話帳を終了します。	
十字キー上下	<ul style="list-style-type: none"> • 画面を切り替えます。 • カーソルを移動します。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全角かな文字を変換します。 • 画面を切り替えます。
十字キー左右	<ul style="list-style-type: none"> • 電話帳検索画面を表示します。 • カーソルを移動します。 	<ul style="list-style-type: none"> • 前後の候補を表示します。 • カーソルを移動します。
確定	選択項目を確定します。	入力した文字や数字を確定します。
ダイヤルボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 文字や数字を入力します。 • 番号に該当する項目を確定します。 	文字や数字を入力します。
フック	—	<ul style="list-style-type: none"> • 文字入力モードを切り替えます。 • “R” (フッキング) を入力します。
特殊	1つ前の画面に戻ります。	<ul style="list-style-type: none"> • 文字や数字を消去します。 • 1つ前の画面に戻ります。
転送	—	“P” (ポーズ) を入力します。
クリア	1つ前の画面に戻ります。	<ul style="list-style-type: none"> • 文字や数字を消去します。 • 1つ前の画面に戻ります。
メニュー	センター電話帳のメニュー画面を表示します。	—
保留	選択項目を確定します。	入力した文字や数字を確定します。
応答	—	“@” (ワイルドカード) を入力します。

センター電話帳のアイコン表示の意味

センター電話帳の画面に表示されるアイコンの意味は、次のとおりです。

アイコン	意味
電話帳表示アイコン	
	電話帳に登録されている相手の名前です。
	相手に設定されている読みカナです。
	相手に設定されているグループ名です。
電話番号カテゴリアイコン	
	会社・勤務先の電話番号です。
	携帯電話またはPHSなどの電話番号です。
	ボイスメールへのアクセス番号です。
	自宅の電話番号です。
	その他の電話番号です。

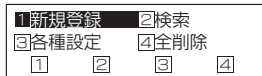
センター電話帳を起動する

▼ 電話帳のメニュー画面を表示する

1 “設定”のソフトキーを押す

2 “電話帳”のソフトキーを押す

センター電話帳のメニュー画面が表示されます。



3 メニューを選択する

次のいずれかの方法で、選択します。

- 項目に対応する番号を、ダイヤルボタンで押す
- 項目に対応する番号のソフトキーを押す
- 十字キーの上下左右で反転表示を移動し、確定ボタンを押す

4 各種操作をする

操作のしかたは、各ページを参照してください。

- 新規登録 ⇒ P.1-71へ
- 検索 ⇒ P.1-72へ
- 各種設定 ⇒ P.1-75へ
- 全削除 ⇒ P.1-75へ

▼ 電話帳の検索画面を表示する

電話帳検索画面を表示する方法には、次の3通りがあります。

- 十字キーを使って表示する
- ソフトキーを使って表示する
- センター電話帳のメニュー画面から表示する

“1 電話帳登録データは0件です”と表示された電話帳には1件も登録されていません。

次の画面が表示された

個別1:読み検索 加半
 英字 X2U-

ご使用の電話機では、個別電話帳1だけが利用できます。検索する電話帳の選択は不要です。

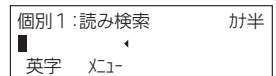
《 十字キーを使うとき 》

1 (電話帳)

を押す

電話帳検索画面が表示されます。

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右(電話帳)メニューを操作する』(⇒P.1-23)を参照してください。



2 電話をかける相手を検索する

操作のしかたは、各ページを参照してください。

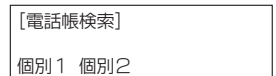
- 読みカナ検索 ⇒ P.1-72へ
- グループ検索 ⇒ P.1-73へ
- 電話番号検索 ⇒ P.1-73へ
- メモリ番号検索 ⇒ P.1-73へ

《 ソフトキーを使うとき 》

1 “検索”のソフトキーを押す

2 “電話帳”のソフトキーを押す

電話帳検索画面が表示されます。

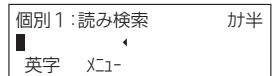


3 検索したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2

の最大2つの電話帳が利用できます。検索したい電話帳のソフトキーを押してください。読みカナを入力するための画面が表示されます。

(上記の画面は“個別1”のソフトキーを押した場合のものです。)



4 電話をかける相手を検索する

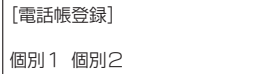
操作のしかたは、各ページを参照してください。

- 読みカナ検索 ⇒ P.1-72へ
- グループ検索 ⇒ P.1-73へ
- 電話番号検索 ⇒ P.1-73へ
- メモリ番号検索 ⇒ P.1-73へ

《 電話帳のメニュー画面から表示するとき 》

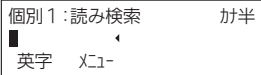
1 センター電話帳のメニュー画面で、“**電話帳登録**”を選択する

電話帳検索画面が表示されます。



2 検索したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の最大2つの電話帳が利用できます。検索したい電話帳のソフトキーを押してください。読みカナを入力するための画面が表示されます。(上記の画面は“個別1”のソフトキーを押した場合のものです。)



3 電話をかける相手を検索する

操作のしかたは、各ページを参照してください。

- 読みカナ検索 ⇒P.1-72へ
- グループ検索 ⇒P.1-73へ
- 電話番号検索 ⇒P.1-73へ
- メモリ番号検索⇒P.1-73へ

電話帳に登録する

▼ 新規で登録する

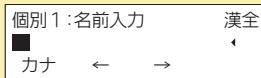
1 センター電話帳のメニュー画面で、“**新規登録**”を選択する

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

※“個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。



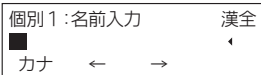
次の画面が表示された



ご使用の電話機では、個別電話帳1だけが利用できます。手順3に進んでください。

2 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の最大2つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。名前を入力するための画面が表示されます。(上記の画面は“個別1”のソフトキーを押した場合のものです。)



“！メモリ300件登録済みです 新規登録できません”と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。なお、50グループ×600件に設定されている場合は、“！メモリ600件登録済みです”と表示されます。50グループ×600件へは、工事段階の設定が必要です。

3 相手の名前を入力する

相手の名前は、全角で12文字(半角の場合24文字)まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、『文字を入力する』(⇒P.1-77)を参照してください。



4 **確定**を押す

たは **保留** を押す

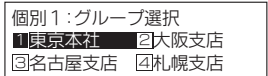
手順3で入力した名前の読みカナ(半角12文字まで)が表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。



5 **確定**を押す

たは **保留** を押す

グループを選ぶための画面が表示されます。



6 **確定**を押して、登録したいグループを表示する

7 登録したいグループを選択する

電話番号を入力するための画面が表示されます。



8 電話番号を入力する

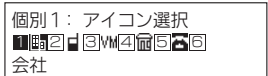
電話番号は、24桁まで入力できます。電話番号として使用できるのは、次の数字および記号です。

- 0～9、*、#
- P (ポーズ: 転送ボタン)
- R (フッキング: フックボタン)
- @ (ISDN応答待ちコード: 応答ボタン)

9 **確定**を押す

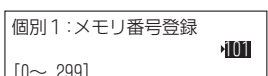
たは **保留** を押す

アイコンを選ぶための画面が表示されます。



10 登録したいアイコンを選択する

メモリ番号を入力するための画面が表示されます。画面には、空いている最も若番のメモリ番号が表示されます。



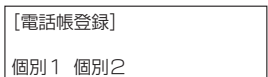
11 メモリ番号を入力する

表示されているメモリ番号に登録したいときは、手順12に進んでください。

12 **確定**を押す

たは **保留** を押す

しばらくすると、登録先の電話帳を選ぶための画面に戻ります。



複数の相手先を登録したい
手順2からの操作をくり返します。

13 Exit を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳に登録できました。

▼ 発信履歴から登録する

1 登録したい発信履歴を表示する

・発信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)または『発信履歴から探してかけ直す』(⇒P.1-29)を参照してください。

01	山田一郎
	0312345678
↑	↓ 登録 削除



ほかの発信履歴を見たい

発信履歴は、最大10件が記憶されています。十字キーの上下または“↑”、“↓”のソフトキーを押すと、番号が切り替わります。

電話をかけるときは
ここで発信の操作をします。

2 “登録”のソフトキーを押す

登録方法を選ぶための画面が表示されます。

※“個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

01	山田一郎
	0312345678
短縮	個別1 個別2



“！メモリ300件登録済みです 新規登録できません”と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。なお、50グループ×600件に設定されている場合は、“！メモリ600件登録済みです”と表示されます。50グループ×600件へは、工事段階の設定が必要です。

3 電話帳への登録操作をする

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。『電話帳の登録内容を変更する』(⇒P.1-74)の手順2以降を参照してください。なお、電話帳を使って発信した場合など、名前が登録されていた場合は、その名前が自動入力されます。また、電話番号には、ダイヤルした電話番号が入力されています。必要に応じて、修正してください。

▼ 着信履歴から登録する

1 登録したい着信履歴を表示する

・着信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)または『着信履歴を表示する』(⇒P.1-63)を参照してください。

※ mm:月、dd:日、hh:時、tt:分

01:	山田一郎
不在mm-dd hh:tt	0312345678
↑	↓ 登録 削除



ほかの着信履歴を見たい

着信履歴は、最大50件が記憶されています。十字キーの上下または“↑”、“↓”のソフトキーを押すと、番号が切り替わります。

電話をかけるときは
ここで発信の操作をします。

2 “登録”のソフトキーを押す

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

※“個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

01:	山田一郎
不在mm-dd hh:tt	0312345678
短縮	個別1 個別2



“！メモリ300件登録済みです 新規登録できません”と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。なお、50グループ×600件に設定されている場合は、“！メモリ600件登録済みです”と表示されます。50グループ×600件へは、工事段階の設定が必要です。

3 電話帳への登録操作をする

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。『電話帳の登録内容を変更する』(⇒P.1-74)の手順2以降を参照してください。なお、名前には、ネーム・ディスプレイで通知されてきた名前が自動入力され、電話番号は、ナンバー・ディスプレイで通知されてきた電話番号が入力されています。必要に応じて、修正してください。

電話帳に登録されている相手を検索する



“！電話帳登録データは0件です”と表示された
電話帳には1件も登録されていません。

▼ 読みカナ検索のしかた

1 電話帳の検索画面を表示する

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右(電話帳)メニューを操作する』(⇒P.1-23)または『電話帳の検索画面を表示する』(⇒P.1-70)を参照してください。

個別1:読み検索	加半
■	’
英字	メユ-

2 読みカナを入力する

読みカナを入力する画面が表示されます。

個別1:読み検索	加半
■	’
英字	メユ-



英数字を入力したい

フックボタンを押すと、入力モードが切り替わります。

3 読みカナを入力する

入力した読みカナに該当する候補が表示されます。

ここで、操作を終了するときはExitボタンを押してください。

■	鈴木一郎 PHS
□	鈴木太郎 PHS
■	07012345678

4 読みカナを入力して、候補を選ぶ

候補の番号のダイヤルボタンを押して選ぶこともできます。

5 読みカナを入力して、候補を選ぶ

読みカナを入力して、候補を選ぶ画面が表示されます。

選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

101	鈴木一郎 PHS
■	07012345678
変更	削除 発信

これで、電話帳から読みカナで検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

▼ グループ検索のしかた

1 電話帳の検索画面を表示する
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右(電話帳)メニューを操作する』(⇒P.1-23)または『電話帳の検索画面を表示する』(⇒P.1-70)を参照してください。


個別1:読み検索 加半
英字 Xユ-

2 “メニュー”のソフトキーを押す
検索方法を選ぶための画面が表示されます。

[検索メニュー]
読み グループ 番号 メモリ


3 “グループ”のソフトキーを押す
グループを選ぶための画面が表示されます。



個別1:グループ検索
1 東京本社 2 大阪支店
3 名古屋支店 4 札幌支店

4 を押して、検索したいグループを表示する

5 検索したいグループの番号を押す
グループに所属する登録内容が表示されます。なお、該当するグループ内に登録内容が1件のみの場合は、手順7の画面が表示されます。

1 鈴木一郎 PHS
2 鈴木太郎 PHS
3 07012345678

6 を押して、候補を選ぶ
候補の番号を数字ボタンを押して選ぶこともできます。

7  (確定) または  を押す
選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

101 鈴木一郎 PHS
3 07012345678
変更 削除 発信

これで、電話帳からグループで検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

▼ 電話番号検索のしかた

1 電話帳の検索画面を表示する
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右(電話帳)メニューを操作する』(⇒P.1-23)または『電話帳の検索画面を表示する』(⇒P.1-70)を参照してください。

個別1:読み検索 加半
英字 Xユ-


2 “メニュー”のソフトキーを押す
検索方法を選ぶための画面が表示されます。

[検索メニュー]
読み グループ 番号 メモリ


3 “番号”のソフトキーを押す
電話番号を入力するための画面が表示されます。



個別1:電話番号検索
Xユ-

4 電話番号を入力する

5 を押す
電話番号に該当する候補が表示されます。該当する候補が1件のみの場合は、手順7の画面が表示されます。

1 鈴木一郎 PHS
2 鈴木太郎 PHS
3 07012345678

6 を押して、候補を選ぶ
候補の番号を数字ボタンを押して選ぶこともできます。

7  (確定) または  を押す
選んだ候補が確定され、登録内容が表示されます。

101 鈴木一郎 PHS
3 07012345678
変更 削除 発信

これで、電話帳から電話番号で検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

▼ メモリ番号検索のしかた

1 電話帳の検索画面を表示する
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの右(電話帳)メニューを操作する』(⇒P.1-23)または『電話帳の検索画面を表示する』(⇒P.1-70)を参照してください。


個別1:読み検索 加半
英字 Xユ-

2 “メニュー”のソフトキーを押す
検索方法を選ぶための画面が表示されます。

[検索メニュー]
読み グループ 番号 メモリ

3 “メモリ”のソフトキーを押す
メモリ番号を入力するための画面が表示されます。

個別1:メモリ番号検索
Xユ- [0~299]

4 メモリ番号を入力して、を押す
メモリ番号に該当する相手が表示されます。なお、3桁のメモリ番号の場合は、十字キーの操作が不要です。

101 鈴木一郎 PHS
3 07012345678
変更 削除 発信

これで、電話帳からメモリ番号で検索できました。

電話をかけるときは、ここで発信の操作をします。

電話帳の登録内容を変更する

▼ 電話帳を検索して変更する

1 修正したい内容を表示する




検索する場合は、『電話帳に登録されている相手を検索する』(⇒P.1-72)を参照してください。

101鈴木一郎 PHS
☎07012345678
変更 削除 発信

2 “変更”のソフトキーを押す

修正する項目を選ぶための画面が表示されます。

個別1:電話帳変更
☑鈴木一郎 PHS
☑双“キ”のPHS ☑東京本社

3 を押して、修正したい項目を選ぶ4  (確定) または  を押す

選んだ項目の修正画面が表示されます。修正のしかたは、新規登録の操作と同様です。

- 相手の名前を選んだ場合
『電話帳に登録する』(⇒P.1-71)の手順3～手順5→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- 相手の名前の読みカナを選んだ場合
『電話帳に登録する』(⇒P.1-71)の手順4、手順5→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- グループを選んだ場合
『電話帳に登録する』(⇒P.1-71)の手順6、手順7→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。
- 電話番号を選んだ場合
『電話帳に登録する』(⇒P.1-71)の手順8～手順10→修正する項目を選ぶための画面に戻ります。

5 を押して、“メモリ番号の登録へ”を選択する

個別1:電話帳変更
☑メモリ番号の登録へ

6  (確定) または  を押す

メモリ番号を入力するための画面が表示されます。画面には、現在のメモリ番号が表示されます。

登録先を変更する場合は、新しいメモリ番号を入力してください。このとき、入力したメモリ番号の状態によって表示される画面が異なります。

- すでに別の電話帳データが登録されている場合
手順7の画面(現在登録されている電話帳データの名前)が表示されます。手順8に進んでください。
- 電話帳データが登録されていない場合
手順8の画面が表示されます。手順9に進んでください。

7  (確定) または  を押す

確認画面が表示されます。

8 “Yes”のソフトキーを押す

書き換えたくないときは、“No”のソフトキーを押します。

※十字キーの左右で“Yes”を選択し、確定ボタンまたは保留ボタンを押して決定することもできます。

個別1:電話帳変更
鈴木一郎 PHS
書き換えますか?Yes No

メモリ番号: 101登録しました
電話帳登録件数 101/ 300件

9  を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳の登録内容が変更できました。

▼ 発信履歴から変更する

電話帳に登録されている相手に電話をかけた場合、発信履歴には電話帳に登録されている名前などが表示されます。この発信履歴から電話帳の登録内容を修正することができます。

1 変更したい発信履歴を表示する

・発信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)または『発信履歴から探してかけ直す』(⇒P.1-29)を参照してください。

2 “登録”のソフトキーを押す

登録方法を選ぶための画面が表示されます。

※“個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

01 山田一郎
0312345678
短縮 個別1 個別2

3 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の最大2つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。電話帳を修正するための画面が表示されます。

4 電話帳に登録されている内容を変更する

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。『電話帳の登録内容を変更する』(⇒P.1-74)の手順2以降を参照してください。

▼ 着信履歴からの変更のしかた

電話帳に登録されている相手からの着信の場合、着信履歴には電話帳に登録されている名前などが表示されます。この着信履歴から電話帳の登録内容を修正することができます。

1 変更したい着信履歴を表示する

・着信履歴

『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)または『着信履歴を表示する』(⇒P.1-63)を参照してください。

2 “登録”のソフトキーを押す

登録先の電話帳を選ぶための画面が表示されます。

※mm:月、dd:日、hh:時、tt:分
※“個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

01: 山田一郎
不在mm-dd hh:tt 0312345678
短縮 個別1 個別2



“!メモリ300件登録済みです 新規登録できません”と表示された

個別電話帳への登録件数が一杯になっています。登録したいときは、不要な登録先を削除してください。なお、50グループ×600件に設定されている場合は、“!メモリ600件登録済みです”と表示されます。50グループ×600件へは、工事段階の設定が必要です。

3 登録したい電話帳のソフトキーを押す

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の最大2つの電話帳が利用できます。登録したい電話帳のソフトキーを押してください。電話帳を修正するための画面が表示されます。

4 電話帳に登録されている内容を変更する

以降の操作は、電話帳の登録内容修正と同様です。『電話帳の登録内容を変更する』(⇒P.1-74)の手順2以降を参照してください。

電話帳に登録されている内容を削除する**▼ 1件だけ削除する****1 削除したい内容を表示する**

検索する場合は、『電話帳に登録されている相手を検索する』(⇒P.1-72)を参照してください。

101鈴木一郎 PHS
☎07012345678
変更 削除 発信

2 “削除”のソフトキーを押す

確認画面が表示されます。

個別1:データ削除
削除しますか? Yes No

3 “Yes”のソフトキーを押す

削除したくないときは、“No”のソフトキーを押します。

※ 十字キーの左右で “Yes” を選択し、確定ボタンまたは保留ボタンを押して決定することもできます。

! 削除しました

4 Exit を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、登録内容が1件だけ削除できました。

▼ すべて削除する**1 メニュー画面で、“全削除”を選択する**

暗証番号を入力するための画面が表示されます。

個別1:全削除
暗証番号を4桁入力して下さい



次の画面が表示された

[電話帳削除]

個別1 個別2

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の2つの電話帳が利用できます。削除したい電話帳のソフトキーを押してください。

※ “個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

2 暗証番号4桁を入力する

暗証番号が一致すると、確認画面が表示されます。

個別1:全削除
電話帳全削除しますか? Yes No



暗証番号を忘れてしまった

暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態 (“0000”)に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

3 “Yes”のソフトキーを押す

削除したくないときは、“No”のソフトキーを押します。

※ 十字キーの左右で “Yes” を選択し、確定ボタンまたは保留ボタンを押して決定することもできます。

! 電話帳全削除しました

4 Exit を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳の登録内容がすべて削除できました。

センター電話帳を設定する**▼ グループ名を変更する**

グループ名は、初期状態では “グループ01” ~ “グループ20” となっています。このグループ名を、わかりやすい名称に変更できます。

1 メニュー画面で、“各種設定”を選択する

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

[各種設定]

グループ名編集 ロック 暗証

2 “グループ名編集”のソフトキーを押す

変更するグループ名を選ぶための画面が表示されます。

個別1:グループ名編集

■ 東京本社 □ 大阪支店

☑ 名古屋支店 ☒ 札幌支店



次の画面が表示された

[電話帳選択]

個別1 個別2

ご使用の電話機では、個別電話帳1、個別電話帳2の2つの電話帳が利用できます。グループ名を変更したい電話帳のソフトキーを押してください。

※ “個別1”、“個別2”の表示は初期値です。設定によって表示が変わります。

3 変更したいグループを表示させる**4 変更したいグループの番号を押す**

グループ名を入力するための画面が表示されます。

個別1:グループ名編集


■ 東京本社 □ カナ

5 グループ名を入力する

グループ名は、半角で12文字まで、全角で6文字まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、『文字を入力する』(⇒P.1-77)を参照してください。

個別1:グループ名編集 漢全
神田 田社 ←
カナ

6  (確定) ま

たは  を押す

変更したグループ名が、一覧に表示されます。

!登録しました

個別1:グループ名編集
1神田本社 2大阪支店
3名古屋支店 4札幌支店


7  を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、グループ名称が変更できました。

▼ 電話帳をロック/ロック解除する

センター電話帳を、一時的に使用できないようにします。この操作には、暗証番号を入力します。暗証番号については、『暗証番号を変更する』(⇒P.1-76)を参照してください。

《 電話帳をロックする 》**1** メニュー画面で、“ 各種設定”を選択する

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

[各種設定]
グループ名編集 ロック 暗証

2 “ロック”のソフトキーを押す

暗証番号を入力するための画面が表示されます。

[電話帳ロック]
暗証番号を4桁入力して下さい

3 暗証番号を入力する

暗証番号が一致すると、次の画面が表示されます。

!電話帳ロックしました

**暗証番号を忘れてしまった**

暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態(“0000”)に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

4  を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、電話帳がロックできました。

**電話帳ロック中の動作**


電話帳のロック中には、ロックの解除以外の電話帳操作はできなくなります。操作しようとする時、“!電話帳ロック中です”と表示されます。

《 ロック解除のしかた 》

電話帳をロックするときと同じ操作をします。暗証番号が一致すると、“!電話帳ロック解除しました”と表示されます。

▼ 暗証番号を変更する

電話帳の全件削除や、電話帳ロックに使用する暗証番号を変更します。暗証番号は、工場出荷時には“0000”に設定されています。

1 メニュー画面で、“ 各種設定”を選択する

設定項目を選ぶための画面が表示されます。

[各種設定]
グループ名編集 ロック 暗証

2 “暗証”のソフトキーを押す

現在の暗証番号を入力するための画面が表示されます。

[暗証番号設定]
暗証番号を4桁入力して下さい

3 暗証番号を入力する

暗証番号が一致すると、新しい暗証番号を入力するための画面が表示されます。


[暗証番号設定]
新規番号を4桁入力して下さい

**暗証番号を忘れてしまった**

暗証番号を調べることはできませんので、出荷時の状態(“0000”)に戻してもらってください。詳しくは、システム管理者または販売店にご相談ください。

4 新しい暗証番号を入力する

!暗証番号設定しました

5  を押す

待ち受け画面に戻ります。

これで、暗証番号が変更できました。

文字を入力する

▼ 入力のしかた

各ボタンを押したときに表示される文字は、『文字入力一覧表』(⇒P.1-78)を参照してください。



文字入力モードと表示について

フックボタンまたは電話帳ボタンを押すことに、文字入力モードが次のように切り替わります。

- 漢全：全角ひらがな・漢字入力モード
- ↓
- 加半：半角カタカナ入力モード
- ↓
- 英半：半角英字入力モード
- ↓
- 数半：半角数字入力モード

濁点、半濁点を入力するには

全角ひらがな・漢字、半角カタカナ入力モードで、*を押します。

表示可能な漢字について

JIS X 0208：1990/1997の文字規格に対応しています。

10 (確定) または を押す

入力した名前が確定されます。

これで、名前を入力できました。



文字の入力を間違えた

間違えた文字の上または右にカーソルを移動して、特殊ボタンまたはクリアボタンを押すと、1文字ずつ消去できます。

例：“鈴木部長 PHS” と入力する場合

1 “すずき” と入力する

◎を3回(す)、“→”のソフトキーまたは十字キーの右、◎を3回(す)、*を1回(´)、◎を2回(き)と押します。

すずき 漢全
変換 ← →

2 “変換” のソフト

キーを押す

変換候補が表示されます。

すずき 漢全
1 鈴木 2 鈴樹 3 鈴城 4 鈴置

3 ①を押す

変換結果が確定されます。

鈴木 漢全
カナ ← →

4 “いちろう” と入力する

①を2回(い)、④を2回(ち)、◎を5回(ろ)、①を3回(う)と押します。

5 “変換” のソフト

キーを押す

変換候補が表示されます。

鈴木いちろう 漢全
1 一郎 2 一朗 3 市郎 4 一良

6 ①を押す

変換結果が確定されます。

鈴木一郎 漢全
カナ ← →

7 (フック) を2回押して、文字入力モードを半角英字入力モードに切り替える

鈴木一郎 英半
数字 ← →

8 (#) を押す

半角スペースが入力されます。

9 “PHS” と入力する

◎を1回(P)、◎を2回(H)、◎を4回(S)と入力します。

鈴木一郎 PHS 英半
数字 ← →

▼ 文字入力一覧表

文字入力モードを切り替えるときは、フックボタンを押します。

《 全角ひらがな・漢字入力モードのとき 》

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
①ア	あ	い	う	え	お	あ	い	う	え	お	「あ」に戻る	
②カ	か	き	く	け	こ	「か」に戻る						
③サ	さ	し	す	せ	そ	「さ」に戻る						
④タ	た	ち	つ	て	と	っ	「た」に戻る					
⑤ナ	な	に	ぬ	ね	の	「な」に戻る						
⑥ハ	は	ひ	ふ	へ	ほ	「は」に戻る						
⑦マ	ま	み	む	め	も	「ま」に戻る						
⑧ヤ	や	ゆ	よ	や	ゆ	よ	「や」に戻る					
⑨ラ	ら	り	る	れ	ろ	「ら」に戻る						
⑩ワ	わ	を	ん	「わ」に戻る								
＊	゛	゜	ー	・	「	」	、	・	「゛」に戻る			
＃	空白 (スペース)											

《 半角カタカナ入力モードのとき 》

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
①ア	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	「ア」に戻る	
②カ	カ	キ	ク	ケ	コ	「カ」に戻る						
③サ	サ	シ	ス	セ	ソ	「サ」に戻る						
④タ	タ	チ	ツ	テ	ト	ッ	「タ」に戻る					
⑤ナ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	「ナ」に戻る						
⑥ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	「ハ」に戻る						
⑦マ	マ	ミ	ム	メ	モ	「マ」に戻る						
⑧ヤ	ヤ	ユ	ヨ	ヤ	ユ	ヨ	「ヤ」に戻る					
⑨ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ	「ラ」に戻る						
⑩ワ	ワ	ヲ	ン	「ワ」に戻る								
＊	゛	゜	ー	。	「	」	、	・	「゛」に戻る			
＃	空白 (スペース)											

《 半角英字入力モードのとき 》

ダイヤルボタン	ダイヤルボタンを押す回数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
①ア	1	@	[¥]	^	_	`	{		}	→	←	「1」に戻る	
②カ	A	B	C	a	b	c	「A」に戻る								
③サ	D	E	F	d	e	f	「D」に戻る								
④タ	G	H	I	g	h	i	「G」に戻る								
⑤ナ	J	K	L	j	k	l	「J」に戻る								
⑥ハ	M	N	O	m	n	o	「M」に戻る								
⑦マ	P	Q	R	S	p	q	r	s	「P」に戻る						
⑧ヤ	T	U	V	t	u	v	「T」に戻る								
⑨ラ	W	X	Y	Z	w	x	y	z	「W」に戻る						
⑩ワ	0	!	"	#	\$	%	&	'	()	「0」に戻る				
✳	*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	「*」に戻る		
＃	空白 (スペース)														

(注) “→”、“←” は、正しく表示されません。

《 半角数字入力モードのとき 》

ダイヤルボタン	
①ア	1
②カ	2
③サ	3
④タ	4
⑤ナ	5
⑥ハ	6
⑦マ	7
⑧ヤ	8
⑨ラ	9
⑩ワ	0
✳	*
＃	#

デジレス電話機とは

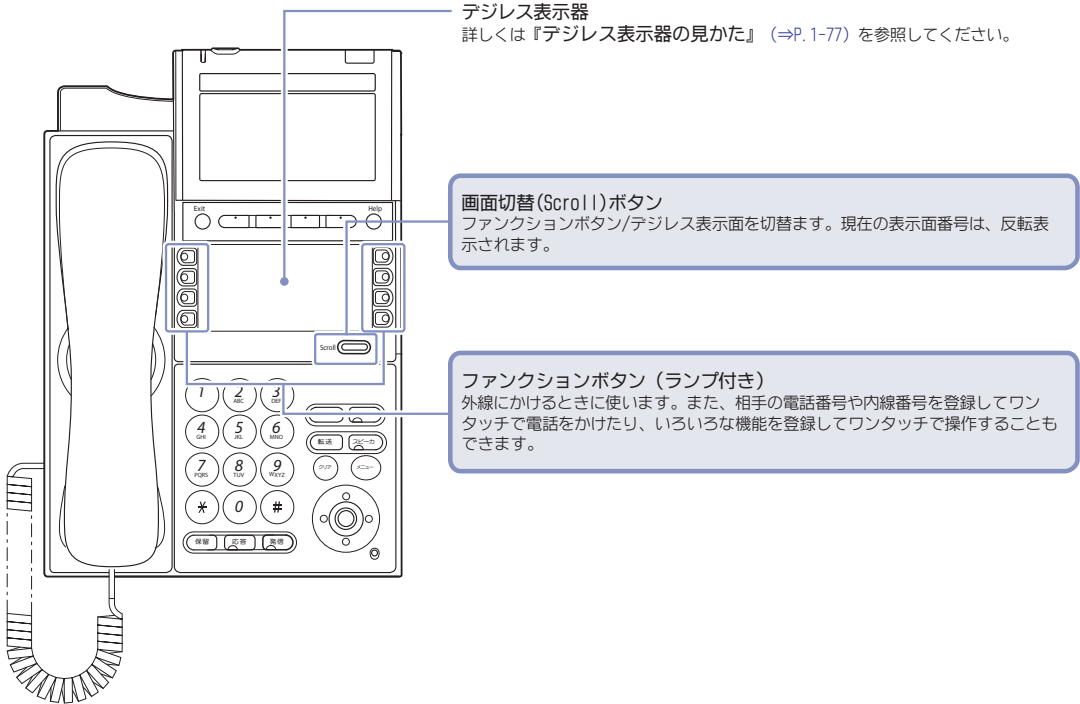
ファンクションボタン部にデジレス表示器を配置した多機能電話機です。

(ITL-320C-1Dの場合は、大画面LCDに表示)

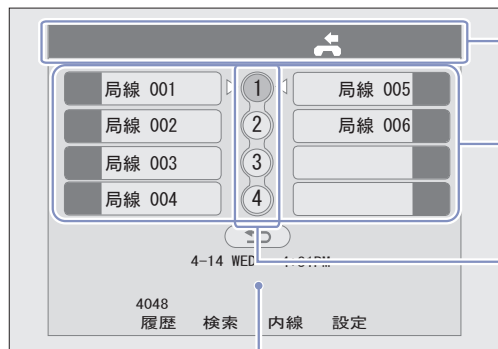
デジレス電話機以外の多機能電話機ではファンクションボタン登録内容を示名条片に表記する必要がありました。デジレス電話機では、デジレス部の表示器に表示させることができます。

デジレス部には8個のファンクションボタンがあり、ページ切替 (Scroll) ボタン (8LDの場合) を押すまたはページアイコンにタッチ (320C) して1~4の面を選択することができます。これにより32個のファンクションボタンを使用できます。

DTL-8LD-1D / ITL-8LD-1Dのデジレス関連ボタンの使いかた



ITL-320C-10のデジレス部の使いかた

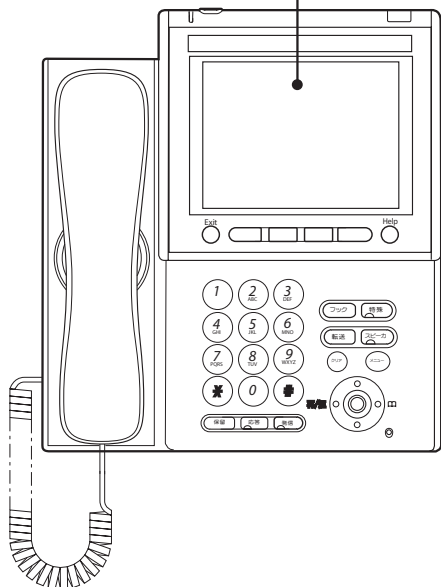


アイコン
詳しくは、『状態アイコン表示の意味』(⇒P.1-79)を参照してください。

デジレス表示部
詳しくは、『デジレス表示器の見かた』(⇒P.1-77)を参照してください。

ページアイコン
ファンクションボタン/デジレス表示面を切替ます。

表示器
多機能電話機の表示器(デジタル多機能電話機の2~4段目、IP多機能電話機の3~5段目)と同じです。
詳しくは、『表示器の見かた』(⇒P.1-4)を参照してください。



デジレス表示器の見かた



外線1～8の面を表示中、外線9への着信を表示したい

イベントが発生した場合、ページアイコン部を点滅させてイベント通知させることができます。また、着信発生時に自動的に表示面を切り替えることもできます。イベント通知および状態に合わせた自動表示面切替は、工事段階で設定します。詳しくは販売店にご確認ください。

デジレス表示器の表示例：

《 DTL-8LD-1D/ITL-8LD-1D 状態アイコン表示無し場合 》

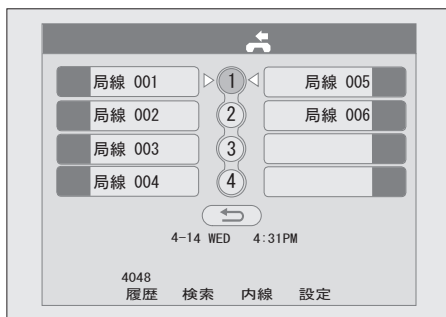
局線 001	1	局線 005
局線 002	2	局線 006
局線 003	3	
局線 004	4	

《 DTL-8LD-1D/ITL-8LD-1D 状態アイコン表示あり場合 》

局線 001	1	局線 005
局線 002	2	局線 006
局線 003	3	
局線 004	4	

《 ITL-320C-1Dの場合 》

つねに状態アイコン表示ありです。



ファンクションボタン登録内容表示について

デジレス表示器には、登録されているファンクションボタンの登録内容を表示できます。

ファンクションボタン登録内容として表示できる文字数は、次のとおりです。

状態アイコンありの場合	状態アイコンなしの場合
全角5文字、半角11文字	全角6文字、半角13文字

上記の文字数は、全てのファンクションボタンで共通です。



DSS/ ワンタッチボタン以外のボタンへの表示文字について

DSS/ ワンタッチボタンおよび自動で表示文字が登録されるボタン以外への表示文字入力は工事段階で行います。詳しくは、販売店にご確認ください。

下記のファンクションボタンを登録した場合、自動でファンクション登録内容表示に表示文字が表示されます。ファンクションボタンの消去（機能番号：000）または下記以外のファンクションボタンを登録した場合は、表示文字が消去されます。

自動で表示されるファンクションボタン：

機能番号	ボタン名	表示文字	備考
01	DSS/ワンタッチ	XXXXXXXX	登録した内線番号が表示されます。「DSS/ワンタッチボタン登録時の表示文字登録」を参照。
02	マイク	マイク	
03	着信拒否	着信拒否	
04	BGM<ON/OFF>	BGM	
05	ヘッドセット	ヘッドセット	
07	会議	会議	
10	着信転送	着信転送	
11	話中転送	話中転送	
12	不応答転送	不応答転送	
13	話中・不応答転送	話中・不応答	
14	不在着信転送	不在転送	
15	フォローミー	フォローミー	
*00	内線	内線	
*01	外線	外線 XXX	XXXは001～200 (外線ポート番号)
*02	索線	外線G XXX	XXXは、001～100 (外線グループ番号)
*03	仮想内線	内線XXXXXXXX	XXXXXXXXは、仮想内線番号
*04	パーク保留	パーク XX	XXは、01～64
*10	ACDログイン/ログアウト	ログイン	

DSS/ワンタッチボタン登録時の表示文字登録について
DSS/ワンタッチボタンを特番操作にて登録後、表示文字入力が可能です。
表示文字を入力しない場合、登録した内線番号または電話番号が表示されます。

DSS/ワンタッチボタンの登録手順

- 1 を押す
- 2 を押す
917は、機能ボタン設定 (一般機能レベル) の特番 (初期値) です。
- 3 画面切替 (Scroll) ボタンを押す (8LDの場合) または ページアイコンをタッチ (320C) して 割付けたい面を選択します。
- 4 割り付けたい (ファンクションボタン) を押す
































- 5 を押す
01は、DSS/ワンタッチボタンの機能番号です。
- 6 登録する内線番号または電話番号をダイヤルする。
- 7 を押す
確認音 (ブツ) が聞こえます
- 8 表示文字を入力する
表示文字は、状態アイコンなしの場合全角6文字、状態アイコンありの場合全角5文字まで入力できます。また、全角と半角を混ぜて使用できます。文字入力のしかたは、『文字を入力する』(⇒P.1-77) を参照してください。
- 9 を押す
手順8で入力した表示文字の読みカナ (状態アイコンなしの場合13文字、ありの場合11文字) が表示されます。読みカナを修正するときは、文字入力と同じ要領で修正します。
- 10 を押す
確認音 (ブツ) が聞こえます
- 11 を押す

これでDSS/ワンタッチボタンの登録および表示文字入力できました。

状態アイコン表示の意味

ITL-320C-1D TELおよびDTL/ITL-8LD-1D TELのデジレス部に状態アイコンを表示できます。

各状態アイコンの意味は次のとおりです。

ファンクションボタン (機能番号)	アイコン表示						
<ul style="list-style-type: none"> 外線ボタン (*01)、索線ボタン (*02)、仮想内線ボタン (*03)、パーク保留ボタン (*04) 	<table border="0"> <tr> <td>【着信中】 </td> <td>【通話中(自己)】 </td> </tr> <tr> <td>【通話中(他者)】 </td> <td>【保留中(自己)】  (点滅)</td> </tr> <tr> <td>【保留中(他者)】 </td> <td>【保留リコール】  (点滅)</td> </tr> </table> <p>パーク保留ボタンは、【着信中】、【通話中(自己)】、【通話中(他者)】表示しません。 索線ボタンは、【保留中(他者)】表示しません。</p>	【着信中】 	【通話中(自己)】 	【通話中(他者)】 	【保留中(自己)】  (点滅)	【保留中(他者)】 	【保留リコール】  (点滅)
【着信中】 	【通話中(自己)】 						
【通話中(他者)】 	【保留中(自己)】  (点滅)						
【保留中(他者)】 	【保留リコール】  (点滅)						
<ul style="list-style-type: none"> ボイスメールサービス (67) 	<table border="0"> <tr> <td>【新規メッセージあり】 </td> <td>【メッセージあり/メッセージ登録規制設定中】 </td> </tr> </table>	【新規メッセージあり】 	【メッセージあり/メッセージ登録規制設定中】 				
【新規メッセージあり】 	【メッセージあり/メッセージ登録規制設定中】 						
<ul style="list-style-type: none"> 留守番電話 (70) 	<table border="0"> <tr> <td>【全着信転送設定中】 </td> <td>【話中/不応答転送設定中】  (点滅)</td> </tr> </table>	【全着信転送設定中】 	【話中/不応答転送設定中】  (点滅)				
【全着信転送設定中】 	【話中/不応答転送設定中】  (点滅)						
<ul style="list-style-type: none"> その他のファンクションボタン 	<p>【機能設定中またはONなど】 </p>						



一般電話機を使う

一般電話機を使うときの注意	2-2
外線に電話をかける	2-3
内線に電話をかける	2-5
電話を受ける	2-8
代理で電話を受ける	2-9
電話を保留する・取り次ぐ	2-11
電話に出られないとき	2-14
便利な使いかた	2-18

一般電話機を使うときの注意

一般電話機をご使用前に

ここでは、本システムに市販の一般電話機を接続して使うときの操作を説明しています。
一般電話機独自の機能やお手入れのしかたなどについては、一般電話機に添付の取扱説明書を参照してください。
一般電話機独自の機能が、本システム内で利用できるかどうかについては、販売店にご確認ください。

注意

お手持ちの一般電話機を本システムに接続する前に、必ず販売店にご相談ください。機器によっては、コネクタの形状は同じに見えても、そのまま接続すると、本システムや機器が故障する場合があります。

特番について

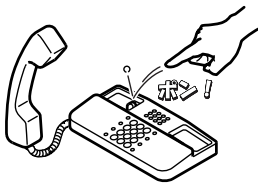
一般電話機では、機能ボタンやファンクションボタンがないため、本システムのいろいろな操作は、すべて特番を使います。各操作の特番は、本文中に記載されています。

注意

特番は、工事段階で変更されていることがあります。記載されている特番を押しても操作できないときは、システム管理者または販売店に確認してください。

保留のしかた

一般電話機で通話を保留するには、多機能電話機の保留ボタンの代わりに、「フッキング」という操作を行います。
フッキングとは、電話機のフックボタンを押してすぐ放す操作のことです。



注意

フックボタンを長く押しすぎると、電話が切れてしまうことがあります。フックボタンは、ポンと押して、すぐ放してください。



フッキングがうまくいかない

フッキングしても保留できない、または電話が切れてしまうことが多いときは、工事段階での調整が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線に電話をかける

外線への電話のかけかたには、次の方法があります。

- ◆ 受話器を上げてかける
 - 通常のかけかた
 <外線自動選択> (⇒P.2-3)
 - 0を押してからかける
 <空外線自動選択> (⇒P.2-3)
- ◆ 特番を使ってかける
 - 外線グループ内の空き外線を使ってかける
 <外線グループ捕捉> (⇒P.2-3)
 - 指定した外線を使ってかける
 <指定外線捕捉> (⇒P.2-3)
- ◆ 最後にかけた相手にかけ直す
 <再ダイヤル> (⇒P.2-4)
- ◆ 短縮番号を使ってかける
 <短縮ダイヤル発信> (⇒P.2-4)



外線グループとは

いくつかの外線を、部署ことなどのグループに分けたものです。電話をかけるときに外線グループを指定すると、そのグループ内の空外線を自動的に選んで発信できます。

受話器を上げてかける

一般電話機では、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 受話器を上げて、かける
 <外線自動選択>
- 受話器を上げ、0を押してから、かける
 <空外線自動選択>

▼ 通常のかけかた

<外線自動選択> **工事**

- 1 受話器を上げる
 “ツー”という音が聞こえます。
- 2 電話番号を押す
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 0を押してからかける

<空外線自動選択>

- 1 受話器を上げる
- 2 ①を押す
 0は、外線発信番号です。
 “ツー”という音が聞こえます。
- 3 電話番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する



0を押してもかけられない

通常は0を使用しますが、別の番号に変更されることもあります。工事段階で変更されているかどうかを、販売店にご確認ください。

特番を使ってかける

工事

あらかじめ設定された特番を使って外線に電話をかけることができます。

指定できる外線は、次のとおりです。

- 外線グループ内の空いている外線
 <外線グループ捕捉>
- 指定した外線
 <指定外線捕捉>

▼ 外線グループ内の空き外線を使ってかける

<外線グループ捕捉>

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①④を押す
 814は、外線グループ捕捉の特番(初期値)です。
- 3 外線グループ番号を押す
 外線グループ内の空き外線を選びます。
 外線グループ番号は、販売店にご確認ください。
- 4 電話番号を押す
- 5 相手が出たら、通話する

▼ 指定した外線を使ってかける

<指定外線捕捉>

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①⑤を押す
 815は、指定外線捕捉の特番(初期値)です。
- 3 外線番号を押す
- 4 電話番号を押す
- 5 相手が出たら、通話する



外線番号とは

システムに取容されている回線に、工事段階で割り振られた番号のことです。
 CCPU-A1の場合は2桁、CCPU-B1の場合は3桁で指定してください。

CCPU-B1の場合の例：

例：外線番号1の場合は“001”と押す

最後にかけた相手にかけ直す

<再ダイヤル> **工事**

電話をかけた相手にもう一度かけたいとき、特番操作で電話をかけ直すことができます。
記憶できる電話番号は、最大24桁です。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①②を押す
812は、再ダイヤルの特番（初期値）です。
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 消去のしかた

記憶されている発信履歴の番号を消去します。

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①⑦を押す
817は再ダイヤル消去の特番（初期値）です。
- 3 受話器を戻す

これで、再ダイヤルの番号が消去できました。

短縮番号を使ってかける

<短縮ダイヤル発信>

あらかじめ登録されている短縮番号を利用して電話をかけることができます。
短縮番号の登録内容については、システム管理者に確認してください。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①①を押す
810は、共通・個別短縮ダイヤル発信の特番（初期値）です。グループ短縮ダイヤル発信の場合は811（初期値）を押します。
- 3 短縮番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する



短縮番号で発信できない

ご使用の電話機では、短縮番号に設定されている相手の利用を規制されていることが考えられます。システム管理者に確認してください。



注意

一般電話機からは、共通短縮ダイヤルおよび個別短縮ダイヤルを登録できません。共通短縮ダイヤルの登録は、システム管理者の多機能電話機からのみ行えます。個別短縮ダイヤルの登録は、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線に電話をかける

内線への電話のかけかたには、次の方法があります。

- ◆ 内線呼び出す
＜内線相互接続＞（⇒P.2-5）
- ◆ 相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す
＜内線予約／内線コールバック＞（⇒P.2-5）
- ◆ 相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す
 - ・別の内線番号を呼び出す
＜リセットコール＞（⇒P.2-6）
 - ・同じ内線グループ内の内線呼び出す
＜ステップコール＞（⇒P.2-6）
- ◆ 電話機の周囲にいる人に呼びかける
＜信号／音声呼出切替＞（⇒P.2-6）
- ◆ ほかの部署にかける
 - ・部署の代表番号にかけ
＜内線代表呼出＞（⇒P.2-6）
 - ・相手が通話中のとき、別の内線呼び出す
＜内線代理着信＞（⇒P.2-6）
- ◆ 受話器を上げるだけで特定の内線にかけ
＜内線ホットライン＞（⇒P.2-7）



内線グループとは

いくつかの電話機を、部署ごとなどのグループに分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

内線呼び出す

＜内線相互接続＞

内線に電話をかけることができます。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
- 3 相手が出たら、通話する

相手の通話が終わりしだい自動で呼び出す

＜内線予約／内線コールバック＞ **工事**

内線にかけた相手が通話中のとき、相手の電話が終わりしだい呼び出す、または知らせが入るようにすることができます。設定のしかたには、次の2通りの方法があります。

- 内線予約
相手の電話が終わるまで、受話器を持ったまま待ち、電話が終わりしだい呼び出すようにする
- 内線コールバック
いったん電話を切り、相手の電話が終わったら知らせが入るようにする

▼ 設定のしかた

- 1 内線を呼出中
- 2 話中音が聞こえる
- 3 ⑧①④を押す

804は、外線・内線予約の特番（初期値）です。

これで、内線予約が設定できました。

そのままの状態ですと、相手の電話が終わりしだい、相手呼び出します。電話をいったん切つて待つとき（内線コールバック）は、次の手順4に進みます。

- 4 受話器を戻す

これで、内線コールバックが設定できました。

相手の通話が終わると、呼返音が鳴ります。受話器を上げると相手呼び出します。

▼ 解除のしかた

受話器を上げたまま待っている場合（内線予約中）は、いったん受話器を戻します。

- 1 内線コールバックを設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧①⑤を押す

805は、外線・内線予約解除の特番（初期値）です。

- 4 受話器を戻す

これで、内線コールバックが解除できました。

相手が出ないとき、ほかの内線にかけ直す

内線にかけた相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに、ほかの人を呼び出し直すことができます。

注意

リセットコールとステップコールは、内線呼出中のときだけ利用できます。相手が出たあとでかけ直すときは、電話をいったん切ってください。

▼ 別の内線番号を呼び出す

<リセットコール> **工事**

内線にかけた相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに別の内線番号を押して、かけ直すことができます。

- 1 内線を呼出中
- 2 相手が出ない、または話中音が聞こえる
- 3 別の内線番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する

▼ 同じ内線グループ内の内線を呼び出す

<ステップコール> **工事**

内線にかけた相手が出ないとき、そのまま電話を切らずに特番を押すと、相手と同じ内線グループ内の内線にかけ直すことができます。

- 1 内線を呼出中
- 2 ⑧⑦を押す
807は、ステップコールの特番（初期値）です。最初に呼び出していた相手と同じ内線グループの人を呼び出します。
- 3 相手が出たら、通話する

電話機の周囲にいる人に呼びかける

<信号/音声呼出切替>

内線にかけた相手が出ないとき、多機能電話機のスピーカから音声を出して、周囲の人にも声をかけます。音声に切り替えたあと、元の信号音での呼出に戻すこともできます。

▼ かけかた

- 1 内線を呼出中
- 2 ⑧⑦⑥を押す
806は、信号/音声呼出切替の特番（初期値）です。
- 3 着信音が切り替わる
信号音で呼び出していた場合は音声に、音声で呼び出していた場合は信号音に切り替わります。このあとは、特番を押すたびに着信音が切り替わります。

ほかの部署にかける

社内の電話機を、部署単位などでグループ分けができます。その部署に対し、次の2通りの方法で電話をかけることができます。

- 部署の代表番号にかける<内線代表呼出>
- 相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す<内線代理着信>

▼ 部署の代表番号にかける

<内線代表呼出> **工事**

内線番号とは別に、部署全体の内線番号（代表番号）を決めておくことができます。その代表番号を押して、部署内の空いている電話機を呼び出すことができます。

- 1 受話器を上げる
- 2 内線代表番号を押す
- 3 相手が出たら、通話する



内線代表呼出で着信する電話機

内線代表呼出で着信する際の着信順には、パイロット方式と簡易UCD方式の2種類があります。

- パイロット方式：
常に着信順が1番目に設定されている電話機に着信する
- 簡易UCD方式：
前回着信した電話機の次の順番に設定されている電話機に着信する

工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

▼ 相手が通話中のとき、別の内線を呼び出す

<内線代理着信> **工事**

電話をかけたい相手が通話中の場合は、同じ部署内の空いている電話機を呼び出すことができます。

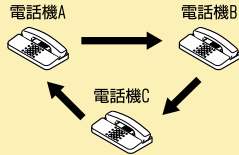
- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
- 3 電話をかけた相手が通話中のとき、自動でほかの内線を呼び出す
- 4 相手が出たら、通話する



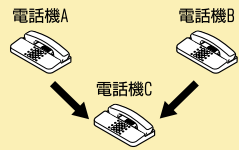
内線代理着信で着信する電話機

内線代理着信で着信する際の着信方式には、次の2種類があります。

- 話中時の転送先が円を描いている場合
電話機A→電話機B→電話機C→電話機Aというように、順次転送されます。
もし、すべての電話機が話中の場合には、電話をかけてきた相手に話中音を流します。



- 話中時の転送先が1台の電話機に集中している場合
どの電話機にかけても、通話中には決まった電話機に転送されます。



工事段階の設定により、着信する方式が変わります。どちらの方式になっているかは、販売店にご確認ください。

受話器を上げるだけで特定の内線にかける

<内線ホットライン> **工事**

受話器を上げるだけで、特定の内線に電話をかけることができます。会社などの、無人の受付で利用すると便利です。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
あらかじめ決められた相手呼び出します。
- 2 相手が出たら、通話する



内線ホットラインの電話機で、外線にかきたい工事段階の設定で「ホットラインタイム」を設定する必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話を受ける

電話の受けかたには、次の方法があります。

- ◆ 受話器を上げるだけで受ける
＜着信自動応答＞（⇒P.2-8）
- ◆ 特番を使って受ける
＜分散応答＞（⇒P.2-8）
- ◆ 内線からの電話を受ける
＜内線応答＞（⇒P.2-8）

受話器を上げるだけで受ける

＜着信自動応答＞

電話がかかってきたとき、受話器を上げるだけで応答します。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中（着信音が鳴動）
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する

特番を使って受ける

＜分散応答＞ **工事**

電話がかかってきたとき、受話器を上げて特番を押して応答します。

▼ 受けかた

- 1 外線から着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧④③を押す
843は、分散応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する



着信音が鳴動している場合は
受話器を上げるだけで応答することができます。

内線からの電話を受ける

＜内線応答＞

内線からの呼出に応答します。

▼ 受けかた

- 1 内線から着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する

代理で電話を受ける

ほかの人への着信を手元の電話機で受けるには、次の方法があります。

- ◆ほかの人への電話を代わりに受ける
 <指定内線代理応答> (⇒P. 2-9)
- ◆同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける
 - ・外線一般着信以外の電話を代わりに受ける
 <内線指定呼代理応答> (⇒P. 2-9)
 - ・外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける
 <グループ代理応答> (⇒P. 2-9)
- ◆ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける
 - ・グループ番号を指定して受ける
 <グループ指定代理応答> (⇒P. 2-10)
 - ・ほかのグループへの着信を受ける
 <他グループ代理応答> (⇒P. 2-10)

機能ごとに代理応答できる着信とできない着信は、下表のとおりです。

○：代理応答可 ×：代理応答不可

代理応答の機能名	代理応答の対象	着信の種類			
		外線一般着信	外線個別着信	内線着信	ドアホン着信
指定内線代理応答	指定した内線	○	○	○	○
内線指定呼代理応答	自分が所属する代理応答グループ	×	○	○	○
グループ代理応答	グループ内の内線	○	○	○	○
グループ指定代理応答	指定した代理応答グループ内の内線	○	○	○	○
他グループ代理応答	他の代理応答グループの内線	○	○	○	○



代理応答グループとは

代理応答を行う電話機をグループ化したものです。内線グループとは異なります。グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

ほかの人への電話を代わりに受ける

<指定内線代理応答> **工事**

ほかの人への着信に、手元の電話機から内線番号を指定して、代わりに応答することができます。

▼ 受けかた

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑨を押す
829は、指定内線代理応答の特番（初期値）です。
- 4 着信先の内線番号を押す
- 5 相手と通話する

同じ代理応答グループ内への電話を代わりに受ける

自分が所属する代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。

応答のしかたには、次の2通りの方法があります。

- ・外線一般着信以外の電話を代わりに受ける
 <内線指定呼代理応答>
- ・外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける
 <グループ代理応答>

▼ 外線一般着信以外の電話を代わりに受ける

<内線指定呼代理応答> **工事**

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑤を押す
825は、内線指定呼代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

▼ 外線一般着信を含めた電話を代わりに受ける

<グループ代理応答> **工事**

- 1 ほかの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑦を押す
827は、グループ代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

ほかの代理応答グループへの電話を代わりに受ける

ほかの代理応答グループの人への電話に、手元の電話機で代わりに応答することができます。代理応答グループが複数あるときは、その代理応答グループ番号を指定して応答できます。応答のしかたには、次の2通りの方法があります。

- グループ番号を指定して受ける
＜グループ指定代理応答＞
- ほかのグループへの着信を受ける
＜他グループ代理応答＞

▼ グループ番号を指定して受ける

＜グループ指定代理応答＞ **工事**

- 1 ほかの代理応答グループの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑥を押す
826は、グループ指定代理応答の特番（初期値）です。
- 4 着信先の代理応答グループ番号を押す
- 5 相手と通話する

▼ ほかのグループへの着信を受ける

＜他グループ代理応答＞ **工事**

- 1 ほかの代理応答グループの内線に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②⑧を押す
828は、他グループ代理応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

電話を保留する・取り次ぐ

外線や内線の電話の保留や取り次ぎかたには、次の方法があります。

- ◆ 外線との通話を保留する
 - ・ 保留する
＜保留＞（⇒P. 2-11）
 - ・ 保留を維持する
＜保留維持＞（⇒P. 2-11）
- ◆ 外線との通話をほかの人に取り次ぐ
 - ・ 保留した通話を自動で取り次ぐ
＜自動保留転送＞（⇒P. 2-11）
 - ・ 内線グループ保留して取り次ぐ
＜内線グループ保留＞（⇒P. 2-12）
 - ・ パーク保留して取り次ぐ
＜パーク保留＞（⇒P. 2-12）
- ◆ 着信音だけで取り次ぐ
＜呼出状態転送＞（⇒P. 2-12）
- ◆ 内線通話を保留する
＜内線保留＞（⇒P. 2-12）
- ◆ 内線通話を取り次ぐ
＜内線の自動保留転送＞（⇒P. 2-13）

外線との通話を保留する

通話中に相手を待たせるとき、保留音を流して通話を保留にすることができます。

▼ 保留する

＜保留＞

《 保留のしかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする

これで、通話を保留できました。



フッキングしたあと受話器を戻すと呼返音が鳴り続けます。このとき受話器を上げると、保留していた通話を再開することができます。呼返音が鳴らないように保留したい場合は、『保留を維持する』の操作をしてください。

《 再開のしかた 》

- 1 外線を保留中
- 2 フッキングする
- 3 相手と通話する

▼ 保留を維持する

＜保留維持＞

《 保留のしかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧④⑤を押す
845は、保留維持の特番（初期値）です。
- 4 受話器を戻す

これで、通話を保留維持できました。

《 再開のしかた 》

- 1 外線を保留中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧④⑥を押す
846は、保留維持応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と通話する

外線との通話をほかの人に取り次ぐ

外線との通話をほかの人に取り次ぐことができます。電話の取り次ぎかたには、次の3通りの方法があります。

- ・ 保留した通話を自動で取り次ぐ
＜自動保留転送＞
- ・ 通話を内線グループ保留して取り次ぐ
＜内線グループ保留＞
- ・ 通話をパーク保留して取り次ぐ
＜パーク保留＞

▼ 保留した通話を自動で取り次ぐ

＜自動保留転送＞ **工事**

外線との通話を内線通話で用件を伝えたあと、転送ボタンを押して取り次ぐことができます。取り次ぎ先の相手は、待っているだけで自動的に外線とつながります。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 取り次ぎたい相手の内線番号を押す
- 4 内線通話で電話を取り次ぐことを伝える
- 5 受話器を戻す

これで、自動保留転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 内線通話のあと、そのまま待つ
- 2 自動的に外線とつながる
- 3 外線の相手と通話する

▼ 内線グループ保留して取り次ぐ

<内線グループ保留>

外線通話を内線グループ保留すると、内線グループ内のほかの電話機から、特番を押して応答することができます。一般電話機など、外線ボタンがない電話機からでも応答できます。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧③③を押す
833は、内線グループ保留登録の特番（初期値）です。
- 4 受話器を戻す

これで、内線グループ保留ができました。
このあと、同じ内線グループ内のほかの人に取り次ぐことができます。

《 受けかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧③④を押す
834は、内線グループ保留応答の特番（初期値）です。
- 3 相手と通話する

▼ パーク保留して取り次ぐ

<パーク保留>

外線ボタンがない電話機に取り次ぎたい通話が複数あるときは、パーク保留することができます。パーク番号を押して応答することができます。

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧③①を押す
831は、パーク保留登録の特番（初期値）です。
- 4 パーク番号を押す
パーク番号は、01から64のうち、いずれかを押ししてください。
- 5 受話器を戻す

これで、パーク保留ができました。
ほかの人に取り次ぐときは、上記手順4で押したパーク番号を伝えます。

《 受けかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧③②を押す
832は、パーク保留応答の特番（初期値）です。
- 3 パーク番号を押す
パーク保留するときに押したパーク番号を押します。
- 4 相手と通話する

▼ 着信音だけで取り次ぐ

<呼出状態転送>

外線からの電話を保留にしたあと、内線を呼び出し、相手が出る前に電話を切って取り次ぎます。こうすると、取り次ぎ先で改めて着信音が鳴ります。相手が不在の場合には、一定時間が経過すると、転送元の電話機で警報音が鳴ります。

▼ 取り次ぎかた

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 取り次ぎ先の内線番号を押す
- 4 相手が出る前に受話器を戻す

これで、転送ができました。

▼ 受けかた

- 1 着信音が鳴る
- 2 受話器を上げる
- 3 外線の相手と通話する

▼ 内線通話を保留する

<内線保留>

外線通話を保留するのと同じように、通話していた相手に保留音を流し、待ってもらうことができます。

▼ 保留のしかた

- 1 内線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 受話器を戻す

これで、内線通話が保留できました。



フッキングしたあと受話器を戻すと
呼返音が鳴り続けます。このとき受話器を上げると、保留していた通話を再開できます。

▼ 再開のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 相手と通話する

内線通話を取り次ぐ

<内線の自動保留転送>

内線通話をほかの人に取り次ぐことができます。

▼ 取り次ぎかた

- 1 内線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 取り次ぎ先の内線番号を押す
- 4 相手が出たら、用件を伝える
- 5 受話器を戻す

これで、内線通話の取り次ぎができました。

▼ 受けかた

- 1 内線と通話中
- 2 そのまま待つ
相手が受話器を戻すと、保留になっていた内線と通話がつながります。

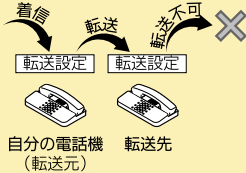
電話に出られないとき

会議や外出などで席を外すときや、通話中で別の電話に出ることができないときの転送設定には、次の方法があります。

- ◆ 自分宛ての電話をすべて転送する
 - ・ 転送元と転送先で着信音を鳴らす
 <不在着信転送> (⇒P. 2-14)
 - ・ 転送先だけ着信音を鳴らす
 <着信転送> (⇒P. 2-15)
 - ◆ 通話中にかかってきた電話をすべて転送する
 <話中転送> (⇒P. 2-15)
 - ◆ 電話に出られないときに転送する
 <不応答転送> (⇒P. 2-16)
 - ◆ 通話中や電話に出られないときに転送する
 <話中/不応答転送> (⇒P. 2-16)
 - ◆ 移動先から転送の設定をする
 <フォローミー> (⇒P. 2-17)
- また、不在設定や着信拒否、通話中の相手を、緊急で呼び出す必要がある場合には、次の方法があります。
- ◆ 不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す
 <バイパスコール> (⇒P. 2-17)
 - ◆ 通話中の相手を緊急で呼び出す
 - ・ 通話中の相手を呼び出す
 <話中呼出> (⇒P. 2-17)
 - ・ 通話中の呼び出しを受ける
 <コールウェイティング> (⇒P. 2-17)



転送先の電話機でも転送が設定されていると転送先の電話機で設定されている転送先には転送されません。このときは、転送先の電話機に着信します。



自分宛ての電話をすべて転送する

工事

会議などで電話に出られないときに、かかってきた電話を、ほかの電話機に転送することができます。転送には、次の2通りの方法があります。

- ・ 転送元と転送先で着信音を鳴らす
 <不在着信転送>
- ・ 転送先だけ着信音を鳴らす
 <着信転送>

▼ 転送元と転送先で着信音を鳴らす

<不在着信転送>

《 設定のしかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑨⑦⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番(初期値)です。

3 ①を押す

4 転送先の内線番号を押す

5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が設定できました。

《 解除のしかた 》

1 不在着信転送を設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨⑦⑤を押す

905は、不在着信転送の設定と解除の特番(初期値)です。

4 ①を押す

5 受話器を戻す

これで、不在着信転送が解除できました。

▼ 転送先だけ着信音を鳴らす

<着信転送>

転送を設定中に着信すると、転送先の電話機だけ着信音が鳴り、応答できます。

《 設定のしかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑦①を押す
901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す
- 4 転送先の番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、着信転送が設定できました。

《 解除のしかた 》

- 1 着信転送を設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦①を押す
901は、着信転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 受話器を戻す

これで、着信転送が解除できました。



外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、着信転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [901] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ 受話器を戻す
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

▼ 通話中にかかってきた電話をすべて転送する

<話中転送> **工事**

通話中にかかってきた電話を、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑦②を押す
902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す
- 4 転送先の番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、話中転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 話中転送を設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦②を押す
902は、話中転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 受話器を戻す

これで、話中転送を解除できました。



外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [902] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ 受話器を戻す
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

電話に出られないときに転送する

< 不応答転送 > **工事**

着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑦③を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す
- 4 転送先の番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、不応答転送が設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 不応答転送を設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦③を押す
903は、不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 受話器を戻す

これで、不応答転送が解除できました。



外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、不応答転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [903] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ 受話器を戻す
※ [810] は共通短縮ダイヤル発信特番です。

通話中や電話に出られないときに転送する

< 話中／不応答転送 > **工事**

通話中にかかってきた電話や、着信音が鳴ってから一定時間が経過しても電話に出られない場合、ほかの電話機に転送することができます。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑦④を押す
904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す
- 4 転送先の番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、話中／不応答転送が設定できました。

話中／不応答転送を設定している場合、受話器を上げたときに聞こえるダイヤルトーンが変わります（ツー・ツーと聞こえます）。

▼ 解除のしかた

- 1 話中／不応答転送を設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦④を押す
904は、話中／不応答転送の設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 受話器を戻す

これで、話中／不応答転送が解除できました。



外出先に転送したい

転送先に、携帯電話の番号などを登録することもできます。この場合、転送先の電話番号を共通短縮番号にあらかじめ登録しておき、話中／不応答転送を次のように設定します。
受話器を上げる → [904] → [1] → [810] → [短縮番号]
→ 受話器を戻す
※ [810] は共通・個別短縮ダイヤル発信特番です。

移動先から転送の設定をする

<フォローミー> **工事**

転送の設定は、通常は転送元の電話機で行います。この転送の設定を、転送先の電話機から行うことができます。例えば、会議室などに移動している際、自分のデスクへの電話を会議室の電話機に転送したいときなどにも使用します。フォローミーは、同時に複数の設定をすることができます。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す
- 4 転送元の内線番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、フォローミーが設定できました。

▼ 解除のしかた

《 オールクリアするとき 》

- 1 フォローミーを設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 ⑦を押す
- 6 受話器を戻す

これで、フォローミーが解除できました。

《 個別解除するとき 》

- 1 フォローミーを設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦を押す
907は、フォローミーの設定と解除の特番（初期値）です。
- 4 ⑦を押す
- 5 解除したい内線番号を押す
- 6 受話器を戻す

これで、転送元の解除ができました。

不在設定中や着信拒否中でも、相手を緊急で呼び出す

<バイパスコール> **工事**

緊急で電話をかけたい相手が、不在着信転送や着信拒否を設定していつながらないとき、特別に呼び出すことができます。

▼ 呼び出ししかた

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
相手が不在転送や着信拒否を設定していると、話中音などが聞こえます。
- 3 ⑧①を押す
801は、バイパスコールの特番（初期値）です。
- 4 通常の呼び出しに変わる
- 5 相手が出たら、通話する

通話中の相手を緊急で呼び出す

工事

緊急で電話をかけたい相手が通話中のとき、特別に呼び出すことができます。

注意▶ 相手がマルチラインデジタルコードレス電話機との通話中の場合は、話中呼出できません。

▼ 通話中の相手を呼び出す

<話中呼出>

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
相手が話中のときは、話中音が聞こえます。
- 3 ⑧①③を押す
803は、話中呼出の特番（初期値）です。
- 4 相手の電話機のスピーカから着信音が鳴る
相手が一般電話機の場合は、相手の受話器から“ピツ”という音が聞こえます。
- 5 相手が出たら、通話する

▼ 通話中の呼び出しを受ける

<コールウェイティング>

- 1 外線または内線と通話中
- 2 受話器から“ピツ”という音が聞こえる
- 3 フッキングする
- 4 内線の相手と通話する
いままで通話していた相手には保留音が流れます。

以降は、フッキングするたびに通話の相手を切り替えることができます。

便利な使いかた

一般電話機では、次の電話機能も利用することができます。

- ◆ ふさがっている外線が空きしだい、使えるようにする
＜外線予約/外線コールバック＞ (⇒P. 2-18)
- ◆ 一斉呼出をする
 - ・ 内線グループで呼び出す
＜内線グループ呼出＞ (⇒P. 2-18)
 - ・ 内線グループ呼出を使って電話を取り次ぐ
＜内線グループ呼出転送＞ (⇒P. 2-19)
- ◆ 電話で会議する
＜会議通話＞ (⇒P. 2-19)
- ◆ ほかの人の通話に割り込む
＜通話割り込み＞ (⇒P. 2-20)
- ◆ ほかの人と通話中の内線相手に声をかける
＜ボイスオーバー＞ (⇒P. 2-20)
- ◆ 通話中にいまかけた電話番号を記憶する
＜セーブドナンバーリダイヤル＞ (⇒P. 2-21)
- ◆ キャッチホンサービスなどを利用する
＜外線フッキング＞ (⇒P. 2-21)
- ◆ 登録済みの番号に別の番号を続けてかける
＜追加ダイヤル＞ (⇒P. 2-21)
- ◆ 電話機のランプで伝言があることを知らせる
＜伝言(メッセージウエイティング)＞ (⇒P. 2-22)
- ◆ 指定時刻にアラーム音を鳴らす
＜アラーム＞ (⇒P. 2-22)

ふさがっている外線が空きしだい、 使えるようにする

＜外線予約/外線コールバック＞ **工事**

使いたい外線がふさがっていて、電話がかかけられないとき、外線が空いたらすぐ使えるように予約することができます。設定のしかたには、次の2通りの方法があります。

- ・ 外線予約
外線が空くまで、受話器を持ったまま待ち、外線が空きしだい電話がかかけられるようにする
- ・ 外線コールバック
いったん電話を切り、外線が空いたら知らせが入るようにする

▼ 設定のしかた

1 受話器を上げる

2 ①を押す

①は、外線発信番号です。
外線がふさがっていると、話中音が聞こえます。

3 ⑧①④を押す

804は、外線・内線予約設定の特番(初期値)です。

これで、外線予約が設定できました。

受話器を持ったまま待っていると、外線が空きしだい、電話をかけることができます。

受話器をいったん戻して待つとき(外線コールバック)は、次の手順4に進みます。

4 受話器を戻す

これで、外線コールバックが設定できました。

外線が空くと呼返音が鳴ります。受話器を上げると電話をかけることができます。

▼ 解除のしかた

外線予約を解除するときは、いったん受話器を戻します。

1 外線コールバックを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑧①⑤を押す

805は、外線・内線予約解除の特番(初期値)です。

4 受話器を戻す

これで、外線コールバックが解除できました。

一斉呼出をする

席を外している人を呼び出したいときなどに、多機能電話機のスピーカを使って一斉に呼び出すことができます。(内線グループ呼出)

外線通話を保留したあと、一斉呼出をして呼び出した相手に電話を取り次ぐこともできます。(内線グループ呼出転送)



内線グループとは

いくつかの電話機を、部署ことなどのグループに分けたものです。内線グループ内で、ほかの内線への呼び出しに代理応答したり、内線呼び出し直したりすることができます。内線グループ分けは、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 内線グループで呼び出す

＜内線グループ呼出＞

《 呼び出しかた 》

1 受話器を上げる

2 ⑧①⑨を押す

819は、内線グループ呼出の特番(初期値)です。

3 グループ番号を押す

4 一斉呼出をする

指定した内線グループ内の多機能電話機のスピーカから音声がかかります。

5 相手が出たら、通話する

《 受けかた 》

1 内線グループを呼出中

2 受話器を上げる

3 ⑧②③を押す

823は、内線グループ呼出応答の特番(初期値)です。

4 相手と通話する

▼ 内線グループ呼出を使って電話を取り次ぐ

<内線グループ呼出転送>

《 取り次ぎかた 》

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧①⑨を押す
819は、内線グループ呼出の特番（初期値）です。
- 4 グループ番号を押す
- 5 一斉呼出をする
- 6 相手が出たら、用件を伝える
- 7 受話器を戻す

これで、グループ呼出転送ができました。

《 受けかた 》

- 1 内線グループを呼出中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②③を押す
823は、内線グループ呼出応答の特番（初期値）です。
- 4 相手と内線で通話する
- 5 そのまま待つ
- 6 相手が受話器を戻すと、自動で外線とつながる
- 7 外線の相手と通話する

電話で会議する

<会議通話>

1つの通話に複数の人が参加して、同時に通話することができます。会議通話は、内線1人を含めた自由な組み合わせができ、システム全体で最大32人まで利用できます。

▼ 内線の人を会議に参加させる

<内線呼出招集>

- 1 外線または内線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧①②を押す
802は、会議通話の特番（初期値）です。
- 4 会議に参加させたい人の内線番号を押す
- 5 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える
- 6 フッキングする
転送ダイヤルトーンが聞えます。

- 7 フッキングする
内線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。



ほかの人も参加させたい
上記手順6のあと手順4からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

▼ 外線の人を会議に参加させる

<2外線会議通話>

- 1 外線と通話中
- 2 フッキングする
- 3 ⑧①②を押す
802は、会議通話の特番（初期値）です。
- 4 ①を押す
01は、外線への発信番号です。
- 5 会議に参加させたい人の電話番号を押す
- 6 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える
- 7 フッキングする
- 8 フッキングする
外線の相手が通話に参加します。

これで、会議通話になりました。



ほかの人も参加させたい
上記手順7のあと手順4からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

会議通話ができない
会議通話の特番を押したときに話中音が聞こえたら、すでに会議通話している人が定員に達しています。このときは、しばらく待ってから、やり直してください。

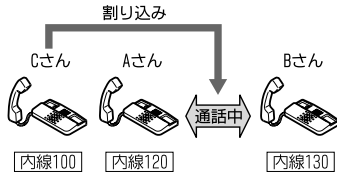
ほかの人の通話に割り込む

<通話割り込み> **工事**

ほかの人の内線または外線通話に割り込んで、通話に参加することができます。

▼ 割り込みかた

例：次のような通話に割り込みます。



- 1 AさんとBさんが内線通話中
- 2 Cさんが受話器を上げる
- 3 Aさんの内線番号を押す
話中音が聞こえます。
- 4 ⑧⑦⑧を押す

808は、通話割り込みの特番（初期値）です。

これで、Aさん、Bさん、Cさんの3者通話になりました。



通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で、通話割り込みの設定が「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

通話に割り込むとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

通話割り込みができない

次の場合には、通話割り込みができません。

- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話中
- モニターモードの場合

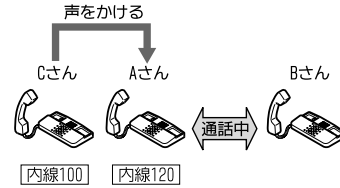
ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

ほかの人と通話中の内線相手に声をかける

<ボイスオーバー> **工事**

ほかの人と通話中の内線相手に、音声で割り込んで声をかけることができます。

▼ 声のかけかた



- 1 AさんとBさんが内線通話中
- 2 Cさんが受話器を上げる
- 3 Aさんの内線番号を押す
話中音が聞こえます。
- 4 ⑧⑦③を押す
803は、話中呼出（待機中通知）の特番（初期値）です。
- 5 ⑧④①を押す
841は、ボイスオーバーの特番（初期値）です。

これで、Cさんから、Aさんだけに声をかけることができました。



通話に参加できない

通話の内容は聞こえるのに、こちらの声が相手に聞こえないときは、工事段階の設定で、通話割り込みの設定が「モニターモード」になっています。3者通話にするためには「スピーチモード」にする必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

声をかけるとき、通知音を出したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。なお、モニターモードの場合には通知音は鳴りません。

ボイスオーバーができない

次の場合には、ボイスオーバーができません。

- 発信中または着信中
- 保留中
- 32人での会議通話中
- モニターモードの場合

ほかの人がすでに通話割り込みしている場合は、会議通話になります。

通話中にいまかけた電話番号を記憶する

<セーブドナンバーリダイヤル>

通話中に覚えておきたい電話番号を1件(最大24桁)だけ記憶することができます。

注意 記憶できる電話番号は1件だけです。新しい番号を記憶すると、前の番号は消去されます。

▼ 登録のしかた

- 1 外線に発信中または通話中
 - 2 フッキングする
 - 3 ⑧①③を押す
813は、セーブドナンバーリダイヤルの特番(初期値)です。
- これで、いまかけた電話番号が記憶できました。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①③を押す
813は、セーブドナンバーリダイヤルの特番(初期値)です。
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 消去のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①⑧を押す
818は、セーブドナンバーリダイヤル消去の特番(初期値)です。
- 3 受話器を戻す

これで、セーブドナンバーリダイヤルの登録内容が消去できました。

キャッチホンサービスなどを利用する

<外線フッキング> **工事**

外線と通話中に、キャッチホンでかかってきた電話に应答することができます。

注意 工事設定されていない電話機でフックボタンを押すと、外線通話が切れてしまいますので、注意してください。

▼ キャッチホンの受けかた

- 1 外線と通話中
 - 2 キャッチホンの着信音が聞こえる
 - 3 フッキングする
 - 4 ⑧④②を押す
842は、フッキングの特番(初期値)です。キャッチホンでかかってきた相手と電話がつながります。いままで通話していた相手には保留音が流れます。
 - 5 キャッチホンでかかってきた相手と通話する
- 以降は、手順3と手順4をくり返すたびに通話の相手を切り替えることができます。

登録済みの番号に別の番号を続けてかける

<追加ダイヤル>

短縮ダイヤルなどで電話をかけるとき、続けて相手部署の内線番号などを押して、かけることができます。

▼ かけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧①⑦を押す
810は、共通・個別短縮ダイヤル発信の特番(初期値)です。グループ短縮ダイヤル発信の場合は811(初期値)を押してください。
- 3 短縮番号を押す
- 4 追加したい番号を押す
- 5 相手が出たら、通話する



追加ダイヤルが利用できる発信の種類

追加ダイヤルは、次の発信のときに利用できます。

- 短縮ダイヤルの発信
- 再ダイヤルの発信
- セーブドナンバーリダイヤルの発信

電話機のランプで伝言があることを知らせる

<伝言（メッセージウェイティング）>

用件を伝えたい相手が通話中や不在などのとき、戻りしたい連絡をもらえるように、ランプの表示で知らせることができます。



伝言（メッセージウェイティング）は、相手が多機能電話機またはメッセージウェイティングランプ付きの電話機の場合だけ利用できます。マルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信/メッセージ/充電ランプに表示されます。

▼ 設定のしかた

<伝言設定>

- 1 受話器を上げる
- 2 内線番号を押す
相手が通話中、または誰も出ない状態です。
- 3 ⑨⑦⑨を押す
909は、伝言の特番（初期値）です。大型ランプが緑点灯します。
- 4 相手の電話機の大型ランプまたはメッセージウェイティングランプが点滅する
相手がマルチラインデジタルコードレス電話機の場合には、着信/メッセージ/充電ランプがゆっくり赤点滅します。
- 5 受話器を戻す

これで、相手に伝言があることを知らせることができました。



別の人にも伝言を設定したい
上記の操作で、複数の相手に伝言を設定できます。

▼ 伝言を設定した相手の呼び出しかた

<伝言への応答>

- 1 大型ランプ（メッセージウェイティングランプ）が緑点滅中
伝言が設定されている状態です。
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨⑦⑨を押す
909は、伝言の特番（初期値）です。伝言を設定した相手呼び出します。
- 4 相手が出たら、通話する

▼ 解除のしかた

<指定電話機の伝言解除>

- 1 伝言を設定中
相手の大型ランプまたはメッセージランプが点滅しています。
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑨①①を押す
911は、伝言解除の特番（初期値）です。
- 4 伝言を解除したい内線番号を押す
- 5 受話器を戻す

これで、伝言が解除できました。



すべての伝言設定を一度に解除したい
上記手順3で910（伝言全解除の特番の初期値）を押してから受話器を戻します。

指定時刻にアラーム音を鳴らす

<アラーム>

指定した時刻に、電話機からアラーム音を鳴らすことができます。会議の開始時刻などをセットしておく便利です。アラームには次の2種類があります。

- アラーム1:1回（30秒間）だけ鳴る（鳴った時点で自動解除）
- アラーム2:毎日定刻に鳴る（解除するまで有効）

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨①②を押す
912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。
- 3 アラームの番号を押す
1：アラーム1（1回だけ鳴る）
2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）
- 4 アラームを鳴らす時刻を入力する
24時間制で入力します。
例：午後3時05分の場合は1505と入力する
- 5 受話器を戻す

これで、アラームが設定できました。

▼ 止めかた

- 1 アラーム鳴動中
- 2 受話器を上げる
アラーム音が止まり、保留音が聞こえます。
- 3 受話器を戻す

これで、アラーム音が停止しました。

▼ 解除のしかた

1 アラームを設定中

2 受話器を上げる

3 ⑨①②を押す

912は、アラーム（指定時刻呼出）の特番（初期値）です。

4 アラームの番号を押す

1：アラーム1（1回だけ鳴る）

2：アラーム2（毎日定刻に鳴る）

5 ⑨⑨⑨⑨を押す

6 受話器を戻す

これで、アラームが解除できました。



システムの運用例

ISDN回線	3-2
NTTのサービス	3-7
NTTダイヤルイン	3-11
専用線	3-14
電話を外線に転送する	3-15
ほかの内線や仮想の内線番号を使う ..	3-17
オートアテンダント (VRS)	3-19
DID/DISA	3-24
着信お待たせメッセージ	3-25
構内放送	3-26
ドアホン	3-28
DSSコンソール	3-30
ディスプレイボード	3-36
ホテル機能	3-38
セキュリティ	3-40

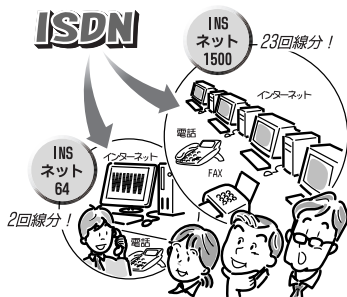
ISDN 回線

ISDN回線（INS ネット64またはINS ネット1500）を、本システムに収容し、利用することができます。

ISDN 回線の利用例

< INS ネット64 / INS ネット1500 > **工事**

ISDN回線を利用すると、1回線でINS ネット64の場合は2回線分、INS ネット1500の場合は23回線分の外線を受容することができます。また、ISDN回線を利用した、高速インターネット通信をも実現します。



注意

ISDN回線を受容するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

ISDN 回線を使って電話をかける

< 通常の発信 / サブアドレス指定発信 >

ISDN回線の場合には、電話番号のあとに#を押してかけます。

▼ 通常のかけかた

< 通常の発信 >

《 多機能電話機を使うときのかけかた 》

- 1 を押す
- 2 電話番号を押す
- 3 **#** を押す
- 4 相手が出たら、通話する

《 一般電話機を使うときのかけかた 》

- 1 受話器を上げる
- 2 **0** を押す
0は、外線発信番号です。
“ツ”という音が聞こえます。
- 3 電話番号を押す
- 4 **#** を押す
- 5 相手が出たら、通話する



電話がかかるのが遅い

電話番号のあとに#を押し忘れていませんか？電話番号のあとには#を押すようにしてください。

#を押す理由

一般回線では、電話番号などを押すと、そのつど1番号ずつ回線に送出されますが、ISDN回線ではすべての電話番号が押されたことを確認してから、まとめて回線に送出されます。電話番号がすべて押されたかどうかは、前の番号を押してからの経過時間で判断するため、番号が送出されるまでに時間がかかってしまいます。この時間を短縮するために、#を押します。

DP（ダイヤル/パルス）式の一般電話機の場合は、工事段階で設定した時間が経過すると、番号が送出されます。

▼ 相手の電話機に直接かける

< サブアドレス指定発信 >

相手がISDN回線でサブアドレスを使用している場合、相手の電話機または端末に直接かけることができます。

- 1 を押す
- 2 接続先電話番号を押す
- 3 ***** を押す
*は、接続先電話番号とサブアドレスの区切り記号です。
- 4 サブアドレスを押す
- 5 **#** を押す
- 6 相手が出たら、通話する



接続先電話番号とサブアドレスの桁数

入力できる桁数は、それぞれ次のとおりです。

- 接続先電話番号：最大32桁
- サブアドレス：最大19桁

サブアドレスとは

ISDN回線に接続されている電話機（端末）に、直接電話をかけるための子番号です。この子番号のことをサブアドレスといいます。サブアドレスをつけておくと、ダイヤルイン着信のように、着信先を特定することができます。内線番号をサブアドレスとして使うこともできます。

発信規制や料金管理を利用する

< 発信規制 / 料金管理 >

ISDN回線を利用していても、一般回線と同じように、発信規制や料金管理を利用することができます。

- 発信規制
一般回線と同じように、発信規制ができます。
- 料金管理
一般回線と同じように、料金管理ができます。通話料金の集計では、ISDN回線からの料金情報と本システムの料金管理機能のどちらを使用するかを工事段階で設定できます。詳しくは、販売店にご相談ください。

ISDN付加サービスを利用する

<発信者番号通知>

ISDNの付加サービスを利用するには、電話番号を通知してかける必要があります。INSナンバー・ディスプレイの契約内容をご確認の上、必要に応じて電話番号を通知する操作をしてください。ナンバー・ディスプレイについては、『ナンバー・ディスプレイ』(⇒P.3-7)を参照してください。



電話番号を通知する理由

ISDNの付加サービスを利用する場合、サービスの設定変更や開始・停止を電話で操作します。このとき、NTT側では、通知される電話番号を元に、発信者の確認をします。このため、電話番号が通知されなかったり、違う番号が通知されたりすると、操作ができません。システムに複数の外線を受容している場合には、正しい番号が通知される外線を使って操作する必要があります。詳しくは、販売店にご確認ください。

利用できるサービスについて

<ISDN付加サービス>

ISDN回線を収容すると、次の付加サービスを利用することができます。ISDN回線の契約および回線使用料とは別に、契約や利用料金が必要な機能もあります。詳しいサービス内容や契約の方法などについては、NTT東日本またはNTT西日本にご確認ください。

- ・ i・ナンバー (ISDN64のみ)
- ・ INSテレホーダイ (ISDN64のみ)
- ・ INSナンバー・ディスプレイ
- ・ INSナンバーリクエスト
- ・ INSボイスワープ
- ・ INSボイスワープセレクト
- ・ INS#ダイヤルサービス
- ・ INSダイヤルインサービス
- ・ INSでんわばんサービス
- ・ 発信者番号通知サービス
- ・ INSフレックスホン 通信中転送 (ISDN64のみ)
- ・ 料金情報通知サービス
- ・ ネーム・ディスプレイ






ISDN付加サービスを利用するために

前ページのISDN付加サービスの設定を、システム内の電話機で変更できるよう、「ステイミユラスプロトコル手順」に対応しています。詳しくは、販売店にご相談ください。

本書に記載されていない機能を設定する場合、ガイダンスに従って指定番号を押したあと、#を押してください。

INSフレックスホン 通信中転送を利用する

INSフレックスホン 通信中転送は、通話中の電話を別の外線に転送するサービスです。

- 1 AさんからのISDN64回線への着信に応答する
Aさんと通話中
- 2  (通信中転送ボタン) を押す
いままで通話をしていたAさんは保留になります。
- 3 Bさんの電話番号を押す
- 4  を押す
- 5 転送先のBさんに電話を転送することを伝える
- 6  を押す
- 7 受話器を戻す






前の相手との通話に戻りたい

上記の手順6で、転送ボタンの代わりに通信中転送ボタンを押すとBさんは保留になり、Aさんとの通話に戻ります。もう一度、通信中転送ボタンを押すとAさんは保留になり、Bさんとの通話に戻ります。

INSナンバーリクエストを利用する

INSナンバーリクエストは、電話番号を通知しないでかけてきた相手に、電話番号を通知してかけ直すように音声で伝えるサービスです。

▼ サービスを開始する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3  を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4  を押す
- 5  を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 受話器を戻す

これで、INSナンバーリクエストが開始できました。

▼ サービスを停止する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑧#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 0を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 受話器を戻す

これで、INSナンバーリクエストが停止できました。

INSボイスワープを利用する

INSボイスワープは、かかってきた電話を、あらかじめ指定した電話番号に転送するサービスです。
指定先の電話番号は、あらかじめ0～4に登録することができます。

▼ 転送を開始する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②①を押す
- 4 転送モードパターンを選択するため①～④のいずれかを押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 受話器を戻す

これで、INSボイスワープの転送が開始できました。

▼ 転送を停止する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②0#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 受話器を戻す

これで、INSボイスワープの転送が停止できました。

▼ 転送先を登録する

《 転送先リスト0に登録するとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②②#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 登録したい電話番号を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 受話器を戻す

これで、転送先リスト0に転送先が登録できました。

《 転送先リスト1～4に登録するとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。
登録（キーパッドファシリティ）ボタンが赤点灯します。
- 4 0を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 転送先を登録したい転送先リスト番号①～④のいずれかを押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 登録したい電話番号を押す
- 9 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 10 受話器を戻す

これで、転送先リスト1～4に転送先が登録できました。

▼ 転送先を指定する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ①を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 転送先リスト番号①～④のいずれかを押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、転送先が指定できました。

▼ 転送通知用トークを指定する

《 パターン指定を利用しないとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ②を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 ①を押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、転送通知用トークが指定できました。

《 パターン指定を利用するとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④②④#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ②を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。

- 6 指定したいパターン番号①～③のいずれかを押す
 - 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 8 受話器を戻す
- これで、転送通知用トークが指定できました。

▼ 登録内容を確認する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
 - 2 受話器を上げる
 - 3 ①④②⑧#を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 4 確認内容を指定するために①～③のいずれかを押す
 - 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 6 受話器を戻す
- これで、INSボイスワープの登録内容が確認できました。

INSボイスワープセレクトを利用する

INSボイスワープセレクトは、あらかじめ電話番号を登録した相手からかかってきた電話だけを、指定した電話番号に転送するサービスです。転送してほしい相手の電話番号は、あらかじめ登録しておきます。

▼ 登録リストに電話番号を登録する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
 - 2 受話器を上げる
 - 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 4 ②を押す
 - 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 6 登録する電話番号を押す
 - 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
 - 8 受話器を戻す
- これで、登録リストに電話番号が登録できました。

▼ 登録リストの電話番号を確認する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ⑧を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 受話器を戻す

これで、登録してある電話番号が確認できました。

▼ 登録リストから電話番号を削除する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ⑨を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 削除する電話番号を押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、登録リストから電話番号が削除できました。

▼ セレクト機能の利用条件を指定する

《 登録番号転送に設定するとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ③を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 ①を押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、セレクト機能を登録番号転送に設定できました。

《 登録番号着信に設定するとき 》

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ③を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 ②を押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、セレクト機能を登録番号着信に設定できました。

▼ セレクト機能を解除する

- 1 ISDN回線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 ①④⑦#を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 4 ③を押す
- 5 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 6 ①を押す
- 7 #を押す
ガイダンスが聞こえます。
- 8 受話器を戻す

これで、セレクト機能が解除できました。

NTTのサービス

NTT東日本またはNTT西日本の、いろいろなサービスを利用できます。

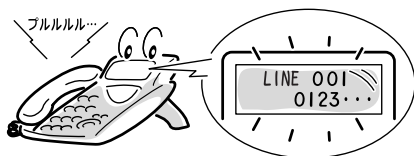
ナンバー・ディスプレイ

<発信者番号通知> 工事

電話をかけてきた相手の電話番号を、表示器に表示して、電話に出る前に相手を確認することができます。また、共通短縮ダイヤルに登録されている相手からの着信の場合には、名前を表示することもできます。

注意

- ナンバー・ディスプレイを利用するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 電話をかけてきた相手の電話番号や名前を表示させる電話機は、工事段階で設定します。なお、一般着信時や個別着信時に加え、仮想内線着信時にも、電話番号や名前を表示させることができます。



注意

相手の名前や電話番号が表示されるのは、着信鳴動設定された電話機だけです。

▼ ナンバー・ディスプレイの表示について

注意

一般着信のときは、応答後にナンバー・ディスプレイ表示されます。

電話をかけてくる相手の電話番号が、次のように表示されます。

《 相手の電話番号 》

LINE 001
0312345678

《 相手の名前と電話番号 》

- 共通短縮番号に電話番号と名前が登録されている場合

LINE 001
XX社 鈴木 0312345678

《 相手の電話番号が表示できない理由 》

- 発信者が番号通知を希望していない場合

LINE 001
非通知

- 公衆電話からの場合

LINE 001
公衆電話

- ネットワーク条件などで、番号を通知できない場合

LINE 001
表示圏外



相手の電話番号を表示できない理由について
この理由表示は、NTT東日本またはNTT西日本とナンバー・ディスプレイ契約をしている場合のみ、表示されます。

▼ 相手の名前を表示するには

相手の電話番号と名前を、本システムの共通短縮ダイヤルに登録しておく、電話がかかったときに相手の名前が表示されません。

注意

相手の電話番号は、市外局番から登録してください。短縮ダイヤルに市外局番が登録されていないと、該当する名前が表示できません。自分と同じ市外局番の場合でも、必ず市外局番から登録してください。

《 発信者名称の表示について 》

発信者名称を表示する条件と優先順位は、次のとおりです。

優先順位	表示条件
1	「ナンバー・ディスプレイ」と「ネーム・ディスプレイ」を契約している
2	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、センター電話帳に、該当する電話番号と相手の名前が登録されている
3	「ナンバー・ディスプレイ」を契約していて、共通短縮ダイヤルに、該当する電話番号と相手の名前が登録されている

▼ 着信中や保留中に相手の電話番号を表示する

1 外線着信中または保留中

2 を押す

3 (外線ボタン) を押す

着信中または保留中外線の相手先番号などが表示されます。

▼ 相手から通知された番号にかけるには

<着信履歴>

不在時に、電話番号を通知してかけてきた相手の電話番号を、50件まで記憶しています。この番号を利用して、電話をかけることができます。

1 表示器に“不在着信履歴”アイコン表示中

2 かけたい番号を表示させる

• 着信履歴
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22)または『着信履歴を表示する』(⇒P.1-63)を参照してください。

3 かけたい相手が表示されたら、受話器を上げる

4 相手が出たら、通話する



よく着信履歴を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに着信履歴ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。着信履歴ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。

- ・新しい着信履歴あり : 赤点滅
- ・確認済みの着信履歴あり : 赤点灯
- ・着信履歴を削除 : 消灯

詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

着信履歴を削除したい

上記の操作で削除したい相手を表示させ、“削除”のソフトキーを押したあと、“1件”のソフトキーを押します。

応答できた相手の電話番号も着信履歴として残したい

不在中にかかってきた相手の電話番号に加え、在席中で応答できた相手の電話番号も、着信履歴として残すことができます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 発信者番号に応じて着信先を変える

<識別着信>

相手から通知されてきた電話番号に応じて、着信先を指定しておくことができます。また、着信音の鳴り分けも設定できます。



注意

識別着信は、NTTダイヤルイン/DID/DISAの機能よりも優先的に動作します。識別着信を設定した場合、電話番号が登録された相手先からNTTダイヤルイン/DID/DISAで電話がかかってきても、すべて識別着信となります。

《 着信先と着信音を指定する 》

- 短縮番号への登録の手順1~手順7を操作して、相手の電話番号と名前を入力する
詳しくは、『短縮番号を使ってかける』の『登録のしかた』(⇒P.1-31)を参照してください。

- 転送を押す 転送モード(0-2)?0-

- 転送モードを入力する

次のいずれかを押します。

- ・0: 工事段階で設定した着信先に着信する
“0”を入力した場合は、手順6に進みます。

- ・1: 指定した内線番号に着信する 着信先

- ・2: 指定した着信グループに着信する 着信先

- 手順3で“1”または“2”を押した場合は、着信先を指定する

- ・“1”を入力した場合: 内線番号を入力する
- ・“2”を入力した場合: 着信グループ番号を入力する

- 保留を押す 着信音(0-9)?0-

- 着信音(0~9)を指定する

セット音が聞こえます。

- スピーカを押す

これで、着信先と着信音が設定できました。

▼ 発信者番号に対して着信を拒否する

<識別着信拒否>

相手から通知されてきた電話番号に対して、着信を拒否することができます。

《 識別着信拒否を設定する 》

- スピーカを押す

- ＊③④を押す

*34は、発番号による着信拒否設定の特番(初期値)です。

- スピーカを押す

これで、識別着信拒否が設定できました。



よく識別着信拒否設定を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに発番号による着信拒否設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。発番号による着信拒否設定ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。

- ・識別着信拒否を設定中: 遅い赤点滅
- ・識別着信拒否を解除中: 消灯

詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

《 識別着信拒否を解除する 》

- スピーカを押す

- ＊③④を押す

*34は、発番号による着信拒否設定の特番(初期値)です。

- スピーカを押す

これで、識別着信拒否が解除できました。

《 着信を拒否する電話番号を登録する 》

- スピーカを押す

- ＊③③を押す

*33は、発番号による着信拒否登録の特番(初期値)です。

登録 解除

3 “登録”のソフトキーを押す

発番号拒否 登録 XXX
登録



“空きメモリ 無し”と表示された
発番号による着信拒否の電話番号を登録するエリア
が一杯です。新たに登録するためには、不要な登録を
削除してください。

4 登録したい電話番号を押す

発番号拒否 登録 XXX
0312345678
登録

5 “登録”のソフトキーを押す

これで、着信を拒否する電話番号が登録できました。

《 着信履歴を着信拒否に登録する 》

1 着信拒否に登録したい電話番号を表示させる

・着信履歴
『十字キーのメニューについて』の『十字キーの左(再/短)メニューを操作する』(⇒P.1-22) または『着信履歴を表示する』(⇒P.1-63) を参照してください。

2 “登録”のソフトキーを押す

01:
2-1 10:10 0312345678
短縮 拒否

3 “拒否”のソフトキーを押す



“空きメモリ 無し”と表示された
発番号による着信拒否の電話番号を登録するエリア
が一杯です。新たに登録するためには、不要な登録を
削除してください。

これで、着信履歴を着信拒否に登録できました。

《 着信拒否に登録した電話番号を削除する 》

1 を押す

2 を押す

*33は、発番号による着信拒否登録の特番(初期値)です。

発番号拒否 X21-
登録 解除

3 “検索”のソフトキーを押す

発番号拒否 検索
↑ ↓ 削除

4 削除したい電話番号の先頭の数字を入力する

入力した番号で始まる電話番号が、検索結果として表示されます。

5 削除したい電話番号を表示させる

“↑”または“↓”のソフトキーまたはボリュームボタンで、登録内容をスクロールできます。



“リストなし”と表示された
入力した番号で始まる電話番号が登録されていません。

6 “削除”のソフトキーを押す

これで、着信拒否に登録されていた電話番号が削除できました。

▼ 発信者番号が非通知の着信を拒否する

<非通知着信拒否>

相手からの発信者番号通知が“非通知”の場合には、その着信を拒否することができます。

《 非通知着信拒否モードを開始する 》

1 を押す

2 を押す

*32は、発番号非通知拒否設定の特番(初期値)です。

発番号非通知拒否 開始

3 を押す

これで、非通知着信拒否モードが開始できました。

《 非通知着信拒否モードを終了する 》

1 を押す

2 を押す

*32は、発番号非通知拒否設定の特番(初期値)です。

発番号非通知拒否 解除

3 を押す

これで、非通知着信拒否モードが終了できました。



よく非通知着信拒否設定を利用する方へ
電話機のファンクションボタンに発番号非通知拒否設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。発番号非通知拒否設定ボタンのランプは、次のように切り替わって状態を表示します。
・非通知着信拒否を設定中：遅い赤点滅
・非通知着信拒否を解除中：消灯
詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

《 非通知の相手に流すメッセージを録音する 》

発信者に対して、電話番号を通知してかけ直すように案内するメッセージを録音します。録音のしかたは、オートアテンダントメッセージと同じです。

詳しくは、『オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去』(⇒P.3-21)を参照してください。

マイライン

<電話会社選択サービス/電話会社固定サービス> **工事**

電話会社選択サービス（マイライン）および電話会社固定サービス（マイライン・プラス）を契約している回線を、本システムに収容することができます。

- **マイライン**
電話をかけるときに選んだ外線を使って発信します。
- **マイライン・プラス**
あらかじめ申し込みである電話会社の回線を常に使って発信します。



注意

マイライン、マイライン・プラスを利用するには、電話会社への申し込みと、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTTダイヤルイン

NTTダイヤルインを利用すると、1回線に対し別の子番号を持たせることができ、各個人の電話機や部署に割り付けて、直接電話をかけてもらうことができます。



NTTダイヤルインを利用するには、NTT東日本またはNTT西日本との契約と、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

局側から通知される呼番号に対して、時間帯と着信動作を10パターンまで設定できます。また、転送先として、オートアテンダント (DISA) が設定された外線や、外線留守番サービスが設定された外線を設定することもできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

NTTダイヤルインの着信方式

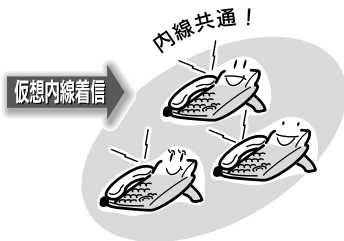
工事

次のような着信先を選ぶことができます。

- 1台の電話機に着信させる<個別着信方式>
NTTダイヤルイン番号にかかってきた電話を、あらかじめ指定した1台の電話機に着信させます。



- 複数の電話機に着信させる<仮想内線着信方式>
NTTダイヤルイン番号にかかってきた電話を、仮想内線に着信させます。仮想内線とは、各電話機に割り付けられている内線番号とは別に、複数の電話機が共有できる内線番号です。この仮想内線に着信すると、部署内の電話機すべてに着信させることができます。



この仮想内線の内線番号は、多機能電話機のファンクションボタンに割り付けて使用します。

▼ 1台の電話機に着信させて受ける

<個別着信方式>

- 1 NTTダイヤルイン番号に着信中
LINE 001
着信
- 2 受話器を上げる
LINE 001 00:10
応答
- 3 相手と通話する



一般電話機で受けたい
NTTダイヤルイン着信中に受話器を上げると、受けられません。

▼ 複数の電話機に着信させて受ける

<仮想内線着信方式>

- 1 NTTダイヤルイン番号に着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 赤点滅中の仮想内線ボタンを押す
LINE 001
応答
- 4 相手と通話する



一般電話機で受けたい
次の操作で受けることができます。
NTTダイヤルイン着信中 → 受話器を上げる → [826] → [着信中の仮想内線が所属する内線グループ番号] → 通話

NTTダイヤルインの着信転送

応答できないときや、就業時間外などにかかってきた電話を、あらかじめ登録しておいた電話機に転送したり、着信を拒否したりすることができます。

- 着信したら、すぐに転送する<自動転送>
NTTダイヤルイン着信を、すぐに転送します。



- 一定時間応答しないと転送する<不応答転送>
NTTダイヤルイン着信に、一定時間応答しないと転送します。



自動転送と不応答転送は、いずれか一方だけ設定できます。
1つのNTTダイヤルイン番号に対し、自動転送と不応答転送を同時に設定することはできません。もし、両方を設定した場合は、あとから設定した方が有効になります。

▼ 自動転送を設定する

<内線グループ毎の自動転送> **工事**

《 設定のしかた 》

- 1 **スピーカ** を押す
- 2 **⑨②⑤** を押す
925は、内線グループ毎の自動転送設定の特番 (初期値) です。
- 3 転送元の内線グループ番号を押す
転送 グループ 01
転送 開始
- 4 **スピーカ** を押す

これで、NTTダイヤルイン着信の自動転送が設定できました。

《 解除のしかた 》

1 着信自動転送を設定中

2  を押す

3 ⑨②⑥を押す

926は、内線グループ毎の自動転送解除の特番（初期値）です。

4 転送元の内線グループ番号を押す

転送 グループ 01	転送 解除
------------	-------

5  を押す

これで、NTTダイヤルイン着信の自動転送が解除できました。



よく自動転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の自動転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。

- 設定するとき：
受話器を上げる → [925] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す
- 解除するとき：
設定中 → 受話器を上げる → [926] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

内線グループ番号について

内線グループ番号（01～64）は、販売店にご確認ください。

《 解除のしかた 》

1 着信不応答転送を設定中

2  を押す

3 ⑨②⑨を押す

929は、内線グループ毎の不応答転送解除の特番（初期値）です。

4 転送元の内線グループ番号を押す

不応答転送 グループ 01	転送 解除
---------------	-------

5  を押す

これで、NTTダイヤルイン着信の不応答転送が解除できました。



よく不応答転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の不応答転送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。

- 設定するとき：
受話器を上げる → [928] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す
- 解除するとき：
設定中 → 受話器を上げる → [929] → [転送元の内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

内線グループ番号について

内線グループ番号（01～64）は、販売店にご確認ください。

▼ 不応答転送を設定する

<内線グループ毎の不応答転送> **工事**

《 設定のしかた 》

1  を押す

2 ⑨②⑧を押す

928は、内線グループ毎の不応答転送設定の特番（初期値）です。

3 転送元の内線グループ番号を押す

不応答転送 グループ 01	転送 開始
---------------	-------

4  を押す

これで、NTTダイヤルイン着信の不応答転送が設定できました。



転送元の内線グループ内の電話機がすべて通話中の場合

一定時間を待たずに、すぐ転送されます。

▼ 転送先の登録のしかた

<内線グループ毎の自動/不応答転送先登録> **工事**

自動転送と不応答転送の転送先は、1つのNTTダイヤルイン番号に対し、共通で1箇所だけ登録できます。転送方法は、用途に応じて使い分けてください。



時間帯のモードは、工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

1  を押す

2 ⑨②⑦を押す

927は、内線グループ毎の自動/不応答転送先登録の特番（初期値）です。

3 転送元の内線グループ番号を押す

転送 グループ 01	モード: 1-8 ?
------------	------------

4 自動/不応答転送を行いたい時間帯の番号を押す

転送 グループ 01	モード 1
------------	-------

時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。

5 転送先の番号を押す

転送 グループ 01	モード 1	880
------------	-------	-----

6 **保留**を押す

セット音が聞こえます。

7 **スピーカ**を押す

これで、転送先が登録できました。

**転送先の番号を変更したい**

新しい番号を登録すると、古い番号は消去され、新しい番号におき替わります。

一般電話機で登録したい

一般電話機では登録できません。多機能電話機から登録してください。

NTTダイヤルインの着信拒否

<内線グループ着信拒否> **工事**

▼ 設定のしかた**1** **スピーカ**を押す**2** **⑨③①**を押す

930は、内線グループ毎の着信拒否設定の特番（初期値）です。

3 **着信拒否を行う内線グループ番号を押す**

着信拒否 グループ 01 開始

4 **スピーカ**を押す

これで、NTTダイヤルインの着信拒否が設定できました。

▼ 解除のしかた**1** **着信拒否を設定中****2** **スピーカ**を押す**3** **⑨③①**を押す

931は、内線グループ毎の着信拒否解除の特番（初期値）です。

4 **着信拒否を解除する内線グループ番号を押す**

着信拒否 グループ 01 解除

5 **スピーカ**を押す

これで、NTTダイヤルインの着信拒否が解除できました。

**よく着信拒否を利用する方へ**

電話機のファンクションボタンに内線グループ毎の着信拒否ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。

・設定するとき：

受話器を上げる → [930] → [着信拒否を行う内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

・解除するとき：

設定中 → 受話器を上げる → [931] → [着信拒否を解除する内線グループ番号] → 確認音 → 受話器を戻す

内線グループ番号について

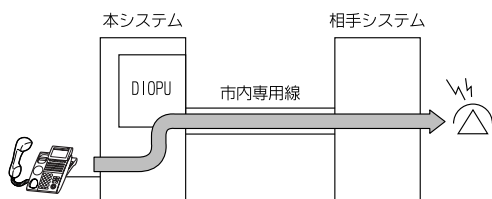
内線グループ番号は、販売店にご確認ください。

- ・CPU-Aの場合：1桁
- ・CPU-Bの場合：2桁

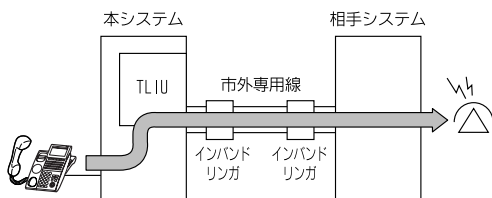
専用線

市内専用線（LD方式）、市外専用線（OD方式）を利用し、複数のシステムを接続できます。

- 市内専用線
ループダイヤル方式（LD方式）の市内専用線を収容できます。専用線で接続された相手システムの内線を、自システムの内線と同じように呼び出すことができます。



- 市外専用線
アウトバンドダイヤル方式（OD方式）の市外専用線を収容できます。専用線で接続された相手システムの内線を、自システムの内線と同じように呼び出すことができます。



通常のかけかた

<外線ボタンを使ってかける> **工事**

設定によって、操作は異なります。詳しくは、販売店にご確認ください。

- 1 専用線が収容されている外線ボタンを押す
- 2 受話器を上げる
- 3 呼び出したい相手の内線番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する

相手の内線番号を押してかける

工事

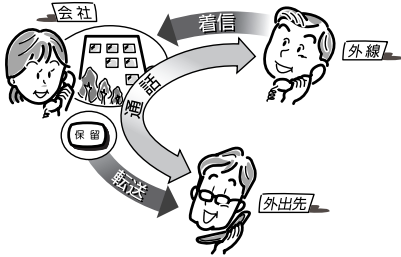
設定によって、操作は異なります。詳しくは、販売店にご確認ください。

- 1 受話器を上げる
- 2 呼び出したい相手システムのシステム局番を押す
各システムに内線番号を分けた場合など、システム局番なしで発信できる場合があります。
- 3 内線番号を押す
- 4 相手が出たら、通話する

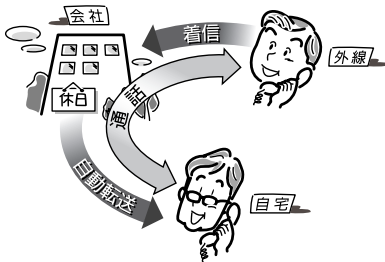
電話を外線に転送する

電話を外線に転送するには、次の2通りの方法があります。

- 外線通話をいったん受けてから転送する<外線手動転送>
例えば、外出中の人あての電話を受けたとき、その通話をいったん保留にしてから、外出中の人に電話をかけます。用件を伝えたら電話をかけてきた相手と外出先の人の電話を、会社を介してつなぎます。この通話の間、2つの外線を使います。



- 外線からの着信を、そのまま転送する<外線自動転送>
例えば、就業時間後や休日にかかってきた電話を、自宅の電話に自動で転送します。この通話の間、2つの外線を使います。



注意

転送したあとの通話は、一定の時間が経過すると自動的に切断されます。これにより、外線が長時間ふさがってしまうことを防ぎます。



転送先を時間帯で切り替えたい

外線自動転送の転送先は時間帯によって切り替えることができます。この時間帯のモードは工事段階で設定しておきます。詳しくは、販売店にご相談ください。

外線自動転送のタイミングや転送先を、もっと細かく指定したい

次のように運用できます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 一定時間内に応答しなかったときに転送
外線からの着信時、最初は一般着信して、一定時間が経過後に外線へ転送することができます。
- 転送先が応答しない場合、別の外線に転送
外線からの着信を転送後、転送先が一定時間内に応答しなかった場合、さらに別の外線へ転送することができます(ステップ転送)。

手動で転送する

工事

▼ 通話を外線に転送する

<外線手動転送>

1 外線と通話中

2 を押す

外線通話が共通保留状態になります。

“ツーツー”と、内線発着音が聞こえます。

LINE 001
保留

3 を押す

外線手動転送用の外線が決まっている場合は、その外線ボタンを押してください。

LINE 002

4 取り次ぎ先の電話番号を押す

LINE 002	09001234567
----------	-------------

5 相手が出たら、電話を取り次ぐことを伝える

6 を押す

7 受話器を戻す

これで、外線への手動転送ができました。



一般電話機で操作したい

次の操作で設定または解除できます。
外線と通話中 → フッキングする → [0] → [取り次ぎ先の電話番号] → 用件を伝える → 受話器を戻す

▼ 会議通話してから転送する

<会議通話転送> 工事



「ファンクションボタンの設定」により会議ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

1 外線と通話中

LINE 001	0312345678
----------	------------

2 (会議ボタン) を押す

内線 ダイヤル	会議 通話
---------	-------

3 消灯している外線ボタンを押す



4 取り次ぎ先の電話番号を押す

LINE 002	09001234567
----------	-------------

5 相手が出たら、会議通話を始めることを伝える

6 (会議ボタン) を押す

内線 ダイヤル	会議 通話
---------	-------






- 7  (会議ボタン) を押す
- | | |
|----------|-------|
| LINE 001 | 会議 通話 |
| LINE 002 | |
- 8 3人で通話する
- 9  を押す
- 10 受話器を戻す
- これで、外線への会議通話転送ができました。

自動で転送する

工事






▼ 設定のしかた

<外線自動転送設定>

- 1  を押す
- 2    を押す
- | |
|-------------|
| 転送 開始 外線No. |
|-------------|
- *06は、外線毎の自動転送設定の特番（初期値）です。
- 3 転送用の外線番号を押す
- | |
|----------|
| 転送 外線008 |
| 転送 開始 |
- 4  を押す
- これで、外線自動転送が設定できました。







▼ 解除のしかた

<外線自動転送解除>

- 1  を押す
- 2    を押す
- | |
|-------------|
| 転送 解除 外線No. |
|-------------|
- *07は、外線毎の自動転送解除の特番（初期値）です。
- 3 転送用の外線番号を押す
- | |
|----------|
| 転送 外線008 |
| 転送 解除 |
- 4  を押す
- これで、外線自動転送が解除できました。

▼ 転送先の登録のしかた

<外線毎の自動転送先登録>

- 1  を押す
- 2    を押す
- | |
|----------|
| 転送 外線No. |
|----------|
- *08は、外線毎の自動転送先登録の特番（初期値）です。
- 3 転送用の外線番号を押す
- | |
|-----------|
| 転送 外線008 |
| モード：1-8 ? |
- 4 自動転送を行いたい時間帯の番号を押す
- | |
|---------------|
| 転送 外線008 モード1 |
|---------------|
- 時間帯は、1～8の中から選ぶことができます。
時間帯1～8の詳細は、『運用モードについて』(⇒P.5-21)を参照してください。
- 5 転送先の電話番号を押す
- | |
|---------------|
| 転送 外線008 モード1 |
| 09001234567 |
- 押した番号に応じて表示される
- 6  を押す
- セット音が聞こえ、手順3の表示に戻ります。
必要に応じて、別の時間帯の番号と転送先を、合計8件まで登録できます。
- 7  を押す
- これで、外線自動転送の転送先の登録と、転送の設定ができました。



よく外線自動転送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに外線毎の自動転送設定ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで転送の設定および解除をすることができます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

外線毎の自動転送設定ボタンを登録すると

ボタンのランプ表示で、外線毎の自動転送の設定／解除の状態がわかります。

- ・外線毎の自動転送が設定されているとき : 赤点滅
- ・外線毎の自動転送が設定されていないとき : 消灯

ほかの内線や仮想の内線番号を使う

本来の内線番号のほかに、次のような内線番号を持つことができます。

- ほかの内線番号（実内線番号）
- 架空の内線番号（仮想内線）
- 内線代表番号（仮想内線）

これらの内線番号は、多機能電話機のファンクションボタンに割り付けて使うことができます。

仮想内線の利用例

<実内線番号/仮想内線番号> **工事**

仮想内線ボタンは、次のように利用します。

▼ かけかた

自分の電話機からや部署内の電話機から、発信を規制されている相手先に電話をかけたいときなどに使います。

- ほかの人の外線を使って電話をかける
ほかの人の内線番号（実内線番号）を割り付けたボタンを押すと、その人の電話機で発信が許可されている相手先に電話をかけることができます。



▼ 受けかた

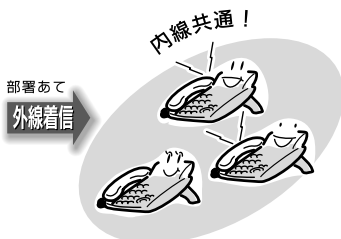
<仮想内線着信への応答>

ほかの人や部署あての電話を、代理で受けるときなどに使います。部署の内線番号を決めるときは、架空の内線番号を使うことができます。

- ほかの人あての電話を代理で受ける
ほかの人の内線番号（実内線番号）を割り付けたボタンを押すと、その人あての電話に代理で応答することができます。



- 部署あての代表番号のように使う
部署内の電話機に、同じ内線番号（仮想内線番号や内線代表番号）の仮想内線ボタンを割り付けておくと、その部署あての着信時にはすべての電話機が鳴り、どの電話機からでも応答できるようになります。



仮想内線ボタンを使う

工事

▼ 内線へのかけかた

1 仮想内線ボタンを押す

仮想内線ボタンにほかの人の電話機の内線番号が割り付けられている場合、その人の電話機の内線ボタンも赤点灯します。

2 内線番号を押す

呼出 120

3 相手が出たら、通話する

相手先の電話機の表示

着信 <<< 600

相手の電話機には、電話をかけてきた人の本来の内線番号ではなく、仮想内線番号が発信元として表示されます。

注意

ほかの人の内線番号を使用して発信している間は、その内線番号が使われている人の電話機に“使用中”と表示され、電話がかけられません。

▼ 外線へのかけかた

1 受話器を上げる

2 仮想内線ボタンを押す

3 ①を押す

①は、外線発信番号です。“ツー”という音が聞こえます。

4 電話番号を押す

5 相手が出たら、通話する



仮想内線ボタンと相手の電話番号で電話をかけられるようにしたい

上記手順3を省略することができます。この場合、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 仮想内線へのかけかた

1 受話器を上げる

2 仮想内線番号を押す

3 相手が出たら、通話する



部署あての代表番号として仮想内線を使っている場合

仮想内線ボタンが割り付けられ、着信音指定されている電話機の着信音が鳴ります。

▼ 受けかた

1 仮想内線に着信中


仮想内線ボタンが赤点滅します。

2 受話器を上げる

3 仮想内線ボタンを押す

4 相手と通話する

▼ 保留のしかた

- 1 仮想内線ボタンを使って通話中
- 2 を押す
仮想内線ボタンが緑点滅します。
- 3 受話器を戻す

これで、通話が保留できました。



保留にした通話を再開したい

仮想内線での通話を保留にすると、仮想内線ボタンが次のように点滅します。

- 保留した人の仮想内線ボタン：緑点滅
- ほかの人の仮想内線ボタン：赤点滅

通話を再開するときは、点滅中の仮想内線ボタンを押します。

オートアテンダント (VRS)

オートアテンダント (DID/DISA) の利用例

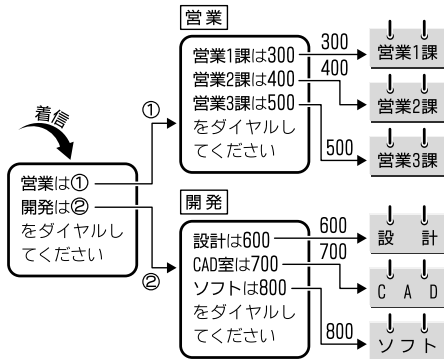
工事

DID/DISAの外線に電話がかかってきたとき、音声案内を流して、対応することができます。これにより、内線番号案内などを流すことができます。詳しくは『社外から本システムに電話をかける』(⇒P.3-19)を参照してください。

- 内線番号案内を流す
電話をかけてきた相手に、内線番号案内を流します。相手が内線番号を知らなくても、目的の部署にかけてもらえるので、電話受付台が必要なくなります。



- 段階を分けて音声案内を流す
電話をかけてきた相手に流す音声案内を、段階分けすることができます。例えば担当部署が細かく分かれている場合、次のように音声案内を分けることができます。



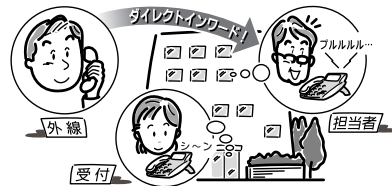
社外から本システムに電話をかける

社外から各内線に、直接電話をかけてもらうことができます。内線番号には、仮想内線番号や内線代表番号も含まれます。この機能は、プッシュホンタイプの電話機(トーン信号を送出できる電話機)で利用できます。

▼ オートアテンダント (DID) の場合

<オートアテンダント (DID) >

社外から本システムに電話をかけるときに、直接内線番号を指定してかけてもらうことができます。受付を介さず、直接担当者に電話をかけることができる着信方式です。



- 社外から本システムに電話をかける
- 本システムに電話がつながるとオートアテンダントメッセージが聞こえる
オートアテンダントメッセージは最大2分まで自由に録音できます。
- メッセージに従い、電話をかけたい相手の内線番号を押す
- 内線につながる



次のようなときは、通常の呼び出しに切り替えたい工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 内線の相手が電話に出ない
- 内線の相手が通話中
- 内線番号を間違えた
- 内線番号を押さなかった

▼ オートアテンダント (DISA) の場合

<オートアテンダント (DISA) > **工事**

利用者を限定するために、ユーザー IDを設定します。ID番号を入力することによって、本システムが利用者を識別します。また、本システムを介して、専用線（公専接続）や公衆回線（公公接続）にかけるときにも使用します。



ユーザー IDを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 1 社外から本システムに電話をかける
- 2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる
- 3 ユーザー IDを入力する
- 4 ユーザー IDが一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
オートアテンダントメッセージは最大2分まで自由に録音できます。
- 5 メッセージに従い、電話をかけたい相手の内線番号を押す
- 6 内線につながる



ユーザー IDの入力を間違えたとき
ユーザー IDの入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

内線番号のほかに使える番号

- 次の番号を使えます。
- 本システムを介して外線にかけられるための特番
 - 本システムを介して専用線にかけられるための特番
 - 共通短縮ダイヤル発信の特番
 - 内線グループ呼出や構内放送の特番
 - 自分の電話機などに着信転送を設定／解除するための特番
 - 通話割り込みの特番

▼ オートアテンダント (DID / DISA) 着信の受けかた

- 1 外線から着信中
着信中の電話機の外線ボタンが緑点滅します。
- 2 受話器を上げる
- 3 緑点滅している外線ボタンを押す
- 4 相手と通話する



一般電話機で受けない
次の操作で受けることができます。
オートアテンダント (DID / DISA) 着信中 → 受話器を上げる → 通話

▼ 外出先から着信転送を設定する

《 設定のしかた 》

この操作は、オートアテンダント (DISA) でのみ行うことができます。

- 1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント (DISA) が設定された回線の電話番号にかけます。
- 2 本システムにつながると“ピロピロピロ…”という音 (セカンドダイヤルトーン) が聞こえる
- 3 ユーザー ID を押す
- 4 ユーザー ID が一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
- 5 ⑨①①を押す
901は、着信転送の設定と解除の特番 (初期値) です。
- 6 転送元の内線番号を押す
- 7 ①を押す
- 8 転送先の内線番号を押す
- 9 “ピッ”という確認音が聞こえる
- 10 電話を切る

これで、外線から着信転送の設定ができました。



DISA で設定できる転送

次の転送を設定することができます。設定または解除の特番については、『電話に出られないとき』(⇒P.1-45)を参照してください。

- 着信転送
- 不在着信転送
- 不応答転送
- 話中転送

《 解除のしかた 》

この操作は、オートアテンダント (DISA) でのみ行うことができます。

- 1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント (DISA) が設定された回線の電話番号にかけます。
- 2 本システムにつながると“ピロピロピロ…”という音 (セカンドダイヤルトーン) が聞こえる
- 3 ユーザー ID を押す
- 4 ユーザー ID が一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
- 5 ⑨①①を押す
901は、着信転送の設定と解除の特番 (初期値) です。
- 6 転送元の内線番号を押す

7 ①を押す

8 “ピッ”という確認音が聞こえる

9 電話を切る

これで、外線から着信転送の解除ができました。

オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去

< VRS メッセージ編集 >

電話をかけてきた相手に流す音声案内を録音・再生・消去します。

この操作は、内線からでも外線からでも利用できます。ただし、外線から利用する場合は、パスワードが必要です。

▼ 録音のしかた

《 内線から録音するとき 》

- 1 受話器を上げる
- 2 *②①を押す
*20は、VRSメッセージ編集の特番 (初期値) です。
- 3 ⑦を押す
7は、録音の番号です。
- 4 VRSメッセージ番号 (001~100) を押す
- 5 音声案内を受話器で録音する
- 6 受話器を戻す

これで、オートアテンダントメッセージが録音できました。



受話器を戻すときは、静かに戻してください。乱暴に戻すと、音声案内の最後に「ガチャン」という音が入ってしまいます。

《 外線から録音するとき 》

- 1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント (DISA) が設定された回線の電話番号にかかります。
- 2 本システムにつながると“ピロピロピロ…”という音 (セカンドダイヤルトーン) が聞こえる
- 3 ユーザー ID を押す
- 4 ユーザー ID が一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
- 5 **＊②①** を押す
*20は、VRSメッセージ編集の特番 (初期値) です。
- 6 工事段階で設定されたVRSメッセージパスワードを押す
- 7 **⑦** を押す
7は、録音の番号です。
- 8 VRSメッセージ番号 (001～100) を押す
- 9 音声案内を受話器で録音する
- 10 電話を切る

これで、外線からオートアテンダント (VRS) メッセージが録音できました。



録音は、なるべく雑音のない静かなところで行ってください。音声案内の中に雑音が入り、誤動作の原因となることがあります。

▼ 再生のしかた

《 内線で再生して聞くととき 》

- 1 受話器を上げる
- 2 **＊②①** を押す
*20は、VRSメッセージ編集の特番 (初期値) です。
- 3 **⑤** を押す
5は、聴取の番号です。
- 4 VRSメッセージ番号 (001～100) を押す
- 5 音声案内が再生される
- 6 受話器を戻す

これで、オートアテンダント (VRS) メッセージが再生できました。

《 外線から再生して聞くととき 》

- 1 外出先の電話機や携帯電話などから、本システムに電話をかける
オートアテンダント (DISA) が設定された回線の電話番号にかかります。
- 2 本システムにつながると“ピロピロピロ…”という音 (セカンドダイヤルトーン) が聞こえる
- 3 ユーザー ID を押す
- 4 ユーザー ID が一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
- 5 **＊②①** を押す
*20は、VRSメッセージ編集の特番 (初期値) です。
- 6 工事段階で設定されたVRSメッセージパスワードを押す
- 7 **⑤** を押す
5は、聴取の番号です。
- 8 VRSメッセージ番号 (001～100) を押す
- 9 音声案内が再生される
- 10 電話を切る

これで、外線からオートアテンダント (VRS) メッセージが再生できました。

▼ 消去のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 **＊②①** を押す
*20は、VRSメッセージ編集の特番 (初期値) です。
- 3 **③** を押す
3は、消去の番号です。
- 4 VRSメッセージ番号 (001～100) を押す
- 5 受話器を戻す

これで、オートアテンダント (VRS) メッセージが消去できました。



外線から消去することはできません。

外出先から内線への各種設定を行う

<リモート設定> **工事**

社外から、任意の内線に対する各種設定をすることができます。自分の内線番号あてにかかってきた電話の転送や、運用モードの切り替えなども行えます。この操作は、オートアテンダント (DISA) でのみ行うことができます。

注意

ユーザー ID を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- リモート設定中は、被設定電話機は使用できません。(多機能電話機の場合、ディスプレイに「リモートアクセス中」と表示されます。)
- 被設定電話機が鳴動中や使用中の場合、内線番号をダイヤルした時点で終話となり、設定できません。

- 1 社外から本システムに電話をかける
- 2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる
- 3 ユーザー ID を入力する
- 4 ユーザー ID が一致すると、オートアテンダントメッセージが聞こえる
オートアテンダントメッセージは最大2分まで自由に録音できます。
- 5 ⑧①①を押す
8001は、リモート設定の特番(初期値)です。
- 6 “内線番号をどうぞ”と聞こえる
- 7 設定をしたい内線番号を押す
- 8 “サービスコードをどうぞ”と聞こえる
- 9 各種設定を行う
- 10 設定が完了すると、“設定しました”と聞こえる



ユーザー ID の入力を間違えたとき
ユーザー ID の入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

リモート設定で行える設定

- 次の設定が行えます。
- 自グループの運用モードの切り替え
 - 外線ごとの自動転送の設定・解除・転送先の登録
 - VRSメッセージの録音・再生・消去
 - VRS同報メッセージの録音・消去
 - 着信転送、話中転送、不応答転送、話中・不応答転送、不在着信転送、フォローミー、着信拒否の設定・解除

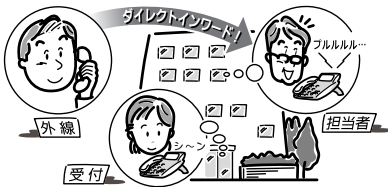
DID/DISA

社外から各内線に、直接電話をかけてもらうことができます。内線番号には、仮想内線番号や内線代表番号も含まれます。この機能は、プッシュホンタイプの電話機（トーン信号を送出できる電話機）で利用できます。

ダイレクトインワードダイヤルの利用例

<DID> **工事**

社外から本システムに電話をかけるときに、直接内線番号を指定してかけてもらうことができます。受付を介さず、直接担当者に電話をかけることができる着信方式です。



- 1 社外から本システムに電話をかける
- 2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる
- 3 電話をかけたい相手の内線番号を押す
- 4 内線につながる



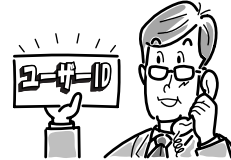
次のようなときは、通常の呼び出しに切り替えたい工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 内線の相手が電話に出ない
- 内線の相手が通話中
- 内線番号を間違えた
- 内線番号を押さなかった

ダイレクトインワードシステムアクセスの利用例

<DISA> **工事**

利用者を限定するために、ユーザー IDを設定します。ID番号を入力することによって、本システムが利用者を識別します。また、本システムを介して、専用線（公専接続）や公衆回線（公公接続）にかけるときにも使用します。



注意

ユーザー IDを利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

- 1 社外から本システムに電話をかける
- 2 本システムに電話がつながると“ピロピロピロ…”という音が聞こえる
- 3 ユーザー IDを入力する
- 4 ユーザー IDが一致すると、“ピロピロピロ…”という音が聞こえる
- 5 電話をかけたい相手の内線番号を押す
- 6 内線につながる



ユーザー IDの入力を間違えたとき
ユーザー IDの入力を3回続けて間違えると、電話が自動的に切れます。このときは、もう一度かけ直してください。

内線番号のほかに使える番号

次の番号を使えます。

- 本システムを介して外線にかけるとの特番
- 本システムを介して専用線にかけるとの特番
- 共通短縮ダイヤル発信の特番
- 内線グループ呼出や構内放送の特番
- 自分の電話機などに着信転送を設定/解除するための特番
- 通話割り込みの特番

着信お待たせメッセージ

かかってきた電話にすぐ応答できない場合や、電話受付担当者が少ないとき、相手に「ただいま電話が混み合っております…」などの音声案内を流すことができます。

着信お待たせメッセージの利用例

工事

着信お待たせメッセージを設定した外線に着信すると、一定時間が経過しても応答できない場合、相手にメッセージを流します。

これにより、一定時間内は通常どおり応答し、一定時間が経過しても応答できないときは、着信お待たせメッセージを流すことができます。



- 1 外線から着信中
通常と同じように着信音が鳴ります。
- 2 一定時間が経過しても応答できないと、相手に着信お待たせメッセージが流れる
着信音が変わります。
- 3 応答するときは、赤点滅中の外線ボタンを押す
- 4 相手と通話する



必要などきだけ切り替えたい

電話応対ができないときだけ、必要に応じて着信お待たせメッセージを利用することができます。この場合は、着信中に着信お待たせメッセージ起動ボタンを押してから、着信中の外線ボタンを押してください。

着信お待たせメッセージを設定する

工事

注意

- 「ファンクションボタンの設定」により着信お待たせ設定ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。
- お待たせメッセージの録音・再生・消去方法は『オートアテンダント (VRS)』の『オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去』(⇒P.3-21)を参照してください。ただし、お待たせメッセージで使用するVRSメッセージ番号は、工事段階で設定します。
- VRSメッセージ番号101には、あらかじめ「ただいま、電話が大変混み合っています。少々お待ちください」というメッセージが登録されています。このメッセージを使用する場合には、工事段階の設定が必要です。

▼ 設定のしかた

- 1 (着信お待たせ設定ボタン) を押す
着信お待たせ設定ボタンが赤点灯します。

着信お待たせ設定 IRG No. 001	設定
-------------------------	----

これで、着信お待たせメッセージが設定できました。

▼ 解除のしかた

- 1 (着信お待たせ設定ボタン) を押す
着信お待たせ設定ボタンが消灯します。

着信お待たせ設定 IRG No. 001	解除
-------------------------	----

これで、着信お待たせメッセージが解除できました。

構内放送

構内放送用の外部スピーカを利用して、次のようなことができます。

- 社内を移動中の人を呼び出す
- 別のフロアの人を呼び出す
- 電話機から離れている人に電話を取り次ぐ
- 会議通話に参加してほしい人を呼び出す

構内放送の利用例

<放送/応答> **工事**

構内放送用の外部スピーカは、最大9台まで接続することができます。この外部スピーカから音声で、一斉に、またはグループごとに呼び出すことができます。



外部スピーカを使って呼び出す

工事

▼ 一斉に呼び出す

<一斉放送>

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧②①を押す

820は、放送の特番（初期値）です。
- 3 ①を押す

0は、すべての外部スピーカを呼び出すときの番号です。
- 4 一斉呼出をする
外部スピーカから呼出の音声がかかります。
- 5 受話器を持ったまま、応答を待つ

▼ グループごとに呼び出す

<グループ放送>

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧②①を押す

820は、放送の特番（初期値）です。
- 3 放送グループ番号を押す

放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押ししてください。

4 呼出をする

「〇〇さん、1」に回答してください」というように、上記手順3で押した放送グループ番号を伝えます。外部スピーカから呼出の音声がかかります。

5 受話器を持ったまま、応答を待つ



よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』（⇒P.5-18）を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で呼び出せます。

- 受話器を上げる → [820] → [0] → 呼出 → 受話器を持ったまま応答を待つ
- 外部スピーカのグループ別に呼び出す
受話器を上げる → [820] → [放送グループ番号] → 呼出 → 受話器を持ったまま応答を待つ

構内放送に回答する

<一斉放送/グループ放送への応答> **工事**

▼ 受けかた

- 1 構内放送で呼出中
- 2 受話器を上げる
- 3 ⑧②①を押す

822は、放送応答の特番（初期値）です。
- 4 放送グループ番号を押す
放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押ししてください。
すべての外部スピーカの呼出に回答するときは、0を押ししてください。
- 5 呼び出した人と通話する



一般電話機で操作したい

上記と同じ操作で応答することができます。

外部スピーカで呼び出して電話を取り次ぐ

<ページング転送> **工事**

▼ 取り次ぎかた

- 1 外線と通話中
- 2 **保留**を押す
- 3 **⑧②①**を押す

放送 No.

820は、放送の特番（初期値）です。
- 4 **放送グループ番号を押す**

放送	グループ 01
	放送グループ番号

放送グループ番号は、1から8のうち、いずれかを押してください。
- 5 **一斉呼出をする**
外部スピーカから呼出の音声聞こえます。
- 6 **相手が出たら、電話を取り次ぐことを伝える**
- 7 **転送**を押す
- 8 **保留にした外線と取り次いだ内線がつながる**

これで、ページング転送ができました。



よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作で呼出または応答できます。

- 呼び出すとき：
外線通話中 → フッキング → [820] → [放送グループ番号] → 呼出 → 受話器を持ったまま待つ → 内線通話 → 受話器を戻す
- 応答するとき：
呼出中 → 受話器を上げる → [822] → [放送グループ番号] → 内線通話 → 受話器を持ったまま待つ → 外線通話

外部スピーカで呼び出して会議通話をする

<一斉放送会議通話> **工事**

▼ 呼び出しかた

- 1 外線または内線と通話中
- 2 **☐(会議ボタン)を押す**

内線	ダイヤル	会議	通話
----	------	----	----
- 3 **⑧②①**を押す

放送 No.	会議	通話
--------	----	----

820は、放送の特番（初期値）です。
- 4 **①**を押す

放送	一斉
----	----

01は、すべての外部スピーカを呼び出すときの番号です。
- 5 **呼出をする**
外部スピーカから呼出の音声聞こえます。
- 6 **相手が出たら、会議通話を始めることを伝える**
- 7 **☐(会議ボタン)を押す**
- 8 **☐(会議ボタン)を押す**

LINE 001	会議	通話
120		

これで、会議通話になりました。



ほかの人も参加させたい

手順2からの操作をくり返すと、ほかの人も参加させることができます。

よく構内放送を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに一斉放送ボタンやグループ放送ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

一般電話機で操作したい

次の操作をすると、会議通話できます。

- 呼び出す側：
外線通話中 → フッキング → [802] → [820] → [0] → 呼出 → 受話器を持ったまま待つ → 内線通話 → フッキング → フッキング → 会議通話
- 応答する側：
呼出中 → 受話器を上げる → [822] → [0] → 内線通話 → 受話器を持ったまま待つ → 会議通話

ドアホン

本システムにドアホンを接続して、次のようなことができます。

- 電話機からドアホンに応答する
- ドアホンの周囲の音を電話機から聞く
- 電話機からドアのかぎを開ける
- ドアホン着信を外線に転送する

ドアホンの利用例

<ドアホン> **工事**

ドアホンは、最大8台まで接続することができます。このドアホンに対し、電話機から応答できます。ドアホンの呼出には、多機能電話機や一般電話機からも応答できます。



ドアホンに応答する

工事

ドアホンからの呼び出しに応答することができます。

▼ 受けかた

- 1 ドアホン着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 ドアホンと通話する



ドアホンの着信に、外出先から応答したい
ドアホンの着信を、外線に自動転送することができます。
『ドアホンへの着信を外線に転送する』(⇒P.3-29)を参照してください。

ドアホンの周囲の音を聞く

<ドアホンモニタ> **工事**

ドアホンを呼び出し、周囲の音を聞いたり、来訪者がいるかどうかを確認することができます。

▼ 呼び出しかた

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑧③⑥を押す 836は、ドアホン呼出の特番(初期値)です。
- 3 ドアホンの番号を押す
- 4 ドアホンの周囲の音を聞く
ドアホンに呼びかけて、来訪者がいるかどうかを確認します。



よくドアホン呼出を利用する方へ
電話機のファンクションボタンにドアホン呼出ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

ドアのかぎを開ける

<ドアホンロック開錠> **工事**

ドアホンに応答後、電話機からの操作でドアのかぎを開けることができます。

▼ カギの開けかた

- 1 ドアホンと通話中
- 2 を押す
- 3 カギが開く

これで、ドアのかぎが開きました。



一般電話機で操作したい
次の操作をすると、カギを開けられます。
ドアホンと通話中 → フッキング → カギが開く

ドアホンへの着信を外線に転送する

工事

夜間や外出時、ドアホンへの着信を携帯電話などに転送し、外出先から応答します。



ドアホンへの着信を外出先に転送する場合、転送用の外線は、必ずISDN回線を使用してください。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 **(*)** **(1)** **(8)** を押す
*18は、ドアホン着信の外線転送の特番（初期値）です。
- 3 ドアホンの番号（1～8）を押す
- 4 転送先の電話番号を登録しておいた共通短縮番号を押す
- 5 受話器を戻す

▼ 解除のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 **(*)** **(1)** **(8)** を押す
*18は、ドアホン着信の外線転送の特番（初期値）です。
- 3 **(0)** を押す
- 4 受話器を戻す

DSSコンソール

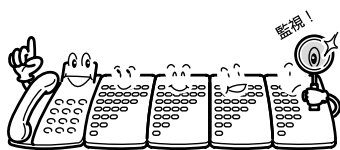
DSSコンソールは、60個のボタンがついた集中受付装置です。DSSコンソールで、次のようなことができます。

- 会社の受付台として使い、内線や外線の使用状況を表示する
- ACDの集中監視台として使い、受付者の稼働状況を表示する
- ホテルシステムのルーム状態監視台として使い、チェックイン・チェックアウトの状況を表示する

DSSコンソールについて

工事

DSSコンソールは、システム全体で最大32台まで接続できます。DSSコンソールのボタンには、いろいろな機能を設定することができます。設定できる機能については『利用できる機能と利用中の表示』(⇒P.3-31)を参照してください。



DSSコンソールのランプ表示モード

DSSコンソールの60個のボタンに、DSS/ワンタッチボタン機能を設定すると、そのボタンに登録した内線電話機の状態をランプ表示することができます。DSSコンソールのランプ表示には、用途に応じて次の3つのモードがあります。

▼ ビジネスモード

おもに内線への電話取り次ぎ用として使います。ボタンに登録された各内線の使用状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された内線の状態	DSSコンソールのランプ表示
<ul style="list-style-type: none"> • 電話機を使っていない状態 • 外線一般着信中（鳴動しない電話機） 	消灯
<ul style="list-style-type: none"> • 通話中 • 内線着信中（個別着信、専用線着信、ダイヤルイン着信を含む） • 保留リコール中 • 外線一般着信中（鳴動する電話機） 	赤点灯
<ul style="list-style-type: none"> • 着信拒否中（外線着信拒否を除く） 	速い赤点滅
<ul style="list-style-type: none"> • 伝言が設定されている状態 	緑点灯

▼ ACD監視モード

おもにACDの監視台用として使います。ボタンに登録された各受付者のログインなどの状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された受付者の状態	DSSコンソールのランプ表示
<ul style="list-style-type: none"> • 一般電話機 	消灯
<ul style="list-style-type: none"> • 通話中 • 後処理中 	赤点灯
<ul style="list-style-type: none"> • 離席中 • ログアウト中 	遅い2点滅（間を空けて2回ずつ点滅）
<ul style="list-style-type: none"> • ログイン中 	遅い点滅
<ul style="list-style-type: none"> • EMGコール中 	速い赤点滅

▼ ホテルモード

おもにホテルのフロント用として使います。ボタンに登録された各部屋のチェックインなどの状態が、ランプの点灯・点滅でわかります。

DSSコンソールに登録された部屋の状態	DSSコンソールのランプ表示
<ul style="list-style-type: none"> • チェックアウト中 	消灯
<ul style="list-style-type: none"> • チェックイン中 	赤点灯
<ul style="list-style-type: none"> • 伝言が設定されている状態 	緑点灯

利用できる機能と利用中の表示

工事

DSSコンソールの60個のボタンに、次のような機能を割り付けて利用できます。割り付けた機能によって、その機能の設定状態などをランプ表示します。



DSSボタンへの機能割付は、工事段階で行います。詳しくは、販売店にご相談ください。

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
01	DSS/ワンタッチ	あらかじめ登録しておいた相手にかける	内線番号を登録した場合、ランプ表示モードに応じて、その内線電話機の状況を表示する ・『DSSコンソールのランプ表示モード』(⇒P.3-30) 参照
02	マイク	ハンズフリー通話をするためのマイクをON/OFFする	・ ON : 赤点灯 ・ OFF : 消灯
03	着信拒否	着信拒否を設定/解除する	・ 設定中 : 赤点灯
04	BGM	多機能電話機から流すBGMをON/OFFする	・ ON : 赤点灯 ・ OFF : 消灯
05	ヘッドセット	ヘッドセットモードをON/OFFする	・ ON : 赤点灯 ・ OFF : 消灯
06	転送	多機能電話機の転送ボタンと同じように使う	—
07	会議	会議通話に招集する	・ 会議操作中 : 赤点灯
08	着信履歴	着信履歴を表示する	・ 新着履歴あり : 速い赤点滅 ・ 着信履歴あり : 赤点灯 ・ 着信履歴なし : 消灯
09	運用モード切替	本システムの運用モードを切り替える	設定する運用モードも登録している場合、その運用モードの設定状況を表示する ・ 運用モード設定中 : 赤点灯 (トグル切替時は常に消灯)
10	着信転送	着信転送を設定/解除する	・ 設定中 : 遅い赤点滅 ・ 被設定中 : 速い赤点滅
11	話中転送	話中転送を設定/解除する	・ 設定中 : 遅い赤点滅 ・ 被設定中 : 速い赤点滅
12	不応答転送	不応答転送を設定/解除する	・ 設定中 : 遅い赤点滅 ・ 被設定中 : 速い赤点滅
13	話中・不応答転送	話中・不応答転送を設定/解除する	・ 設定中 : 遅い赤点滅 ・ 被設定中 : 速い赤点滅
14	不在着信転送	不在着信転送を設定/解除する	・ 設定中 : 遅い赤点滅 ・ 被設定中 : 速い赤点滅
15	フォローミー	フォローミーを設定/解除する	・ 設定中 : 速い赤点滅 ・ 被設定中 : 遅い赤点滅
16	未使用	—	—
17	未使用	—	—
18	テキストメッセージ	テキストメッセージを設定/解除する	・ 設定中 : 赤点灯
19	グループ放送	構内放送で、グループ放送を行う	・ 放送中 : 赤点灯
20	放送	構内放送で、一斉放送を行う	・ 放送中 : 赤点灯
21	内線グループ呼出	自分が所属する内線グループで、一斉呼出を行う	・ 呼出中 : 赤点灯
22	内線一斉呼出	内線グループを指定して、一斉放送を行う	—

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
23	内線グループ呼出 応答	内線グループ呼出に 応答する	—
24	代理応答	ほかの内線への着信を 代わりに受ける	—
25	他グループ代理 応答	ほかの内線グループへの 着信を代わりに受ける	—
26	グループ指定代理 応答	内線グループを指定して、 着信を代わりに受ける	—
27	共通/個別短縮	共通/個別短縮ダイヤルを 使って電話する	—
28	グループ短縮	グループ短縮ダイヤルを 使って電話する	—
29	リピートダイヤル	リピートダイヤルを設定/ 解除する	・ リピートダイヤル中：速い赤点滅
30	セーブナンバー リダイヤル	セーブナンバーリダイヤルを 登録/利用する	—
31	メモダイヤル	メモダイヤルを登録/ 利用する	—
32	口頭会議招集	口頭で呼んだ人を会議通話に 参加させる	—
33	話中呼出	通話中の相手に電話を かける	—
34	通話割り込み	ほかの人の通話に割り 込む	—
35	予約（外線・内線 共用）	外線が開くまで待つ、または 内線通話中の人を待つ	・ 予約中またはコールバック 設定中：赤点灯
36	ステップコール	相手が出ないとき、同じ 内線グループの人を呼び 出し直す	—
37	バイパスコール	着信転送や着信拒否を設定 中の人を呼び出す	—
38	伝言	相手のメッセージランプに、 伝言表示を設定する	・ 伝言の設定先：緑点滅
39	ルームモニタ	会議室などの様子を電話機 で聞く/聞かせる	・ モニタ中：遅い赤点滅 ・ 被モニタ中：速い赤点滅
40	送話カット	通話中、こちらの声だけを 一時的に消す	・ 送話カット中：赤点灯
41	ブザー	電話機でブザー呼出を行う	・ 発信側：赤点灯 ・ 着信側：速い赤点滅
42	幹部着信代理 応答	常に取り次ぎを介して電話 を受けるとして設定/ 解除する	・ 幹部着信代理応答設定中： 赤点灯
43	折り返し転送	取り次ぎ先の通話が終了後、 取り次ぎ元に通話を戻す	—
44	共通保留	ほかの電話機から応答でき るように保留する	—
45	個別保留	ほかの電話機から応答でき ないように保留する	—
46	内線グループ一時 離脱	その内線が所属している内 線グループから、一時的に 抜ける	・ 離脱中：赤点灯
47	未使用	—	—
48	未使用	—	—
49	コールリダイレクト	外線の一般着信、外線個別 着信、内線着信を、あらか じめ設定された内線に転送 する	—
50	アカウントコード	料金管理用のアカウントコ ードを入力する	—
51	汎用リレー	汎用リレーを操作する	・ ON：赤点灯 ・ OFF：消灯
52	着信お待たせ設定	着信お待たせメッセージの 送付を開始/終了する	・ 設定中：赤点灯
53	着信お待たせメッ セージ起動	着信中に、着信お待たせ メッセージの送付を開始 する	・ 起動中：赤点灯



番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
54	ドアホン着信の外線転送設定	ドアホン着信の外線転送を設定/解除する	・ 設定中：赤点灯
55	内線名称編集	電話機の使用者の名前を設定する	—
56	在席表示操作	DSSコンソールやディスプレイボードの在席表示の操作を行う	・ 在席中 (001~100)：赤点灯 ・ 在席中 (101~200)：緑点灯 ・ 在席中 (201~300)：赤点灯 ⇒ 緑点灯 ・ 離席中：消灯
57	在席表示	DSSコンソールやディスプレイボードの在席表示を行う	
58	内線グループ毎の自動転送設定/解除	内線グループ毎の自動転送を設定/解除する	・ 設定中：遅い赤点滅
59	内線グループ毎の不应答転送設定/解除	内線グループ毎の不应答転送を設定/解除する	・ 設定中：遅い赤点滅
60	内線グループ毎の着信拒否設定/解除	内線グループ毎の着信拒否を設定/解除する	・ 設定中：遅い赤点滅
61	ID入力	課金ID機能使用時のIDを入力する	・ 設定中：赤点灯
62	未使用	—	—
63	発番号通知拒否モード (INS)	発信者番号を通知しないで発信する	・ 発番号通知拒否モード中：赤点灯
64	キーボードファシリティ	INSボイスワープなどを利用する	・ キーボード送信中：赤点灯
65	INS通信中転送	ISDN回線の話中転送機能を設定する	・ 網保留中：赤点灯
66	CTI通信	CTI機能動作表示をする	・ CTI動作中：赤点灯
67	メールボックス	メッセージの宛先としてメールボックスを指定する、またメッセージ到着通知表示をする	・ 新しいメッセージあり：速い赤点滅 ・ ボイスメールアクセス中：赤点灯 ・ メッセージ聞き取り後：消灯
68	ボイスメールサービス (スキップ、バックスキップ)	録音されたメッセージを再生中に、メッセージをスキップ/バックスキップする	—
69	通話録音サービス	通話録音を開始、終了する	通話録音ボタンとして使用時 ・ 通話録音中：赤点灯
70	留守番電話	内線留守番サービスを設定/解除する	・ 全着信転送設定中：赤点灯 ・ 話中/不应答転送設定中：赤点滅 ・ 解除中：消灯
71	留守番応答メッセージ切替	高機能ボイスメールの留守番サービス時、電話をかけてきた相手に流す応答メッセージを切り替える	・ 応答メッセージ1設定中：消灯 ・ 応答メッセージ2設定中：赤点灯 ・ 応答メッセージ3設定中：赤点滅
72	未使用	—	—
:			
80	未使用	—	—
81	外線毎の自動転送ボタン	外線毎の自動転送機能を設定する	・ 設定中：遅い赤点滅 ・ 解除中：消灯
82	DtermIP通話情報表示	DtermIPで、通話情報を表示する	—
83	未使用	—	—
84	切断再捕捉	通話終了後、そのまま使っていた外線で次の相手に電話をかける	—

番号	ボタンの種類	機能内容	ランプ表示
85	未使用	—	—
86	発番号非通知拒否設定	発番号非通知の着信に対する着信拒否を設定／解除する	<ul style="list-style-type: none"> 設定中：遅い赤点滅 解除中：消灯
87	発番号による着信拒否設定	発番号による着信拒否を設定／解除する	<ul style="list-style-type: none"> 設定中：遅い赤点滅 解除中：消灯
88	ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	ダイヤルイン呼番号毎に、モードを切り替える	<ul style="list-style-type: none"> パターン1、5～8設定中：消灯 パターン2設定中：赤点灯 パターン3設定中：遅い赤点滅 パターン4設定中：速い赤点滅
89	個人登録発信規制機能スイッチ	個人登録発信規制機能を設定／解除する	<ul style="list-style-type: none"> 設定中：赤点灯 解除中：消灯
90	個人登録発信規制データ登録	再ダイヤル01のダイヤルデータまたは任意の電話番号を、個人登録発信規制のデータとして登録する	—
97	ドアホン呼び出し	ドアホンを呼び出す	<ul style="list-style-type: none"> 通話中：赤点灯 呼び出し中：速い赤点滅 待ち受け中：消灯
*01	外線	外線にかける	<ul style="list-style-type: none"> 自分が通話中：緑点灯 自分が保留中：緑点滅 ほかの人が通話中：赤点灯 ほかの人が保留中：赤点滅
*04	パーク保留	パーク保留する／パーク保留に应答する	<ul style="list-style-type: none"> 自分がパーク保留中：緑点滅 ほかの人がパーク保留中：赤点滅
*07	ステーションパーク保留	ステーションパーク保留する／ステーションパーク保留に应答する	<ul style="list-style-type: none"> 保留中：緑点滅

DSSコンソールの使いかた

工事

▼ 登録内容の確認のしかた

1  を押す 2 確認したいボタンを押す
登録内容が表示されます。3  を押すと、元の表示に戻る

▼ 運用モードの切替

1 運用モード切替ボタンを押す

2 運用モード切替ボタンが赤点灯する

これで、運用モードの切替ができました。

▼ 内線呼び出す

1 受話器を上げる

2  (内線呼出ボタン) を押す
内線番号を登録しておいたDSS/ワンタッチボタンです。

3 相手が出たら、通話する

▼ 内線グループ呼び出す


1  (内線ページング呼出ボタン) を押す

2 受話器を上げる

3 一斉呼出をする

4 相手が出たら、通話する

▼ 構内放送で呼び出す

1  (グループ放送ボタンまたは一斉放送ボタン) を押す

2 受話器を上げる

3 一斉呼出をする

4 相手が出たら、通話する


▼ 外線通話を取り次ぐ

1 外線と通話中

2  (内線呼出ボタン) を押す

内線番号を登録しておいたDSS/ワンタッチボタンです。通話中に内線呼出ボタンを押すと、通話を保留して、内線を呼び出します。

3 相手が出たら、用件を伝える

4  を押す

5 受話器を戻す

これで、外線通話の取り次ぎができました。

ディスプレイボード

ディスプレイボードは、8個のランプがついた表示盤です。ディスプレイボードで、次のようなことができます。

- 在席表示
- 内線の状態表示
- 外線の着信表示
- ボイスメールのメッセージ到着の通知表示



ディスプレイボードについて

工事

ディスプレイボードは、システム全体で最大24セットまで接続できます。各ディスプレイボードのランプに、外線や内線、メールボックスを関連付けて利用します。関連付けの設定は、工事段階で行います。

ディスプレイボードのランプ表示

工事

ディスプレイボードのランプは、用途に応じて次のように表示されます。

- 在席表示
 - 赤点灯 ↔ 消灯
 - 赤点滅 ↔ 消灯
 - 赤点灯 → 赤点滅 → 消灯
- 内線の状態表示
(DSS/ワンタッチボタンとして設定している場合)
 - 消灯 : 電話機を使っていない状態
 - 赤点灯 : 通話中
 - 外線一般着信鳴動中
 - 内線着信中 (個別着信、専用線着信、ダイヤルイン着信を含む)
 - 保留リコール中
 - 速い赤点滅 : 着信拒否中、着信転送設定中
- 外線の着信表示
(外線ボタンとして設定している場合 (ただし、着信音は鳴りません))
 - 赤点灯 : 使用中
 - 赤点滅 : 保留中
 - 速い赤点滅 : 着信中
- ボイスメールのメッセージ到着の通知表示
(メールボックスボタンとして設定している場合)
 - 速い赤点滅 : 新しいメッセージが保存されたとき
 - 赤点灯 : 聞き取り済みのメッセージがあるとき
 - 遅い赤点滅 : メッセージ登録規制中
 - 消灯 : メッセージが保存されていないとき、またはすべて消去したとき

ディスプレイボードの使いかた



よく在席表示を利用する方へ

電話機のファンクションボタンに在席表示ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒ P.5-18)を参照してください。

▼ 設定のしかた

<在席表示>

《 特番を使うとき 》

- 1 を押す
- 2 ⑧③⑧を押す
838は、在席表示操作の特番(初期値)です。
- 3 在席表示ランプの番号を押す
- 4 在席表示盤のランプが点灯または点滅する
ランプに対応する在席番号によって、点灯または点滅します。
 - 001～100 : 赤点灯
 - 101～200 : 赤点滅
 - 201～300 : 赤点灯
- 5 を押す

これで、在席表示ができました。

もう一度くり返すと、在席表示盤のランプが消灯し、在席表示を解除できます。

在席番号201～300に対応するランプの場合は、赤点灯が赤点滅に変わり、もう一度くり返すと消灯します。

《 在席表示操作ボタンを使うとき 》

電話機のファンクションボタンに在席表示操作ボタンを割り付けておくと、このボタンを操作するだけで在席表示を切り替えることができます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

- 1 (在席表示操作ボタン) を押す
在席表示操作ボタンを押すたびに、ボタンのランプ表示が次のように切り替わります。
 - 001～100 : 赤点灯 ↔ 消灯
 - 101～200 : 緑点灯 ↔ 消灯
 - 201～300 : 赤点灯 → 緑点灯 → 消灯
- 2 在席表示盤のランプが点灯または点滅する
在席表示操作ボタンを押すたびに、在席表示盤のランプ表示が次のように切り替わります。
 - 001～100 : 赤点灯 ↔ 消灯
 - 101～200 : 赤点滅 ↔ 消灯
 - 201～300 : 赤点灯 → 赤点滅 → 消灯

これで、在席表示ができました。



電話機のファンクションボタンで在席状態を確認したい

電話機のファンクションボタンに在席表示ボタンを割り付けておくと、電話機で在席状態を確認することができます。

在席表示ボタンに割り付けられている在席番号の在席表示操作が設定されると、在席表示ボタンが次のように点灯します。

- 001～100：赤点灯↔消灯
- 101～200：緑点灯↔消灯
- 201～300：赤点灯→緑点灯→消灯

詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

ホテル機能

本システムには、ホテル向けの機能として、次のようなものがあります。

- チェックイン・チェックアウト（客室状態の変更）
- モーニングコール
- 伝言（メッセージ・ウェイティング）
- DSSコンソールによる客室状態表示
- ティスプレイボードによる客室状態表示
- 客室情報プリントアウト
- ホテル・ルームモニタ



チェックイン・チェックアウトについて



工事

客室に宿泊客がいるかどうかで、その客室の電話機からの発信を許可または規制する機能です。これにより、客室電話機の不正使用を防止できます。チェックイン・チェックアウトの切り替えは、フロントの多機能電話機から行います。

注意




チェックイン・チェックアウトボタンを利用するには、工事段階の設定で、フロントの多機能電話機のファンクションボタンにチェックイン・チェックアウトボタンを割り付けておくか、またはDSSコンソールに客室呼出ボタンを割り付けておく必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 客室番号を押して切り替える

- 1  (チェックインボタン) を押す
- 2 客室番号を押す
- 3  (客室呼出ボタン) が赤点灯する

これで、チェックインが設定できました。上記の操作で、チェックインボタンの代わりにチェックアウトボタンを押すと、チェックアウトできます。

▼ 客室呼出ボタンを使って切り替える

- 1  を押す
- 2  (客室呼出ボタン) を押す
- 3  (客室呼出ボタン) が赤点灯する

これで、チェックインが設定できました。上記の操作をもう一度くり返すと、チェックアウトできます。

モーニングコールについて

客室の一般電話機から、指定した時刻にアラームを鳴らす機能です。モーニングコールの設定は、特番操作で行います。

▼ 設定のしかた

- 1 受話器を上げる
- 2 モーニングコール設定の特番を押す
特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。
- 3 モーニングコールを鳴らしたい時刻を入力する
24時間制で入力します。
例：午前7時30分の場合は0730と入力する
- 4 “ピッ”という音が聞こえる
- 5 受話器を戻す

これで、モーニングコールが設定できました。



“ピッ”という確認音の代わりにアナウンスを流したい
工事段階の設定により、次のいずれかを設定することができます。
 • “ピッ”という確認音のみ
 • 特定のVRSメッセージ
 • モーニングコール時刻のアナウンスと特定のVRSメッセージ
 詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 解除のしかた

- 1 モーニングコール設定中
- 2 受話器を上げる
- 3 モーニングコール解除の特番を押す
特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。
- 4 “ピッ”という音が聞こえる
- 5 受話器を戻す

これで、モーニングコールが解除できました。

▼ 止めかた

モーニングコールが鳴ったときは、次のように止めます。

- 1 モーニングコール鳴動中
- 2 受話器を上げる
アラーム音が止まり、保留音が聞こえます。
- 3 受話器を戻す

これで、モーニングコールを止めることができました。

伝言（メッセージウェイティング）について

客室電話機のメッセージウェイティングランプに伝言表示をして、フロントで伝言を預かっていることを知らせる機能です。伝言の設定は、フロントの多機能電話機から行います。



伝言（メッセージウェイティング）を利用するには、工事段階の設定で、フロントの多機能電話機のファンクションボタンに「伝言設定」特番をワンタッチボタン登録しておく必要があります。詳しくは、『番号計画について』（⇒P.5-9）および『ワンタッチボタンを使ってかける』（⇒P.1-51）を参照してください。

▼ 設定のしかた

<伝言>

- 1 （伝言ボタン）を押す
- 2 客室番号を押す
- 3 （客室呼出ボタン）が緑点灯する
客室電話機のメッセージウェイティングランプが伝言表示状態になります。

これで、伝言があることを知らせることができました。911と客室番号を押すと、伝言を解除できます。

▼ 受けかた

<伝言への応答>

- 1 客室電話機の受話器を上げる
- 2 （909）を押す
909は、伝言の特番（初期値）です。
- 3 フロントの電話機を呼び出す
伝言を設定した電話機を呼び出します。
- 4 フロントが出たら、伝言の内容を聞く

DSS コンソールによる客室状態表示について

DSS コンソールのランプを点灯させて、各客室の使用状態を表示する機能です。詳しくは『DSS コンソール』（⇒P.3-30）を参照してください。

客室情報出力について

工事

客室情報出力は、客室のチェックイン・チェックアウト状態をパソコン等に出力する機能です。

セキュリティ

本システムには、セキュリティ機能として、次のようなものがあります。

- 夜間などに社内に警戒中メッセージを放送する
- セキュリティセンサに連動して管理者に通報すると共に社内に威嚇メッセージを放送する
- 自動で在席確認を行い、応答が無い場合管理者に通報する

社内に警戒中メッセージを放送する

<セキュリティ放送> **工事**

セキュリティ放送を設定すると、一定時間ごとに複数の多機能電話機のスピーカおよび構内放送装置からあらかじめ録音した、警戒中メッセージを送出します。

▼ 開始のしかた

- 1 **スピーカ**を押す
- 2 **⑧⑥③**を押す
863は、セキュリティ放送の特番（初期値）です。
セキュリティ放送設定
1:登録 0:解除
- 3 **①**を押す
確認音（ブツ）が聞こえます。
セキュリティ放送設定
セキュリティ放送開始
- 4 **スピーカ**を押す

これで、セキュリティ放送を開始できます。

▼ 終了のしかた

- 1 **スピーカ**を押す
- 2 **⑧⑥③**を押す
863は、セキュリティ放送の特番（初期値）です。
セキュリティ放送設定
1:登録 0:解除
- 3 **①**を押す
確認音（ブツ）が聞こえます。
セキュリティ放送設定
セキュリティ放送終了
- 4 **スピーカ**を押す

これで、セキュリティ放送を終了できます。



運用モードと連動させたい

運用モードの切替とセキュリティ放送を連動させることができます。さらに、自動運用モード切替と連動させてあらかじめ設定した時間にセキュリティ放送の開始や終了を行うことができます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

セキュリティセンサに連動して通報する

<セキュリティセンサ連動> **工事**

セキュリティセンサ動作中にセンサからの接点動作を検出した場合、登録してある電話番号に自動通報すると共に、複数の多機能電話機のスピーカおよび構内放送装置からあらかじめ録音した警告メッセージを送出して不審者を威嚇します。通報先が応答した場合、あらかじめ録音したメッセージを再生/通知し、その後指定内線からのモニタ状態となり、指定内線付近の物音の確認ができます。さらに*押下でハンズフリー状態とし、スピーカを通して威嚇することができます。警告メッセージのみ、または、自動通報のみの運用も可能です。

▼ 開始のしかた

- 1 **スピーカ**を押す
- 2 **⑧⑥④**を押す
864は、セキュリティセンサ連動の特番（初期値）です。
セキュリティセンサ連動設定
1:登録 0:解除
- 3 **①**を押す
確認音（ブツ）が聞こえます。
セキュリティセンサ連動設定
XXXX秒後に検出開始
- 4 **スピーカ**を押す

これで、セキュリティセンサ連動を開始設定できます。表示秒後（セキュリティセンサ連動開始待ち時間初期値：60秒）にセキュリティセンサ連動を開始します。時間内にセキュリティセンサ検出範囲から離れてください。



セキュリティセンサ連動開始待ち時間を変更したい
セキュリティセンサ連動開始待ち時間は、工事段階で設定します。詳しくは販売店にお問い合わせください。

▼ 終了のしかた

- 1 **スピーカ**を押す
- 2 **⑧⑥④**を押す
864は、セキュリティセンサ連動の特番（初期値）です。
セキュリティセンサ連動設定
1:登録 0:解除
- 3 **①**を押す
確認音（ブツ）が聞こえます。
セキュリティセンサ連動設定
セキュリティセンサ連動終了
- 4 **スピーカ**を押す


これで、セキュリティセンサ連動を終了できます。



運用モードと連動させたい

運用モードの切替とセキュリティセンサ連動を連動させることができます。さらに、自動運用モード切替と連動させあらかじめ設定した時間にセキュリティセンサ連動の開始や終了を行うことができます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

▼ セキュリティセンサ連動通報への応答

- 1 システムからのセキュリティセンサ連動通報に
応答する
- 2 通報メッセージが流れます
通報メッセージが終了するとモニタ状態となり、多機能電話機の
マイクから周囲音を確認できます。
- 3 を押す
ハンズフリー状態となり、多機能電話機のスピーカを通して音声
で威嚇、マイクからのモニタができます。

自動で在席確認をする

<リモート確認> **工事**

リモート確認先に設定された内線は、システムが自動で毎日決まった時刻に呼び出します。呼び出しに応答が無い場合、あらかじめ設定されている電話番号に通報し、通報メッセージを送出します。その後モニタ状態となり、内線付近の物音の確認ができます。さらに*押下でハンズフリー状態とし、内線使用者への呼びかけができます。確認先内線が応答した場合は、確認メッセージを送出します。


▼ 確認呼出しへの応答

- 1 確認鳴動中

確認	13:00
----	-------
- 2 受話器を上げる
- 3 確認メッセージが聞こえます
- 4 受話器を置きます

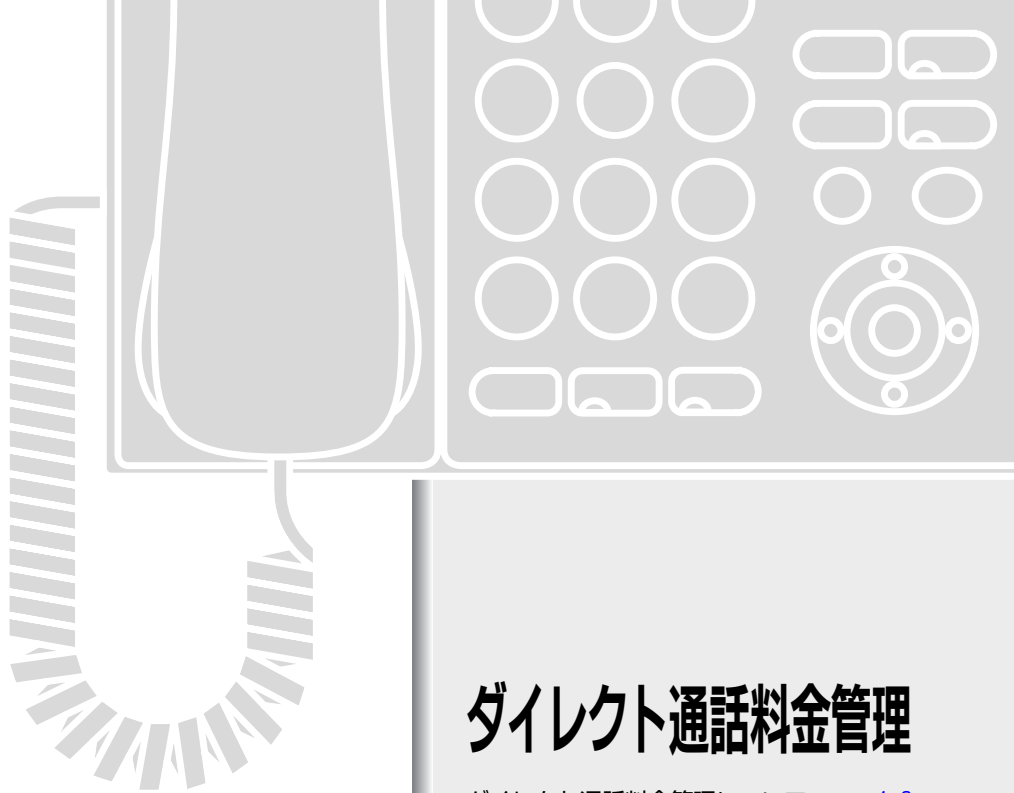
これで、リモート確認へ応答ができます。

▼ リモート確認不応答通報への応答

- 1 システムからのリモート確認不応答通報に
応答する
- 2 通報メッセージが流れます
通報メッセージが終了するとモニタ状態となり、多機能電話機の
マイクから周囲音を確認できます。
- 3 を押す
ハンズフリー状態となり、多機能電話機のスピーカを通して内線
使用者への呼びかけ、マイクからのモニタができます。



リモート確認先内線や、確認時間を変更したい
リモート確認先内線および確認時間は、工事段階で設定し
ます。詳しくは販売店にお問い合わせください。



ダイレクト通話料金管理

- ダイレクト通話料金管理について 4-2
- ダイレクト通話料金管理を利用する . . . 4-4
- 困ったときは 4-26

ダイレクト通話料金管理

ダイレクト通話料金管理について

おもな機能

ダイレクト通話料金管理では、蓄積された通話データ（通話料金や通話時間など）を用途に合わせ、専用プリンタから印刷することができます。

注意 ▶ ダイレクト通話料金管理を利用するには、工事段階での設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 通話料金集計・明細印刷機能

電話機からの特番操作で、各種通話料金の集計内容や通話内容の明細を印刷することができます。

- 注意** ▶
- 複数の電話機から同時に操作することはできません。1台の電話機で操作してください。
 - 外線の通話料金とは、料金管理の対象になっていない外線への着信を、ほかの外線に転送したときの料金を指します。
 - IDとは、内線番号とは別に、通話料金を集計することができる番号で、電話機を使用する際に設定することにより利用できます。フリーデスクのオフィスなどで利用するとき便利です。ID番号を利用した電話のかけかたについては『IDごとの通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-9）を参照してください。
 - 外線グループとは、印刷対象として設定されている外線全体を指します。
 - IDグループとは、印刷対象として設定されているID全体を指します。



印刷可能な項目（メニュー）		参照先	
番号毎	内線毎集計	内線毎明細	『内線ごとの通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-5）
	外線毎集計	外線毎明細	
	ID毎集計	ID毎明細	『IDごとの通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-9）
グループ毎	内線グループ毎集計	内線グループ毎明細	『内線グループごとの通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-11）
	外線グループ集計	外線グループ明細	
	IDグループ集計	IDグループ明細	『IDグループの通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-16）
システム一括	内線＋グループ合計＋システム合計集計	内線＋グループ合計＋システム合計明細	『システム一括で通話料金集計・明細を印刷する』（⇒P.4-19）
	グループ合計＋システム合計集計	グループ合計＋システム合計明細	
即時明細			『通話終了と同時に明細を印刷する』（⇒P.4-24）
印刷テスト			『印刷のテストをする』（⇒P.4-4）

▼ 通話明細即時印刷

通話が終了するとすぐに、通話内容の詳細を自動で印刷することができます。



▼ 特番による内線の簡易集計印刷機能

- 個別内線精算特番
各内線電話機ごとの通話料金集計を簡単に印刷できます。
 - 全内線一括精算特番
全内線電話機の通話料金集計を簡単に印刷できます。
- ※ 操作のしかたについては『特番で内線の通話料金集計を簡単に印刷する』（⇒P.4-25）を参照してください。

▼ システムアラームメッセージ表示機能

通話料金データを保存するエリアが残り少なくなった場合、システムアラームメッセージを電話機の表示器に表示してお知らせします。

▼ その他の機能

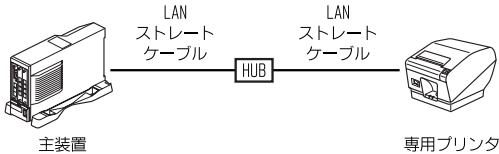
- プリント用紙の自動カット機能
印刷終了時、用紙を自動カットするように設定できます。
- 消費税率の変更
消費税率が変更になった場合、税率に応じて設定を変更することができます。
- 通話料金データの全消去
システム内に保存されているすべての通話料金データを消去することができます。

機器の構成

専用プリンタは、LAN経由で主装置に接続することができます。



専用プリンタの接続について
詳しくは、販売店にご相談ください。



ご利用になる前に

- 次のような場合は、正しく印刷されません。
 - 印刷時にプリンタが正しく接続されていない場合
 - プリンタに異常が発生した場合
- テータを消去する前に、印刷結果を必ず確認してください。正しく印刷されなかった場合も、表示器にはアラームが表示されず、操作を継続するための画面が表示されます。通話料金データを消去する前に、正しく印刷されたことを必ず確認してください。いったん消去した通話料金データは、再び印刷できませんので、ご注意ください。
- 設定できる通信事業者について
通信事業者は、国内、国際、それぞれ最大4社まで設定することができます。
設定されていない通信事業者を利用した場合は「国内その他」「国際その他」として集計されます。

<一般回線で事業者選択した場合（マイライン含む）>

	通信事業者	印刷時の略称	事業者識別番号
国内通話	東日本電信電話（株）	NTT-E	0036
	西日本電信電話（株）	NTT-W	0039
	NTTコミュニケーションズ（株）	NTT-COM	0033
	（株）ケーティーディーアイ（旧DDI）	KDDI0077	0077
	（株）ケーティーディーアイ（旧KDD）	KDDI0001	001
	ソフトバンクテレコム（株）	SBT0088	0088
	東京通信ネットワーク（株）	TTNet	0081
	九州通信ネットワーク（株）	QNet	0086
	ソフトバンクテレコム（株）	SBT0061	0061
国際通話	NTTコミュニケーションズ（株）	NTT-COM	0033
	（株）ケーティーディーアイ（旧DDI）	KDDI0077	0077
	（株）ケーティーディーアイ（旧KDD）	KDDI0001	001
	ソフトバンクテレコム（株）	SBT0041	0041
	東京通信ネットワーク（株）	TTNet	0082
	ソフトバンクテレコム（株）	SBT0061	0061

< IP回線（事業者固定）の場合 >

	回線タイプ	印刷時の略称	事業者識別番号
国際／国内共通	ひかり電話（NTT東／NTT西）	NTT ヒカリ	—
	KDDI 光ダイレクト／ KDDI 光ダイレクト over Powered Ethernet／ KDDI-IPフォン／ KDDI メタルプラス	KDDI IP	—
	おとくライン（ソフトバンク）	SBTおくライ	—
	OCN ドットフォンオフィス／ .Phone Direct（NTT Com）	.Phone	—
	FUSION IP-Phone	FUSION IP	—
	FT Phone（フォーバル）	Forval FT	—


（注）国際通話料金は、消費税の対象外となっております。

- 次のような通話は課金されません。
 - 専用線
 - 航空機電話
 - 海事衛星通信
 - 電報
 - 申込電話
 - コレクトコール
- 印刷された通話料金は、各通信事業者から請求される金額とは必ずしも一致しませんので、あくまでも目安としてご利用ください。
料金請求や支払いの対象としては、お使いにならないでください。


ダイレクト通話料金管理を利用する


印刷のテストをする


ダイレクト通話料金管理が、正しく動作することを確認するため、テスト用の印字データを印刷します。印刷テストは、何回でも行うことができます。

- 1 を押す
スピーカボタンが赤点灯し、内線発信音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM


- 2 ①③を押す
※13は、通話料金印刷の特番（初期値）です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
Xユー:0/1/2/3
- 3 を押す

テスト印刷
1:印刷 0:キャンセル
- 4 を押す
テスト用の印字データが印刷されます。印刷テストをキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。


印刷中

印刷が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xユー:0/1/2/3
- 5 を押す
通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM	
2000	タカタ
- 6 印刷結果を確認する
「印刷例①」を参照してください。

これで、印刷のテストができました。


 正しく印刷されない
プリンタとのケーブル接続を確認してください。

■ 印刷例① 印刷テスト


```
*****
          テスト印刷
*****
          2002年 5月 1日(水) 08:50:20
バージョン      : 1.0
即時明細設定    : 有り
オートカット設定 : 有り
ダイヤルマスク設定 : 無し
プリンタ種別    : TSP700 II
```

番号ごとの通話料金集計・明細を印刷する

番号（内線/外線/ID）ごとの通話料金の集計内容、通話内容の明細を印刷することができます。通話料金集計、通話明細の順に印刷します。

 **注意**

- 番号（内線・外線・ID）ごとの通話料金集計や明細を印刷するには、番号を印刷対象とすることをシステムに登録しておく必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- 指定した番号が外線発信通話/転送中の場合、その通話にかかる料金は、集計・明細印刷結果には含まれません。このとき、集計・明細印刷結果の最終行に「外線通話中」と印刷されます。通話中の料金は、通話が終了すると通話料金データに加算されます。
- 通話料金データの蓄積件数がCCPU-A1の場合2,000件、CCPU-B1の場合20,000件を超えると、それ以降の通話明細は保存されません。この場合、通話料金は「溢れ料金」として積算され、集計・明細印刷の最後に印刷されます。
- フリーダイヤルでの外線発信通話/転送に関する明細も、印刷されます。

 **操作を中断したい**
操作中、スピーカボタンを押すと、操作を中断して通常の表示に戻ります。この場合でも、消去の操作をしない限り、通話料金データは保持されています。

複数の通話料金集計・明細を印刷したい
メニュー画面に戻ったとき、引き続き手順2から操作を行います。

通話料金データのクリアについて
一度消去した期間の通話料金データは、印刷対象期間内でも、再び印刷することはできません。

期間Bのデータを消去済みの場合

期間A 100円	期間B 200円	期間C 300円
-------------	-------------	-------------

← 印刷対象期間 →






※ このとき、対象期間内の合計は、400円と印刷されます。

▼ 内線ごとの通話料金集計・明細を印刷する

各内線電話機ごとに、外線にかけた通話料金の集計や明細を印刷することができます。

《 内線ごとの集計を印刷する 》

<内線毎集計印刷>

- 1 を押す
スピーカーボタンが赤点灯し、内線発信音が聞こえます。
- 2 を押す
*13は、通話料金印刷の特番(初期値)です。
通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。
- 3 を押す
- 4 を押す
- 5 内線番号(最大8桁)を押す
- 6 集計開始日を入力する
例: 2002年4月9日の場合
「020409」と入力します。
- 7 集計締め日を入力する
1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にご入力ください。
指定した期間の通話料金が、集計されます。
集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。
- 8 を押す
指定した内線の集計が印刷されます。
集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。
『《内線ごとの明細を印刷する》』の手順10に進んでください。
- 9 印刷結果を確認する
「印刷例②-1」「印刷例②-2」「印刷例②-3」を参照してください。

これで、内線ごとの集計印刷ができました。
『《内線ごとの明細を印刷する》』の手順10に進んでください。



現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順6で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

■ 印刷例②-1 内線毎集計 指定内線が外線発信通話していない場合

番号毎集計	
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線: 2001	名称: 個人内線10
NTT-E 料金	1,100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TTNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1,300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TTNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1,965円

番号毎集計	
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線: 2001	名称: 個人内線10
合計	0円

■ 印刷例②-2 内線毎集計 指定内線が外線発信通話中の場合

番号毎集計	
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線: 2001	名称: 個人内線10
NTT-E 料金	1,100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TTNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1,300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TTNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1,965円
	外線通話中

番号毎集計	
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線: 2001	名称: 個人内線10
合計	0円
	外線通話中

■ 印刷例㉔-3 内線毎集計
溢れ料金が存在する場合

番号毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線： 2001 名称：個人内線10	
NTT-E	料金 1,100円
KDDI0077	料金 0円
SBT0088	料金 200円
TNet	料金 0円
国内その他	0円

国内小計	1,300円
消費税	65円

KDDI001	料金 100円
SBT0041	料金 0円
NTT-COM	料金 0円
TNet	料金 0円
国際その他	500円

国際小計	600円
溢れ料金	500円

合計	2,465円

番号毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線： 2001 名称：個人内線10	
溢れ料金	500円

合計	2,465円

■ 印刷例㉔ 内線毎明細

番号毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線： 2001 名称：個人内線10	
;	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1,100.5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	200.5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI001
通話料金	100.0円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:45:15
通話時間	00:14:40
ダイヤル	0078033984323# KDDI0078
通話料金	500.0円

国内小計	1,901円
消費税	65円

合計	1,966円

番号毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
内線： 2001 名称：個人内線10	
;	
明細データ無し	

《 内線ごとの明細を印刷する 》

<内線毎明細印刷>

10 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

11 ①を押す

印刷中

指定した内線の明細が印刷されます。
明細印刷を行わずに通話料金データを消去・保持したい場合は、0を押します。『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。

12 印刷結果を確認する

「印刷例㉔」を参照してください。

これで、内線ごとの明細印刷ができました。

『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。

注意

- 集計印刷と明細印刷で、同集計期間でも合計金額の印刷結果に数円の誤差が生じることがあります。これは、集計印刷と明細印刷の合計料金の算出方法が異なるためです。
- 明細印刷時の通話料金データは、通話を開始した順ではなく、通話が終了した順に印刷されます。

《 通話料金データを消去する 》

注意

通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

15 ①を押す

クリア中

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
メニュー:0/1/2/3

16  を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。


5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カクミ

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14  を押す

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
メニュー:0/1/2/3

15  を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カクミ

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

▼ 外線ごとの通話料金集計・明細を印刷する

印刷対象の外線への着信が、ほかの外線に転送されたときの通話料金の集計や明細を印刷することができます。




《 外線ごとの集計を印刷する 》

<外線毎集計印刷>

1  を押す


スピーカボタンが赤点灯し、内線発着音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM


2    を押す

*13は、通話料金印刷の特番(初期値)です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
メニュー:0/1/2/3

3  を押す

番号集計
1:内線 2:外線 3:ID

4  を押す

外線集計
外線番号

5 外線番号(1~200)を押す

外線番号は、必ず3桁で入力してください。
例: 外線番号1のとき ... 001
(1桁の場合は、頭に「00」を付けます)
外線番号99のとき ... 099
(2桁の場合は、頭に「0」を付けます)

集計期間
集計開始日

6 集計開始日を入力する

例: 2002年4月9日の場合「020409」と入力します。

集計期間
集計締め日


7 集計締め日を入力する

1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日に入力してください。指定した期間の通話料金が、集計されます。

集計中

集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。

外線020	693円
1:印刷 0:キャンセル	

8  を押す

指定した外線の集計が印刷されます。集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《 外線ごとの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。

印刷中

9 印刷結果を確認する

「印刷例④-1」「印刷例④-2」を参照してください。

これで、外線ごとの集計印刷ができました。『《 外線ごとの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。



現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順6で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

■ 印刷例④-1 外線毎集計

指定外線が外線発信転送していない場合

番号毎集計	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線:	20 名称: LINE 020
NTT-E	料金 1, 100円
KDD10077	料金 0円
SBT0088	料金 200円
TTNet	料金 0円
国内その他	料金 0円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDD1001	料金 100円
SBT0061	料金 0円
NTT-COM	料金 0円
TTNet	料金 0円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1, 965円

番号毎集計	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線:	20 名称: LINE 020
合計	0円

ダイレクト通話料金管理

■ 印刷例④-2 外線毎集計
指定外線が外線発信通話中の場合

番号毎集計	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線 :	20 名称 : LINE 020
NTT-E 料金	1,100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1,300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1,965円
	外線通話中

番号毎集計	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線 :	20 名称 : LINE 020
合計	0円
	外線通話中

■ 印刷例⑤ 外線毎明細

番号毎明細	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線 :	20 名称 : LINE 020
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1,100.5円
開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	200.5円
開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI001
通話料金	100.0円
開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:45:15
通話時間	00:14:40
ダイヤル	0078033984323# KDDI0078
通話料金	500.0円
国内小計	1,901円
消費税	65円
合計	1,966円

番号毎明細	
(局一局転送時の通話料金)	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
外線 :	20 名称 : LINE 020
	明細データ無し

《 外線ごとの明細を印刷する 》

<外線毎明細印刷>

10 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

11 ①を押す

印刷中

指定した外線の明細が印刷されます。
明細印刷を行わずに通話明細データを消去・保持したい場合は、0を押します。『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。

12 印刷結果を確認する

「印刷例⑤」を参照してください。

これで、外線ごとの明細印刷ができました。

『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。

《 通話料金データを消去する 》



通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

15 ①を押す

クリア中

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
メニュー:0/1/2/3

16 を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 外カ クロ

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データ消去 0:データ保持

14 **0**を押す

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xメニュー:0/1/2/3

15 **スピーカ**を押す


通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 ヲカ クシ

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

▼ IDごとの通話料金集計・明細を印刷する

課金用のID番号ごとに、外線にかけた通話料金の集計や明細を印刷することができます。

 ID番号を利用した電話のかけかたについて
ID番号を利用する場合は、次の手順で電話をかけます。
(注) あらかじめ電話機のファンクションボタンに、ID入力ボタンを設定しておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒ P.5-18)を参照してください。

- ① ID入力ボタンを押す
- ② ID番号(最大20桁)を入力する
工事段階でIDパスワードを設定していない場合は、手順④に進んでください。
- ③ IDパスワード(4桁固定)を入力する
- ④ 電話番号を押す
- ⑤ 発信ボタンを押す
- ⑥ 相手が出たら、通話する

《 IDごとの集計を印刷する 》

< ID毎集計印刷 >

1 **スピーカ**を押す

スピーカボタンが赤点灯し、外線発信音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM

2 ***13**を押す

*13は、通話料金印刷の特番(初期値)です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
Xメニュー:0/1/2/3

3 **1**を押す

番号集計
1:内線 2:外線 3:ID

4 **3**を押す

ID集計
ID

5 ID番号(最大20桁)を押す

6 **保留**を押す

集計期間
集計開始日

7 集計開始日を入力する

例: 2002年4月9日の場合
「020409」と入力します。

集計期間
集計締め日

8 集計締め日を入力する

1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にご入力ください。指定した期間の通話料金が、集計されます。

集計中

集計が終わると、合計金額が自動で表示されます

ID集計 693円
1:印刷 0:キャンセル

9 **1**を押す

指定したIDの集計が印刷されます。

印刷中


集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《 IDごとの明細を印刷する 》』の手順11に進んでください。

10 印刷結果を確認する

「印刷例⑥-1」「印刷例⑥-2」を参照してください。

これで、IDごとの集計印刷ができました。

『《 IDごとの明細を印刷する 》』の手順11に進んでください。

 現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順7で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

■ 印刷例⑥-1 ID毎集計 指定IDが外線発信通話していない場合

```

*****
          ID 毎集計
*****
          2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日
          ID : 10221987654333
          NTT-E   料金   1, 100円
          KDDI0077 料金   0円
          SBT0088 料金   200円
          TNet    料金   0円
          国内その他 0円
-----
          国内小計   1, 300円
          消費税     65円
-----
          KDDI001  料金   100円
          SBT0061  料金   0円
          NTT-COM  料金   0円
          TNet    料金   0円
          国際その他 500円
-----
          国際小計   600円
          合計       1, 965円
    
```

```

*****
          ID 毎集計
*****
          2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日
          ID : 10221987654333
          合計       0円
    
```

ダイレクト通話料金管理

■ 印刷例㉔-2 ID毎集計
指定IDが外線発信通話中の場合

I D 毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
I D : 10221987654333	
NTT-E	料金 1, 100 円
KDDI0077	料金 0円
SBT0088	料金 200円
TTNet	料金 0円
国内その他	0円

国内小計	1, 300円
消費税	65円

KDDI001	料金 100円
SBT0061	料金 0円
NTT-COM	料金 0円
TTNet	料金 0円
国際その他	500円

国際小計	600円

合計	1, 965円
外線通話中	

I D 毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
I D : 10221987654333	
合計	0円
外線通話中	

■ 印刷例㉔ ID毎明細

I D 毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
I D : 10221987654333	
:	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1, 100. 5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	200. 5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI001
通話料金	100. 0円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:45:15
通話時間	00:14:40
ダイヤル	0078033984323# KDDI0078
通話料金	500. 0円

国内小計	1, 901円
消費税	65円

合計	1, 966円

I D 毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
I D : 10221987654333	
:	
明細データ無し	

《 IDごとの明細を印刷する 》

< ID毎明細印刷 >

11 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

12 ①を押す

印刷中

指定したIDの明細が印刷されます。

明細印刷を行わずに通話明細データを消去・保持したい場合は、0を押してください。『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順14に進んでください。

13 印刷結果を確認する

「印刷例㉔」を参照してください。

これで、IDごとの明細印刷ができました。

『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順14に進んでください。

《 通話料金データを消去する 》



通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

14 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

15 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

16 ①を押す

クリア中

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります

通話料金印刷
Xキュ:-0/1/2/3

17 を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 効カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

14 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

15 ①を押す

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xユ-:0/1/2/3

16 を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 タカ クロ

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

グループごとの通話料金集計・明細を印刷する

グループ番号(内線/外線/ID)ごとの通話料金の集計内容、通話内容の明細を印刷することができます。通話料金集計、通話明細の順に印刷します。

また、集計印刷は「内線/外線/ID毎+グループ合計」と「グループ合計のみ」の2通りがあり、どちらかを選択することができます。



操作を中断したい

操作中、スピーカボタンを押すと、操作を中断して通常の表示に戻ります。この場合でも、消去の操作をしない限り、通話料金データは保持されています。

「内線/外線/ID毎+グループ合計」と「グループ合計」の両方を印刷したい

一方の印刷を行い、通話料金データを保持したあと、もう一方の印刷を行ってください。最初の印刷時に通話料金データを消去すると、もう一方の印刷ができません。

▼ 内線グループごとの通話料金集計・明細を印刷する

各内線グループごとに、グループ全体の通話料金の集計や明細を印刷することができます。


《 内線グループごとの集計を印刷する 》

<内線グループ毎集計印刷>

1 を押す

スピーカボタンが赤点灯し、内線発着音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM

2 ①③を押す

*13は、通話料金印刷の特番(初期値)です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
Xユ-:0/1/2/3

3 ②を押す

グループ集計
1:内線 2:外線 3:ID

4 ①を押す

内線グループ集計
グループ番号

5 内線グループ番号(1~64)を押す

内線グループ番号は、必ず2桁で入力してください。

例:内線グループ番号1のとき...01
(1桁の場合は、頭に「0」を付けます)

集計期間
集計開始日

6 集計開始日を入力する

例:2002年4月9日の場合
「020409」と入力します。

集計期間
集計締め日

7 集計締め日を入力する

1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にご指定ください。指定した期間の通話料金が、集計されます。

集計中

集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。

グループ01 693円
1:個別+合計 2:合計

8 ①または②を押す

1:内線毎+グループ合計
2:グループ合計のみ

グループ01 693円
1:印刷 0:キャンセル

9 ①を押す

指定した内線グループの集計が印刷されます。

集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《内線グループごとの明細を印刷する》』の手順11に進んでください。

印刷中

10 印刷結果を確認する

「印刷例①-1」「印刷例②-2」を参照してください。

これで、内線グループごとの集計印刷ができました。

『《内線グループごとの明細を印刷する》』の手順11に進んでください。



現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい

手順6で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

手順8で「1:内線毎+グループ合計」を選択した場合内線番号ごとの集計結果が0円の場合は、内線番号と合計のみ印刷されます。

■ 印刷例⑨-1 内線グループ毎集計
内線毎+グループ合計の場合

グループ毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

内線: 2001	名称: 個人内線 1 0
NTT-E 料金	1, 100円
SBT0088 料金	200円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1, 965円

内線: 2002	名称: 個人内線 1 2
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	30円
国内小計	130円
消費税	6円
KDDI001 料金	50円
国際その他	900円
国際小計	1, 000円
合計	1, 136円

グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	230円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 430円
消費税	71円
KDDI001 料金	150円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	1, 450円
国際小計	1, 600円
総合計	3, 101円

グループ毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

内線: 2001	名称: 個人内線 1 0
合計	0円

内線: 2002	名称: 個人内線 1 2
合計	0円

グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

■ 印刷例⑨-2 内線グループ毎集計
グループ合計のみの場合

グループ毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	230円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 430円
消費税	71円
KDDI001 料金	150円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	1, 450円
国際小計	1, 600円
総合計	3, 101円

グループ毎集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

《 内線グループごとの明細を印刷する 》

<内線グループ毎明細印刷>

11 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

12 ①を押す

印刷中

指定した内線グループの明細が印刷されます。明細印刷を行わずに通話料金データを消去・保持したい場合は、0を押します。『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順14に進んでください。

13 印刷結果を確認する

「印刷例⑨」を参照してください。

これで、内線グループごとの明細印刷ができました。『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順14に進んでください。

■ 印刷例⑨ 内線グループ毎明細

グループ毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ:	1 名称: GRP-1

内線:	2001 名称: 個人内線 1 0
:	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1, 1 0 0. 5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	2 0 0. 5円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDD1001
通話料金	6 0 0. 0円

国内小計	1, 9 0 1円
消費税	6 5円

合計	1, 9 6 6円

内線:	2002 名称: 個人内線 2 0
:	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00770639847696*2122 KDD1007
通話料金	1 0 0. 5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	3 0. 5円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDD1001
通話料金	1, 0 0 0. 0円

国内小計	1, 1 3 1円
消費税	6円

合計	1, 1 3 7円

グループ:	1 名称: GRP-1

小計	3, 0 3 2円
消費税	7 1円

総合計	3, 1 0 3円

グループ毎明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ:	1 名称: GRP-1

内線:	2001 名称: 個人内線 1 0
:	
明細データ無し	

内線:	2002 名称: 個人内線 2 0
:	
明細データ無し	

グループ:	1 名称: GRP-1

明細データ無し	

注意 明細印刷時の通話料金データは、内線番号の最も若い順から印刷されます。また、通話を開始した順ではなく、通話が終了した順に印刷されます。

《 通話料金データを消去する 》

注意 通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

14 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

15 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

16 ①を押す

クリア中

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

17 **スピーカー**を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

14 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

15 ①を押す

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

16 **スピーカー**を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。










これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

▼ 外線グループの通話料金集計・明細を印刷する


印刷対象となっている外線全体の、集計や明細を印刷することができます。

《 外線グループの集計を印刷する 》

<外線グループ集計印刷>

- 1 を押す
スピーカーボタンが赤点灯し、内線発信音が聞こえます。
- 2   を押す
※13は、通話料金印刷の特番（初期値）です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。
- 3 を押す
- 4 を押す
- 5 集計開始日を入力する
例：2002年4月9日の場合「020409」と入力します。
- 6 集計締め日を入力する
1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にご入力ください。指定した期間の通話料金が、集計されます。
集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。
- 7 または を押す
1：外線毎+グループ合計
2：グループ合計のみ
- 8 を押す
外線グループの集計が印刷されます。
集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《 外線グループの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。
- 9 印刷結果を確認する
「印刷例①-1」「印刷例②-2」を参照してください。

これで、外線グループの集計印刷ができました。
『《 外線グループの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。



現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順5で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

手順7で「1:外線毎+グループ合計」を選択した場合
外線番号ごとの集計結果が0円の場合は、外線番号と合計のみ印刷されます。

■ 印刷例①-1 外線グループ集計 外線毎+グループ合計の場合

```

*****
外線グループ集計
(局一局転送時の通話料金)
*****
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日
外線全体
=====
外線： 1 名称：LINE 001
NTT-E 料金 1,100円
SBT0088 料金 200円
-----
国内小計 1,300円
消費税 65円
-----
KDD1001 料金 100円
国際その他 500円
-----
国際小計 600円
-----
合計 1,965円
-----
外線： 2 名称：LINE 002
KDD10077 料金 100円
SBT0088 料金 30円
-----
国内小計 130円
消費税 6円
-----
KDD1001 料金 50円
国際その他 900円
-----
国際小計 1,000円
-----
合計 1,136円
-----
外線全体
=====
NTT-E 料金 1,100円
KDD10077 料金 100円
SBT0088 料金 230円
TTNet 料金 0円
国内その他 0円
-----
国内小計 1,430円
消費税 71円
-----
KDD1001 料金 150円
SBT0061 料金 0円
NTT-COM 料金 0円
TTNet 料金 0円
国際その他 1,450円
-----
国際小計 1,600円
-----
総合計 3,101円
    
```

```

*****
外線グループ集計
(局一局転送時の通話料金)
*****
2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日
外線全体
=====
外線： 1 名称：LINE 001
合計 0円
-----
外線： 2 名称：LINE 002
合計 0円
-----
外線全体
=====
NTT-E 料金 0円
KDD10077 料金 0円
SBT0088 料金 0円
TTNet 料金 0円
国内その他 0円
-----
国内小計 0円
消費税 0円
-----
KDD1001 料金 0円
SBT0061 料金 0円
NTT-COM 料金 0円
TTNet 料金 0円
国際その他 0円
-----
国際小計 0円
-----
総合計 0円
    
```

■ 印刷例⑩-2 外線グループ集計
グループ合計のみの場合

外線グループ集計			
(局一局転送時の通話料金)			

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日			
外線全体			

NTT-E	料金	1, 100円	
KDDI0077	料金	100円	
SBT0088	料金	230円	
TNet	料金	0円	
国内その他		0円	

国内小計		1, 430円	
	消費税	71円	

KDDI001	料金	150円	
SBT0061	料金	0円	
NTT-COM	料金	0円	
TNet	料金	0円	
国際その他		1, 450円	

国際小計		1, 600円	

総合計		3, 101円	

外線グループ集計			
(局一局転送時の通話料金)			

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日			
外線全体			

NTT-E	料金	0円	
KDDI0077	料金	0円	
SBT0088	料金	0円	
TNet	料金	0円	
国内その他		0円	

国内小計		0円	
	消費税	0円	

KDDI001	料金	0円	
SBT0061	料金	0円	
NTT-COM	料金	0円	
TNet	料金	0円	
国際その他		0円	

国際小計		0円	

総合計		0円	

■ 印刷例⑪ 外線グループ明細

外線グループ明細			
(局一局転送時の通話料金)			

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日			
外線全体			

外線 :	1	名称 : LINE 001	

開始時刻	2002年 4月 1日(月)	08:30:00	
通話時間		00:30:01	
ダイヤル	00360639847696*2122	NTT-E	
通話料金		1, 100円	5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金)	08:35:05	
通話時間		00:05:02	
ダイヤル	0088033984323	SBT0088	
通話料金		200円	5円

開始時刻	2002年 4月10日(水)	08:40:10	
通話時間		00:03:30	
ダイヤル	00104439843231	KDDI001	
通話料金		600円	0円

国内小計		1, 901円	
	消費税	65円	

合計		1, 966円	

外線 :	2	名称 : LINE 002	

開始時刻	2002年 4月 1日(月)	08:30:00	
通話時間		00:30:01	
ダイヤル	00770639847696*2122	KDDI0077	
通話料金		100円	5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金)	08:35:05	
通話時間		00:05:02	
ダイヤル	0088033984323	SBT0088	
通話料金		300円	5円

開始時刻	2002年 4月10日(水)	08:40:10	
通話時間		00:03:30	
ダイヤル	00104439843231	KDDI001	
通話料金		1, 000円	0円

国内小計		1, 131円	
	消費税	6円	

合計		1, 137円	

外線全体			

小計		3, 032円	
	消費税	71円	

総合計		3, 103円	

《 外線グループの明細を印刷する 》

<外線グループ明細印刷>

10 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

11 ①を押す

外線グループの明細が印刷されます。
明細印刷を行わずに通話料金データを消去・保持したい場合は、0を押します。『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。

印刷中

12 印刷結果を確認する

「印刷例⑪」を参照してください。

これで、外線グループの明細印刷ができました。
『《通話料金データを消去する》』または『《通話料金データを保持する》』の手順13に進んでください。



明細印刷時の通話料金データは、外線番号の最も若い順から印刷されます。また、通話を開始した順ではなく、通話が終了した順に印刷されます。

《 通話料金データを消去する 》



通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

15 ①を押す

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

クリア中

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

16 を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 タカ クロ

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

15 を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 タカ クロ

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

▼ IDグループの通話料金集計・明細を印刷する

課金用のID番号全体の、通話料金の集計や明細を印刷することができます。

《 IDグループの集計を印刷する 》

< IDグループ集計印刷 >

1 を押す

スピーカーボタンが赤点灯し、内線発信音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM

2 を押す

*13は、通話料金印刷の特番(初期値)です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

3 ②を押す

グループ集計
1:内線 2:外線 3:ID

4 ③を押す

集計期間
集計開始日

5 集計開始日を入力する

例: 2002年4月9日の場合「020409」と入力します。

集計期間
集計締め日

6 集計締め日を入力する

1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にご入力ください。指定した期間の通話料金が、集計されます。

集計中

集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。

ID全体	693円
1:個別+合計 2:合計	

7 ①または②を押す

1: ID毎+グループ合計
2: グループ合計のみ

ID全体	693円
1:印刷 0:キャンセル	

8 ①を押す

IDグループの集計が印刷されます。

印刷中

集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《 IDグループの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。

9 印刷結果を確認する

「印刷例①-1」「印刷例②-2」を参照してください。

これで、IDグループの集計印刷ができました。

『《 IDグループの明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。



現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順5で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。

手順7で「1: ID毎+グループ合計」を選択した場合ID番号ごとの集計結果が0円の場合は、ID番号と合計のみ印刷されます。

■ 印刷例②-1 IDグループ集計
内線毎+グループ合計の場合

IDグループ集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
ID全体	

ID : 10221987654333	
NTT-E 料金	1, 100円
SBT0088 料金	200円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1, 965円
.....	
ID : 8987656745676543456	
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	30円
国内小計	130円
消費税	6円
KDDI001 料金	50円
国際その他	900円
国際小計	1, 000円
合計	1, 136円
;	
ID全体	

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	230円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 430円
消費税	71円
KDDI001 料金	150円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	1, 450円
国際小計	1, 600円
総合計	3, 101円

IDグループ集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
ID全体	

ID : 10221987654333	
合計	0円
.....	
ID : 8987656745676543456	
合計	0円
;	
ID全体	

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

■ 印刷例②-2 IDグループ集計
グループ合計のみの場合

IDグループ集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
ID全体	

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	100円
SBT0088 料金	230円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 430円
消費税	71円
KDDI001 料金	150円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	1, 450円
国際小計	1, 600円
総合計	3, 101円

IDグループ集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
ID全体	

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

《 IDグループの明細を印刷する 》

< IDグループ明細印刷 >

10 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

11 ①を押す

印刷中

IDグループの明細が印刷されます。

明細印刷を行わずに通話料金データを消去・保持したい場合は、0を押します。『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順13に進んでください。

12 印刷結果を確認する

「印刷例③」を参照してください。

これで、IDグループの明細印刷ができました。

『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順13に進んでください。

■ 印刷例⑨ IDグループ明細

***** IDグループ明細 ***** 2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日 ID全体	
ID : 10221987654333	
開始時刻 2002年 4月 1日(月) 08:30:00	
通話時間 00:30:01	
ダイヤル 00360639847696*2122 NTT-E	
通話料金 1, 100.5円	
開始時刻 2002年 4月 5日(金) 08:35:05	
通話時間 00:05:02	
ダイヤル 0088033984323 SBT0088	
通話料金 200.5円	
開始時刻 2002年 4月10日(水) 08:40:10	
通話時間 00:03:30	
ダイヤル 00104439843231 KDD1001	
通話料金 600.0円	
国内小計 1,901円	
消費税 65円	
合計 1,966円	
ID : 8987656745676543456	
開始時刻 2002年 4月 1日(月) 08:30:00	
通話時間 00:30:01	
ダイヤル 00770639847696*2122 KDD10077	
通話料金 100.5円	
開始時刻 2002年 4月 5日(金) 08:35:05	
通話時間 00:05:02	
ダイヤル 0088033984323 SBT0088	
通話料金 30.5円	
開始時刻 2002年 4月10日(水) 08:40:10	
通話時間 00:03:30	
ダイヤル 00104439843231 KDD1001	
通話料金 1,000.0円	
国内小計 1,131円	
消費税 6円	
合計 1,137円	
ID全体	
小計 3,032円	
消費税 71円	
総合計 3,103円	

***** IDグループ明細 ***** 2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日 ID全体	
ID : 10221987654333	
明細データ無し	
ID : 8987656745676543456	
明細データ無し	
ID全体	
明細データ無し	

注意 明細印刷時の通話料金データは、ID番号の最も若い順から印刷されます。また、通話を開始した順ではなく、通話が終了した順に印刷されます。

《 通話料金データを消去する 》

注意 通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

15 ①を押す

クリア中

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

16 **スピーカー**を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

15 **スピーカー**を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

システム全体の通話料金集計・明細を印刷する

システム全体の通話料金の集計内容、通話内容の明細を印刷することができます。通話料金集計、通話明細の順に印刷します。また、集計印刷は「内線毎+グループ合計+システム合計」と「グループ合計+システム合計」の2通りがあり、どちらかを選択することができます。

注意 一度に印刷できる印刷対象ポート（内線/外線/ID）番号は、1,000件までです。印刷対象ポートが1,001件以上ある場合は、システム一括集計印刷は行えませんので、ご注意ください（印刷例④-3）。この場合は、番号毎/グループ毎印刷で印刷を行うか、印刷対象ポート数を減らしてから印刷を行ってください。

操作を中断したい
操作中、スピーカボタンを押すと、操作を中断して通常が表示に戻ります。この場合でも、消去の操作をしない限り、通話料金データは保持されています。

▼ システム一括で通話料金集計・明細を印刷する

《 システム一括で集計を印刷する 》

<システム一括集計印刷>

- 1** **スピーカ**を押す
スピーカボタンが赤点灯し、内線発信音が聞こえます。

5-1 WED 10:03AM

- 2** ***13**を押す
*13は、通話料金印刷の特番（初期値）です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷 メニュー:0/1/2/3

- 3** **3**を押す
システム一括
1:期間指定 2:全明細

システム一括 1:期間指定 2:全明細

- 4** **1**を押す
集計期間
集計開始日

集計期間 集計開始日

- 5** 集計開始日を入力する
例：2002年4月9日の場合「020409」と入力します。
集計期間
集計締め日

集計期間 集計締め日

- 6** 集計締め日を入力する
1日分の通話料金データのみ印刷したい場合は、開始日と締め日を同じ日にしてください。指定した期間の通話料金が、集計されます。
集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。
集計中

集計中

- 7** **1**または**2**を押す
システム全体 693円
1:個別+合計 2:合計

システム全体 693円 1:個別+合計 2:合計

- 8** **1**または**2**を押す
システム全体 693円
1:印刷 0:キャンセル

システム全体 693円 1:印刷 0:キャンセル

- 8** **1**を押す
印刷中
システム全体の集計が印刷されます。
集計印刷を行わずに明細を印刷したい場合は、0を押します。『《 システム一括で明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。

- 9** 印刷結果を確認する
「印刷例④-1」「印刷例④-2」「印刷例④-3」を参照してください。

これで、システム全体の集計印刷ができました。
『《 システム一括で明細を印刷する 》』の手順10に進んでください。

現在までに蓄積されている明細データをすべて集計対象にしたい
手順5で集計開始日を入力しないで、保留ボタンを押してください。
手順7で「1:内線毎+グループ合計+システム合計」を選択した場合
内線番号ごとの集計結果が0円のときは、内線番号と合計のみ印刷されます。
手順7で「2:グループ合計+システム合計」を選択した場合
グループ合計の集計結果が0円のときは、グループ番号とグループ合計のみ印刷します。

■ 印刷例④-1 システム一括集計
内線毎+グループ合計+システム合計の場合

システム一括集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

内線: 2001	名称: 個人内線 1 0
NTT-E 料金	1, 100円
SBT0088 料金	200円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1, 965円
.....	
内線: 2002	名称: 個人内線 1 2
合計	0円

グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
総合計	1, 965円

システム全体	

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
総合計	1, 965円

システム一括集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

内線: 2001	名称: 個人内線 1 0
合計	0円
.....	
内線: 2002	名称: 個人内線 1 2
合計	0円

総合計	0円

システム全体	

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

■ 印刷例④-2 システム一括集計
グループ合計+システム合計の場合

システム一括集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
合計	1, 965円

グループ: 2	名称: GRP-2

総合計	0円

システム全体	

NTT-E 料金	1, 100円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	200円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	1, 300円
消費税	65円
KDDI001 料金	100円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	500円
国際小計	600円
総合計	1, 965円

システム一括集計	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ: 1	名称: GRP-1

総合計	0円

グループ: 2	名称: GRP-2

総合計	0円

システム全体	

NTT-E 料金	0円
KDDI0077 料金	0円
SBT0088 料金	0円
TNet 料金	0円
国内その他	0円
国内小計	0円
消費税	0円
KDDI001 料金	0円
SBT0061 料金	0円
NTT-COM 料金	0円
TNet 料金	0円
国際その他	0円
国際小計	0円
総合計	0円

ダイレクト通話料金管理

■ 印刷例④-3 システム一括集計

印刷対象ポート数が1,001件以上ある場合

【 警告 】
システム一括集計印刷ができません。
印刷対象ポート数が1001件以上あります。

《 システム一括で明細を印刷する 》

<システム一括明細印刷>

10 集計印刷が終了すると、明細印刷の表示に切り替わる

明細印刷?
1:印刷 0:キャンセル

11 ①を押す

印刷中

システム全体の明細が印刷されます。
明細印刷を行わずに通話料金データを消去・保持したい場合は、0を押します『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順13に進んでください。

12 印刷結果を確認する

「印刷例⑤」を参照してください。

これで、システム全体の明細印刷ができました。
『《 通話料金データを消去する 》』または『《 通話料金データを保持する 》』の手順13に進んでください。

■ 印刷例⑤ システム一括明細

システム一括明細	

2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日	
グループ:	1 名称: GRP-1

内線:	2001 名称: 個人内線 1 0
:	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1,100.5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	200.5円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI001
通話料金	600.0円

国内小計	1,901円
消費税	65円
合計	1,966円

内線:	2002 名称: 個人内線 2 0
:	
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00770639847696*2122 KDDI0077
通話料金	100.5円

開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	30.5円

開始時刻	2002年 4月10日(水) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI001
通話料金	1,000.0円

国内小計	1,131円
消費税	6円
合計	1,137円

グループ:	1 名称: GRP-1

小計	3,032円
消費税	71円
合計	3,103円

グループ:	2 名称: GRP-2

内線:	2003 名称: 個人内線 3 0
:	
明細データ無し	

内線:	2004 名称: 個人内線 4 0
:	
明細データ無し	

グループ:	2 名称: GRP-2

明細データ無し	

システム全体	

小計	3,032円
消費税	71円
総合計	3,103円

注意

明細印刷時の通話料金データは、グループ番号および内線/外線/ID番号の最も若い順から印刷されます。また、通話を開始した順ではなく、通話が終了した順に印刷されます。

《 通話料金データを消去する 》

注意 通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

15 ①を押す

通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

クリア中

通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

16 **スピーカー**を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 タカ クミ

これで、印刷を行った通話料金データが消去されました。

《 通話料金データを保持する 》

13 明細印刷が終了すると、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わる

料金データ
1:データクリア 0:データ保持

14 ①を押す

通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

15 **スピーカー**を押す

通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 タカ クミ

これで、印刷を行った通話料金データが保持されました。

システム全体の通話料金データを消去する

システム内に保存されている、すべての通話料金データおよび溢れ料金データを印刷し、消去します。

注意

- この機能は、運用中のシステム設定の変更や、各印刷機能での集計期間のずれなどにより、印刷されずに残っている通話料金データおよび溢れ料金データを消去する場合にご利用ください。
- この機能を利用すると、システムに保存されているすべての通話料金データが消去されます。ご利用には、十分ご注意ください。データを消去する前に、全通話料金データ印刷を行うことをお勧めします。

操作を中断したい

操作中、スピーカーボタンを押すと、操作を中断して通常の表示に戻ります。この場合でも、消去の操作をしない限り、通話料金データは保持されています。

▼ 通話料金データの消去のしかた

《 全通話料金データを印刷する 》

1 **スピーカー**を押す

スピーカーボタンが赤点灯し、内線発着音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM

2 **✳** ①③を押す

*13は、通話料金印刷の特番（初期値）です。通話料金印刷モードのメニュー画面が表示されます。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

3 ③を押す

システム一括
1:期間指定 2:全明細

4 ②を押す

システムが保存している、すべての通話料金データが集計されます。

集計中

集計が終わると、合計金額が自動で表示されます。

システム全明細 15728円
1:印刷 0:キャンセル

5 ①を押す

すべての通話料金データの明細が印刷されます。印刷を行わずに全通話料金データを消去したい場合は、0を押してください。『《 全通話料金データを消去する 》』または『《 全通話料金データの消去をキャンセルする 》』の手順7に進んでください。

印刷中

6 印刷結果を確認する

「印刷例⑥」を参照してください。

これで、全通話料金データの印刷ができました。『《 全通話料金データを消去する 》』または『《 全通話料金データの消去をキャンセルする 》』の手順7に進んでください。

■ 印刷例⑩ 全通話料金明細

***** 全通話明細 *****	
内線:	2001
開始時刻	2002年 4月 1日(月) 08:30:00
通話時間	00:30:01
ダイヤル	00360639847696*2122 NTT-E
通話料金	1,100.5円

ID:	10221987654333
開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:35:05
通話時間	00:05:02
ダイヤル	0088033984323 SBT0088
通話料金	200.5円

内線:	2005
開始時刻	2002年 4月 5日(金) 08:40:10
通話時間	00:03:30
ダイヤル	00104439843231 KDDI0078
通話料金	100.0円

外線:	1
開始時刻	2002年 4月 10日(水) 08:45:15
通話時間	00:14:40
ダイヤル	0078033984323# KDDI0078
通話料金	500.0円

小計	1,901円
***** 溢れ料金 *****	
内線:	2001
溢れ料金	500円

小計	500円
=====	
明細小計	1,901円
溢れ小計	500円

総合計	2,401円

***** 全通話明細 *****	
***** 明細データ無し *****	
***** 溢れ料金 *****	
内線:	2001
溢れ料金	500円

内線:	2005
溢れ料金	135円

小計	635円
=====	
明細小計	0円
溢れ小計	635円

総合計	635円



システムに保存されているすべての通話料金データが、保存された順（通話が終了した順）に印刷されます。番号毎、グループ毎に印刷することはできません。通常のご使用中に、システムに保存されているすべての通話料金データを印刷する場合は、システム一括の集計・明細印刷機能をご利用ください。

《 全通話料金データを消去する 》



全通話料金データの消去を行う前に、必ず、正しく印刷されていることを確認してください。一度消去したデータは印刷できません。

7 全通話料金の明細印刷が終了すると、全通話料金データ消去の表示に切り替わる

全明細データ
1:クリア 0:キャンセル

8 ①を押す

全明細データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル

9 ①を押す

クリア中

全通話料金データの消去をキャンセルしたい場合は、0を押してください。メニュー画面に戻ります。

全通話料金データの消去が終了すると、メニュー画面に戻ります。

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

10 を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

これで、全通話料金データが消去されました。

《 全通話料金データの消去をキャンセルする 》

7 全通話料金の明細印刷が終了すると、全通話料金データ消去の表示に切り替わる

全明細データ
1:クリア 0:キャンセル

8 ①を押す

通話料金印刷
Xニュー:0/1/2/3

全通話料金データが保持され、メニュー画面に戻ります。

9 を押す

5- 1 WED 10:03AM
2000 夕カ クミ

通話料金印刷モードが終了し、スピーカボタンが消灯します。

これで、全通話料金データが消去されずに、保持されました。

通話終了と同時に明細を印刷する

<通話明細即時印刷>

通話が終了するとすぐに、通話の明細を印刷することができます。

注意 通話明細即時印刷モード中でも、通話料金印刷モードで各種印刷を行っている間は、即時明細印刷が動作しません。その間の通話料金データは、1,000件まで保存されます。保存された通話料金データは、通話料金印刷モードが終了した時点で印刷されます。なお、保存されたデータが1,000件を超えた場合、古いものから順に消去されます。

▼ 通話明細即時印刷モードを開始・終了する

《 通話明細即時印刷モードを開始する 》

- 1 **スピーカー** を押す
スピーカーボタンが赤点灯し、内線発音が聞こえます。
5- 1 WED 10:03AM
- 2 ***14** を押す
*14は、通話明細即時印刷の特番（初期値）です。
即時明細印刷
1:開始 0:終了
- 3 **1** を押す
即時明細印刷
開始
- 4 **スピーカー** を押す
通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。
2000 5- 1 WED 10:03AM
タカ クミ

これで、通話明細即時印刷モードが開始できました。通話が終了すると即時に、明細が印刷されます。「印刷例⑯」を参照してください。

■ 印刷例⑯ 通話明細即時印刷

```
*****
          即時明細
*****
          2002年 4月 1日 ~ 2002年 4月30日
          内線： 2001 名称：個人内線10
          ;
          開始時刻 2002年 4月 1日(月) 08:30:00
          通話時間 00:30:01
          ダイヤル 00360639847696*2122 NTT-E
          通話料金 1. 1 0 0. 5円
```


《 通話明細即時印刷モードを終了する 》

- 1 **スピーカー** を押す
スピーカーボタンが赤点灯し、内線発音が聞こえます。
5- 1 WED 10:03AM
- 2 ***14** を押す
*14は、通話明細即時印刷の特番（初期値）です。
即時明細印刷
1:開始 0:終了
- 3 **0** を押す
即時明細印刷
終了
- 4 **スピーカー** を押す
通話料金印刷モードが終了し、スピーカーボタンが消灯します。
2000 5- 1 WED 10:03AM
タカ クミ

これで、通話明細即時印刷モードが終了できました。

特番で内線の通話料金集計を簡単に印刷する

「個別内線精算特番」や「全内線一括精算特番」を利用して、内線電話機の通話料金集計を簡単に印刷することができます。


 **操作を中断したい**
 操作中、スピーカボタンを押すと、操作を中断して通常表示に戻ります。この場合でも、消去の操作をしない限り、通話料金データは保持されています。


よく「個別内線精算特番」および「全内線一括精算特番」を利用する方へ
 電話機のファンクションボタンに特番を登録したDSS/フオンタッチボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

▼内線ごとの通話料金集計を簡単に印刷する




<個別内線精算> **工事**

「個別内線精算特番」を使用して、各内線電話機ごとに、外線にかけた通話料金の集計を簡単に印刷することができます。


 **注意** 通話料金データは、印刷が終わると自動で消去されます。

- 1  **を押したあ**

内線集計
内線番号


 と、   **を押す**
 ※28は、個別内線精算の特番（初期値）です。個別内線精算ボタンが電話機に登録されている場合は、そのボタンを押します。
- 2 **内線番号（最大8桁）**

内線 110	693円
1:印刷 0:キャンセル	

を押す
 合計金額が表示されます。
- 3  **を押す**

印刷中

 指定した内線の通話料金集計が印刷されます。確認だけの場合や印刷を行わない場合は、0を押してください。


 印刷が終了、または0を押すと手順2の画面に戻ります。続けて別の内線電話機の通話料金集計を印刷したいときは、手順2に戻ります。
- 4  **を押す**

これで、内線ごとの通話料金集計が印刷できました。





▼全内線の通話料金集計を簡単に印刷する

<全内線一括精算> **工事**

「全内線一括精算特番」を使用して、すべての内線電話機が外線にかけた通話料金の集計を簡単に印刷することができます。

- 1  **を押したあ**

システム全体	3893円
1:印刷 0:キャンセル	

 と、   **を押す**
 ※29は、全内線一括精算の特番（初期値）です。全内線一括精算ボタンが電話機に登録されている場合は、そのボタンを押します。
 合計金額が表示されます。
- 2  **を押す**

印刷中

 全内線の通話料金集計が印刷されます。集計印刷をキャンセルしたい場合は、0を押してください。

 印刷が終了、または0を押すと、通話料金データ消去・保持の表示に切り替わります。

料金データをクリアしますか?
1:クリア 0:キャンセル
- 3 **通話料金データを消去する場合は①、保持する場合は②を押す**

これで、全内線の通話料金集計が印刷できました。

困ったときは

困ったときのチェックポイント

症状	チェックポイント
通話料金印刷のサービス特番を押しても、メニュー画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> サービス特番を間違えていませんか？もう一度確認してみてください。 通話料金印刷ができる電話機ですか？ 通話料金印刷を行える電話機は、工事段階で設定されています。詳しくは、販売店にご相談ください。 ほかの電話機で、すでに印刷操作を行っていませんか？ 複数で同時に操作はできません。
印刷したい内線番号、外線番号、ID番号を押しても、印刷できない	<ul style="list-style-type: none"> 印刷の対象として設定されている内線/外線/ID番号ですか？ 印刷の対象とするには、工事段階で登録する必要があります。詳しくは、販売店にご相談ください。
印刷操作をしても、プリンタから出力されない	<ul style="list-style-type: none"> プリンタの電源は入っていますか？ プリンタに用紙が正しくセットされていますか？ プリンタの接続ケーブルが抜けていませんか（プリンタ側/システム側）？ プリンタを接続している電話機のケーブルが抜けていませんか？ プリンタを接続する電話機などを変更していませんか？
即時印刷ができない	<ul style="list-style-type: none"> 通話明細即時印刷が開始されていますか？ 集計・明細印刷中に、1,000件以上の外線発信通話がありませんでしたか？ 1,000件以上になった場合、古い通話料金データから順に消去されます。そのため、出力されない通話料金データもあります。
右側の文字が不ぞろいになって印刷される	<ul style="list-style-type: none"> システムの設定とプリンタの種類が正しく設定されていますか？ 詳しくは、販売店にご相談ください。

システムアラームメッセージについて

システムが次の状態になった場合、電話機の表示器にアラームメッセージが表示されます。

▼ システムアラームメッセージの表示

①「溢れ警告」

保存されている通話料金データ件数が、システムデータで設定した警告表示件数を超えた場合に表示されます。

5- 1 WED 10:03AM
通話明細保存件数 残り 1000

※ 通話料金データは最大10,000件まで保存が可能です。

②「溢れ発生」

保存されている通話料金データ件数が、10,000件に達した場合に表示されます。

5- 1 WED 10:03AM
通話明細データを保存できません



システムアラームメッセージを消去したい

表示されたメッセージは、通話料金データを消去するか、電話機からの特番操作により消去できます。
特番操作での消去のしかたについては『システムアラームメッセージを消去する』を参照してください。

▼ システムアラームメッセージを消去する

1 を押す

スピーカーボタンが赤点灯し、内線発着音が聞こえます。

5- 1 WED 10:03AM
通話明細データを保存できません

2 を押す

*19は、システムアラームメッセージ消去の特番（初期値）です。
システムアラームメッセージが消去されます。

5- 1 WED 10:03AM
エラーメッセージ クリア

3 を押す

システムアラームメッセージ消去が終了し、スピーカーボタンが消灯します。

5- 1 WED 10:03AM
2000 対カ クミ

これで、システムアラームメッセージが消去できました。



システム管理者の方へ

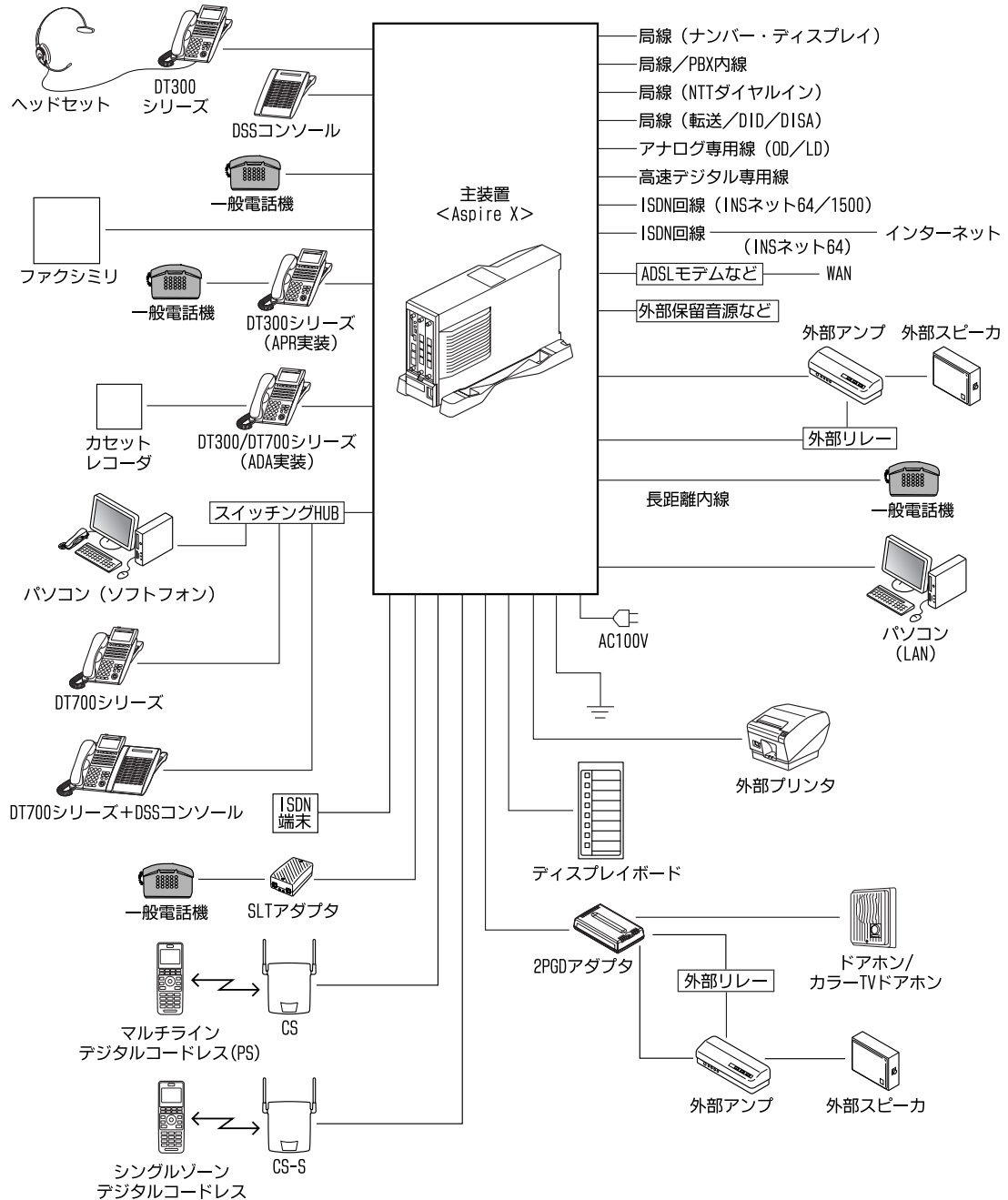
システムについて	5-2
電話機のラインナップ	5-13
各種設定について	5-18
停電したときは	5-24
消耗品について(電池等)	5-25
困ったときは	5-26
保証とアフターサービスについて ...	5-27
おもな仕様	5-28

システムについて

本システムには、いろいろな周辺機器を接続することができます。
また、工事段階での設定によって、用途に応じたいろいろな機能を利用することができます。

利用できる周辺機器

<システム構成>



外線の発着信の方法について

<発着信方式>

外線の利用のしかたは、オフィスの環境に合わせて発着信の方法を選ぶことができます。また、いくつかの発着信方式を組み合わせることもできます。各発着信方式を利用するには、工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

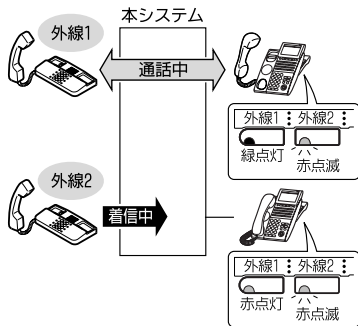
- ・ダイレクトライン方式：外線と外線ボタンを1対1で対応させることができます。
- ・索線形発着信方式：部署ごとなどに、複数の外線をグループ分けして使うことができます。
- ・個別着信（DIL）方式：外線から着信する電話機を、あらかじめ決めておくことができます。
- ・ダイヤルイン方式：NTTのダイヤルインサービス（有料）を利用し、特定の電話機に直接着信させることができます。
- ・追加ダイヤルイン方式：電話をかけてきた相手が、続けて内線番号をダイヤルすると、その内線電話機に直接着信させることができます。
- ・仮想内線方式：個別着信方式やダイヤルイン着信方式で電話がかかってきたとき、部署ごとなどの内線グループに着信させることができます。

▼ 外線と外線ボタンを1対1で対応させる

<ダイレクトライン方式>

外線と外線ボタンを1対1で対応させ、特定の外線を利用して電話をかけたり、受けたりすることができます。すべての外線の使用状況は、電話機の外線ボタンのランプ表示で、次のようにわかります。

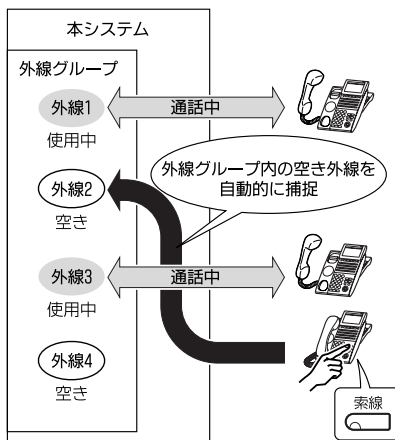
ランプの色	状態	外線の使用状況
緑	点灯	自分が通話中
	点滅	自分が保留中
赤	点灯	ほかの人が通話中
	遅い点滅	ほかの人が保留中
	速い点滅	着信中
消灯	—	空き状態



▼ 外線をグループ分けして使う

<索線形発着信方式>

使用する外線を、部署ごとに分けることができます。電話をかけるときは、発信ボタンまたは索線ボタンを押すと、グループ分けした外線の中から、空いている外線を自動的に選んで発信できます。一般電話機からかけるときは、受話器を上げて特番を押します。



▼ 電話がかかってくる電話機を決めておく

<個別着信（DIL）方式>

外線から電話がかかってきたとき、あらかじめ決めておいた電話機に直接着信させることができます。着信した電話機の応答ボタンを押して受けることができます。一般電話機の場合は、受話器を上げるだけで受けることができます。システムに FAX を収容している場合などに最適です。

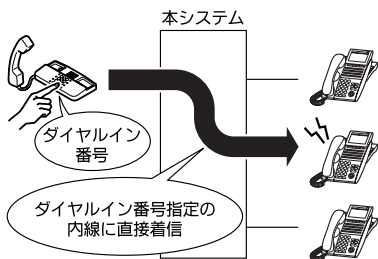


システム管理者の方へ

▼ NTTダイヤルインを利用する

<ダイヤルイン方式>

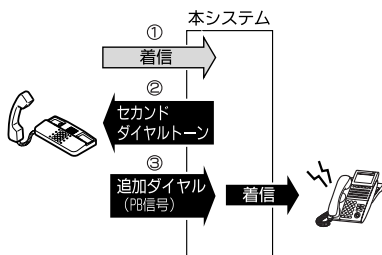
NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用できます。相手先にダイヤルイン番号を覚えておくと、その番号に電話がかかってきたとき、特定の電話機に直接着信させることができます。



▼ 社外から内線番号を指定できるようにする

<追加ダイヤルイン方式>

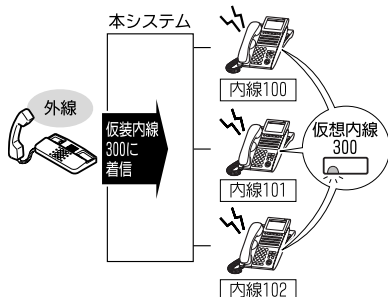
電話をかけてきた相手に、本システムに着信したあと内線番号を続けてダイヤルしてもらおうと、その内線電話機に直接着信させることができます。個別着信やNTTダイヤルインと違い、システムの電話番号が1つで済みます。



▼ 電話がかかってくる内線グループを決めておく

<仮想内線方式>

個別着信方式やダイヤルイン方式で着信する複数の電話機を、自分の内線番号とは別に内線グループとしての、仮想内線番号を部署ごとに指定できます。電話がかかってくると、複数の電話機の着信音が鳴り、どの電話機からでも受けることができます。



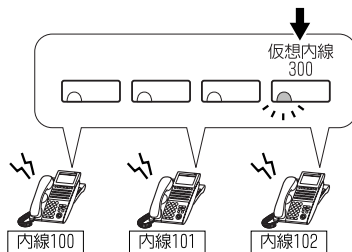
内線グループについて

▼ 仮想内線を利用したグループ分け

<仮想内線方式>

各電話機の内線番号とは別に、部署全体の共通の内線番号(仮想内線番号)を使い、グループ分けすることができます。各電話機のファンクションボタンに仮想内線ボタンを割り付けると、その仮想内線ボタンを押して電話をかけたたり、かかってきた電話を受けたりできます。

仮想内線300にかけると、内線100～内線102の電話機を呼び出すことができる

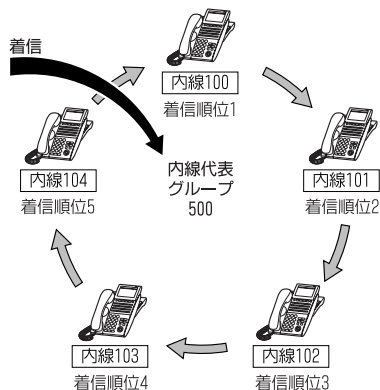


▼ 内線代表番号を利用したグループ分け

<内線代表方式>

各電話機の内線番号とは別に、部署の内線代表番号を作り、グループ分けすることができます。内線代表番号と呼ばれるグループを作る場合、電話機の着信順位は、そのグループに登録した順番になります。内線代表番号に電話がかかってきたときの着信方法は、次のいずれかを選択することができます。

- パイロット方式
内線代表グループ内の着信順位の1番目から必ず着信する
- 簡易UCD方式
前回着信した電話機の、次の着信順位の電話機に着信する

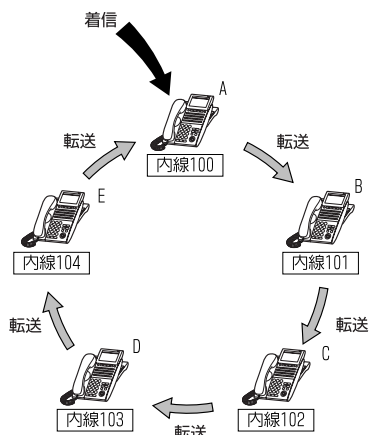


▼ 内線代理着信を利用したグループ分け

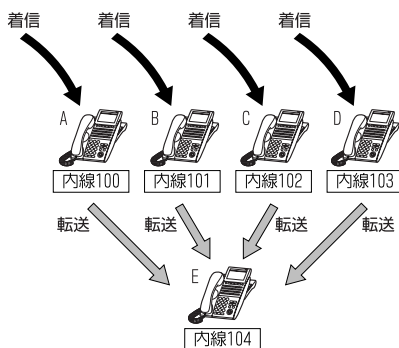
<内線代理着信方式>

部署全体で共通の内線番号や代表番号を持たずに、グループ分けすることができます。この場合、通話中の電話機に着信すると、部署内のほかの電話機へ自動で転送します。着信先の電話機が通話中の場合、次のいずれかの方式で転送させることができます。

- 円を描くように転送する
例えば、電話機がAからEの5台ある場合、次のように通話中の電話機への着信が次々に転送されます。グループ内の電話機がすべて通話中の場合は、電話をかけてきた相手に話中音を返します。



- 転送先が1台の電話機に集中する
例えば、電話機がAからEの5台ある場合、次のように通話中の電話機への着信が1台の電話機に集中して転送されます。転送先は、電話機の代わりにボイスメールユニットを指定することもできます。



発信規制について

工事

電話機ごと、または外線ごとに、発信できる相手先を限定することができます。例えば、次のような使い分けができます。

- 受付に設置した電話機は、外線への発信を規制する
- 営業部の電話は、全国どこでも発信を許可する
- 海外担当の電話は、アメリカへの発信を許可する



▼ 発信規制を行う時間帯について

昼間と夜間など、時間帯に応じて発信規制の内容を切り替えることができます。

例えば、昼間はすべての発信を許可し、夜間や深夜の時間帯はすべての発信を規制することができます。

規制する時間帯は、システムの運用モードに従って切り替わります。詳しくは、『運用モードについて』(⇒P.5-21)を参照してください。

▼ 発信規制クラスについて

発信規制クラスとは、発信する相手先に応じて次の内容を設定したものです。

- 発信規制を行うかどうか
- 特定の番号への発信を許可するかどうか
- 特定の番号への発信を規制するかどうか

発信規制の項目	設定内容
国際発信規制	指定以外の発信を規制する
国際発信許可	指定した番号のみ許可する
市外発信規制	市外への発信を規制しない/する
最大ダイヤル桁数	指定桁数を超えたら規制する
共通許可	指定した番号のみ許可する
共通規制	指定した番号のみ規制する
許可	指定した番号のみ許可する
規制	指定した番号のみ規制する
共通短縮ダイヤル	共通短縮ダイヤルに登録した相手も規制チェックをかける
グループ短縮ダイヤル	グループ短縮ダイヤルに登録した相手も規制チェックをかける
内線相互接続	内線への発信を規制しない/する
PBX内線発信規制	PBX内線への発信を規制しない/する
専用線発信規制	専用線への発信を規制しない/する

▼ 発信規制を一時的に解除するには

工事

発信を規制されている相手に電話をかけたいとき、その通話に限って発信規制を解除することができます。

- 1 受話器を上げる
- 2 ⑨③④を押す
934は、発信規制一時解除の特番（初期値）です。
- 3 4桁のパスワードを押す
パスワードは、工事段階で電話機ごとに設定します。
- 4 消灯している外線ボタンを押す
- 5 電話番号を押す
- 6 相手が出たら、通話する

受話器を戻すと、発信規制の状態に戻ります。

個人登録発信規制について

工事

再ダイヤルとして記憶されている電話番号を、発信規制に登録することができます。例えば、電話セールスなどを行った際、顧客から以降の電話を断られた場合など、発信を規制したい場合に、発信した電話機からの操作で登録できます。複数の担当者が電話セールスを行っている場合など、別の担当者が断られた顧客に重複して発信することを防止できます。

▼ 個人登録発信規制を開始/終了する

個人登録発信規制は、利用の開始と終了を任意に切り替えることができます。切り替えは、電話機ごとに行うか、または機能管理者が一齐に行うこともできます。

注意 「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制機能スイッチボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P. 5-18) を参照してください。

《 個人登録発信規制の利用を開始する 》

- 1 (個人登録発信規制機能スイッチボタン) を押す
切り替えますか? (1:Yes, 0:No)
- 2 ①を押す
個人登録発信規制機能スイッチボタンが赤点灯します。

これで、個人登録発信規制の利用を開始できました。

《 個人登録発信規制の利用を終了する 》

- 1 (個人登録発信規制機能スイッチボタン) を押す
切り替えますか? (1:Yes, 0:No)
- 2 ①を押す
個人登録発信規制機能スイッチボタンが消灯します。

これで、個人登録発信規制の利用を終了できました。

▼ 個人登録発信規制の番号を登録する

注意

「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制データ登録ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

《 ファンクションボタンを使って、再ダイヤル 01 の番号を登録するとき 》

次の操作をすると、再ダイヤル01に記憶されている電話番号が発信規制に登録されます。

1 通話終了後

別の電話番号に電話をかける前の状態です。

2 (個人登録発信規制データ登録ボタン) を押す

登録しますか? (1:Yes, 0:No)
03XXXXXXXX

3 ①を押す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

《 ファンクションボタンを使って、任意の番号を登録するとき 》

次の操作をすると、発信する前の電話番号を、発信規制に登録することができます。

1 受話器を置いたまま、登録する電話番号をダイヤルする

プリアセットダイヤル
ダイヤル 03XXXXXXXX

2 (個人登録発信規制データ登録ボタン) を押す

1:登録 0:削除
03XXXXXXXX

3 ①を押す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

《 特番を使って、再ダイヤル 01 の番号を登録するとき 》

次の操作をすると、再ダイヤル01に記憶されている電話番号が発信規制に登録されます。

1 通話終了後

2 いったん受話器を戻す

3 受話器を上げる

4 ⑨⑤⑦を押す

登録しますか? (1:Yes, 0:No)
03XXXXXXXX

957は、個人登録発信規制データ登録の特番(初期値)です。

5 ①を押す

6 受話器を戻す

これで、個人登録発信規制に電話番号が登録できました。

▼ 個人登録発信規制の登録番号を削除する

個人登録発信規制に登録されている電話番号を、規制の対象から外すことができます。

注意

「ファンクションボタンの設定」により個人登録発信規制データ登録ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

1 受話器を置いたまま、削除する電話番号をダイヤルする

プリアセットダイヤル
ダイヤル 03XXXXXXXX

2 (個人登録発信規制データ登録ボタン) を押す

1:登録 0:削除
03XXXXXXXX

3 ①を押す

これで、個人登録発信規制から電話番号が削除できました。

料金管理について

<料金表示/通話警告/予算管理> **工事**

本システムでは、次のような方法で通話料金を管理できます。管理の方法には、大きく分けると「注意を促す」ものと「通話を規制する」ものがあります。

▼ 注意を促す場合

- ・通話中の電話機に通話時間と料金を表示させて注意を促す
<通話料金表示>
- ・一定時間以上、通話が続いたときに、多機能電話機のスピーカまたは一般電話機の受話器から警告音を出して注意を促す
<長時間通話警告>
- ・一定金額以上、通話が続いたときに、多機能電話機のスピーカから警告音を出して注意を促す
<大度数通話警告>
- ・一定期間の通話料金を積算で表示する
<積算料金表示>

▼ 通話を規制する場合

- ・内線ごとに、通話料金の予算を設定しておき、この金額を超えたときは外線への発信を規制する
- ・一定時間以上、通話が続いたときに、警告音を出してから通話を強制切断する

▼ 通話料金の表示について

外線に電話をかけて相手と通話しているときには、次のように通話料金が表示されます。

- 通話時間と通話料金を表示する場合

外線番号	通話時間	
LINE 001	02:45	10.0円
		通話料金

- 通話時間と通話料金および予算に対する残額を表示する場合

外線番号	通話時間	
LINE 001	02:45	10.0円
990.0円		通話料金
予算に対する残額		

▼ 積算料金を表示する

- 1  を押す

- 2    を押す

*09は、積算料金表示の特番（初期値）です。

積算料金 表示
内線 ダイヤル

- 3 内線番号を押す

・定額発信規制が設定されていない場合

120	積算
	9900.0円




・定額発信規制が設定されている場合

120	残金	積算
	100.0円	9900.0円

- 4  を押す


▼ 内線ごとに積算料金を消去する

- 1  を押す

- 2    を押す

*10は、積算料金消去の特番（初期値）です。

積算データ クリア
0:オール 1:個別

- 3  を押す

1は、内線番号ごとの積算料金消去の番号です。

積算データ クリア	(個別)
内線 ダイヤル	

- 4 内線番号を押す

積算データ クリア	(個別)
内線 ダイヤル	クリア

- 5  を押す

これで、積算料金が消去できました。


▼ 全内線の積算料金を消去する

- 1  を押す

- 2    を押す


*10は、積算料金消去の特番（初期値）です。

積算データ クリア
0:オール 1:個別

- 3  を押す


0は、全内線の積算料金消去の番号です。

積算データ クリア	クリア(オール)
-----------	----------

- 4  を押す

これで、積算料金が消去できました。

▼ 定額料金を設定する

- 1  を押す

- 2    を押す

*11は、定額料金設定の特番（初期値）です。

定額料金 設定
内線 ダイヤル

- 3 定額料金を設定する内線番号を押す


120	0.0円
料金設定	

- 4 金額を入力する

120	0.0円
料金設定	10000

- 5  を押す

120	10000.0円
内線 ダイヤル	

- 6  を押す

これで、定額料金が設定できました。



複数の内線に定額料金を設定したい
手順5のあと、手順3に戻ってくり返してください。

番号計画について

<サービス特番一覧>

番号計画とは、電話をかける、受ける、またはいろいろな機能を利用するときに押す番号（特番）を決めることです。よく使う機能の特番は、お買い上げいただいたときに、あらかじめ初期値が設定されています。この初期値は、それぞれの操作手順に記載されていますので、参照してください。



特番は、システムの利用状況などにより、別の番号に変更されることがあります。詳しくは、販売店にご確認ください。

▼ 特番の初期値一覧表

特番の初期値一覧です。初期値を変更または設定した場合は、次の表に新しい特番を記入してご利用ください。「利用できる電話機」欄は、この機能を利用できる電話機を略号で表しています。

- 多：多機能電話機
- 一般：一般電話機
- K：コールコードレス電話機（子機）／マルチラインデジタルコードレス電話機
- ST：汎用デジタルコードレス電話機

《 管理者用サービス特番 》

システム管理者用のサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
運用モード切替（自グループ）	*01		多 一般 K ST
保留音曲目変更	*02		多
時刻データ設定	*03		多
共通・個別短縮ダイヤル設定	*04		多 K
グループ短縮ダイヤル設定	*05		多 K
外線毎の自動転送設定	*06		多
外線毎の自動転送解除	*07		多
外線毎の自動転送先登録	*08		多
積算料金表示	*09		多
積算料金消去	*10		多
定額料金設定	*11		多
運用モード切替（他グループ）	*12		多 一般
料金集計／明細プリントアウト	*13		多
即時明細プリントアウト	*14		多
ID登録	*15		多
伝言設定	*16		多

機能名称	特番		利用できる電話機
	初期値	設定値	
ダイヤルブロック（システム管理者による）	*17		多
ドアホン着信の外線転送	*18		多
システムアラームメッセージ消去	*19		多 K
VRSメッセージ編集	*20		多
VRS同報メッセージの再生	*21		多 一般 K
VRS同報メッセージの録音・消去	*22		多 一般 K
内線番号毎のSMDR集計出力	*23		多
内線グループ毎のSMDR集計出力	*24		多
アカウントコード毎のSMDR集計出力	*25		多
強制外線切断	*26		多 一般
外線閉塞	*27		多 一般
個別内線精算（ダイレクト印刷）	*28		多
全内線一括精算（ダイレクト印刷）	*29		多
発番号非通知拒否設定	*32		多 一般 K ST
発番号による着信拒否登録	*33		多
発番号による着信拒否設定	*34		多 一般 K ST
ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	*35		多 一般 K ST
外線留守番サービスの送出ガイダンス番号設定	*36		多 一般 K ST
ガイドホン通報パターン切替	*38		多
IDグループ集計	*39		多
ID登録	*40		多
日付データ設定	*41		多
メンテナンス特番	*42		多
警戒中メッセージ動作設定	*46		多 一般
警告メッセージ動作設定	*47		多 一般
センサ自動通報先動作設定	*48		多
リモート確認動作設定	*49		多
パワーセーブ	*51		多 一般

《 設定・登録用サービス特番 》

一般ユーザーが、設定や登録をするときに使用するサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特 番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
着信転送	901		多 一般 K ST
話中転送	902		多 一般 K ST
不応答転送（応答遅延転送）	903		多 一般 K ST
話中・不応答転送	904		多 一般 K ST
不在着信転送設定	905		多 一般 K ST
フォローミー設定／解除	907		多 一般 K ST
着信拒否設定	908		多 一般 K ST
伝言設定／応答	909		多 一般 K ST
伝言全解除	910		多 一般 K ST
伝言解除	911		多 一般 K ST
アラーム（指定時間呼出）	912		多 一般
LCD表示言語選択	913		多
テキストメッセージ設定	914		多
内線着信音設定（音声）	915		多
内線着信音設定（信号）	916		多
機能ボタン設定（一般機能レベル）	917		多 K
BGM オン／オフ	未設定		多
キータッチトーン オン／オフ	919		多
着信音色切替	920		多
着信音確認	921		多
内線名称入力	922		多
被話中呼出（個別着信の通話中表示）	923		多
内線グループ毎の自動転送設定	925		多 一般 K ST
内線グループ毎の自動転送解除	926		多 一般 K ST
内線グループ毎の自動／不応答転送先登録	927		多
内線グループ毎の不応答転送設定	928		多 一般 K ST

機能名称	特 番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
内線グループ毎の不応答転送解除	929		多 一般 K ST
内線グループ毎の着信拒否設定	930		多 一般 K ST
内線グループ毎の着信拒否解除	931		多 一般 K ST
PHS子機位置登録情報	932		多 K
ダイヤルブロック	未設定		多 一般 K ST
発信規制一時解除	934		多 一般 K ST
内線グループ一時離脱	935		多 一般 K ST
発信規制クラス変更	936		多 一般 K ST
着信音量設定	937		多
機能ボタン設定（アピアランス機能レベル）	938		多 K
センター電話帳ロック特番	956		多
個人登録発信規制データ登録	957		多 一般 K ST
ヘッドセット着信の音量設定	962		多
LCD縦倍角表示設定	963		多
LCD白黒反転表示設定	964		多
ヘッドセットモード切替	未設定		多
KDDI光ダイレクト着信転送	未設定		多 一般 K ST

《 サービスアクセス用サービス特番 》

一般ユーザーが、外線や内線での発着信時に利用する、様々な機能のサービス特番です。ダイヤル番号は初期値です。

機能名称	特番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
バイパスコール	801		多 一般 K ST
会議通話	802		多 一般 K ST
話中呼出（待機中通知）	803		多 一般 K ST
外線・内線予約設定	804		多 一般 K ST
外線・内線予約解除	805		多 一般 K ST
信号／音声呼出切替	806		多 一般 K ST
ステップコール	807		多 一般 K ST
通話割り込み	808		多 一般 K ST
グループ内全内線着信切替	809		多 一般 K ST
共通・個別短縮ダイヤル発信	810		多 一般 K ST
グループ短縮ダイヤル発信	811		多 一般 K ST
再ダイヤル発信	812		多 一般 K ST
セーブドナンバーリダイヤル	813		多 一般 K ST
外線グループ捕捉	814		多 一般 K ST
指定外線捕捉	815		多 一般 K ST
ネットワークシステムの外線捕捉	816		多 一般 K ST
再ダイヤル消去	817		多 一般 K ST
セーブドナンバーリダイヤル消去	818		多 一般 K ST
内線グループ呼出	819		多 一般 K ST
放送	820		多 一般 K ST
内線グループ指定応答	821		多 一般
放送応答	822		多 一般 K ST
内線グループ呼出応答	823		多 一般
同時放送・内線グループ呼出	824		多 一般 K ST

機能名称	特番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
内線指定呼代理応答（自代理応答グループのみ有効）	825		多 一般 K ST
グループ指定代理応答	826		多 一般 K ST
グループ代理応答	827		多 一般 K ST
他グループ代理応答	828		多 一般 K ST
指定内線代理応答	829		多 一般 K ST
指定外線応答	830		多 一般 K ST
パーク保留登録	831		多 一般 K ST
パーク保留応答	832		多 一般 K ST
内線グループ保留登録	833		多 一般 K ST
内線グループ保留応答	834		多 一般 K ST
ステーションパーク保留	835		多 一般 K ST
ドアホン呼出	836		多 一般 K ST
共通サービス設定解除	837		多 一般 K ST
在席表示操作	838		多 一般 K ST
ボイスメールセンター呼出	839		多 一般 K ST
ボイスオーバー	841		多
フッキング	842		一般 ST
分散応答	843		一般 ST
一般電話機呼び返し	844		一般
個別保留維持（一般電話機）	845		一般 ST
個別保留維持応答（一般電話機）	846		一般 ST
話中呼出応答（一般電話機）	847		一般 ST
PHSデータ通信	849		ST K
汎用リレー	850		多 一般 K ST
緊急通報終了	861		多 一般
セキュリティセンサリセット	862		多 一般

機能名称	特番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
セキュリティ放送	863		多一般
セキュリティセンサ連動	864		多一般

《 ホテル用サービス特番 》

ホテルのフロントなどで使用するサービス特番です。ダイヤル番号は未設定です。

機能名称	特番		利用できる 電話機
	初期値	設定値	
着信拒否設定	未設定		多一般
着信拒否解除	未設定		多一般
着信拒否の代行設定	未設定		多一般
着信拒否の代行解除	未設定		多一般
モーニングコール設定	未設定		多一般
モーニングコール解除	未設定		多一般
モーニングコールの代行設定	未設定		多一般
モーニングコールの代行解除	未設定		多一般
客室間コール制限設定	未設定		多一般
客室間コール制限解除	未設定		多一般
発信規制クラスの代行設定変更	未設定		多一般
チェックイン	未設定		多一般
チェックアウト	未設定		多一般
客室情報プリントアウト	未設定		多
ホテル ルームモニタ	未設定		一般



特番を押しても操作できない

特番によっては、利用できる電話機が限定されています。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話機のラインナップ

本システムでは、次の電話機を使うことができます。
電話機ごとの機能の詳細は、P.5-15を参照してください。

▼ デジタル多機能電話機

12ボタンタイプ



24ボタンタイプ



32ボタンタイプ



24ボタンタイプ、コールコードレス



24ボタンタイプ、一般回線 停電対応用



24ボタンタイプ、ISDN回線 停電対応用



8ボタンタイプ



▼ IP多機能電話機

12ボタンタイプ



24ボタンタイプ



32ボタンタイプ



24ボタンタイプ、一般回線 停電対応用



24ボタンタイプ、ISDN回線 停電対応用



8ボタンタイプ



32ボタンタイプ



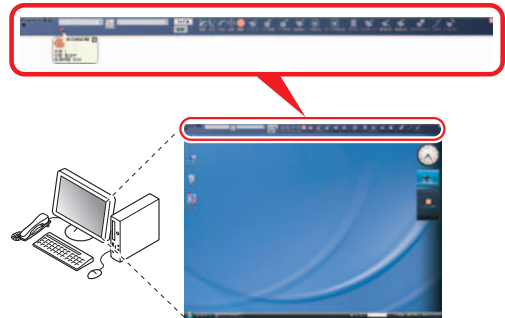
▼ シングルゾーンデジタルコードレス電話機



▼ マルチラインデジタルコードレス電話機 (PHS)



▼ ソフトフォン



▼ その他の電話機

一般電話機や ISDN 電話機、など

多機能電話機の品名および機能一覧

▼ デジタル多機能電話機

項目	DTL-8LD-1D	DTL-12D-1D	DTL-24D-1D	DTL-32D-1D	DTL-24BT-1D	DTL-24PA-1D	DTL-24PD-1D
ファンクションボタン	8×4面 (2色LED)	12 (2色LED)	24 (2色LED)	24+8 (2色LED)	24 (2色LED)		
固定機能ボタン	10 (フック、特殊、転送、スピーカ、クリア、メニュー、確定、保留、応答、発信)						
十字キー	1 (上下キー：ボリューム、左キー：再/短、右キー：電話帳検索)						
ソフトキー	4						
HELP、EXIT	2						
セキュリティボタン	なし						
大型ランプ	あり						
LCD表示器	全角：14桁 × 4行 半角：28桁 × 4行						
バックライト機能	あり					あり (ダイヤルボタン部：なし)	
ハンドセット用クレードル	通常クレードル			カールコードレス用クレードル・ハンドセット (BCH-LD (WH/BK) UNIT)	アナログ停電用クレードル (PSA-LD (WH) UNIT)	ISDN停電用クレードル (PSD-LD (WH) UNIT)	
筐体色	白/黒	白/黒	白	白/黒	白	白	白
ハンズフリー機能	あり (半二重)						
オプション同時装着数	サイドユニット：1 (8LKまたは16LK) ※ DTL-32D-1Dは8LKボタンを接続済み ボトムユニット：1			サイドユニット：1 (8LKまたは16LK) ボトムユニット：不可	サイドユニット：1 (8LKまたは16LK) ボトムユニット：1		
ヘッドセット接続	可						

▼ IP多機能電話機

項目	ITL-8LD-1D	ITL-12D-1D	ITL-24D-1D	ITL-32D-1D	ITL-24PA-1D	ITL-24PD-1D	ITL-320C-1D
ファンクションボタン	8×4面 (2色LED)	12 (2色LED)	24 (2色LED)	24+8 (2色LED)	24 (2色LED)		8×4面 (LCD上に表示)
固定機能ボタン	10 (フック、特殊、転送、スピーカ、クリア、メニュー、確定、保留、応答、発信)						
十字キー	1 (上下キー：ボリューム、左キー：再/短、右キー：電話帳検索)						
ソフトキー	4						
HELP、EXIT	2						
セキュリティボタン	1						
大型ランプ	あり						
LCD表示器	全角：14桁 × 5行 半角：28桁 × 5行						5.7インチTFT タッチパネル
バックライト機能	あり				あり (ダイヤルボタン部：なし)		あり
ハンドセット用クレードル	通常クレードル				アナログ 停電用 クレードル (PSA-LD(WH) UNIT)	ISDN停電用 クレードル (PSD-LD(WH) UNIT)	通常 クレードル
筐体色	白	白/黒	白/黒	白	白	白	黒
ハンズフリー機能	あり (全二重)						
オプション同時装着数	サイドユニット：2 (8/16LKボタンおよびDSSコンソール) ※ ITL-32D-1Dは8LKボタンを接続済み ボトムユニット：1				サイドユニット：2 (8/16LKボタンおよびDSSコンソール) ボトムユニット：1		
ヘッドセット接続	可						

多機能電話機のオプション品一覧

種別	品名	名称	用途	備考
ボトムユニット	ADA-L UNIT	通話録音用ユニット	多機能電話機にカセットレコーダを接続する	
	APR-LD UNIT	アナログポートユニット	デジタル多機能電話機に一般電話機を接続する	デジタル多機能電話機専用
	BHA-LD UNIT	Bluetooth®アダプタ	Bluetooth®ヘッドセットと多機能電話機を接続する	デジタル多機能電話機専用
サイドユニット	DCL-60-1D(WH) CONSOLE	60ボタンDSSコンソール	多機能電話機のファンクションボタンを拡張する	
	8LK-L(WH) UNIT	8ラインボタン拡張コンソール		
	16LK-L(WH) UNIT	16ラインボタン拡張コンソール		
ハンドセット用クレードル	BCH-LD(WH/BK) UNIT	カールコードレス用クレードル・ハンドセット	標準の多機能電話機をカールコードレス電話機に変更	デジタル多機能電話機専用
	PSA-LD(WH) UNIT	アナログ停電用クレードル	標準の多機能電話機をアナログ停電用多機能電話機に変更	停電時、直接アナログ回線に接続
	PSD-LD(WH) UNIT	ISDN停電用クレードル	標準の多機能電話機をISDN停電用多機能電話機に変更	停電時、直接ISDN回線に接続
オプションボタンセット	BS(E)-L(WH/BK)KIT	英語表示テンキーキット(白/黒)	電話機のテンキーを英語表示に変更する	
	BS(Braille)-LD(WH)KIT	点字対応シール(白)	電話機のテンキーを点字対応にする	
	12LK-L(WH/BK)KIT	12ラインボタン増設キット(白)	12ボタンタイプ電話機を24ボタンタイプ電話機に変更する	
オプション用品	WM-L UNIT	壁掛け用品	多機能電話機を壁に掛ける	
	60 DSS WM-L UNIT	DSSコンソール壁掛け用品	DSSコンソールを壁に掛ける	
	PANEL-L UNIT	カラーサイドパネル	カラー対応のサイドパネルに変更する	
	AC-2RD UNIT	ACアダプタ	IP多機能電話機にローカル給電するときに利用する	
	1LPA-RD UNIT	インライン給電方式変換アダプタ	IP多機能電話機に対応していないセンター給電用HUBに接続するときに利用する	
	VAL DIRECTORY CARD UNIT(L)	短縮ダイヤル早見表	短縮ダイヤルの早見表を多機能電話機背面に取り付ける	

電話機と利用できる機能について

本システムの専用多機能電話機や一般電話機では、それぞれ利用できる機能と利用できない機能があります。利用できる機能については『番号計画について』(⇒P.5-9)を参照してください。

各種設定について






本システムを活用していただくために、次の設定ができます。

- ・時計の設定
- ・ファンクションボタンへの登録
- ・運用モードの切替
- ・保留音の変更

時計を設定する

多機能電話機に表示する時刻を設定します。

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
- 2    を押す *03は、時刻データ設定の特番（初期値）です。
- 3 時間を入力する 24時間制で入力してください。
例：午前9時の場合は09と入力
- 4 分を入力する 例：5分の場合は05と入力
- 5  を押す

これで、時刻の設定ができました。



時刻がスタートするタイミング
上記手順4の分を入力した時点で、秒が0になり、時計がスタートします。

日付を設定する

システムの日付設定を変更します。

▼ 設定のしかた

- 1  を押す
- 2    を押す *41
- 3 西暦を入力する *41 08
下2桁を入力してください。
例：2008年の場合は08と入力
- 4 月を入力する *41 08 08
2桁で入力してください。
例：8月の場合は08と入力
- 5 日付を入力する *41 08 08 09
2桁で入力してください。
例：9日の場合は09と入力

6 曜日を入力する

日曜日：1、月曜日：2、
火曜日：3、水曜日：4、
木曜日：5、金曜日：6、
土曜日：7

*41 08 08 09 7

7 を押す

これで、日付の入力ができました。

ファンクションボタンへの機能登録について






多機能電話機のファンクションボタンに、いろいろな機能を割り付けると、このボタンを押すだけで利用できるようになります。

ファンクションボタンへの機能割り付けは、工事段階で設定するものと、特番を使って行えるものがあります。

また、アビアランス機能レベルの機能ボタン設定は、ボタン設定のほかにも工事段階の設定が必要な場合があります。

ここでは、特番を使って割り付けられるボタンだけを説明しています。

▼ 一般機能レベルの機能ボタンを設定する

- 1  を押す
- 2    を押す 917は、機能ボタン設定（一般機能レベル）の特番（初期値）です。
- 3 割り付けたい  (ファンクションボタン) を押す 現在の設定内容が表示される
- 4 機能番号を押す 機能番号は、『ファンクションボタンの機能番号一覧』(⇒P.5-20)を参照してください。
例：14（不在着信転送ボタンの機能番号）を押した場合

5 を押す

付加番号を入力する機能の場合は、保留ボタンを押してからスピーカボタンを押してください。

これで、ファンクションボタンへの割り付けができました。



複数のファンクションボタンに登録したい
手順3と手順4をくり返します。

▼ アピアランス機能レベルの機能ボタンを設定する

注意

- アピアランス機能レベルの機能ボタン設定は、システム管理者用として設定された電話機のみ行えます。
- すでにアピアランス機能レベルの機能ボタンが設定してある場合は、設定内容をいったん解除してから、改めてほかの機能を設定してください。詳しくは『解除のしかた』(⇒P.5-19)を参照してください。

ここでは例として、多機能電話機のファンクションボタンに、仮想内線ボタンを割り付けます。

1 を押す

2 ⑨③⑧を押す

キー プログラム

938は、機能ボタン設定(アピアランス機能レベル)の特番(初期値)です。

3 割り付けたい

(ファンクションボタン) を押す

ファンクションボタンの番号
キー プログラム キー 16
NOT DEFINE

現在の設定内容が表示される

4 ①③を押す

*03は、仮想内線ボタンの機能番号です。

キー プログラム キー 16
内線

5 割り付けたい内線番号(仮想内線番号)を押す

キー プログラム キー 16
内線 600

仮想内線番号

6 を押す

内線 600 鳴動 設定
モード: / / / / / / / /

現在の設定内容が表示される

7 着信音を鳴らしたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1~8の中から選ぶことができます。

内線 600 鳴動 設定
モード: 1 / / / / / / / /

押した番号に応じて表示される

8 を押す

内線 600 遅延鳴動 設定
モード: / / / / / / / /

現在の設定内容が表示される

9 着信音を遅らせて鳴らしたい時間帯の番号を押す

時間帯は、1~8の中から選ぶことができます。

内線 600 遅延鳴動 設定
モード: / 2 / / / / / / / /

注意

「鳴動 設定」と「遅延鳴動 設定」の時間帯を、同じ時間帯に設定することはできません。

10 を押す

キー プログラム キー 16
内線 600

11 を押す

これで、仮想内線ボタンの割り付けができました。



複数の仮想内線ボタンを割り付けたい
手順3~手順10をくり返します。

▼ 確認のしかた

1 を押す

チェック

2 (ファンクションボタン) を押す

チェック LINEキー 16
内線 600

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

3 待ち受け画面に戻るときは を押す

▼ 解除のしかた

1 を押す

2 ⑨①⑦または

キー プログラム

⑨③⑧を押す

917は、機能ボタン設定(一般機能レベル)の特番(初期値)です。938は、機能ボタン設定(アピアランス機能レベル)の特番(初期値)です。

3 解除したい

(ファンクションボタン) を押す

キー プログラム キー 16
不在着信転送

押したファンクションボタンの登録内容が表示されます。

4 ①①①を押す

キー プログラム キー 16
NOT DEFINE

001は、ファンクションボタンの解除番号です。

5 を押す

これで、ファンクションボタンを解除できました。

▼ ファンクションボタンの機能番号一覧

※1欄は、コールコードレス電話機（子機）のファンクションボタンでも割付できる機能に「○」を記載しています。

※2欄は、マルチラインデジタルコードレス電話機のファンクションボタンでも割付できる機能に「○」を記載しています。また、割付できない機能には「×」を記載しています。

注意

- 機能番号が“*”で始まる機能は、アピアランス機能レベルの操作で割り付けてください。
- 機能ボタンを登録直後にシステムの電源を切る場合、登録した機能ボタンの内容がシステムに書き込まれたことを確認してください。詳しくは『電源の切りかた』（⇒P.xiii）を参照してください。

ボタン名	機能番号	※1	※2
ワンタッチ	01+相手番号 (最大24桁)	○	○
DSS(内線呼出、状態表示)	01+内線番号	○	○
マイク	02	×	×
着信拒否	03	○	○
BGM<ON/OFF>	04	×	×
ヘッドセット	05	×	×
転送	06	○	○
会議	07	○	○
着信履歴	08	×	×
運用モード切替	09+ 運用モード番号1~8、 トグル切替0	○	○
着信転送	10	○	○
話中転送	11	○	○
不応答転送	12	○	○
話中・不応答転送	13	○	○
不在着信転送	14	○	○
フォローミー	15	○	○
テキストメッセージ	18	×	×
グループ放送	19+ 放送グループ番号1~8	○	○
放送	20	○	○
内線グループ呼出	21+内線ページング グループ番号1~64 (8)	○	○
内線一斉呼出	22	○	○
内線グループ呼出応答	23	×	×
代理応答	24	○	○
他グループ代理応答	25	○	○
グループ指定代理応答	26+ 代理応答グループ番号 1~64(8)	○	○
共通・個別短縮	27	○	○

ボタン名	機能番号	※1	※2
共通短縮ワンタッチ	27+共通短縮番号	○	○
個別短縮ワンタッチ	27+個別短縮番号	○	○
グループ短縮	28	○	○
グループ短縮ワンタッチ	28+グループ短縮番号	○	○
リピートダイヤル	29	×	×
セーブナンバーリダイヤル	30	○	○
メモダイヤル	31	×	×
口頭会議招集	32	○	○
話中呼出	33	○	○
通話割り込み	34+内線番号または*	○	○
予約(外線・内線共用)	35	○	○
ステップコール	36	○	○
バイパスコール	37	○	○
伝言	38	×	○
ルームモニタ	39	○	×
送話カット	40	○	○
ブザー	41+内線番号	×	×
幹部着信代理応答	42+内線番号	×	×
折り返し転送	43	○	○
共通保留	44	○	○
個別保留	45	○	○
内線グループ一時離脱	46	○	○
リバース・ボイスオーバー	47+内線番号	×	○
ボイスオーバー	48	×	○
コールリダイレクト	49+内線番号または ボイスメール番号	○	○
アカウントコード	50	×	○
汎用リレー	51+リレー番号 (0, 1~8)	○	○
着信お待たせ設定	52+着信グループ番号 001~100(1~8)	○	○
着信お待たせメッセージ起動	53	○	○
ドアホン着信の外線転送設定	54	×	○
内線名称編集	55	×	○
在席表示操作	56+ 在席表示盤のランプ番号 1~300	○	○
在席表示	57+ 在席表示盤のランプ番号 1~300	○	○
内線グループ毎の自動転送設定/解除	58+内線グループ番号 1~64(8)	○	○

ボタン名	機能番号	※1	※2
内線グループ毎の応答転送設定/解除	59+内線グループ番号 1~64 (8)	○	○
内線グループ毎の着信拒否設定/解除	60+内線グループ番号 1~64 (8)	○	○
ID入力	61	○	○
発番号通知拒否モード (INS)	63	○	×
キーパッドファシリティ	64	○	○
INS通信中転送	65	○	○
CTI通信	66	×	×
アプリケーションボタン	76+任意のダイヤル (最大8桁)	○	○
外線毎の自動転送ボタン	81+転送用の外線番号	○	○
DtermIP通話情報表示	82	×	×
切断再捕捉	84	○	○
発番号非通知拒否設定	86	○	○
発番号による着信拒否設定	87	○	○
ダイヤルイン呼番号毎のモード切替	88	○	○
個人登録発信規制機能スイッチ	89	○	○
個人登録発信規制データ登録	90	○	○
ドアホン呼び出し	97	○	○
KDDI光ダイレクト着信転送	#01+内線番号	○	○
パワーセーブ	#06+ パワーセーブグループ番号 (00、01~16)	○	○
内線	*00	×	×
外線	*01+外線番号	○	○
索線	*02+ 外線グループ番号 001~100 (1~8)	○	○
仮想内線	*03	○	○
パーク保留	*04+パーク番号1~64	○	○
ステーションパーク保留	*07	○	○
セキュリティ放送	*32	○	○
セキュリティセンサ連動	*33	○	○
ボイスメール操作			
メールボックス	67+メールボックス番号	○	○
スキップ	68+0	○	○
バックスキップ	68+1	○	○
通話録音	69+0	○	○
消去・再録音	69+1	○	○
消去	69+2	○	○

ボタン名	機能番号	※1	※2
通話録音-呼出	69+3	○	○
留守番電話	70+メールボックス番号	○	○
留守番応答メッセージ切替	71+メールボックス番号	○	○

運用モードについて

システム全体、または運用モードグループごとに、8種類の運用モードを設定できます。

- モード1 (昼間1)
- モード2 (夜間1)
- モード3 (深夜1)
- モード4 (休憩1)
- モード5 (昼間2)
- モード6 (夜間2)
- モード7 (深夜2)
- モード8 (休憩2)

8種類のモードを、次のように1日に割り当てて利用します。また、曜日ごとに割り当てを変えて、スケジュールを組むこともできます。

7:00		12:00		13:00		18:00		22:00	
深夜 (モード3)	昼間 (モード1)	休憩 (モード4)	昼間 (モード1)	夜間 (モード2)	深夜 (モード3)				

運用モードを設定すると、モードごとに電話がかかってきたときに鳴らす電話機や、外線発信ができる電話機などを切り替えることができます。



運用モードを定刻に切り替えたい

運用モードは、時間帯、曜日および長期休暇などに合わせて自動的に切り替えることもできます。運用モードの自動切替は、工事段階で設定します。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 運用モードの手動切替



「ファンクションボタンの設定」により運用モード切替ボタンを電話機に割り付けておく必要があります。運用モード切替ボタンの割り付けかたには、次の2種類があります。

- 複数のファンクションボタンに、各運用の切替用ボタンを割り付ける
 - 1つのファンクションボタンに、運用モードのトグル切替用ボタンを割り付ける
- 詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

《 特番を使うとき 》

1 受話器を上げる

2 (※)①を押す

*01は、運用モード切替の特番(初期値)です。

運用モード 状態

3 モードの番号を押す

モードの番号は、1~8のいずれかを押します。

運用モード 切替

<3> グループ 01

4 受話器を戻す

これで、運用モードの切替ができました。

《 運用モードごとの運用モード切替ボタンを使うとき 》

- 1 設定したい運用モードが割り付けられている
- いる (運用モード切替ボタン) を押す
運用モード切替ボタンが赤点灯します。

これで、運用モードの切替ができました。

ほかの運用モード切替ボタンを押すと、運用モードが切り替わります (設定されていた運用モード切替ボタンが消灯します)。

《 トグル切替の運用モード切替ボタンを使うとき 》

- 1 (運用モード切替ボタン) を押す
運用モード切替ボタンを押すたびに、運用モードが切り替わります。
- ↓
 ↓

これで、運用モードの切替ができました。

注意

トグル切替が割り付けられている運用モード切替ボタンのランプは、赤点灯しません。

保留音について

外線または内線通話を保留したとき、相手に流す保留音は、次のいずれかを設定できます。

- 00: 無音
- 01: 別れの曲
- 02: 春
- 03: 赤鼻のトナカイ
- 04: 守ってあげたい
- 05: オリビアを聴きながら
- 06: イエローサブマリン
- 07: 愛の讃歌
- 08: It's a small world
- 09: Mickey Mouse March
- 10: Runner
- 11: We wish you a Merry Christmas



ほかの曲を使いたい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。



VRSメッセージを保留音として使用したい

工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

注意

外部保留音を使用している場合は、保留音の曲目変更はできません。工事段階の設定が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

▼ 保留音の曲目を変更する

- 1 を押す
- 2 を押す
- *02は、保留音曲目変更の特番 (初期値) です。
- 3 保留音の番号を押す
- 上記の曲名の番号 (00~11) を押します。VRSメッセージを設定している場合は、VRSメッセージ番号 (001~100) を押します。

- 4 を押す

これで、保留音の曲目が変更できました。

外部機器の制御について

<汎用リレー> **工事**

このシステムのリレーを使用し、外部機器の制御ができます。

▼ 汎用リレーのオン/オフを切り替える

《 特番を使うとき 》

- 1 を押す
- 2 を押す
- 850は、汎用リレーのオン/オフの特番 (初期値) です。
- 3 リレー番号を押す
- 例: リレー番号 1 を押したとき
リレー オン/
番号 オフ

- 4 を押す

これで、汎用リレーのオン/オフが切り替わりました。



汎用リレーは、オンのときに操作するとオフになり、オフのときに操作するとオンになります。

《 特殊ボタンを使うとき 》

- 1 を押す
- 2 を押す
- 3 リレー番号を押す
- 現在のリレーの状態が表示されます。
例: リレー番号 1 を押したとき

4 特殊 を押す

約5秒後に時計表示に戻ります。

汎用 リレ- 01 巾

リレ- オン/
番号 オフ

これで、リレーのオン/オフが切り替わりました。



よく汎用リレーを利用する方へ

電話機のファンクションボタンにリレー制御ボタンを割り付けておくと、このボタンを押すだけで利用できます。詳しくは『ファンクションボタンへの機能登録について』(⇒P.5-18)を参照してください。

リレー制御ボタンを使用すると

ボタンのランプ表示で、リレーの状態がわかります。

- リレーがオンのとき：赤点灯
- リレーがオフのとき：消灯

一般電話機で操作したい

次の操作で、オン/オフを切り替えることができます。受話器を上げる → [850] → [リレー番号] → 受話器を戻す
一般電話機の場合、特殊ボタンでの操作およびリレー制御ボタンでの操作はできません。
また、操作時の表示を行うことはできません。

多機能電話機を交換する

<端末リロケーション> 工事

席替えなどの際、それまで使用していた電話機を、移動先でも変わらず使用するための機能です。交換する2台の電話機を指定すると、電話機に設定されていた内線番号などの設定も、移動先でそのまま使用できます。

▼ 交換のしかた

1 2台の電話機を交換する

それぞれの内線番号を控えておいてください。

2 どちらかの電話機で、スピーカーを押す

3 端末リロケーションの特番を押す

特番は工事段階で設定しますので、販売店にご確認ください。

電話機 データ 交換
パスワード 入力

4 工事段階で設定された暗証番号を押す

電話機 データ 交換
パスワード 入力 ****

5 交換する相手の内線番号を押す

セット音が聞こえます。

電話機 データ 交換
Completed

6 スピーカを押す

これで、電話機の交換ができました。

夜間などの消費電力をおさえる

<パワーセーブ>

電話機を使用しない夜間などの時間帯にデジタル多機能電話機など(ESU収容端末)への給電を停止することで、消費電力をおさえることができます。

▼ 設定のしかた

1 (パワーセーブボタン) を押す

パワーセーブグループ 給電設定
パスワード ?

2 パスワード (0000) を押す

パワーセーブボタンが赤点灯します。

3 スピーカを押す

これで、パワーセーブが設定できました。

▼ 解除のしかた

1 赤点灯中の (パワーセーブボタン) を押す

パワーセーブボタンが消灯します。

2 スピーカを押す

これで、パワーセーブが解除できました。

注意

- パワーセーブ設定時は、対象の電話機は使用できません。パワーセーブを設定/解除する電話機および緊急時に使用する可能性のある電話機は、パワーセーブの対象とししないでください。
- 全パワーセーブグループ対応のパワーセーブボタンのランプ表示は、全グループ(1~16)がパワーセーブ状態となった場合に消灯から赤点灯に、全グループ(1~16)がパワーセーブ解除となった場合に赤点灯から消灯に変化します。パワーセーブ設定と解除のグループが混在の場合、消灯または赤点灯の状態を保持します。



一般電話機から設定/解除したい

一般電話機および多機能電話機から *51 + 給電停止(1) / 給電開始(0) + パワーセーブグループ番号(00~16) + パスワード で設定/解除できます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

運用モードと連動させたい

運用モードの切替とパワーセーブ設定を連動させることができます。

さらに、自動運用モード切替と連動させ、あらかじめ設定した時間にパワーセーブとすることができます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

停電したときは

停電すると、本システムのバッテリーから電気が供給され、一定時間は電話を使用できます。ただし、バッテリーが消耗すると、すべての電話が切れます。

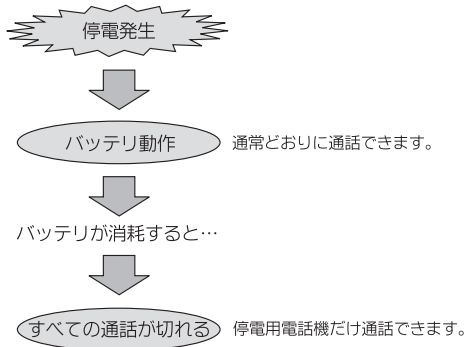
なお、バッテリーが消耗しても、停電用電話機であれば、電話をかけたり受けたりすることができます。システムに少なくとも1台は、停電用電話機を設置することをおすすめします。

システムの動作

<停電時/停電復旧時動作>

▼ 停電したとき

停電したときの動作は、次のようになります。



▼ 動作保持時間について

<バックアップ時間>

停電したときに、主装置のバッテリーで動作できる時間は、次のとおりです。

バッテリー	動作保持時間
短時間 バッテリー	最大約10分
長時間 バッテリー	デジタル多機能電話機 64台以内のとき： 最大約3時間

注意 動作保持時間は目安です。電話機の台数や使用状況、バッテリーの使用年数などにより、上記の時間より短くなる場合があります。

停電中の電話の使いかた

<停電時発着信>

停電中、バッテリーが消耗すると、主装置が停止します。このとき、停電用電話機があると、一般家庭用の電話と同じように、局からの給電で電話をかけたり受けたりすることができます。ただし、本システムの短縮ダイヤルなどの利用や、内線通話はできません。

注意 停電中に使えるのは、停電対応用のハンドセットが接続されている多機能電話機と一般電話機だけです。なお、デジタルコードレス電話機で公衆網での契約をしてある場合は、公衆モードに切り替えると使用できます。

▼ 停電中のかけかた

- 1 受話器を上げる
- 2 電話番号を押す
- 3 相手が出たら、通話する

▼ 停電中の受けかた

- 1 外線から着信中
- 2 受話器を上げる
- 3 相手と通話する

停電が復旧したとき

停電が復旧し、電気が供給されるようになると、主装置が自動的に起動します。このとき、停電用電話機で通話していた場合は、電話を切った時点で通常の状態に戻ります。以降は、通常どおりの方法で通話することができます。

消耗品について(電池等)

本システムには、リサイクル可能な電池がいくつか使用されています。

- システムの内蔵バッテリー : 小形シール鉛蓄電池
- システム内CPUのメモリバックアップ電池 : ボタン型リチウム電池

システムの内蔵バッテリーについて

<小形シール鉛蓄電池>



本システムの主装置には、小形シール鉛蓄電池を使用しています。

小形シール鉛蓄電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になった小形シール鉛蓄電池および使用済み製品から取り外した小形シール鉛蓄電池のリサイクルに際しては、次の注意を守ってください。注意を守らないと、ショートによる発煙・発火の原因となります。

▼ リサイクル時のご注意

- ショートを防ぐために、端子にテープを貼るか、個別に袋に入れるなどして絶縁してください。
- 小形シール鉛蓄電池を分解しないでください。

▼ 小形シール鉛蓄電池のお持ち込み先

NEC インフロンティア(株) 修理受付窓口にお持ち込みください。
詳細は、NECインフロンティア(株) 環境ホームページをご覧ください。

- ホームページアドレス
<http://www.necinfrontia.co.jp/company/kankyo/index.htm>

▼ お問い合わせについて

- 製品、小形シール鉛蓄電池をご購入いただいた当社販売店
- NECインフロンティア株式会社 営業拠点

▼ 電池交換について

小形シール鉛蓄電池の寿命は、使用状況によっても異なります。下表を目安に定期的に交換を行ってください。

システム環境温度	25℃	25~30℃	30~40℃
蓄電池交換時期	3年後	2年後	1年後

- 注意 ▶ 小形シール鉛蓄電池の取り出しは、製品をご購入いただいた販売店にご依頼ください。

システム内CPUのメモリバックアップ電池について

<ボタン型リチウム電池>

本システムの CPU には、ボタン型リチウム電池を使用しています。

- リチウム電池 : 3V 220mAh

ボタン型リチウム電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。交換後、不要になったボタン型リチウム電池および使用済み製品から外したボタン型リチウム電池のリサイクルに際しては、次の注意を守って処理してください。注意を守らないと、ショートによる発煙、発火の原因となります。

▼ 廃棄時のご注意

- すべての⊕極と⊖極をセロハンテープなどで絶縁するか、個別の袋に入れるなどして絶縁してください。
- 廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。
- ボタン型リチウム電池を分解しないでください。

▼ 電池交換について

システム内 CPU のメモリバックアップに使用されているリチウム電池の寿命は、使用状況によっても異なりますが、約3年程度です。定期的に交換を行ってください。

- 注意 ▶ システム内CPUのメモリバックアップ電池の取り出しは、製品をご購入いただいた販売店にご依頼ください。

冷却ファンボックスについて

<19インチモジュール用冷却ファンボックス>

▼ 冷却ファンボックスの交換について

19インチモジュールではシステム内の冷却のため、冷却ファンボックスが取り付けられています。この冷却ファンボックスの寿命は、使用状況によっても異なりますが、約4年程度です。定期的に交換を行ってください。

▼ 廃棄時のご注意

- 廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。

- 注意 ▶ 冷却ファンボックスの交換については、製品をご購入いただいた販売店にご依頼ください。

困ったときは

本システムをご使用中に、いつもと違うことが起こったときは、次のことを確認してみてください。それでも原因がわからないときは、販売店にご連絡ください。

▼ 電話機が使えない

チェックポイント	対処
主装置の電源ランプは青点灯になっていますか？	ランプが消灯しているときは、主装置の電源が切れています。このときは、電源スイッチを押してすぐ放してください。
主装置の電源コードはコンセントにしっかり差し込まれていますか？	確実に差し込んでください。
表示器に待ち受け画面が出ていますか？ 電話機コードが確実に差し込まれていますか？	電話機コードのコネクタを押し込んでみてください。それでも表示が出ないときは、断線や電話機の故障が考えられます。販売店にご連絡ください。
ボタンの上に、何かが載っているときに操作しませんでしたか？	ボタンが押された状態になっていると、正常に動作しません。電話機の上には何も載せないでください。
受話器が浮いているときに操作しませんでしたか？	受話器が浮いていると、正常に動作しません。受話器をしっかりと戻し、しばらく待ってから操作し直してください。

▼ 受話器やスピーカから音が聞こえない

チェックポイント	対処
受話器コードが抜けていませんか？	確実に差し込んでください。
受話器が浮いているときに操作しませんでしたか？	受話器が浮いていると、正常に動作しません。受話器をしっかりと戻し、しばらく待ってから操作し直してください。

▼ 着信音が鳴らない

チェックポイント	対処
システムが夜間モードになっていませんか？	昼間モードのみ着信音が鳴るように設定されている電話機では、夜間モード中は着信音が鳴りません。
着信音が鳴るように設定された電話機ですか？	着信音を鳴らすかどうかは、工事段階で設定します。
着信音量は正しく設定されていますか？	着信音量を「最小」にしていると、音が聞こえません。
着信拒否を設定していませんか？	着信拒否を設定していると、着信音は鳴りません。

▼ ドアホンの着信音が鳴らない

チェックポイント	対処
着信音量は正しく設定されていますか？	着信音量を「最小」にしていると、音が聞こえません。
ドアホンの着信音が鳴るように設定された電話機ですか？	着信音を鳴らすかどうかは、工事段階で設定します。

▼ 短縮ダイヤルやファンクションボタンの登録ができない

チェックポイント	対処
登録できる桁数ですか？	登録できるのは、最大24桁までです。
登録ができるように設定された電話機ですか？	短縮ダイヤルやファンクションボタンの登録ができるかどうかは、工事段階で設定します。

保証とアフターサービスについて

▼ 保証書の記載内容ご確認と保存について

本製品には保証書を別途添付してあります。保証書をご購入いただいた販売店でお渡しいたしますので、所定事項記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

▼ 保証期間について

保証期間は、ご購入日より1年間です。

▼ 保証期間経過後の修理と「アフターサービスについて」(別紙)の保存について

- 保証期間経過後の修理については、ご購入いただいた販売店、またはお近くのNECインフロンティア株式会社 営業拠点にご相談ください。
- 本製品には、「アフターサービスについて」(別紙)を添付してあります。大切に保管してください。

▼ 修理を依頼されるときは

本システムの動作がおかしいときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直ることがあります。それでも動作が直らないときには、ご購入いただいた販売店にご相談ください。

注意

お問い合わせいただく前に、下記の情報を準備してください。

- 機種名：Aspire X
- 故障の状態をできるだけ詳しく
- ご購入年月日
- ご住所、ご氏名、電話番号

▼ 消耗品について

消耗品は、保証期間内でも有償とさせていただきます。お買い求めの際は、ご購入いただいた販売店にご相談ください。

▼ 商品廃棄について

本製品を廃棄するときには地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。

おもな仕様

2010年7月現在の最新仕様を記載しています。

項目		仕様	備考
通話路		PCM時分割一段スイッチ	
プロセッサ		32bitマイクロプロセッサ	
中継方式		① 中継台方式 (DSSコンソール) ② 分散応答 ③ 追加ダイヤルイン方式 ④ 直結式応答方式 ⑤ NTTダイヤルイン方式 ⑥ 個別着信方式	
配線方式		DT300シリーズ：2芯 スター接続 (RJ-61ケーブル集中配線方式) DT700シリーズ：LAN接続	
使用電源		AC100±10V (50/60Hz)	
選択信号種別		DP (10pps、20pps)、PB	
消費電力	待機時	96W/架	
	最大	130W/架	
DP信号	インパルス速度	10±0.8pps/20±1.6pps	
	メーク率	33±3%	
	ミニマムポーズ	600ms以上 (10pps) /450ms以上 (20pps)	
PB信号	信号周波数	低群：697Hz、770Hz、852Hz、941Hz 高群：1209Hz、1336Hz、1477Hz	
	周波数偏差	±1.5%以内	
	送出レベル	低群：-16.5~-6.5dBm 高群：-16.0~-6.0dBm	20mAのとき
	送出時間	50ms以上	
	ミニマムポーズ	30ms以上	
	周期	120ms以上	
直流回路の抵抗		通電時：50～300Ω、停電時：400Ω ※1	回路が閉
PB信号送出中の静電容量		3μF以下	
直流回路の絶縁抵抗		1MΩ以上 (直流回路の両線間) 1MΩ以上 (直流回路と大地間) 1MΩ以上 (直流回路と他の電気通信回線間)	回路が閉 DC250V
呼出信号受信中のインピーダンス		2KΩ以上	75V 16Hz
呼出信号受信中の静電容量		3μF以下	
特性インピーダンス		600Ω	
漏話減衰量		70dB以上	1.5kHz
使用周囲温度/湿度		0～40℃/10～90%RH (結露のないこと)	

■ 基本モジュール/拡張モジュールの場合

項目	システム構成			備考
	基本モジュール	基本+拡張モジュール	最大構成時	
スロット数 (ユニバーサルスロット)	3	6	24	
使用電源数	1	1	4	基本モジュール1台につき1電源
外形寸法 (主装置) W×D×H[mm]	220×369×115	430×369×115	—	
質量 (主装置) [kg]	約2.2	約3.7	約13	
主装置外装色	ライト・ミスト・ホワイト			

■ 19インチモジュールの場合

項目	システム構成	
	1架	最大構成
スロット数 (ユニバーサルスロット)	6	24
使用電源数	1	4
外形寸法 (主装置) W×D×H[mm]	430×401×88	430×401×361
質量 (主装置) [kg]	約8.2	約34
主装置外装色	ライト・ミスト・ホワイト	



ユーザープログラミング

- ユーザープログラミングについて 6-2
- ユーザープログラミングの操作 ... 6-5
- 設定メニュー一覧 6-8

ユーザープログラミングについて

ユーザープログラミングの概要

ユーザープログラミングでは、システムを運用するための基本設定や電話機ごとの各種設定、着信転送の設定/解除などを、パソコンのインターネットブラウザ（Internet Explorerなど）を利用して行うことができます。ユーザープログラミングのログインレベルは、次の2つのレベルがあります。

- UA（ユーザープログラミング1）：管理者レベル
システム管理者専用のログインレベルです。UAレベル用のユーザー名（初期値：USER1）とパスワード（初期値：1111）を使ってログインし、システムの各種設定を行うことができます。
- UB（ユーザープログラミング2）：電話機使用者レベル
電話機ごとのログインレベルです。内線番号とパスワード（初期値：1111）を使ってログインし、電話機ごとの設定を行うことができます。

ご使用上の注意

ユーザープログラミングは、システムの運用形態を含めて設定することができます。設定方法および設定可能な範囲は、ご利用中のシステムの構成や設定内容によって異なります。ユーザープログラミングを使用する際は、販売店の指導のもとでご利用ください。詳しくは、販売店にご相談ください。

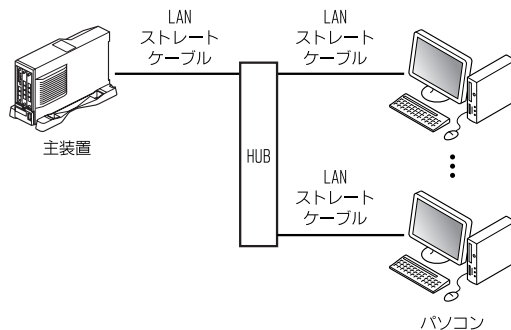
パソコンの動作環境

ユーザープログラミングにアクセスできるパソコンの動作条件は、次のとおりです。必ず動作条件にあったパソコンをご利用ください。

項目	動作条件
OS	Microsoft® Windows XP / Vista / 7搭載
CPU	WindowsまたはInternet Explorerの使用条件に従ってください。
メモリ	
ブラウザ	Internet Explorer 6.0 / 7.0 / 8.0
モニタ	SVGA（最低：800×600ピクセル、推奨：1024×768ピクセル以上）
その他	マウス、LAN接続ポート（RJ-45）

機器の構成

CCPUユニットのETHERNETコネクタ（RJ-45）およびパソコンのLAN接続ポート（RJ-45）に、HUB（ハブ）からのLANストレートケーブルを接続します。HUBに接続されている最大4台のパソコンを使って、ユーザープログラミングにログインすることができます。



注意 ケーブルを接続するとき、主装置には触れないでください。主装置内部に触れると、感電・けがの原因となることがあります。主装置をHUBに接続する場合は、販売店にご相談ください。

LANとインターネットブラウザの設定

ユーザープログラミングにアクセスする前に、LAN ネットワークの接続設定とインターネットブラウザの設定を行います。

▼ LANの設定

- 1 Windowsのタスクバーで【スタート】→【コントロールパネル】を順にクリックし、【ネットワークと共有センター】アイコンをダブルクリックする【ネットワークと共有センター】画面が表示されます。



2 “ローカルエリア接続” 欄の “状態の表示” をクリックする

【ローカル エリア接続の状態】画面が表示されます。

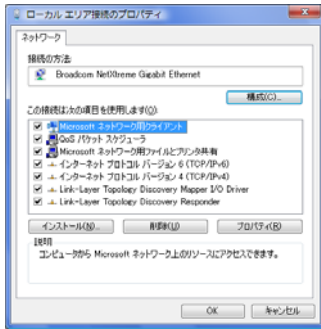


3 【プロパティ (P)】 ボタンをクリックする

【ユーザー アカウント制御】画面が表示されます。

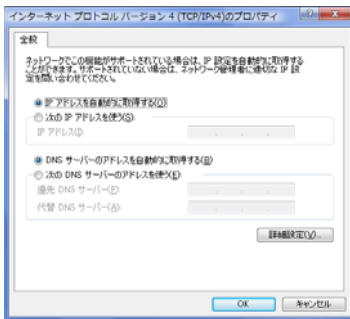
4 【続行 (C)】 ボタンをクリックする

【ローカル エリア接続のプロパティ】画面が表示されます。
※ “接続の方法” 欄に表示される内容は、パソコンによって異なります。



5 “この接続は次の項目を使用します (O)” 欄の “インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)” をクリックし、【プロパティ (R)】 ボタンをクリックする

【インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)のプロパティ】画面が表示されます。



6 ネットワークに DHCP サーバがあるかどうかによって、次のことを確認する

- ネットワークに DHCP サーバがある場合
“IP アドレスを自動的に取得する” が選択されていることを確認してください。
- ネットワークに DHCP サーバがない場合
“次の IP アドレスを使う” を選択し、IP アドレスとサブネットマスクを入力する。
入力する IP アドレス、サブネットマスクは、システム管理者に確認してください。



設定例

システムを導入時の IP アドレスで運用する場合は、次のように設定します。

- IP アドレス : 192.168.0.11
 - サブネットマスク : 255.255.255.0
- IP アドレスを決めるときは、システム内の機器と IP アドレスと重複しないように注意してください。



7 【OK】 ボタンを2回クリックする

これで、LAN の設定ができました。

▼ インターネットブラウザの設定

アクティブスクリプトおよびCookieの使用許可を設定します。ここでは、Internet Explorer 7.xの場合を例に説明しています。ほかのインターネットブラウザを使用しているときは設定方法が異なりますので、ご使用のインターネットブラウザのマニュアルなどを参照してください。

- 1 Internet Explorerで【ツール】→【インターネット オプション】を順にクリックする
【インターネット オプション】画面が表示されます。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックする
- 3 【レベルのカスタマイズ】 ボタンをクリックする
【セキュリティ設定】画面が表示されます。
- 4 スクリプト部にある「アクティブスクリプト」を「有効にする」に設定して【OK】 ボタンをクリックする
【インターネット オプション】画面に戻ります。
- 5 「プライバシー」タブをクリックする
- 6 【詳細設定】 ボタンをクリックする
【プライバシー設定の詳細】画面が表示されます。
- 7 「自動 Cookie 処理を上書きする」欄 → 「常にセッション Cookie を許可する」欄を順にチェックして【OK】 ボタンをクリックする
【インターネット オプション】画面に戻ります。
- 8 【OK】 ボタンをクリックして【インターネット オプション】画面を閉じる

これで、インターネットブラウザの設定ができました。

ユーザープログラミングの操作




操作上の注意点

- インターネットブラウザのツールバーまたはステータスバー操作
ユーザープログラミングのすべての操作は、画面上に表示されるアイコンを使用してください。インターネットブラウザのツールバーやステータスバーを使用すると、ユーザープログラミングが正しく動作しなくなります。正しく動作しなくなった場合は、いったんログアウトしたあと、ログインし直してください。
- ログアウト操作
ユーザープログラミングを終了する場合は、必ずログアウト操作を行ってください。ログアウト操作を行わずにインターネットブラウザを閉じると、設定データの一部またはすべてが消えてしまうことがあります。ログアウト操作については、『ログアウト』(⇒P.6-7)を参照してください。
- 強制ログアウト動作
ログイン中に操作しない状態が15分経過すると、強制的にログアウトされます。なお、ログアウト前のデータはシステムに保存されます。強制ログアウト後も最後に表示していた画面が保持されますが、画面を操作すると【ログイン】画面に戻ります。
- 電話機設定制限
 - UBレベルでのログイン、またはUAレベルでの電話機詳細設定による電話機の個別設定は、電話機ごとに1台のパソコンからのみ操作できます。
 - 同じ電話機の設定を同時に2台以上のパソコンから行うことはできません。
 - 該当電話機が使用中の場合は、設定画面を表示することができません。
 - “他のユーザがログインしているか電話機が使用中であるため、内線'XXX'はデータを変更することができません”と表示された場合は、該当電話機が待ち受け状態になるか、ほかのパソコンからのプログラミングが終了するまでお待ちください。
 - ユーザープログラミングで各電話機の詳細設定中は、該当電話機の表示器に“ユーザープログラミングモード”と表示され、電話機が使用できない状態になります。

おもなアイコン



ユーザープログラミングの画面上には、下記のようなアイコンやボタンが表示されます。

▼ 共通アイコン

アイコン	機能	用途
	登録	設定中のデータを登録するときにクリックします。画面は、現在のページが保持されます。
	更新	画面を更新します。作業中で未登録の場合は、該当電話機のデータは取り消されます。
	【ホーム】画面に戻る	【ホーム】画面に戻るときにクリックします。登録中のデータがある場合は、確認画面が表示されます。

▼ 個別アイコン

個別アイコンをクリックすると、画面が切り替わります。画面が切り替わるとき、その時点の設定内容は自動的に登録されます。

アイコン	機能	用途
	ジャンプ	左側の枠内で指定した範囲の設定画面を表示するときにクリックします。
	ページ アップ	表示されている設定範囲の次の設定範囲を表示するときにクリックします。
	ページ ダウン	表示されている設定範囲の前の設定範囲を表示するときにクリックします。
	【電話機詳細設定】画面または【共通短縮番号の詳細設定】画面を表示	左側の枠内に表示されている内線番号または共通短縮番号の詳細設定画面を表示するときにクリックします。

▼ 特殊アイコン

ユーザープログラミングの【ホーム】画面上に表示されるアイコンです。

アイコン	機能	用途
	ログアウト	ユーザープログラミングを終了するときにクリックします。【ログイン】画面に戻ります。
	【コピー】画面を表示	電話機データの【コピー】画面を表示するときにクリックします。
	【ヘルプ】画面を表示	ユーザープログラミングの【ヘルプ】画面を表示するときにクリックします。
	リンク	【VRSファイルのアップロード/ダウンロード】画面にリンクします。
	リンク	【VMファイルのアップロード/ダウンロード(内線)】画面にリンクします。
	リンク	【VMファイルのアップロード/ダウンロード(メールボックス)】画面にリンクします。

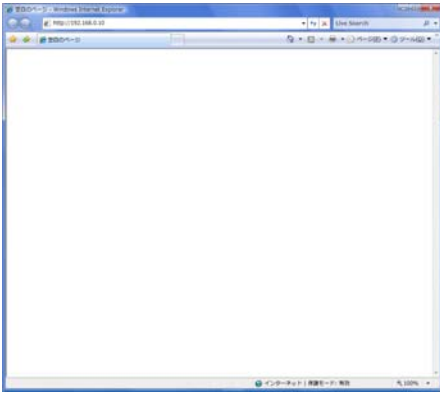
ログイン/ログアウト

ユーザープログラミングへのログイン方法、およびユーザープログラミングからのログアウト方法は、下記のとおりです。

▼ ログイン

Aspire X内部のリモートメンテナンスサーバに、インターネットブラウザを使用してアクセスします。

1 インターネットブラウザを起動する



2 アドレス欄に「http://192.168.0.10」を入力し【Enter】キーを押す

しばらくすると、リモートメンテナンスサーバに接続されます。【ネットワークと共有センター】画面が表示されます。接続が完了すると、ユーザープログラミングの【ログイン】画面が表示されます。

※「http://192.168.0.10」は、接続されているネットワークの状況によって異なる場合があります。詳しくは、販売店にご確認ください。



【ログイン】画面が表示されない場合は
LANの接続状態、入力したIPアドレスを確認してください。確認しても表示されない場合は、システム管理者に確認してください。

3 ユーザー名、パスワードを入力する

ユーザー名は、半角大文字で入力してください。ユーザー名とパスワードの初期値は、次のとおりです。詳しくは、販売店にご確認ください。

ユーザーレベル	ユーザー名	パスワード
UA (ユーザープログラミング1)	USER1	1111
UB (ユーザープログラミング2)	“内線番号”	1111

例1：UAレベルでログインする場合

- ・「ユーザー」欄：USER1 (UAレベルのユーザー名を入力)
- ・「パスワード」欄：1111 (UAレベルのパスワードを入力)

例2：UBレベルでログインする場合 (内線101の電話機)

- ・「ユーザー」欄：101 (内線番号を入力)
- ・「パスワード」欄：1111 (内線番号のパスワードを入力)

4 ログイン (Login) をクリック、または【Enter】キーを押す

ログインが完了すると、ユーザーレベルに応じて、次のいずれかの画面が表示されます。

- ・UAレベルでログインした場合




- ・UBレベルでログインした場合



注意
アイコンをクリックしても動作しない場合は、アクティブスクリプトの設定が正しく行われていない可能性があります。『インターネットブラウザの設定』(⇒P.6-4)を参照してアクティブスクリプトの設定を確認してください。

▼ ログアウト

ユーザープログラミングからは、次の手順でログアウトすることができます。

- 1  (ログアウト) をクリックする
ログアウト
 - UAレベルでログインしている場合：【ホーム】画面右下
 - UBレベルでログインしている場合：画面右上
 【ログイン】画面に戻ります。
- 2 【ログイン】画面に戻ったことを確認したあと、インターネットブラウザを閉じる


注意

- テータ設定後は、必ずログアウト操作を行ってください。ログアウト操作を行わずにインターネットブラウザを終了すると、設定データの一部または全てが消えてしまう場合があります。
- ログイン中に操作しない状態が15分経過すると、強制的にログアウトされます。なお、ログアウト前のデータはシステムに保存されます。強制ログアウト後も最後に表示していた画面が保持されますが、画面を操作すると【ログイン】画面に戻ります。




設定範囲の選択

各種設定画面は、設定範囲選択部や設定部などで構成されています。ここでは【ドアホン鳴動電話機設定】画面を例に、設定範囲選択部の操作方法について説明します。



- ◆ ドアホン番号選択部 

設定範囲選択部の上側にあります。

 - ドアホン番号を指定して設定画面を表示する場合
入力欄に設定したいドアホン番号を入力して  (ジャンプ) をクリックすると、画面が切り替わります。
 - ドアホン番号順に設定画面を表示する場合
 (ページ アップ) または  (ページ ダウン) をクリックすると、設定画面が順番に切り替わります。入力欄の番号も、表示されている画面に合わせて自動的に切り替わります。
- ◆ 運用モード選択部

設定範囲選択部の下側にあります。
[▼] をクリックしてプルダウンメニューを開き、設定する運用モード (1~8) を選択します。

設定メニュー一覧

各ユーザーレベルの画面に表示されるメニューについて説明しています。

UAレベルの設定メニュー

▼【ホーム】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
時計カレンダー設定	リンク	【時計カレンダー設定】画面へ
内部保留音の曲目選択	リンク	【内部保留音の曲目選択】画面へ
自動運用モード切替設定	リンク	【自動運用モード切替設定】画面へ
DISAユーザーID設定	リンク	【DISAユーザーID設定】画面へ
メールボックス番号設定	リンク	【メールボックス番号設定】画面へ
Eメール通知設定	リンク	【Eメール通知設定】画面へ
テキストメッセージ設定	リンク	【テキストメッセージ設定】画面へ
外線一般着信時の鳴動電話機設定	リンク	【外線一般着信時の鳴動電話機設定】画面へ
短縮ダイヤルデータと名称設定	リンク	【短縮ダイヤルデータと名称設定】画面へ
手動運用モード設定	リンク	【手動運用モード設定】画面へ
DSSコンソールのボタン登録	リンク	【DSSコンソールのボタン登録】画面へ
ドアホン鳴動電話機の設定	リンク	【ドアホン鳴動電話機設定】画面へ
ACDスキルベース設定	リンク	【ACDログインIDコード設定】画面へ
KDDI内線Cメールメッセージ設定	リンク	【KDDI内線Cメールメッセージ設定】画面へ
KDDI内線Cメールメッセージパターン設定	リンク	【KDDI内線Cメールメッセージパターン設定】画面へ
電話機設定	リンク	【電話機設定】画面へ
外線設定	リンク	【外線設定】画面へ
【コピー】ボタン	リンク	【コピー】画面へ
【VRSファイル】ボタン	リンク	【VRSファイルのアップロード/ダウンロード】画面へ
【VMファイル(内線)】ボタン	リンク	【VMファイルのアップロード/ダウンロード(内線)】画面へ
【VMファイル(メールボックス)】ボタン	リンク	【VMファイルのアップロード/ダウンロード(メールボックス)】画面へ
【ヘルプ】ボタン	リンク	工事者用(Webプログラミング)の【ヘルプ】画面を開きます。

項目名	動作	設定概要/リンク先
【ログアウト】ボタン	ログアウト	ユーザープログラミングからログアウトします。

▼【時計カレンダー設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
時計カレンダー設定	設定	現在の年月日および時刻を設定します。

▼【内部保留音の曲目選択】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
内部保留音の曲目選択設定	設定	保留音を設定します。

▼【自動運用モード切替設定】画面

相互リンクです。画面上部のリンクをクリックすると、各項目の画面に切り替わります。

項目名	動作	設定概要/リンク先
自動運用モード切替の時間割設定	設定	運用モードグループ番号(1~32)ごと、時間割パターン(1~10)ごとに、時間割を設定します。開始時間、終了時間、設定した時間帯に適用する運用モード<時間帯モード>番号(1~8)を設定します。
運用モードの週間スケジュール設定	設定	運用モードグループ番号(1~32)ごとに、各曜日に適用する時間割パターン(1~10)を設定します。併せて運用モードグループ番号(1~32)ごとに、各運用モード番号の状態時にディスプレイ上に表示する文字<テキストデータ>を設定します。
運用モードの特定日スケジュール設定	設定	運用モードグループ番号(1~32)ごとに、祝祭日などの特定日に適用する時間割パターン(1~10)を設定します。設定がない(0)場合、運用モードの週間スケジュール設定に従います。

▼【DISAユーザーID設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
DISAユーザーID設定	設定	DISAユーザーID<パスワード>(15種)を設定します。

▼【メールボックス番号設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
メールボックス番号設定	設定	ボイスメール (VMDBユニット) のメッセージボックス番号 (ボイスメール: 1~500) を指定し、メールボックス番号とパスワードを設定します。

▼【Eメール通知設定】画面

メッセージボックス番号 (001~500) ごとに次の設定を行います。

項目名	動作	設定概要/リンク先
Eメール通知設定	設定	Eメール通知の有無を設定します。
Eメールアドレス	設定	Eメールの通知先を設定します。
音声ファイル添付	設定	音声ファイル添付の有無を設定します。

▼【テキストメッセージ設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
テキストメッセージ設定	設定	テキストメッセージを設定したときに表示するメッセージ (1~20) を設定します。

▼【外線一般着信時の鳴動電話機設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
外線一般着信時の鳴動電話機設定	設定	着信グループ番号 (1~100) を指定し、外線から電話がかかってきたときに着信音を鳴らす電話機の内線番号 (最大32内線) を設定します。

▼【短縮ダイヤルデータと名称設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
短縮ダイヤルデータと名称設定	設定	短縮ダイヤルエリア (0~1999) を指定し、ダイヤルデータおよび漢字名称 (全角12文字)、カナ名称 (半角12文字)、発信者番号識別着信、共通短縮付加情報表示、ボイスメールアクセスの発信者認証を設定します。

▼【手動運用モード設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
手動運用モード設定	設定	各運用モードグループ (1~32) の、運用モード状態を切り替えます。

▼【DSSコンソールのボタン登録】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
DSSコンソールのボタン登録	設定	DSSコンソール番号 (1~32) ごとに、DSSコンソールボタン (1~60) の機能を登録します。

▼【ドアホン鳴動電話機設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
ドアホン鳴動電話機設定	設定	各ドアホン番号 (1~8) の運用モード (1~8) ごとに、ドアホンからの呼び出しに回答させるメンバーの内線番号 (最大32内線) を設定します。

▼【ACDログインIDコード設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
ACDログインIDコード設定	設定	ログインIDテーブル番号 (1~512) 毎にログインIDコードとスキルテーブル番号 (1~512) を設定します。
テーブル設定	リンク	【ACDスキルテーブル設定】へ

◆【ACDスキルテーブル設定】

項目名	動作	設定概要/リンク先
ACDスキルテーブル設定	設定	スキルテーブル番号 (1~512) 毎、ACDグループ番号 (1~64) 毎にスキルレベル (1~7) を設定します。 ※スキルレベル1が最上位

▼【KDDI内線Cメールメッセージ設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
メッセージ設定	設定	内線Cメール本文のメッセージ内容を全角50文字または半角100文字以内で設定します。

▼【KDDI内線Cメールメッセージパターン設定】画面

メッセージパターン番号 (1~100) ごとに次の設定を行います。

項目名	動作	設定概要/リンク先
メッセージ番号	設定	携帯電話に送信する内線Cメールのメッセージ番号 (1~10) を設定します。
送信先	設定	内線Cメールを送信する宛先 (最大11桁のダイヤル) を設定します。宛先は、KDDIビジネスコールダイレクトのアクセス番号 (事業所番号+内線番号) です。

▼【電話機設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
内線番号	設定	内線ポート番号 (1~512) に対して内線番号を設定します。
詳細設定	リンク	《【電話機設定】画面 (詳細設定)》へ

注意

- 「詳細設定」のアイコンをクリックすると、該当電話機の表示器に“ユーザプログラミングモード”と表示され、電話機が使用できない状態になります。
- 該当電話機が使用中、またはほかのパソコンでプログラミング中は、「詳細設定」のアイコンをクリックすると、“他のユーザがログインしているか電話機が使用中であるため、内線‘XXX’はデータを変更することができません”と表示され、ログインすることができません。該当電話機が待ち受け状態になるか、プログラミングが終了するまでお待ちください。

《【電話機設定】画面 (詳細設定)》

項目名	動作	設定概要/リンク先
機能設定	リンク	【機能設定】画面へ
個別短縮ダイヤルデータと名称設定	リンク	【個別短縮ダイヤルデータと名称設定】画面へ
機能ボタン割付	リンク	【機能ボタン割付】画面へ
多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定	リンク	【多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定】画面へ
VMファイル	リンク	【VMファイル】画面へ
Eメール通知設定	リンク	【Eメール通知設定】画面へ

◆【機能設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
カナ名称	設定	該当内線のカナ名称 (半角12文字) を設定します。
漢字名称	設定	該当内線の漢字名称 (全角6文字) を設定します。
着信転送/不応答転送/不在転送	設定	着信転送のタイプ (着信転送、不応答転送、不在着信転送) を選択し、転送先を登録します。
話中転送	設定	話中転送を設定し、右側の入力欄に転送先を登録します。
LCD表示言語	設定	表示器に表示される言語 (日本語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語) を選択します。

項目名	動作	設定概要/リンク先
着信音色切替	設定	内線および外線着信時の着信音を選択します。
内線着信タイプ (周波数)		
外線着信タイプ (周波数)		
発信規制一時解除パスワード設定	設定	発信規制を一時的に解除するためのパスワードを登録します。
手動運用モード切替 (所属グループ)	設定	所属する運用モードグループの運用モード状態を切り替えます。
ユーザプログラミング・プログラム用パスワード設定	設定	ユーザプログラミング (UB) のログインパスワードを設定します。
漢字電話機の暗証番号初期化	設定	項目名をクリックすると、漢字電話機の暗証番号が初期化されます。

◆【個別短縮ダイヤルデータと名称設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
個別短縮ダイヤルデータと名称設定	設定	内線番号ごとに個別短縮ダイヤル (1~20) を登録します。また、各個別短縮ダイヤルの漢字名称 (全角12文字)、カナ名称 (半角12文字) も設定します。

◆【機能ボタン割付】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
機能ボタン割付	設定	各内線番号のファンクションボタン<キー>番号 (1~48) に対して、利用する機能とその機能に関連する付加データを設定します。

◆【多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定	設定	各内線番号のファンクションボタン<キー>番号 (1~48) に対して、仮想内線への着信音を鳴らすかどうかを、運用モード (1~8) ごとに設定します。

◆【VMファイル】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
VMファイル	設定	各内線番号と同一のメールボックスの応答メッセージ (1~3) のアップロード/ダウンロード/消去および伝言メッセージ (1~200) のダウンロード/消去を行います。

◆【Eメール通知】画面

項目名	動作	設定概要/リンク先
Eメール通知設定	設定	Eメール通知の有無を設定します。
Eメールアドレス	設定	Eメールの通知先を設定します。
音声ファイル添付	設定	音声ファイル添付の有無を設定します。

▼【外線設定】画面

相互リンクです。画面上部のリンクをクリックすると、各項目の画面に切り替わります。

項目名	動作	設定概要/リンク先
外線設定	リンク	《【外線設定】画面》へ
短縮ダイヤルデータと名称設定	リンク	【短縮ダイヤルデータと名称設定】画面へ

《【外線設定】画面》

外線ポート番号（1～200）ごとに、次の設定を行います。


項目名	動作	設定概要/リンク先
外線の名称設定	設定	外線名称（半角12文字または全角6文字）を設定します。
外線毎の自動転送設定	設定	外線ごとに自動転送を行うかどうかを設定します。
運用モード	設定	運用モード（1～8）を選択し、各外線の自動転送先を短縮番号で指定します。すべての運用モードに対して設定してください。
短縮エリア番号	設定	
共通短縮編集	リンク	アイコンの左側に表示されている短縮エリア番号の編集画面を表示します。

▼【コピー】画面

項目名	設定概要/リンク先
電話機の運用モードグループ設定	所属する運用モードグループ番号の設定をコピーします。
電話機の発信規制一時解除パスワード設定	発信規制を一時的に解除するためのパスワードをコピーします。
電話機の代理応答グループ設定	所属する代理応答グループ番号をコピーします。
オフフック自動応答グループ設定	外線からの電話に、受話器を上げるだけで応答できるようにするためのルートテーブル設定をコピーします。
電話機の内線ページンググループ設定	所属する内線ページンググループ番号（内線一斉呼出用のグループ番号）をコピーします。

項目名	設定概要/リンク先
多機能電話機の機能ボタン設定	ファンクションボタンの登録内容をコピーします。

《 操作手順 》

- 画面左上の「コピー元 内線番号」欄で、コピー元の内線番号をプルダウンリストから選択する
- 「コピー先 内線番号」欄に表示されている一覧で、コピー先の内線番号をクリックして選択する
複数の内線番号を選択する場合は、[Ctrl] キーを押しながら選択します。
- コピーを実行する項目名の左側にあるチェックボックスにチェックを付ける
- 画面右上の （登録）をクリックする

▼【VM ファイルのアップロード/ダウンロード（内線）】画面

項目名	設定概要/リンク先
VMファイルのアップロード/ダウンロード（内線）	内線番号を指定（同一番号のメールボックス）して、応答メッセージ（1～3）のアップロード/ダウンロード/消去および伝言メッセージ（1～200）のダウンロード/消去を行います。

▼【VM ファイルのアップロード/ダウンロード（メールボックス）】画面

項目名	設定概要/リンク先
VMファイルのアップロード/ダウンロード（メールボックス）	メールボックス番号を指定して、応答メッセージ（1～3）のアップロード/ダウンロード/消去および伝言メッセージ（1～200）のダウンロード/消去を行います。

▼【VRSファイルのアップロード/ダウンロード】画面

項目名	設定概要/リンク先
VRSファイルのアップロード/ダウンロード	VRSメッセージ番号（1～100）を指定して、アップロード/ダウンロード/消去を行います。

UBレベルの設定メニュー

▼【電話機設定メニュー】画面

【電話機設定メニュー】画面は、UAレベルの『【電話機設定】画面』(⇒P.6-10)で「詳細設定」アイコンをクリックしたときに表示される画面と同じメニューが表示されます。

項目名	動作	設定概要/リンク先
機能設定	リンク	【機能設定】画面へ
個別短縮ダイヤルデータと名称設定	リンク	【個別短縮ダイヤルデータと名称設定】画面へ
機能ボタン割付	リンク	【機能ボタン割付】画面へ
多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定	リンク	【多機能電話機の仮想内線鳴動データ設定】画面へ
VMファイル	リンク	【VMファイル】画面へ
Eメール通知設定	リンク	【Eメール通知設定】画面へ

注意

- 【電話機設定メニュー】画面を表示すると、該当電話機の表示器に“ユーザプログラミングモード”と表示され、電話機が使用できない状態になります。
- 該当電話機が使用中、またはほかのパソコンでプログラミング中は、【電話機設定メニュー】画面を表示すると、“他のユーザがログインしているか電話機が使用中であるため、内線‘XXX’はデータを変更することができません”と表示され、ログインすることができません。該当電話機が待ち受け状態になるか、プログラミングが終了するまでお待ちください。

索引

あ

アイコン表示の意味	
・センター電話帳	1-70
・多機能電話機	1-5
アイコンメニュー	1-20
空外線自動選択	1-27, 2-3
アフターサービス	5-27
溢れ料金	4-4
アラーム	1-60, 2-22
一斉放送	3-26
一斉放送会議通話	3-27
一斉放送/グループ放送への応答	3-26
一般電話機を使う	2-1
・ご使用前に	2-2
・注意	2-2
印刷	
・外線グループ集計	4-14
・外線グループ明細	4-15
・外線毎集計	4-7
・外線毎明細	4-8
・個別内線精算	4-25
・システム一括集計	4-19
・システム一括明細	4-21
・全通話料金データ	4-22
・全内線一括精算	4-25
・通話終了と同時に印刷	4-24
・内線グループ毎集計	4-11
・内線グループ毎明細	4-12
・内線毎集計	4-5
・内線毎明細	4-6
・IDグループ集計	4-16
・IDグループ明細	4-17
・ID毎集計	4-9
・ID毎明細	4-10
印刷可能な項目(メニュー)	4-2
印刷テスト	4-4
運用モード	5-21
応答プリセット	1-36
オートアテンダント(DISA)	3-20
・受けかた	3-20
オートアテンダント(VRS)	3-19
音や表示器を調整する	1-24
折り返し転送	1-43
オートアテンダントメッセージの録音・再生・消去	3-21
オートアテンダント(DID/DISA)	3-19
オートアテンダント(DISA)	
・ユーザーIDの入力を間違えたとき	3-20, 3-23

か

会議通話	1-55, 2-19
会議通話転送	3-15
外出先に転送したい	1-46, 1-47, 2-15, 2-16
外線応答	1-36
外線グループ	1-27, 2-3
外線グループ捕捉	1-28, 2-3
外線毎の自動転送先登録	3-16
外線コールバック	1-53, 2-18
外線自動選択	1-27, 2-3
外線自動転送	3-15, 3-16
外線自動転送解除	3-16
外線自動転送設定	3-16
外線手動転送	3-15
外線フッキング	1-58, 2-21
外線予約	1-53, 2-18

各種設定	5-18
角度を調整	1-26
仮想内線	3-17
仮想内線方式	5-4
仮想内線ボタン	3-17
幹部着信転送	1-65
客室状態表示	3-39
共通短縮ダイヤル	1-30
共通保留	1-40
キータッチトーン	1-25
グループ指定代理応答	1-39, 2-10
グループ代理応答	1-39, 2-9
グループ短縮ダイヤル	1-30
グループ放送	3-26
グループリスニング	1-62
検索機能	1-30, 1-31, 1-72
口頭会議招集	1-55
口頭転送	1-41
構内放送	3-26
小形シール鉛蓄電池	5-25
個人登録発信規制	5-6
・開始	5-6
・削除	5-7
・終了	5-6
・登録	5-7
個別短縮ダイヤル	1-30
個別保留	1-40
困ったときは	4-26, 5-26
コールウェイトニング	2-17

さ

再ダイヤル	1-28, 2-4
索線形外線発信	1-28
索線形発信着信方式	5-3
索線ボタン	1-27
識別着信	3-8
識別着信拒否	3-8
事業者識別番号	4-3
システム管理者の方へ	5-1
システム構成	5-2
システム全体の通話料金データの消去	4-22
システムの運用例	3-1
指定外線捕捉	1-28, 2-3
指定内線代理応答	1-38, 2-9
自動保留	1-42
自動保留転送	1-41, 2-11
示名条片	1-3
十字キー	1-22
周辺機器	5-2
受話音量を変える	1-24
仕様	5-28
状態アイコン表示の意味	1-84
消費電力をおさえる	5-23
消耗品について	5-25
ステップコール	1-34, 2-6
スピーカ音量を変える	1-24
セキュリティ機能	3-40
セキュリティセンサ連動	3-40
セキュリティ放送	3-40
セキュリティボタン	1-67
切断再捕捉	1-65
設定	
・アピアランス機能レベル	5-19
・一般機能レベル	5-18
・時計	5-18

・パワーセーブ	5-23
・日付	5-18
・ファンクションボタン	5-18
設定できる通信事業者	4-3
設定メニュー	
・UA レベル	6-8
・UB レベル	6-12
設定メニュー一覧	6-8
センター電話帳	1-69
・暗証番号	1-76
・グループ名の変更	1-75
・検索	1-72
・検索画面	1-70
・削除	1-75
・新規登録	1-71
・着信履歴	1-72
・発信履歴	1-72
・変更	1-74
・ボタンの使いかた	1-69
・メニュー画面	1-70
・ロック	1-76
・アイコン	1-70
専用線	3-14
・かけかた	3-14
専用プリンタ	4-3
セーブドナンバーダイヤル	1-57, 2-21
送話カット	1-58
ソフトウェア使用許諾契約書	1-iii
・ソフトウェアのご使用条件	1-iii
・GPL に基づき許諾されるフリーソフトウェア・モジュール	1-iv
ソフトキー	1-6

た

ダイヤルイン方式	5-4
ダイレクトインワードシステムアクセス	3-24
ダイレクトインワードダイヤル	3-24
ダイレクト通話料金管理	4-1
・おもな機能	4-2
・機器の構成	4-3
・ご利用になる前に	4-3
ダイレクト通話料金管理の機能	
・システムアラームメッセージ表示機能	4-3
・その他の機能	4-3
・通話明細即時印刷	4-2
・通話料金集計・明細印刷機能	4-2
・特番による内線の簡易集計印刷機能	4-2
ダイレクトライン方式	5-3
多機能電話機	1-1, 1-80
・テジレス表示器の見かた	1-82
・ボタンと表示器の見かた	1-2
多機能電話機を使う	1-1
他グループ代理応答	1-39, 2-10
短縮ダイヤル発信	1-30, 2-4
短縮ダイヤル早見表	1-3
端末リロケーション	5-23
チェックイン・チェックアウト	3-38
着信お待たせメッセージ	3-25
着信音量を変え	1-24
着信拒否	1-48
着信自動応答	1-36, 2-8
着信転送	1-46, 2-15
着信音色切替	1-25
着信履歴	1-63, 1-72, 3-7
チルトレグ	1-26
追加ダイヤル	1-58, 2-21
追加ダイヤルイン方式	5-4
通話警告	5-7
通話中 PB 信号送出	1-58

通話料金集計・明細印刷	
・外線ごと	4-7
・機能	4-2
・グループごと	4-11
・システム全体	4-19
・内線ごと	4-5
・番号ごと	4-4
・ID ごと	4-9
通話料金データの全消去	4-23
通話料金の表示	5-8
通話割り込み	1-56, 2-20
定額料金を設定する	5-8
ディスプレイボード	3-36
停電したときは	5-24
テキストメッセージ	1-60
デジタル多機能電話機	5-13
テジレス電話機	1-80
テジレス表示器	1-80
テジレス表示器の見かた	1-82
電源の入れかた	1-xiii
電源の切りかた	1-xiii
伝言	1-59, 2-22, 3-39
電池について	
・システム	5-25
・CPU	5-25
電話機のオプション品一覧	5-17
電話機の交換	5-23
電話機の調整	1-24
・受話音量	1-24
・使用者の名前を登録	1-25
・スピーカ音量	1-24
・ダイヤルボタンを押したときの音	1-25
・着信音量	1-24
・着信音色	1-25
・電話機の角度	1-26
・内線からの着信のしかたを選ぶ	1-25
・表示器のコントラスト	1-24
・話中時の着信音量	1-24
電話機の品名および機能一覧	5-15
電話機のポート番号	1-4
電話機のラインナップ	5-13
ドアホン	3-28
・周囲の音を聞く	3-28
・ドアのカギを開ける	3-28
・ドアホンに回答する	3-28
・ドアホンへの着信を外線に転送する	3-29
ドアホンモニター	3-28
ドアホンロック開錠	3-28
動作保持時間	5-24
特番による内線通話料金集計印刷	4-25
特番の初期値一覧	5-9
時計の設定	5-18

な

内線応答	1-37, 2-8
内線グループ	1-33
内線グループ毎の自動転送	3-11
内線グループ毎の自動/不応答転送先登録	3-12
内線グループ毎の不応答転送	3-12
内線グループ着信拒否	3-13
内線グループ保留	1-42, 2-12
内線グループ呼出	1-54, 2-18
内線グループ呼出転送	1-54, 2-19
内線検索	1-33
内線コールバック	1-33, 2-5
内線指定呼代理応答	1-38, 2-9
内線相互接続	1-33, 2-5
内線代表呼出	1-34, 2-6
内線代理着信	1-35, 2-6

内線代理着信方式	5-5
内線の自動保留転送	1-44, 2-13
内線ホットライン	1-35, 2-7
内線保留	1-44, 2-12
内線名称入力	1-25
内線呼出招集	1-55, 2-19
内線呼出の音声/信号の呼出指定	1-25
内線予約	1-33, 2-5
内蔵バッテリー	5-25
任意外線応答	1-36

は

バイパスコール	1-49, 2-17
発信規制	5-5
発信規制クラス	5-6
発信規制を一時的に解除する	5-6
発信者番号通知	3-3, 3-7
発信履歴	1-72
発着信の方法	5-3
・仮想内線方式	5-4
・索線形発着信方式	5-3
・ダイヤルイン方式	5-4
・ダイレクトライン方式	5-3
・追加ダイヤルイン方式	5-4
発着信方式	5-3
パネル	1-3
パワーセーブ	5-9, 5-21, 5-23
番号計画	5-9
ハンズフリー通話	1-52
汎用リレー	5-22
パーク保留	1-42, 2-12
非通知着信拒否	3-9
日付の設定	5-18
被保留転送	1-43
表示器内の文字を縦倍角表示にする	1-26
表示器のコントラストを変える	1-24
表示器の白黒反転表示	1-26
表示の見かた	
・ソフトキーのメニュー	1-6
・多機能電話機	1-4
ファンクションボタンの機能番号一覧	5-20
ファンクションボタンへの機能登録	5-18
不応答転送	1-47, 2-16
フォローミー	1-48
不在着信転送	2-14
ブザー	1-61
プリセットダイヤル	1-27
分散応答	2-8
ヘッドセット接続	1-66
ページング転送	3-27
ボイスオーバー	1-56, 2-20
保証	5-27
ボタン型リチウム電池	5-25
ボタンと表示器の見かた	1-2
ボタンの使いかた	
・多機能電話機	1-2
ホテル機能	3-38
・客室状態表示	3-39
・客室情報出力	3-39
・チェックイン・チェックアウト	3-38
・伝言(メッセージウエイティング)	3-39
・モーニングコール	3-38
保留	2-11
保留維持	2-11
保留音	5-22
保留転送	1-41
ボリュームコントロール	1-24

ま

マイライン	3-10
マルチラインデジタルコードレス電話機 (PHS)	5-14
メッセージ一覧表	1-60
メッセージウエイティング	1-59, 2-22
メニューボタンのメニュー	
・デジタル多機能電話機	1-10
・IP多機能電話機 (Ver. 5.0.0.0以降)	1-16
・IP多機能電話機 (Ver. 5.0.0.0未満)	1-11
メモダイヤル	1-57
文字入力一覧表	1-78
文字入力のしかた	1-77
モーニングコール	3-38

や

ユーザープログラミング	6-1
・アイコン	6-5
・概要	6-2
・機器の構成	6-2
・ご使用上の注意	6-2
・設定範囲の選択	6-7
・ログイン/ログアウト	6-6
・LANとインターネットブラウザの設定	6-2
予算管理	5-7
呼出状態転送	1-43, 2-12

ら

リセットコール	1-34, 2-6
リピートダイヤル	1-29
リピートダイヤルの回数	1-29
リモート確認	3-41
リモート設定	3-23
料金管理	5-7
・積算料金消去	5-8
・積算料金表示	5-8
・通話料金表示	5-8
・定額料金設定	5-8
料金表示	5-7
ルームモニタ	1-62

わ

話中時の着信音量を変える	1-24
話中転送	1-46, 2-15
話中/不応答転送	1-47, 2-16
話中呼出	1-49, 2-17
ワンタッチオンフックダイヤル (ダイレクトライン方式の場合)	1-27
ワンタッチダイヤル	1-51

数字

2 外線会議通話 1-55, 2-19

A～Z

BGM	1-61
DID	3-24
DISA	3-24
DSS コンソール	3-30
・ランプ表示モード	3-30
・利用できる機能と利用中の表示	3-31
INS ナンバー・ディスプレイ	3-3
INS ネット 1500	3-2
INS ネット 64	3-2
IP 多機能電話機のボタン操作などの制限	1-67
ISDN 回線	3-2
・かけかた	3-2
・サブアドレス指定発信	3-2
・発信規制/料金管理	3-2
・ISDN 付加サービス	3-3
ISDN 付加サービス	3-3
・INS ナンバーリクエスト	3-3
・INS フレックスホン 通信中転送	3-3
・INS ボイスワープ	3-4
・INS ボイスワープセレクト	3-5
LCD 白黒反転表示設定	1-26
LCD 縦倍角表示設定	1-26
NTTダイヤルイン	3-11
・仮想内線着信方式	3-11
・個別着信方式	3-11
・着信拒否	3-13
・着信転送	3-11
・着信方式	3-11
・内線グループ毎の自動転送	3-11
・内線グループ毎の自動/不応答転送先登録	3-12
・内線グループ毎の不応答転送	3-12
・内線グループ着信拒否	3-13
VRS メッセージ編集	3-21

アフターサービスについて

1. 万一故障の際は、当社の保証規定にもとづき修理させていただきます。
2. 使用上の不明な点や故障が発生した場合は、下記にお問い合わせください。
 - ① お買い求めの販売店
 - ② NECインフロンティア株式会社 営業拠点
添付別紙「アフターサービスについて」をご覧ください。

販売店名



小形シール鉛蓄電池
のリサイクルにご協
力ください。